

平成 26 年度 松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書 目次

はじめに 4

第1部 平成 26 年度事業計画(大学委員会・理事会決定)に基づく総括的 point 検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の point 検・評価	5
II. 全学的 point 検・評価	
1. 大学院 健康科学研究科	11
2. 総合経営学部	15
3. 人間健康学部	24
4. 松商短期大学部	33

第2部 委員会・部会別 point 検・評価

I. 学生センター部門

A：教育推進充実部門

1. 教務委員会	
(1) 全学教務委員会	39
(2) 総合経営学部教務委員会	43
(3) 人間健康学部教務委員会	44
(4) 松商短期大学部教務委員会	48
(5) 共通教養センター運営部会	51
(6) キャリア教育センター運営部会	52
(7) 資格取得センター運営部会	52
(8) 基礎教育センター運営部会	55
2. 教育改善推進委員会	57
(1) 教育企画推進部会	58
(2) FD・SD 運営部会	59
3. 教職センター運営委員会	62
4. 図書館運営委員会	65
5. 情報センター運営委員会	68
6. 国際交流センター運営委員会	70
7. 地域健康支援ステーション運営委員会	72
8. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会	77

B：学生支援部門

1. 学生委員会	
(1) 全学教務委員会	81
(2) 総合経営学部教務委員会	83
(3) 人間健康学部教務委員会	85
(4) 松商短期大学部教務委員会	86

2. 就職委員会	
(1) 全学就職委員会	88
(2) 健康科学研究科就職委員会	90
(3) 総合経営学部就職委員会	91
(4) 人間健康学部就職委員会	93
(5) 松商短期大学部就職委員会	96
II. 教育・研究推進及び管理部門	
1. 研究推進委員会	100
(1) 研究誌編集部会	101
(2) 松本大学出版会運営部会	101
(3) 地域総合研究センター運営部会	104
2. 研究倫理委員会	106
(1) 動物実験部会	110
(2) 遺伝子組み換え実験安全部会	112
III. 入試広報部門	
1. 入試委員会	
(1) 全学入試委員会	114
(2) 総合経営学部入試委員会	117
(3) 人間健康学部入試委員会	119
(4) 松商短期大学部入試委員会	123
(5) 入試問題検討部会	128
2. 広報委員会	130
3. 高大連携推進委員会	131
4. センター入試委員会	141
IV. 管理部門	
A: 大学運営管理	
1. 全学協議会	144
2. 自己点検・評価委員会	145
(1) I R 推進部会	147
(2) コンプライアンス推進部会	148
(3) 認証評価準備部会	148
3. 人権委員会	150
4. 健康安全センター運営委員会	152
B: 施設管理	
1. 施設管理センター運営委員会	155
2. 危機管理委員会	156
(1) 環境保全部会	156
(2) 防災対策部会	157

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門	160
II. 総務課・管理課	163
1. 総務課	164
2. 管理課	169
III. 学生センター	173
1. 教務課	174
2. 学生課	179
3. キャリアセンター	183
4. 情報センター	193
IV. 入試・広報室	195

第4部 資料

I. 平成26年度委員会構成	205
II. アンケート調査結果（平成26年度）	
1. 松本大学卒業予定者アンケート	206
2. 松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート	233
3. 松本大学松商短期大学部在学生アンケート	253

はじめに—2014年度の活動に対する自己点検・評価報告書の発行に当たって—

[第三者評価と本学独自の自己点検・評価報告書作成の同時進行]

2014年度に変更した委員会構成を、2015年度には、教員の四本柱の活動（教育・研究・地域貢献・大学運営）に沿って、さらに組み替えて始動した。ところが2014年度の活動に対する点検・評価は、旧委員会にいて行った活動に対してのものであるため、執筆にとっては、少し難しい点が生じていた。

また、7年に一度の第三者評価を、短大部に合わせて四大でも一年前倒しで、2015年度に実施することを決定した。従って、2014年度の活動に対する本学独自の自己点検・評価報告書を準備することは、短大部と四大の第三者評価に対する自己点検評価書作成（2015年6月提出〆切）の準備にも資するはずであった。このように考えて作成を始めてはみたものの、二つは書式も異なり、視点にも少し異なった点もあるため、仕事の軽減にはつながらなかった。それどころか、第三者評価の文書を執筆する管理職に多くの仕事が重なってしまったため、当初予定していた「例年より早い段階での報告書の発行」は、全く実現できなかった。いやむしろ例年より発行が遅れてしまった。ちなみにこの「はじめに」の原稿を書き上げたのは、昨年は桜の花びらが散り終わった4月末でしたが、今回は桜の葉が散り終える10月末、即ち第三者評価の現地調査が短大、四大ともに終わった後、ついでに付け加えれば、本学の大学祭も終了した後であった。

このような事情から、その前に発行すべきアニュアル・レポートも、初版を素早く準備した後の校正の段階で手間取ってしまっている。学生版アニュアル・レポートに付いても順送りで遅れている。換言すれば、それだけ第三者評価に力を入れたということもできる。

[長野県内の大学をめぐる状況への対応]

本報告書の発行が遅れた理由は他にもある。2014年度に議論された本学園の将来計画について、年度末3月の理事会において「教育学部 小ども教育学科」を増設することが決まったのである。このため、4月以降その準備にもかなりの力と時間とを割くことになったが、これが本報告書の発行の遅れに拍車をかけた。

長野医療技術大学の開学、大原の松本駅前への進出は予定通り進み、長野大学の公立化の問題も新聞紙上で紹介され、衆目の認知するところとなった。北陸新幹線も開業したが、北陸地方から長野県への流入が目立ったと言うことは全くなかった。松本大学松商短期大学部・商学科が久方ぶりに定員を割ったが、高校生の就職戦線が好調だったことが主な原因とはいえ、大原の影響も少しはあったのかも知れない。

[新組織体制がどこまで機能したか]

学長の機能強化の方向性の中で、本学では副学長を置くことでその補強を行ったが、他方で全学委員会体制の中で民主的に議論し、かつ迅速に決定が出来る方式を模索していた。こうした方向が定着したかという観点で新組織体制を見たとき、不十分ながらも着実な前進は出来たのではないだろうか。

2015.10.29

自己点検・評価委員会 委員長 住 吉 廣 行

第1部 平成26年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価

(1) 「平成26年度事業計画」における全学的課題<P>

1) 大学、短大をめぐる情勢と大学改革

① 厳しい攻勢にさらされる松本大学と将来計画

(a) 大学設立などの状況

県立大学が松本大学とほぼ同じ学部・学科構成（総合経営・管理栄養士養成）で新設しようとする動き、松本駅前に進出する大手専門学校（スポーツ公務員、簿記会計）、長野市に設立される私立の長野医療技術大学（理学療法・作業療法）、それに長野大学（経営・観光・福祉）の公立化など県内私学をめぐる状況は風雲急を告げている。また、北陸新幹線の開業を目前にして、石川・富山県からの旧国立大学を含めた攻勢も並々ならぬものが有る。18才人口のさらなる減少期を控え、都会の大手私学が定員確保を至上命題にして、長野県を標的にした募集活動を展開している。

(b) 貧困な私学補助と公立化の動き

長野大学の動きは、こうした厳しい情勢の展開に自らの努力だけでは耐えきれないとの判断が働いているのは疑いのないところであろう。公立大学は税金が投入されることで学費が安くなるため、これまでの経験でも、教育内容が全く変わらなくても、受験時の志願倍率は大幅に上昇することが分かっている。

これからのポイントは、県内の国公立の大学が例えば10年後どういった形で棲み分けが成立しているのか、激動の後の安定性をどこに求めるかが大きな課題となる。本学がこれまで築いてきた数々の成果（GPやCOCに象徴される）に安住しているだけでは済まず、そのために将来を担う若手教員を中心にして将来計画を練っていく必要がある。

(c) これまでの計画の継続的推進

またこれとは別に、近未来的な方向性を模索する中で、既に立ち上げている新学部設置の可能性を探る委員会も、具体的な可能性を探るべく本格的な調査活動へと継承する。

② 学内改革・改善の一層の推進

以上のような状況への対応の他に、絶えず自らの組織的活動を改革・改善する目を持ち続けなければならない。未だ確立できていない部分を中心にして、継続して改革に取り組む。

(a) 組織の見直し

ここ2年間、本学が取り組まなければならない課題が見えるように必要な組織を立ち上げ、課題解決に向けた機能的な組織へと改革してきた。課題解決のために立ち上げられた委員会等の組織が集中して対応してきた結果、例えば研究推進委員会のように、これまで積み残していた課題の大半に対して、大凡の方向性を教員の同意の下で確立し、これからはルーティン化出来るような地点まで整理してきたケースもある。

今年度はまだ解決しなければいけない課題を残してはいるが、これら全ての委員会を「大学運

営」「研究」「教育」「地域貢献」の四分野に振り分けるといふ再編を行う。「大学運営」では、①自己点検・評価、人権問題、②入試広報、③施設管理の部門。「研究」は①研究推進と②研究倫理の部門。「教育」は①教務、②学生、③就職に加え、④教育改善推進部門を置く。さらに、これまでエクステンション機構(教育部門)の下に置かれた教育関係の各種センターも配置する。「地域貢献」はCOC採択によって、その申請に従った活動を展開する全ての委員会を纏めることにした。

大きな委員会の下にはいくつかの部会を設け、これまでのように課題解決に当たるようにした。委員会の枠組み重視したことにより、部会の活動はある程度の制約を受けることも考えられるが、委員会が所管する分野を総合的に把握できる点を考慮すると、後から整合性を図るといふより、当初から意識されることになるのでより合理的と思われる。

(b) 全学運営委員会の諮問機関を設置 ー 規程整備と教職員評価指標開発ー

学長の権限強化の流れの中で、小規模な組織である本学では、研究科長、学部長、事務局長からなる集団的な執行体制を敷いて、合意形成を図るよう対応してきている。しかしながら、主導性を発揮しなければ進まない課題も多く、そのためにいくつかの諮問会議を設けている。その内の一つが①規程整備である。この間の学園、大学の急速な発展のため、規程の整合性を含めた不備な箇所があるため、これを一掃するために諮問委員会を設け、整合性のある新規規程の作成や既存規程の改定などを手掛ける。次が教職員の評価指標の開発を行う委員会である。その他に、情勢の所でも触れたように、将来計画を立案するための準備部会も必要になってきている。

(c) 課題を解決して、ルーティン化を図る

昨年度の研究推進委員会では、研究助成費の審査と補助金額決定、論文の本学独自の審査制度、論文の種類分け等、懸案の課題解決をほぼ終えてルーティン化できるところまでもって行くことができた。これと同じように、課題解決を目指す部会等では、ルーティン化を目指して多くが納得できる論理を、話し合いを通じて構築する必要がある。ルーティン化が完了すれば、学内の常識としてその後は円滑な流れが形成できるので、さらに生じる新たな課題への挑戦が可能になってくる。今年も出来るだけ多くの部会で部会独自の課題解決が出来ることが課題である。

2) 大学、短大全体に係わる課題とそれへの対応

松本大学の知名度が上がってきたことに伴い、受験者層にも変化の兆しが見えてきている。これは、ここ数年間にわたって取り組んできたACDポリシーの検討、確定及び、それに基づく教学展開と入試広報の充実が奏功したものと判断できる。しかしながら、2014(平成26)年度入試は、健康栄養学科の受験者数の大幅減に象徴的であるように、全国的な厳しい状況と本学もまた無縁ではあり得ないことを示していよう。そうした状況の中でも、一昨年来実施してきたIRに裏付けられた健康栄養学科の試験対策の取り組みは一定の成果を示していることも事実であり、その全学的共通化の取り組みを進めることが求められる。

(2) 「平成26年度事業計画」における全学的課題の実施状況<D>

1) 本学を取り巻く環境の変化と大学改革

①学生募集の変化と松本大学と将来計画

18歳人口の減少に加え、北陸新幹線の金沢延伸等により、本学を取り巻く学生募集の環境は大きく変わろうとしている。平成27年度学生募集において、松商短期大学部がFU（フィールド・ユニット）制度導入以来、初めて定員割れが生じた。

本学の将来を担う若手教員を中心とした将来計画委員会を立ち上げ、自由に意見を出し合って、今後の方向性について議論がなされた。ある程度煮詰まった案が俎上に上がった段階で、理事会の大学委員会を開催した。そこでさらに詳細な検討を加える必要があるため、理事会側2名の委員が参加の下、大学側からは全学運営会議のメンバーに事務局サイドから、2名の職員が加わった将来計画委員会が立ち上がった。

2015年の夏を目途に、高校生に分かり易いコース制度導入などを梃子に改革を考えることになる。グローバル化を見据えて、英語教育の強化も視野に入れることも検討の対象となっている。さらに長年の懸案事項であった、全学共通の教養教育の在り方についても、やはり平成27(2015)年9月くらいを目途に成案が得られるように考えている。

②学内改革・改善の一層の推進

(a) 組織の見直し

当初の目標・計画通りに組織改革を行い、大学運営に必要な事柄に対しての担当する部署は必ず存在するようになってきている。COC戦略会議について、その機能強化を図り、関係部署間での日程調整などが必要となったため、関連部署の事務職員の補充を図る必要性が認識された。また、幅広い視点からの改革が急がれることから、強いリーダーシップの必要性が認識され、平成27年度に向けて複数の副学長を置くことを検討してきた。

職員組織についても、実力本位を取り入れた若手の登用人事を行い、さらに必要な部署には新たな人員補充を行った。図書館に関しては、業者委託も考えに入れてその機能強化を図ろうと、検討を加えてきた。

(b) 全学運営会議の諮問機関を設置 ー規程整備と教職員評価指標開発ー

認証評価を受審するため、規程の点検と整備の必要性が強く認識された。認証評価に向けて明らかになってきている規程の不整合を解消すべく鋭意対応してきている。教職員の評価指標の開発については、平成26年度に応募したAP（大学教育再生加速プログラム）が不採択に終わったことに見られるように、まだまだ不十分と言わざるを得ない。しかし、本学独自のアニュアル・レポートに基礎を置いた評価指標を根拠とし、学長表彰制度に関する「松本大学教員表彰内規」を整備した。

(c) 課題を解決してルーティン化を図る

自己点検・評価に基づく課題解決に対しては、効率性を重視しルーティン化を図ろうとしたが、次々に新たな急務課題が発生したため、それらへの対応に追われて想定した通りには進まなかった。

2) 大学・短期大学部全体に係る課題とそれへの対応

松本大学は平成 25 年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の採択を受け、COC 大学のモデルとして、全国レベルで知名度が高まった。そのため、全国の大学からの視察が急増し、平成 26 年度においては、全国 34 大学からの視察依頼を受けてきた。

しかしながら、高校生の目から見ると、所謂「地域貢献大学」に対するイメージは不明瞭であり、募集活動に直接的につながっていない実情にある。本学の設置の目的は、教育・研究を通じた地域社会への貢献であることは言うまでもないが、学生が何をどのように学び、その後社会に出ていくか（就職）について分かり易く明示することは、研究主体大学と区別される地方大学にあっては必須のことである。

これらの背景を踏まえて、平成 26（2014）年度においては、全学的に「公務員試験対策講座」を正課外でスタートさせた。本講座の受講により、専門性の高い公務員試験への合格のみでなく、学生が幅広い教養を身に着けた結果として、一般企業の内定率の向上に資することを期待している。正課外で新たに TOEIC 講座も開講し、時代が望む英語力の向上を支援する学内体制を構築した。これらの取組を広く高校生に周知するための広報活動にも力を傾注してきた。

また、健康栄養学科の格付けにつながる管理栄養士の合格率をアップさせる取組にも学科を挙げて力を注いできた。受験者の自己採点によると 9 割近い合格率が予測されていたが、実際 88.3% の過去最高の合格率となった。

（3）「平成 26 年度事業計画」における全学的課題遂行の点検・評価< C・A >

1) 大学、短大をめぐる情勢と大学改革

① 厳しい攻勢にさらされる松本大学と将来計画

（a）大学設立などの状況

松本大学とほぼ同じ学部・学科構成（総合経営・管理栄養士養成）で新設されようとしている県立大学の動きに加え、松本駅前に進出した大手専門学校（スポーツ公務員、簿記会計）、長野市に設立された私立の長野医療技術大学（理学療法・作業療法）、さらに長野大学（経営・観光・福祉）の公立化など県内私学をめぐる状況は風雲急を告げている。また、北陸新幹線の開業に伴う、石川・富山県からの旧国立大学を含めた攻勢も並々ならぬものがある上に、18 才人口のさらなる減少期を控え、首都圏の大手私学が定員確保を至上命題に、長野県を標的にした募集活動を活発に展開している。

（b）厳しい情勢に耐えうる将来計画の策定と実施

長野大学の動きは、こうした厳しい情勢の展開に、自らの努力だけでは耐えきれないとの判断が働いているのは疑いのないところであろう。公立大学は、税金が投入されることで学費が安くなるため、これまでの経験でも、教育内容が全く変わらなくても、受験時の志願倍率は大幅に上昇することが分かっている。

そうしたことからすれば、これからは、県内の国公立の大学が例えば 10 年後どういった形で棲み分けが成立しているのか、激動の後の安定性をどこに求めるかといったことなどが大きな課題となる。本学がこれまで築いてきた GP 及び COC の獲得などの成果に安住しているだけでは

済まず、そのために今年度、将来を担う若手教員を中心とする将来検討委員会においてに練られた将来計画を、来年度は全学・全教職員の総力を挙げて実施に移すことが求められる。

(c) 副学長（学長補佐及び職務担当）の任用

上記将来計画の遅滞のない実施の必要性を踏まえ、来年度より、同時並行的に進めざるを得ない各学部改革の牽引・対応を中心に、校務をつかさどる権限と責任を負う職務担当の副学長並びに学長補佐を置くこととする。

(d) 新学部設置と各学部改革の迅速な推進

言うまでもなく、上記将来計画において中核的な位置を占めるのが新学部設置であり、各学部内改革並びに学部横断的改革である。これを向こう一年間という短期間で成し遂げるためには、上記職務担当副学長・学長補佐制度に象徴的な、従来にも増して明確かつ強固な責任体制の下でこれに取り組む必要がある。また、学部改革については、当該学部の主体性を重視しつつ、新学部との関連及び人的交流など全学的な視点を踏まえたものとして取り組むことが必要かつ重要である。

②学内改革・改善の一層の推進

以上のような状況への対応の他に、絶えず自らの組織的活動を改革・改善する目を持ち続けなければならない。来年度も、未だ確立できていない部分を中心に、継続して改革に取り組む。

(a) 新学部設置準備委員会の設置と短期大学の在り方

新学部の設置については上記のとおりであるが、それに伴って準備委員会を早急に立ち上げ、関連事項の取り纏め、処理などを精力的に進めねばならない。その人的構成等については、学長の指示に基づいて全学運営会議で確認していく。

また短期大学の将来について、最近の受験動向を踏まえて、定員削減を考える時期に来ている。その後の在り方についても新しい機軸を含め、教学、就職などの視点から見直す必要も出てくる。

(b) 組織の見直し

ここ2年間、本学が取り組まなければならない課題が見えるように必要な組織を立ち上げ、課題解決に向けた機能的な組織へと改革してきた。

今年度は、全ての委員会を「大学運営」「研究」「教育」「地域貢献」の四分野に振り分けるという再編を行った。(i)「大学運営」には①自己点検・評価、人権問題、②入試広報、③施設管理の部門を、(ii)「研究」には①研究推進と②研究倫理の部門を、また(iii)「教育」には①教務、②学生、③就職に加え、④教育改善推進部門を置き、さらに、これまでエクステンション機構(教育部門)の下に置かれた、⑤教育関係の各種センターも配置した。加えて、(iv)「地域貢献」は、関連する活動を展開する全ての委員会を纏め、COC戦略会議が統括的に進めることとした。上記の大きな委員会の下にはいくつかの部会を設け、これまでのように課題解決に当たるようにした。委員会の枠組みを重視したことにより、部会の活動はある程度の制約を受けることも考えられるが、委員会が所管する分野を総合的に把握できる点を考慮すると、後から

整合性を図るといふより、当初から意識されることになるのでより合理的と思われる。

以上のように見直され実施されてきた新委員会制度について、今年度一年間の経験を基に、必要と判断される部分、箇所については適宜変更、改善を加えていく。

(c) 全学運営委員会の下に諮問機関を設置 ー規程整備と教職員評価指標開発ー

学長の権限強化の流れの中で、小規模な組織である本学では、研究科長、学部長、事務局長からなる集団的な執行体制を敷いて、合意形成を図るよう対応してきている。しかしながら、主導性を発揮しなければ進まない課題も多く、そのためにいくつかの諮問会議を設けている。(i) その内の一つが①規程整備である。この間の学園、大学の急速な発展のため、規程の整合性を含めた不備な箇所があるため、これを一掃するために諮問委員会を設けた。整合性のある新規規程の作成(多くの場合関連する委員会から上程されるが、これを整合性という観点から検討している)や既存規程の改定などを手掛ける。(ii) 次が教職員の評価指標の開発を行う委員会である。これについても、今年度一年間の経験を基にIRの視点から点検・評価し、アニュアル・レポートの改善を中心に、必要と判断される部分、箇所を定めると共にそれらのウエイトについても探求していく。先行する学長表彰制度は、この部分的先取りと位置付けている。

(d) 課題を解決して、ルーティン化を図る

課題解決を目指す部会等では、ルーティン化を目指して多くが納得できる論理を、話し合いを通じて構築する必要がある。ルーティン化が完了すれば、学内の常識としてその後は円滑な流れが形成できるので、さらに生じる新たな課題への挑戦が可能になってくる。来年度も出来るだけ多くの部会で部会独自の問題解決が出来ることが課題である。1

2) 大学、短大全体に係わる課題とそれへの対応

①認証評価の受審

来年度、松本大学は日本高等教育評価機構の短期大学部は短期大学基準協会の7年に1度義務づけられている認証評価を受審する。このため自己点検・評価報告書及びエビデンスの準備を手落ち無く進めることが必要となり、資料の整理など事前準備を遅滞なく確実にを行うと共に、関係者間で、その内容に関する共通理解を怠りなく図っておかねばならない。

②IRの充実

数値データに裏付けられて、大学改革を進める上では、IRは大学運営のあらゆる分野において欠かせない、戦略的意味合いを持っている。

③広報の視点

松本大学の知名度が上がってきたことに伴い、受験者層にも変化の兆しが見えてきている。これは、ここ数年間にわたって取り組んできたACDポリシーの検討、確定及び、それに基づく教学展開と入試広報の充実が奏功したものと判断できる。しかしながら、2014(平成26)年度入試における健康栄養学科の受験者数の大幅減に象徴的であるように、全国的な厳しい状況と本学もまた無縁ではあり得ないことを示している。そうした状況の中でも、昨年来実施してきたIRに裏

付けられた健康栄養学科の試験対策の取り組みは一定の成果を示していることも事実であり、その全学的共通化を進めることが求められる。

また、各高校の実情にあった広報戦略を展開することが、今後の活動にとって大変重要になってくると考えられるが、過去のデータからどのような特徴を“売り”にするかを決めていくことも課題である。

④教学の視点

研究成果として、GPA分布の年次変化をカリキュラム・ポリシーの成功度を測る指標となる可能性があるという指摘しているが、AP申請が不採択に終わったことで本学の弱点も見えてきている。これを克服するのも、教職協働に基づいたIRになってくる。

⑤学生支援の視点

入学前教育と初年次の退学率の強い相関が、IRの成果として明瞭になってきている。就職活動にも適用することを考え、科学的な手法を取り込むことで新たな飛躍をもたらしたい。

II. 全学的点検・評価

1. 大学院 健康科学研究科（修士）

(1) 事業計画書<P>

健康科学研究科修士課程（定員6名、収容定員12名）は2011（平成23）年4月に開設された。本研究科は栄養と運動に対する地域の関心と要求とにこたえ、これらの2つの領域を有機的に統合させた、わが国でも珍しい大学院である。大学院が目指すところは栄養と運動ばかりではなく、健康を取り巻くそのほかのさまざまな要素がもたらす生体への影響を横断融合的に、そして科学的に解明し、「健康科学」というひとつの学問領域を確立することである。そしてそれらの成果を社会へ還元することを目的としている。具体的には研究活動の成果を社会へ発信し、そして院生を教育者、研究者、そして専門的職業人等として育成し、卒業生を通して成果を地域住民に還元する。また、地域で活動している社会人に必要とされるリカレント教育や学術的サポートの教育研究拠点として発展することも目指す。

本年3月に2回生である8名の修士課程修了生を輩出した。

2014（平成26）年度の入学予定者は8名（4回生）で、在学学生5名（3回生）を加えて院生は計13名となる。大学院開設以来の入学者数は3名（1回生）、7名（2回生）、5名、そして8名と推移している。文字通り、大学院生あつての研究科の活動であるため、今年度学生募集には引き続き、広報活動等の努力を重ねていきたい。昨年度卒業生8名はそれぞれに希望する分野に就職でき、彼らの活躍を通して大学院の存在を広めることを期待して止まない。学生確保は私立大学等経常費補助金の配当を受けるという意味でも重要課題である。

1)カリキュラム等の整備

健康科学研究科の基盤となっている人間健康学部との連携をさらに図り、教育上の整合性等の課題を検討する。また、「健康」を多角的にとらえ、健康科学をひとつの学問領域に確立すべく学部との連携を模索する。すなわち、カリキュラムの整備と教員の効率的な適正配置とを考慮す

る。このことは学生の受け皿を広めることにもつながる。

本研究科は学部とは一味違う「地域貢献というミッションを具現化する、研究成果に裏付けられた院生ならではの活動」が社会から求められている。こうした学生を指導できる教育体制の充実が必要である。

定年を迎える専任教員の後任の確保もカリキュラム整備上、課題である。

2) 入学者の確保

入学者定員を満たすべくホームページ等を通じて本大学院の魅力を提示・発信することにより、学内外から入学者の開拓を推進する。学部出身学生だけでなく、社会人の志願者にとっても魅力ある研究科を目指し、広報活動をさらに推し進め、教育研究体制を充実していくことに努める。社会人が日頃より職場で抱えている疑問点を解決・発展させていく特別研究のテーマ設定などに努める。また、2013（平成25）年度と同様に昼夜開講の整備も含め、社会人が学びやすい環境の整備に努める。

院生のみならず研究生などの募集についても未だ本大学院の存在が周知されていないところがある。このことを意識して教員スタッフは衆目の集まる場所で「健康科学研究科」の存在を高める努力が必要であろう。

3) 施設等の整備

本研究科は開設して4年目となるが、大学院の人的環境 — 教育スタッフや専任事務職員の充足 — 、施設環境 — 研究室、院生学生室、情報処理室 — 、そして実験研究機器などの整備は未だ充分とはいえない。そのため教育研究水準を維持・向上を目的に大学院特別教育研究費を経常予算として上記の整備を図る必要がある。

以上の事業の推進にあたっては人間健康学部の協力と共同作業とが不可欠である。さらに「健康科学」を広くとらえ、包括的な学問領域として確立するためにも他学部との連携も欠かせない。昨年度（2013年度）と同様に修士論文発表会の開放、大学院主催の市民講座の開設、そして情報交換会の開催などを予定したい。

(2) 「平成26年度事業計画」の実施状況<D>

1) いわゆる3ポリシーの見直し

4期生を迎えた平成26年度は当初のディプロマ・、カリキュラム・、そしてアドミッション・ポリシーを現状と照らし、未来を見据え、より明確になるように修正した。いずれのポリシーにおいても、①栄養と運動に精通し、健康科学分野での活躍を目指す、②栄養および運動に特化した専門性を習得し、指導的立場を目指す、③健康科学の基礎的研究を目指す人をそれぞれ育成することを最終ゴールとしている。

2) カリキュラムの整備と教員の配置

①専任教員の確保: 本研究科の専任教員として人間健康学部より2名を平成27年度より異動することとした（木藤教授：「健康免疫学特論」および「食と加齢特論」；高木教授：「食品学特論」および「食品微生物学特論」；2名とも人間健康学部を兼担）。

②特別研究指導体制：学内審査により1名の教授が所謂マル合教授として承認された（根本教授）。

③栄養教諭および保健体育専修免許状科目の整備：次年度には栄養教諭においては「健康免疫学特論」および「食と加齢特論」、保健体育においては「ゲノム科学特論」および「骨格筋生理学特論」をそれぞれ新增することとした

3) 入学者の獲得

平成26年度入学者は7名（学部卒：5名、社会人：2名）で、在学者5名（学部出身者：1名、社会人：4名）を加え、在籍者は計12名となった。これにともない事務的には経常費補助金獲得の条件である在学者数10名をクリアすることができた。

4) 広報活動

①COC関連の学術研究会の開催：研究科教員が会長となり（山田教授）、研究会（第8回健康長寿長野研究会、2014年6月）を開催した。

②各教員はそれぞれの分野で学術講演および研究活動、文化社会活動などマスメディアを介して本研究科の存在を知らしめる活動に専念した。

③修士論文研究発表会が審査会を兼ねて2015年2月に公開開催された。

5) 教育研究設備の整備

①6号館3階の動物飼育室について：空調を中心とした環境整備のための改修工事を実施した（2014年7月～9月）。

②各教員の特別研究および講義に必要な研究機器および備品については、大学院研究科予算内の「講義運営費」より配分し、整備した。

6) 教育スタッフの確保

研究科所属スタッフの増員はとくになかった。

7) 3期生の就職状況

卒業生4名（ほか1名は2015年9月に卒業予定）のうち社会人3名を除く学部出身者1名は、特別研究の実績を基に国立大学病院の研究助手として希望する職場へ就職した。

(3) 「平成26年度事業計画の実施状況」を受けての点検・評価<C・A>

1) カリキュラムの整備と教員の配置

①カリキュラムの整備：

・本研究科が健康を多角的に捉え追求していくために、また入学者獲得のためにも教養教育の受け皿を拡げる必要がある。一方で専任教員による科目の守備範囲は自ずと限定されるため学内外からの非常勤による登用を目指した。特別研究を除く29科目中、非専任教員による科目担当数は11科目にのぼった。

さらに研究科のフィールドを拡大すべくカリキュラムの新增（人文・社会学系を含む）が今後求められる。

・研究は社会的活動であり、その成果と知見は社会へ還元すべきものであるが、その活動のいずれの時点においても倫理的配慮が求められる。現在、「生命倫理学」の科目を配しているが、さらに研究倫理教育分野の充実を目指したい。

・栄養教諭および保健体育専修免許状に対する開講科目は免許状取得のためのほぼ最低限の数しか

なく（免許状取得に必要な12科目中、栄養教諭においては12科目、保健体育においては13科目をそれぞれ配置）、つまり院生が科目を選択する余地がないのが実情である。引き続き次年度での整備が不可欠である（次年度には栄養教諭においては「健康免疫学特論」および「食と加齢特論」、保健体育においては「ゲノム科学特論」および「骨格筋生理学特論」をそれぞれ新增する）。

- ・科目によっては外部講師による特別講義を設けた（運動生理学演習、スポーツ栄養学特論、スポーツ栄養情報処理演習）が、幅広い院生教育には特別講義をもっと活用するべきであろう。

②専任教員の確保：今年度の専任教員は8名体制であった（教授7名、准教授1名）。研究科のフィールドを拓げるべく、次年度は人間健康学部より2名が専任教員として移籍する予定である。また今年度で1名が定年となるが、若手による後任を補充する（担当科目：健康と宇宙医学・生理学特論、骨格筋生理学特論、ゲノム科学特論）。したがって次年度の専任教員は10名となる（教授8名、准教授2名）

2) 入学者の獲得

①平成26年度の学生総数は12名で、事務上は経常費補助金を得るための最低ラインの10名を確保することができた。

②学生の構成から特徴的なことは6名/12名の5割が社会人である点である。この構成比が一過性の現象であるかも知れないが、一方で本研究科の方向性を内在している可能性もある。それは長野県の健康を推進する原動力となってきた保健師、栄養士によるメディカル活動、そして食改員によるメディカルの活動を育んできた本県の地域性と住民性、そして旺盛な勉学向上心が背景にあるのかも知れない。社会で活躍中の知識欲に長けた人々を対象としたリカレント教育の場として本研究科がその役割を担う必要性を再認識している。大学院を修了した社会人が現場でさらに活躍することが将来的な入学者増につながるものと期待している。

3) 広報活動

①広報活動としては、(a)行政と連携した健康関連知識の啓蒙活動、(b)一般向け講演会の開催、(c)各教員の研究・教育・社会活動などがあげられる。(a)については栄養および運動領域の各個人の教員が県内の市町村および組織と連携しながら活動中である。(b)については本学のCOC事業に関連して2回の会議が開催された（いずれも2014年6月）。(c)広報活動の基盤が日頃の各教員のアクティビティに依存することは論を待たない。本研究科の教員全員が人間健康学部を兼担し、学部のデューティーをこなしながら目一杯活動しているのが現状である。

②学部教育を通しての学部生の発掘、そして定型的な広報活動（新聞などによる広報）は入学者の動機を高める一定の効果を期待し得るであろうことから口コミ、マスコミを介した全教員のさらなる広報活動が必要である。

4) 教育研究設備の整備

①研究科所属のほとんどの教員が居室を有する6号館に新しいスペースを確保することは難しく、各教員同士で研究スペースを共用しながらやりくりせざるを得ないのが現状である。また、研究機器と設備の設置および使用についても同様の事情である。

②教育研究関連のための予算は潤沢ではないものの研究科内で調整しながら対処している。各教員

はこの現実を認識しつつ学内外の競争的資金の獲得を目指すべく鋭意努力している。

5) 教育スタッフの確保

現在の本研究科の活動実績と活性度、また全学的なバランスから教育スタッフの新增は望むべくもなく、各研究室が外部資金を獲得してスタッフを確保するしかない。

【次年度に向けて】

- ①各教員は各個人それぞれの研究フィールドを持っており、本研究科の研究活動度が依存するところである。一方で研究科としてひとつの共通テーマを見出し、各人のフィールドから捉えた視点と知識とを集約し、健康科学をオリジナリティーある解釈と意味づけを目指したい。このことによって本研究科の特徴を内外に示すことができる。次年度は「健康科学特論」を全教員によるオムニバス形式で展開する予定であり、共通テーマを見いだすためのヒントを与えてくれるものと期待している。
 - ②研究の立案、実施、発表において倫理的配慮がつねに社会から求められている。とくに研究活動にともなう研究不正に対する教育プログラムの整備が急務である。
 - ③知識の内外の交流は大学院の研究活性化および院生の教育的見地からも必要である。国際交流の進展のためのシステム整備が次年度以降の課題である。すでに全学的に交流を深めている中国嶺南師範学院との国際交流が展開していく可能性を追求していく。
- 今年度、院生のひとは海外留学を経験し、また次年度もひとりが留学予定である。
- ④大学院教育研究の向上のため、アンケートを通して院生の評価を受けたが、そのアンケート設問の内容はさらに充実させる必要がある。
 - ⑤本研究科は「業務的」には大学院独自に独立した部門ではなく、現時点では人間健康学部との兼担のうえに成り立っている。日常業務の大半が学部のそれに費やされ、さらに研究科として院生の指導等が課せられており、構造的にも理念的にも悩ましい問題である。

<執筆担当/大学院健康科学研究科 研究科長 三村 芳和>

2. 総合経営学部

(1) 計画<P>

現在の大学に要請されるいくつかの観点からみて、総合経営学部の現状・改善計画は以下のように総括される。

1) ACDP 3 ポリシーについて

現 状：各ポリシーの明示・公表は実現しているが、周知徹底がなされているとは言い難い。

改善計画：以下に述べるように、各ポリシーの実現と周知を徹底させていく。

2) アドミッション・ポリシー

現 状：アドミッション・ポリシーの実践および達成については、さらなる改善の必要がある。学部入学定員の確保は継続的に実現できているが、本学部が入学を期待する資質を持つ学生を十分に選考するだけの受験者数の確保までには至っていないのが現状である。最低限の量の確保から

質の確保に移行するためには、より一層の受験者数の確保が必要である。昨今のわが国経済状況の激変の影響や受験生の指向の変化を十分に分析・対応し、県立大学や大手専門学校の開校に対抗できる強い学部を確立する必要がある。

改善計画：最近の社会状況および若者の傾向・指向に合わせて改善した新しい学部カリキュラムが平成 25 年度新入生から進行中なので、このカリキュラムの教育方針・内容を的確に発信し高校や受験生に周知徹底していく。そのための有効な広報手法を駆使する。

3) カリキュラム・ポリシー

現 状：カリキュラム・ポリシーについてはいずれの学科においても、次の 10 年を見据えた姿を射程に入れることが求められており、そのための第一歩として、平成 25 年度新入生からの新しいカリキュラムが現在年次進行中である。この新課程の目指すものを十分に実現するよう全力を傾ける必要がある。新カリキュラムは今年度 2 年生対象となるので、旧課程の 3、4 年生対応と合わせて、基礎学力の養成から専門教育及び就職対策の社会教養へと教育の具体化の最前線が移っていくことになる。基礎教養科目、社会教養、専門教育これらのバランスを意識し、「何を教育するか」という学部・学科の特徴ある授業科目の配置はもとより、学生の実情に合わせて「どのように教育するか」という視点を意識してカリキュラム・ポリシーを具体的な授業として実現していく必要がある。

改善計画：学部学生の基礎学力の担保を実現するため、両学科共通で既存の授業科目を活用して、基礎学力に関わるクラスを大幅に拡充する。具体的には、情報処理能力（ワープロ、表計算）簿記、英語について、学部全体で能力別にクラスを編成し、学生の能力に合わせた適切な目標（検定試験合格）を具体的に設定し、成果の見える形での基礎学力の養成を行う。また、授業科目としての「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、就職試験で要求される社会人基礎力の養成と強化に取り組む。いずれのクラスでも、専任教員が授業担当者や世話人として参加して、責任を持って実行するかたちをとる。

4) ディプロマ・ポリシー

現 状：ディプロマ・ポリシーにかかわる成績評価の厳格化はほぼ達成されているが、当該ポリシーの成果の一つとも位置付けられる学生の就職状況を、より好転させるための方策を検討する必要がある。

改善計画：厳しさを増す就職状況と学生の指向を念頭に、各種の資格取得対策を本格化させる。従来個々の教員の取り組みとして実行されてきた資格取得に向けた指導を、全面的に学部・学科としての取り組みとし、平成 25 年度導入の新課程から、正規の授業科目としてカリキュラムの中に組み込んだ。これらの授業を生かし成果として合格実績を出し、さらに就職状況を改善していく必要がある。

5) 学部の中長期整備

現 状：松本大学発足時からの学部である総合経営学部は、開設から 12 年を経過した。第一段階と呼ぶべき最初の 10 年では、“本学部の基礎を固めると同時に学部はもとより大学自体を軌道に乗せる”という基本目標はほぼ達成できたと考えている。今後、大学及び学部をより強固なものにしていくために、第二段階にあたる次の 10 年を見据えた学部再構築の作業が必要である。

改善計画：総合経営学部の両学科においてこれまで進めてきた検討内容を、平成25年度導入新カリキュラムとして具体的な教育内容として現在実施している。まずは、このカリキュラムを着実に実行していくことが重要である。さらに、年次進行に合わせてこの新しいカリキュラムの専門教育部分を授業として具体化し、教育目標の実現を目指す。学部として将来を見据えた中・長期的な展望を検討し、それに則った人員整備を行っていく。

以上のような総合経営学部の取り組みは、基礎教育と教養教育に関しては、教養教育充実の一環として「総合経営学部ブランド」の確立を目指し、ワープロ、表計算、簿記の能力を、最低限保証すべき基礎能力と位置づけた新カリキュラムの実施を両学科共通で行っている。専門教育に関しては、各学科において以下のような具体的事業として計画されている。基礎学力の養成から社会教養や就職につながる専門的な資格対策まで、専任教員が責任を持って学生のサポートを行うことが本学部両学科の基本的な方針である。以下に学科ごとの事業計画を述べるが、総合経営学部は一つの学部であり、総合経営学科も観光ホスピタリティ学科も単独で存在するものではない、AP、CP、DPの検討実現だけでなく将来計画も学科単独の問題ではなく、学部としての最適解を求めて柔軟な発想での検討を行っていく。

①総合経営学科

- ・受験者数増加に向けた方策の一環として、平成24年度に締結した、飯田長姫高校・飯田市との三者連携協定にもとづき、高大連携の地域活性化活動を進め、これを具体的な学生募集に結びつける努力をする。また、昨年から観光ホスピタリティ学科が参加した穂高商業高校との高大連携事業に総合経営学科も積極的に協力・参加する。
- ・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格として、従来のITパスポート、FPに加え宅地建物取引主任者、消費生活アドバイザー、通関士を追加選定した。新課程では、これらの資格対策を、カリキュラムを通じた正課教育と課外での学生支援との両面で、専任教員が責任を持って指導を担当し手厚くサポートし、実績を出すべく進めていく。
- ・公務員試験対策を強化する手立てとして、既存の授業科目である「公務員対策講座」を活用しながら、専任教員が担当するクラス（「社会教養」等の科目）を複数設け実施し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。
- ・就職試験対策としても、正課教育科目と課外での学生支援の両面から教養的学力の養成と向上をはかり、就職活動に必須の筆記試験での突破実績を高める。具体的には、就職活動にかかわる科目である「ワークインフォメーション」・「社会人になるために」・「キャリア形成」を引き続き継続するとともに、授業科目である「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、専任教員が担当するかたちで教養的学力の養成と強化に取り組み、前項の公務員対策と合せて入社試験に対する現実的な取組として実行する。
- ・学科の教育目標と教育内容、および教育手法についての検討作業を精力的に進める。

②観光ホスピタリティ学科

- ・受験者数増加に向けた方策の一環として、引き続き高大連携事業を推進する。従来から連携のある丸子修学館高校、市を含めて三者協定を結んだ飯田長姫高校に加え、穂高商業高校との高大連

携活動を進め、学生の地域貢献と合わせて学生募集につながるよう積極的に活用する。

- ・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格を、社会福祉士、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者（いずれも国家資格）と設定し、専任教員が指導を担当する。カリキュラムを通じた正課教育と、課外の学生支援との両面から、これらの資格および他の国家資格取得に重点を置いた教育をスタートさせる。
- ・公務員試験対策を強化する手立てとして、既存の授業科目である「公務員対策講座」を活用する。現在は非常勤教員が担当しているが、24年からは専任教員が担当するクラスを複数設け、国家・地方いずれも対象とした指導を実施する。正課教育と学生支援の両面から、基礎学力の養成と向上をはかり、就職活動に必須の筆記試験での突破実績を高める。
- ・就職試験対策としても、正課教育科目と課外での学生支援の両面から教養的学力の養成と向上をはかり、就職活動に必須の筆記試験での突破実績を高める。具体的には、就職活動にかかわる科目である「ワークインフォメーション」・「社会人になるために」・「キャリア形成」を引き続き継続するとともに、授業科目である「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、専任教員が担当するかたちで教養的学力の養成と強化に取り組み、前項の公務員対策と合せて入社試験に対する現実的な取組として実行する。
- ・英語教育に関する体制を充実させ、同時に大学全体の教養教育を構築するため、英語の専任教員（教授）を中心に体制を整備する。
- ・観光・福祉・地域活性化を三本の柱とする学科の教育目標を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後10年を見据えた教育内容を検討する。さらに、学生の気質の変化に対応した有効な教育手法についての検討作業を精力的に進める。

（2）実施と検証＜D・C＞

任期満了に伴い平成26年度より学部長と両学科長が交代した。学部長及び学科長の方針として、両学科共通の問題意識を持ち両学科合同で行った事業が多くあった。

1) 総合経営学部（両学科共通）

①アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシーの周知と実践については、入学定員の確保ができていることから一定の水準に達してはいるが、いまだ十分とは言えない。学生募集の状況は年々厳しさを増し、幸いなことに今年度も両学科とも学部定員の入学者数は確保できたが、本学部が入学を求めるような資質を持つ学生を、十分に選考できる状態には至っていない。最低限の量の確保から質の確保に移行していくために、より一層の受験者数の確保が必要である。昨今のわが国経済状況の激変の影響や受験生の指向の変化を十分に分析し、県立大学や大手専門学校の開校に対抗できる、魅力ある学部を確立する必要がある。

②カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーについてはいずれの学科においても、平成25年度新入生からの新しいカリキュラムが進行中であり、今年度は1、2年の2学年が対象となった。旧課程の3、4年生対応と合わせて、カリキュラム・ポリシーを具体的な授業として実現していくことをめざした。

新課程での重点の一つであった基礎学力の担保については、情報処理能力(ワープロ、表計算)、簿記、英語について、両学科合同で能力別にクラスを編成し、学生の能力に合わせた適切な目標(検定試験合格)を具体的に設定し、成果の見える形での基礎学力の養成を行っている。例えば情報教育では昨年に引続き表計算検定2級を一年生の6割以上の学生が取得しており、情報リテラシーの底上げは一定の成果を上げて来ている。さらに、授業科目としての「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、就職試験で要求される社会人基礎力の養成に取り組んだ。

③ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーにかかわる成績評価の厳格化はほぼ達成されているが、当該ポリシーの成果の一つとも位置付けられる学生の就職状況は例年同様に厳しく、より好転させることが望まれる。そのための方策として、従来、教員個々の取組として実施されてきた資格取得に向けた指導を、平成25年度導入の新課程からは全面的に学部・学科の取り組みとし、正規の授業科目としてカリキュラムの中に組み込んだ。昨年度並びに今年度は、このカリキュラム対象の学年のみならず、過年度入学生に対してもこのカリキュラムの前倒し実施として同様の指導を行ってきた。これらの授業の成果として、例えば「宅建」については今年も在学生から合格実績を出し、さらに取得学生は確実に就職を決定するという例が出ている。

④学部の中長期整備

松本大学発足時からの学部である総合経営学部は、開設から12年を経過した。第一段階と呼ぶべき最初の10年の、“本学部の基礎を固め大学自体を軌道に乗せる”という基本目標はほぼ達成できたと考えている。今後、大学及び学部をより強固なものにしていくために、第二段階にあたる次の10年を見据えた学部再構築の作業が必要である。

今年度は県立大学問題の対策として全学で将来構想の議論が始まった。総合経営学部の両学科においては、これまで進めてきた検討内容を、平成25年度導入新カリキュラムとして現在すでに具体的な科目として実施しており、まずは、このカリキュラムを着実に実行していくことが重要である。一方で、このカリキュラムによる卒業生誕生は全学的な改革の時期と期を一とする。全学的な動きと連動させた次期カリキュラムに向けて、現行カリキュラムの評価とさらなる改革の議論を今年度スタートさせた。

具体的には、全教員に対するヒヤリング並びに両学科合同の学科会議の議論を経て、現在欠員となっている2つのポストと平成26年度をもって定年退職される佐藤博康氏の後任の3つのポストの公募を行い、地域活性化担当教員として若手の向井健氏の採用に至った。今年度の議論をさらに進め、次年度は学部の将来問題の議論をさらに進めていく必要がある。

⑤高大連携

今年度は、入試広報室の主導により、全学的に松商学園高校での出前講義シリーズを開催することができた。結果として、本学部への松商学園高校からの進学者の大幅な増加が実現した。次年度以降のより関係強化の良い礎になることを期待したい。

穂高商業高校については、松商短期大学部と共同で3年生の高校学園祭出展への協力を行った。本学部在学生と高校生との共同活動などが好印象だったようで、穂高商業高校から本学部への進学者数は増加した。

長野県商業教育研究会のマーケティング塾への協力も、短期大学部と共同で行ったが、ここでもマーケティング塾参加者から多くの本学進学者が出た。高校・飯田市との三者連携協定にもとづき飯田 OIDE 高校でも高大連携活動を継続している。地域貢献という観点のみならず、高校生に対して大学教員が直接アピールできる貴重な機会として、学生募集の観点からも、高大連携を今後も推し進めていく必要がある。

⑥外部講座の有効活用

今年度から公務員講座や TOEIC 講座といった外部講座が全学規模で開かれるようになった。総合経営学部生の参加も多く、学生のニーズを感じる。基礎学力の養成から社会教養や就職につながる専門的な資格対策まで、専任教員が責任を持って学生のサポートを行うことが本学部両学科の現行カリキュラムの基本的な方針であるが、内容をさらに充実させていくために、外部講座を効果的に取込んでいく予定である。

⑦その他

私立大学活性化事業に大学教務システムの ICT 化で応募し採択された。その一環としてまず総合経営学部の次年度新入生全員に、タブレットパソコンを貸与する方針で準備を始めた。また、COC 関連で全学共通の PBL 型授業が今年度スタートしたが、観光ホスピタリティ学科の学生に加えて総合経営学科の一年生が多く参加し、名実ともに全学部的な地域活性化 PBL 授業となった。この学生たちが来年度以降学部を上げての地域貢献活動の主力となることを期待している。

2) 総合経営学科

- ・継続的に行われてきた、松商学園高校商業科との共同アンケート調査に加え、観光ホスピタリティ学科主導で行われてきた穂高商業との高大連携活動に総合経営学科教員も協力・参加した。
- ・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格として、従来のITパスポート、FPに加え宅地建物取引士、消費生活アドバイザー、通関士を追加選定した。これらの資格対策を、カリキュラムを通じた正課教育と課外での学生支援との両面で、専任教員が責任を持って指導を担当し手厚くサポートし、実績を出すべく進めた。FPと宅地建物取引士については昨年同様に一定数の合格者が出ている。産業カウンセラーについても、協会との協議を進め、次年度以降卒業前に確実に受験資格が取得できるように整備を行った。
- ・「公務員対策講座」は専任教員が担当する複数のクラスを開講し、公務員試験対策を強化する手立てとした。
- ・就職試験対策も、正課教育科目と課外での学生支援の両面から教養的学力の養成と向上をめざして「ワークインフォメーション」・「社会人になるために」・「キャリア形成」を引き続き継続するとともに、授業科目である「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、専任教員が担当するかたちで教養的学力の養成と強化に取り組んだ。
- ・学部・学科の将来構想の議論を行い、その結果に則って、人事公募を行ったが、残念ながら適当な人材が見つからずに終わってしまった。今年度の議論は次年度以降の学部将来構想検討のスタート地点となるものである。
- ・本学科は学問分野の専門性から、アウトキャンパスや地域貢献の機会は多くはないが、東京証券取引所や麻績村のイベントへの参加など、学科教員が狭い意味での専門性を超えて、学生に具体的な

体験をより多く持たせるような工夫を行ってきた。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ・受験者数増加に向けた方策の一環として、引き続き高大連携事業を推進した。従来から連携のある丸子修学館高校、市を含めて三者協定を結んだ飯田長姫高校に加え、穂高商業高校との高大連携活動を進め、学生の地域貢献と合わせて学生募集につながるよう積極的に活用した。さらに、松商学園でも一連の出前講義を行い、本学教育内容の周知に努めた。松商学園から本学科への進学者数は今年度大幅に増加した。
- ・学科として取り組むべき重点的資格として、社会福祉士、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者と設定し、専任教員が責任を持って指導をおこなった。ここ数年、社会福祉士に関しては多くはないが高い合格率で適正人数の合格者を出し続けている。国内旅行業務取扱管理者についても同様である。
- ・「公務員対策講座」は専任教員（学部としてのクラス編成で、Ⅱは専任教員では清水教授、畑井准教授、田中（正教授）大石教授、林教授、Ⅰは非常勤で桜井講師）が担当する複数のクラスを開講し、公務員試験対策を強化する手立てとした。
- ・就職試験対策も、正課教育科目と課外での学生支援の両面から教養的学力の養成と向上をめざして「ワークインフォメーション」・「社会人になるために」・「キャリア形成」を引き続き継続するとともに、授業科目である「社会教養Ⅰ」「社会教養Ⅱ」のクラス数を増やし、専任教員（学部としてのクラス編成で、Ⅱは専任教員では清水教授、畑井准教授、田中（正教授）大石教授、林教授、Ⅰは非常勤で桜井講師）が担当するかたちで教養的学力の養成と強化に取り組んだ。
- ・観光・福祉・地域活性化を三本の柱とする学科の教育目標を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後の十年を見据えた教育内容を検討した。学部全体での議論と合わせて人事公募を行い、地域活性化の若手教員として向井健氏を採用した。今年度の議論は、さらなる改革を次年度以降進めていく際のスタート地点となるであろう。
- ・学科の特徴としてアウトキャンパス・スタディや、拇池高原や生坂村での地域貢献など、外に出て活動する機会を、今年も数多く学生に提供した。外での活動で学生は着実に成長するので、今後も同様の機会を提供し続けることが重要である。

(3) 来年度に向けて<A>

現在の大学に要請されるいくつかの観点からみて、総合経営学部の現状・改善計画は以下のように総括される。

1) 3ポリシーについて

- (a) アドミッション・ポリシーについては現在の学科の教育内容に合わせて、3月に改定を行った。この改定されたアドミッション・ポリシーに則って本年度の学生募集を行っていくことになる。学生募集に関して本学部は今までのところ、幸いなことに学部入学定員の確保を継続的に実現できてはいる。しかしながら志願者数が十分ではないために、アドミッション・ポリシーに合致した学生の選考を十分に行うまでには至っていない。学生について最低限の量の確保から質の担保に移行するためには、より多くの受験生の確保が必要である。現在の学部カリキ

キュラムは平成 25 年度新入生から導入され年次進行中なので、まずはこのカリキュラムの教育方針・内容を的確に発信し高校や受験生に周知徹底していくことが重要であり、そのための有効な広報手法を駆使する。

(b) カリキュラムについてはいずれの学科においても、平成 25 年度新入生からの新しいカリキュラムが年次進行中である。まずはこの新課程の目指すものを十分に実現するよう全力を傾ける必要がある。このカリキュラムでは、基礎教養科目、社会教養、専門教育のバランスを意識し、「何を教育するか」という特徴ある授業科目の配置はもとより、学生の実情に合わせて「どのように教育するか」という視点を意識してカリキュラム・ポリシーを実際の授業として実現している。具体的には、基礎学力の担保を実現するため、情報処理能力（ワープロ、表計算）簿記、英語については、学部全体で能力別にクラスを編成し、学生の能力に合わせた適切な目標（検定試験合格）を具体的に設定し、成果の見える形での基礎学力の養成を行っている。また、「キャリア形成Ⅰ」「キャリア形成Ⅱ」をゼミⅡゼミⅢに代わる二・三年生学部必修科目と位置づけ、クラス数を増やし就職試験で要求される社会人基礎力の養成と強化に取り組む。いずれのクラスでも、専任教員が授業担当者として参加して、責任を持って実行するかたちをとる。

(c) ディプロマ・ポリシーにかかわる成績評価の厳格化と基準の統一化はほぼ達成されているが、当該ポリシーの成果の一つとみるべき学生の就職状況を、より好転させるための方策を検討する必要がある。そのため、各種の資格取得対策を本格化させることをめざし、従来個々の教員の取り組みとして実行されてきた資格取得に向けた指導を、全面的に学部・学科としての取り組みとし、正規の授業科目としてカリキュラムの中に組み込んだ。これらの授業を生かして資格合格実績を出し、それを踏み台に就職状況を改善していく必要がある。

2) 学部の中長期整備

総合経営学部の両学科においては次の 10 年を見据えて改定したカリキュラムが導入 3 年目でありこの年次進行中の新カリキュラムを着実に実行していくことが重要である。しかしながら、県立大学問題や昨今の学生募集における難しい状況を鑑みると、現カリキュラムでの卒業生が出る 2 年後には、さらなる改善を施したカリキュラムをスタートさせる必要があると考えられる。また、現在検討が行われている新学部構想とのカニバリティーを避ける必要も当然ある。現在年次進行中のカリキュラムを適切に評価し、より良くするための改革の検討が急務である。方向性としては下記の 3 点が考えられる。

現在、国の政策として「地域創生」が謳われ、地域産業や地域社会と大学の連携を後押しする政策が進められている。この政策を追い風に地域との連携をより密にし、入り口側では高大連携や出前授業といった入学前の高校生との活動を増やして学生募集につなげ、出口側ではインターンシップや共同研究を利用して地元産業界との結びつきを強め卒業後の就職へと結実していく。さらに、その途中を効果的につなぐような、学部のカリキュラムアレンジを考えていく。

また、長野県内の非理工系学生の受け皿として、従来の社会学系の色彩に加え人文科学的な分野も総合経営学部の特色の一つとしていくことを考え、語学、文化、歴史といったものを学科カリキュラムの中にどう位置づけるかを再検討する。その際には東京オリンピックの存在や社会の国際化

の流れをどう効果的に取り込んでいくかが重要なポイントである。

ネット接続されたスマホの携帯が当たり前となり、Big Data が広く活用される時代となったことをうけ、情報系専門技術者ではなく、ICT を活用してデータを読み論理的に考えられる普通の社会人が企業や地域で求められている。

上記、地域との連携も、人文科学的な色彩も ICT も、いずれも COC 活動や学芸員資格、情報活用論などすでに学部内に存在する要素であり、まったく新しいものではない。新規構想が机上の空論に走らないためには、在学生を対象とした試行を行いながら、教員・学生両サイドにおいて実現可能性を検討する必要がある。両学科の垣根を越えて、学部としてベストの解を構築することが重要である。また、昨年一部該当者なしに終わった学部採用人事を行い、将来の大学を担う人材の登用を図ることも急務である。

3) 新規事業

平成26年度私立大学活性化事業補助金を利用して、学内教務システムのスマートフォン対応化を行っているが、その端末として購入した iPad Air を平成27年度は試験的に総合経営学部新入生全員に貸与する。これには2つの狙いがある。第一は学生を「タブレットを携帯する ICT 環境」に慣れさせることである。ネットの常時接続と大量データの利用が当たり前となった生活を日常とすることによって、現代の高度情報化社会に適応した社会人へと自然と成長していくことを期待するものである。第二は ICT を利用した教務関連作業の簡単化で、出席管理や成績管理に ICT を活用することにより、教員の作業負荷の軽減とデータに基づく学生指導とを容易とし、指導の質の向上と教員が自身の研究や教材研究をする時間を確保することである。

補助金を使った事業を箱もので終わらせないために、タブレットで学生に何をさせたいのかを十分に考え、適切な教材と機会を用意することが特に肝要である。

以上学部として両学科共通の現状・改善計画を述べてきた。昨年度から始まった地域づくりのための PBL 授業など両学科共通の科目も多く、現状認識と将来の課題については両学科教員で基本的な認識は一致している。

学科ごとの具体的な計画については以下のとおりである。

① 総合経営学科

- ・飯田市も含めた三者連携協定にもとづく飯田長姫高校および、観光ホスピタリティ学科及び短大と合同で行っている穂高商業高校、この両校との高大連携事業に積極的に協力・参加し、地域貢献と合わせて学生募集につなぐ。
- ・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格として、従来のITパスポート、FPに加え宅地建物取引主任者、消費生活アドバイザー、通関士を追加選定した。これらの資格対策を、カリキュラムを通じた正課教育と課外での学生支援との両面で、専任教員が責任を持って指導を担当し手厚くサポートし、実績を出すべく進めていく。
- ・既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた「公務員講座」を有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。
- ・企業マネジメント、生活マネジメント・地域産業を三本の柱とする学科の教育目標を再検討し、

時代の変化と学生のニーズを考えて今後10年を見据えた教育内容を検討する。

- ・国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」に積極的に参加し、地域貢献と学生教育に活用する。

② 観光ホスピタリティ学科

- ・受験者数増加に向けた方策の一環として、引き続き高大連携事業を推進する。丸子修学館高校、市を含めて三者協定を結んだ飯田長姫高校に加え、穂高商業高校との高大連携活動を進め、学生の地域貢献と合わせて学生募集につながるよう積極的に活用する。
- ・資格取得を促進するため、学科として取り組むべき重点的資格を、社会福祉士、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者（いずれも国家資格）と設定し、専任教員が指導を担当する。カリキュラムを通じた正課教育と、課外の学生支援との両面から、これらの資格および他の国家資格取得に重点を置いた教育をスタートさせる。
- ・既存の授業科目である「公務員対策講座」と大学が設けた「公務員講座」を有機的に連結活用し、国家・地方いずれをも対象とした指導を実施する。
- ・英語教育に関する体制を充実させ、同時に大学全体の教養教育を構築するため、英語の専任教員（教授）を中心に体制を整備する。
- ・観光・福祉・地域活性化を三本の柱とする学科の教育目標を再検討し、時代の変化と学生のニーズを考えて今後10年を見据えた教育内容を検討する。

＜執筆担当／総合経営学部 学部長 室谷 心＞

3. 人間健康学部

(1) 事業計画<P>

創設7年目となる今年度は、新県立大学の設立及び、来年4月の大原専門学校の松本市開校等の動向を睨みつつ、それへの対策を含んだ新たな方向性とあり方を模索し諸事業に取り組むべき一年となる。とりわけ主要な点は、そうした外的環境への対応を全学的な中期目標・計画の中に位置づけ、その一環として取り組むことである。また、2011(平成23)年度より施行している新カリキュラムの完全実施を踏まえ、その問題点等を点検し遅滞なく運用することも主要な取組となる。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、2011(平成23)年4月に発足した健康科学研究科との連携についても同様である。

以上のような観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

- 1) アドミッション・ポリシーに関しては、十分とは言えないまでも、おおむね高校・受験生などに理解されつつあると判断している。ただし、2015(平成26)年度入試における健康栄養学科受験者数の大幅な減少については、その原因を、全国的な状況のみに帰することなく、一昨年度の管理栄養士国家試験合格率の低迷との関係も考慮に入れ、これに対する対策を強力で打ち出さねばならない。さらに、いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて学習により意欲的な学生の確保に努める。その際、この間取り組んできた入試改革とそれに

伴う受験者及び合格者の変化について分析し、その成果を反映すべく取り組む。また、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して、そうした傾向の定着化を図るべく取り組む。

- 2) カリキュラム・ポリシーに関しては、冒頭にも述べたとおり、新カリキュラムへの移行、実施こそが最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて、常時、点検していくことが必要である。また、昨年度課題として取り上げたいわゆる「教養教育」について、理念、内容及びカリキュラム等を総合経営学部と連携しつつ議論を深め、一定の方向性を見出すべく取り組む。
- 3) ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成されており、それは、過去四期の卒業生が、医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めていることにも反映していると判断される。したがって、今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組む。そのために、2011(平成23)年度以降、学生ニーズとの整合性を図るべく改変されたキャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。
- 4) 2012(平成24)年度、新たに設けられた教育企画推進事業に位置づけ、学部として展開した講演会及び報告集の発行など各種取組を、地域健康支援ステーションを中心に継続的かついっそう充実した形で展開する。
- 5) 高大連携事業については、スポーツ健康学科が主として実施してきた従来の岡谷東高校に加え、松商学園高校や飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。
- 6) 自治体及び企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。
- 7) 両学科共に定年退職が連続することを踏まえ、その後任人事について、今後の将来展望を十分に見据えつつ実施する。
- 8) 上述した諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などの明確化を進め、両者がいっそう緊密に連携・協力できるよう見直し、必要に応じて改善を図る。とりわけ、6号館事務室スタッフが、地域健康支援ステーション職員、COC事業職員、スポーツ健康学科専任助手などから構成されることを踏まえ、その職場環境の整備を進めると共に、事務分担の明確化と協力体制の構築に努める。

①健康栄養学科

- 1) 本学科に進学した学生のほとんどが専門学習を生かした就職を希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望している。入試状況を踏まえた分析によれば、2014年度に4年生となる学生たちには合格率の向上も期待されることから、学科全体として4年間を通した確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に関するより厳格な成績評価に取り組む。
- 2) 完成年度以降の転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を見直し、カリキュラム・ポリシーについて再確認する。

- 3) 年々、新入生の学力が向上してきていたが、2014年度は全国的な動向もあり、受験生が減少し、応募状況が良好とはいえなかった。このことを踏まえ、新入生の学力や学習意欲を見極め、必要な対応策を講じていく。一年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して学習への動機づけを強化し、教員の教授力の向上にも努める。
- 4) 管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、学科教員が一体となって取り組む。具体的には、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図ると共に、受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行う。
- 5) COC事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実強化し、地域貢献事業の推進を図る。また、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面から地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、他大学にはない本学・本学科の独自性を強化する。
- 6) 学生がそれら食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者等との連携を深め、学生の課内及び課外での学習を充実させる。

②スポーツ健康学科

- 1) 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- 2) 新カリキュラムで新たに設置した1年次の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両科目について、昨年度の実施状況を踏まえ、学生の学習と教員の対応の煩雑さを考慮しつつ、内容的にも方法的にも集団的に検討しさらに充実させていく。
- 3) 新カリキュラムの完全実施を踏まえ、その円滑な運用に遺漏のないよう定例の学科会議を中心に点検・確認していく。併せて、学科会議で、他学部・学科に比べて例年遅れがちな就職活動状況を解消すべく指導のあり方を検討し実施する。
- 4) A0入試の内容変更など昨年度より実施されている新入試制度について、これを遺漏なく実施すると共に、その効果や影響などを入試課と連携して的確に把握し分析に努める。
- 5) 日本体育協会資格・総合型クラブアシスタントマネージャー資格に関わる適応免除制度(養成講習会受講免除、試験は免除なし)が新年度入学生から適用されることに伴い、学生向け広報を的確に行う。また、2年生以上の学生には、同資格を長野県体育センターが開催する講習会で取得すべく指導し、一昨年度3人、昨年度13人であった合格者を、今年度は30人以上とするよう務める。特に、健康運動指導職を志す者には取得を強く奨励する。
- 6) 地域貢献事業について、学生の自主的活動の場や地域から求められている企画力・マネジメント力といった実践力の場を提供するため、2012(平成23)年度に協定を結んだ長野県体育センター及び長野県総合型クラブ連絡協議会と、また、健康栄養学科とも連携して取組を進める。
- 7) 総合型地域スポーツクラブに関する諸事業を担当してきた吉田先生の退職、転出に伴い、その新たな担当者の選任及び、事業を地域健康支援ステーションに移行すること等についても検討し、

新たなあり方を検討、確定していく。

(2) 「平成 26 年度事業計画」に対する実施状況< D・C >

創設 8 年目の今年度は、新県立大学の設立及び、2015(平成 27)年 4 月の大原専門学校の松本市開校等の動向を睨みつつ、それへの対策を含め新たな方向性とあり方を模索し諸事業に取り組んできた。具体的には、そうした外的環境への対応を全学的な中期目標・計画の中に位置づけ、学長の下に設置された「将来計画委員会」において新学部構想並びに各学部・学科の改組・改革論議に積極的に関与、参加してきた。また、2011(平成 23)年度より施行している新カリキュラムの完全実施を踏まえ、その問題点等を点検し運用することを主要な取組と位置付け、学部教務委員会を中心に遅滞なく遂行できたと判断している。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携、さらには、健康科学研究科との連携についても、「健康」領域・分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、相互理解と協力の実を上げるべく取り組んだ。

以上に加え、まず学部全体が、次に両学科それぞれがこの一年間に取り組んだ事業内容について報告する。

- 1) アドミッション・ポリシーについては、おおむね高校・受験生に理解されつつあると判断している。それを踏まえ、今年度もまた、両学科共に過去三年間の資格試験結果を参考に、学習により意欲的な学生の確保に努めた。とはいえ、健康栄養学科については、2014年度入試で定員割れとなり、その意味では、必ずしも十分な成果を挙げることができなかつたといわざるを得ないであろう。一方、スポーツ健康学科では、AO入試について一昨年度改訂した、模擬授業とその理解度を判断材料とする方策が一定の成果を挙げつつあると判断している。さらに両学科に共通して、長野県内はもちろん県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して取り組んだことによって、一定その成果が表れたと判断している。
- 2) カリキュラム・ポリシーについては、新カリキュラムへの遅滞のない移行、実施こそが最大の課題であった。この点については、すでに述べたように、学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて常時点検がなされ、両学科会議と連携して対応策が採られたこともあって、大きな問題は生じなかつた。
- 3) ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、来年(2015)度受審予定の認証評価を睨み全学的に推進されたこともあり、成績評価の厳格化は達成されていると判断する。とりわけ、管理栄養士の国家試験合格率がかつてない高率を達成できそうなことは、この間の入試改革と共に、学科を挙げてのカリキュラム改革と「国試対策ワーキンググループ」を中心とする学科全教員の取組の成果であると高く評価される。また、今(2014)年度の学部全体の就職率で98.2パーセントというかつてない高率を達成できたのは、昨(2013)年度、学生ニーズとの整合性を図るべく改変されたキャリア教育の実効性をいっそう高めるべく教員とキャリアセンター職員が一致して取り組んだことがあり、この点についてもまた高く評価できる。
- 4) 高大連携事業については、従来からの岡谷東高校以外新たな連携を進めることはできなかつた。なお、松商学園高校や飯山高校等とは、体力測定や課外活動レベルでの交流など、教員が個人的

レベルで協力・協同の取組を進めている例も複数みられた。

- 5) 自治体及び企業などとの連携事業については、この間、学部・学科として旺盛に進めてきている。とりわけ、健康栄養学科の矢内専任講師が携わってきた6次産業事業において、ヒット商品の「あるくま蕎麦」に続いて「わさびコロッケ」が商品化されるなど、産学連携事業の成果が顕著であった。
- 6) 向こう5年間の退職者を想定しつつ、その後任人事を学部及び両学科の今後の戦略的展開等の観点から検討し実施することについては、スポーツ健康学科の2名の教授が該当者であり、一件については適切な後任が得られいわゆる“若返り人事”を達成できたものの、もう一件については適切な人材が得られず「嘱託C」として雇用延長の措置を採って対応した。
- 7) 上述したような諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などが明確でない部分が依然存在するものの、両学科長を中心とする担当事務及び教員の意思疎通の努力によって、大きな問題もなく円滑に進めることができた。

①健康栄養学科

- 1) 本学科に進学した学生のほとんどが専門学修を生かした就職を希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望している。それを達成するために、学生たちには、4年間を通して確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に専心するよう勧めてきた。さらに、各授業においては、授業時間ごとの学修度を確認テストなどで把握できるようにしている科目も増えてきているほか、学科全体として、より厳格な成績評価の推進が図られた。
- 2) 2013(平成25)年度末に専任教員2名が退職並びに転出予定であったが、うち1名は嘱託専任教員としての採用が決定した。公衆栄養学分野の専任教員の転出後の採用人事は難航したが、後期より実務経験豊かな後任を准教授として迎えることができ、前任者と調整を図りつつ授業を進めることができた。その際、管理栄養士の専門科目の教授内容についても関連分野の教員と連携を図り、若干の見直しを行うことができた。なお、同年度末には助手1名も退職したが、その後任として、今年度新たに管理栄養士として実務経験豊かな人材を得ることができた。
- 3) 年々、新入生の学力が向上してきていたが、2013年度入試は、全国的な動向もあって受験生が減少、応募状況も良好とはいえず定員割れとなった。今年度は、このことを踏まえ、その要因について分析し、入試形態ごとに入試委員を中心として慎重な検討を行い、新入生の学力を一定レベルに保ちつつ入学定員を満たすための対応策を講じた。その成果として、2015年度入試では定員を満たすことができた。

さらに、一年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して学修への動機づけを強化するという、本学ならではの教育プログラムが定着してきている。また、今年度末に行われたシラバスの大幅な改善により、教員が個々に授業内容の自己評価に取り組むこととなり、それが教授力の向上につながっていると考える。

- 4) 国家試験対策のためのワーキンググループが行う国試対策支援は、毎年工夫を凝らしてブラッシュアップが図られ、学修支援と成績管理の充実が図られた。国家試験対策ワーキンググループの方針の下、学科教員が一体となって取り組むことができ、それらの成果として、今年度の卒業生については、過去最高の合格率が達成される見込みである。

なお、管理栄養士の国家試験合格を保証する学力と、学修成果を踏まえて卒業研究をまとめていくための探究心と学力、ならびに専門職としての応用力の習得との両立については、模索が続いている。しかし、すべての学生が卒業研究をまとめてあげていること、国家試験の合格率見込みが高いことを踏まえれば、一定の成果がみられたと判断している。

- 5) COC事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業は、地域健康支援ステーションの活動の充実強化とも相まって、事業推進が図られた。また、6月に長野市で開催された第9回食育推進全国大会では、COC関連事業として、スポーツ健康学科と連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面から地域貢献の実を挙げるべく、積極的に取り組むことができた。
- 6) 学生が食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう学内外の管理栄養士現職者等との連携を深めるという点については、(5)で述べたように第9回食育推進全国大会での取り組みにおいて推進を図ることができた。また、従来から継続している活動、すなわち、各講義科目での必要に応じた管理栄養士現職者等の招聘、臨地実習を通じた実習先の指導者との連携強化、学内の地域健康支援ステーションの活動の充実などは、担当教員によりいっそうの充実が図られた。合わせてCOC事業の一環として特別公開講演会を3回実施したが、うち2回は食のプロフェッショナルとしての資質を高めることにつながる内容であり、コーディネート能力の向上につながったと考える。

②スポーツ健康学科

- 1) 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、毎月1回開催される学科会議を中心に、学科教務委員並びに各ゼミ担当者などから適時学生の動向が報告され、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努めてきた。さらに、学生一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくために、問題点については、全学科教員が一致した対応をとるべく努めるなど、教育環境の整備・構築を進めてきた。
- 2) 新カリキュラム構築の中で新たに設置した初年次教育の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両ゼミナールについては、本学科教員の共通理解を重視し、昨年度の実施状況を踏まえ、内容的にも方法的にも協力して検討し、さらに充実させることができた。昨年度の内容に加え、1年次に自己分析検査(PROG検査)を全員実施した。現在、学士号取得後に問われている社会人基礎力の養成という視点からも、検査結果を本人にフィードバックして課題を明確に示すことができた。また、2年次は、3年次よりスタートする専門ゼミを見据えて、専門分野毎に教員の指導の下、導入部ではあるが研究の実践について学ぶ機会を昨年度より増やした。
- 3) 2011(平成23)年度から新カリキュラムが実施に移されたことを踏まえ、同時に進行する旧カリキュラムの履修対象となる学生について僅少の単位未取得者を出さないよう努めたが、2名が旧カリキュラム対象者として残った。

就職活動については、ゼミ単位での就職活動状況調査を実施するなどして、学生の就職活動支援を強化したこともあり、昨年度に比べて就職内定時期も早く、内定率も良好な結果となった。

- 4) 昨年度から実施されている新入試制度について、先行する健康栄養学科に習って模擬授業の受

講とそれに関わるテストを実施するなどしたことによって、導入に際して期待した狙いを一定達成できたと判断している。これらの改革、実施については、入試委員を通して、入試課など関連部署と適宜連絡を取りつつ実施した。

- 5) 日本体育協会資格・総合型クラブアシスタントマネージャー資格に関わる適応免除制度(養成講習会受講免除、試験は免除なし)が現2年生から適用されたことに伴い、学生向け広報として、履修の手引き及び時間割表に取得可能資格として明記は行ったが、今年度取得者は0名であった。
- 6) 本学科教員が中心となり、長野県総合型クラブ連絡協議会共催、長野県体育センター後援の下、長野県内の総合型地域スポーツクラブと大学との連携に関するセミナーを本学にて開催した。
- 7) 総合型地域スポーツクラブに関する諸事業を担当してきた吉田先生の退職、転出に伴い、その新たな担当者の選任及び、事業を地域健康支援ステーションに移行すること等についても検討してきたが具体的な方策は見いだせなかった。

(3) 「平成 27 年度事業計画< A >

創設 9 年目となる来年度は、新県立大学の設立及び本年 4 月の大原専門学校の松本市開校等の動向を睨みつつ、それへの対策を含んだ新たな方向性とあり方を、昨年度の将来検討委員会における検討を経た全学的な改革の一環として位置付け、改革方策の具体化に積極果敢に取り組むべき一年となる。

また、人間健康学部を構成する健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点から、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、2011(平成 23)年 4 月に発足した健康科学研究科との連携についても同様である。

以上のような観点から、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

- 1) アドミッション・ポリシーに関しては、十分とは言えないまでもおおむね高校・受験生などに理解されつつあると判断しており、今年度についても、いわゆる「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、学習により意欲的な学生の確保に努める。その際、この間取り組んできた入試改革とそれに伴う受験者及び合格者の変化について分析し、その成果を反映すべく取り組む。また、長野県内は当然のことながら、県外からの受験生・学生確保を重視し、入試広報室等関係部署と連携して学習により意欲的な学生の確保、定着化を図り、併せて、昨年実施した松商学園高校との入試連携事業については、今年度もさらに充実させる方向で取り組む。
- 2) カリキュラム・ポリシーに関しては、新カリキュラムへの移行、実施こそが最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に移行状況や問題点などについて、常時、点検していくことが必要である。また、今年度もまた、昨年度課題として取り上げたいいわゆる「教養教育」について、理念、内容及びカリキュラム等を総合経営学部と連携しつつ議論を深め、一定の方向性を見出すべく取り組む。
- 3) ディプロマ・ポリシーの謳う教育目標の達成度に関しては、成績評価の厳格化はおおむね達成さ

れており、それは、卒業生が、医療施設や給食関連企業、スポーツ関連企業等に就職を決めていることにも反映していると判断される。したがって、今年度もこうした動向を推進すべく積極的に取り組む。そのために、2011(平成23)年度以降、学生ニーズとの整合性を図るべく改変されたキャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。

- 4) 学部・学科として、あるいは個別研究室単位で行う講演会及び各種教室の実施など各種取組を、COC事業、あるいは教育企画推進事業に位置づけ、地域健康支援ステーションも含めていっそう充実した形で展開する。また、COC事業に関連して、今年度より導入段階として1年次科目に「地域課題研究B『健康』」が開設されることに伴い、学部として同科目の円滑な運営、実施に協力していく。
- 5) 高大連携事業については、スポーツ健康学科が主として実施してきた従来の岡谷東高校に加え、松商学園高校や飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。また、可能な範囲で、健康栄養学科も加えて事業に取り組む。
- 6) 自治体及び企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。
- 7) 両学科共に定年退職が連続することを踏まえ、その後任人事について、今後の将来展望を十分に見据えつつ実施する。
- 8) 昨年度、国際交流センターを中心に前進した国際交流事業について、スポーツ健康学科と中国・嶺南大学体育学部との連携協力に向けての交流促進をはじめ、健康栄養学科も含め可能な形で協力していく。
- 9) 上述した諸事業の運営・実施にあたって、事務組織と教員組織との間の役割分担や指示系統などの明確化を進め、両者がいっそう緊密に連携・協力できるよう見直し、必要に応じて改善を図る。とりわけ、6号館事務室スタッフが、地域健康支援ステーション職員、COC事業職員、スポーツ健康学科専任助手などから構成されることを踏まえ、その職場環境の整備を進めると共に、事務分担の明確化と協力体制の構築に努める。

①健康栄養学科

- 1) 本学科に進学した学生のほとんどが専門学習を生かした就職を希望し、とりわけ管理栄養士資格取得を目指して国家試験合格を強く志望している。現状の課題として、成績が優良である学生とそうでない学生との幅が拡大しているという点が挙げられ、これが国家試験の合格率にも影響している。成績が伸びてこない学生の専門基礎科目や専門科目の教育をいかに進めるかを検討していくと共に、新設する1年次の「大学入門」も活用し、学科全体として4年間を通した確かな基礎学力の養成と専門知識の修得に努める。また、より厳格な成績評価にも取り組む。
- 2) 今後連続する教員の定年等の転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を見直し、設定したカリキュラム・ポリシーにそった教育の充実を図る。
- 3) 年々、新入生の学力は向上してきていたが、2014年度は全国的な動向もあり、受験生が減少し、

応募状況が良好とはいえなかった。2015年も楽観視できる状況ではなかったことを踏まえ、新入生の学力や学習意欲を見極め、必要な対応策を講じていく。一年次より、早期体験学習を含めた現場の管理栄養士業務を意識させるキャリア教育を通して学習への動機づけを強化し、教員の教授力の向上にも努める。

- 4) 管理栄養士国家試験等の合格率アップと資格取得を奨励するため、学科教員が一体となって取り組む。具体的には、集中講義や模擬試験によって実力の充実を図ると共に、受験に必要な学習環境や書籍などの整備を図り、さらに国家試験対策ワーキンググループによる学習支援と成績管理を行う。特に、2017(平成29)年度に実施される予定である管理栄養士国家試験の早期実施に向けた対策について検討を進める。
- 5) COC事業の採択を受けて、これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実強化し、地域貢献事業の推進を図る。また、スポーツ健康学科との連携を図りつつ、健康づくり・地域づくりに食の面からの地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、他大学にはない本学・本学科の独自性を強化する。また、その成果についての広報を充実させる。
- 6) 学生がそれら食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者等との連携を深め、学生の教育課程課内及び課外での学習を充実させる。

②スポーツ健康学科

- 1) 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年100名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学4年間及び将来に向けた目標を定めつつ自ら学ぶ姿勢を育てていくための教育・研究環境の構築を促進する。
- 2) 1年次の「大学入門」、2年次の「スポーツ科学入門」の両科目について、学年毎の目標を明確にしつつ、基礎科目として学生の運動・スポーツへの関心を、地域課題である健康への志向性に向け、内容的にも方法的にも検討しさらに充実させていく。
- 3) 新カリキュラムの完全実施を踏まえ、その円滑な運用に遺漏のないよう定例の学科会議を中心に点検・確認していく。
- 4) A0入試の内容変更など見直しが進む入試制度について、これを遺漏なく実施し、その効果や影響などを入試課と連携して的確に把握し分析に努める。
- 5) 新たに日本サッカー協会C級コーチ・キッズリーダー資格取得講習を開設する。この他、昨年より導入している日本体育協会資格・総合型クラブアシスタントマネージャー資格に関わる適応免除制度(養成講習会受講免除、試験は免除なし)等、資格関連講座について、学生向け広報を的確に行う。
- 6) 地域貢献事業について、学生の自主的活動の場や地域から求められている企画力・マネジメント力といった実践力が期待されている。その導入段階として1年次科目に「地域課題研究B『健康』」を開設した。1年を通じアウトキャンパス・スタディの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋に向けていく。
- 7) 新任教員2名を迎えスタートする新年度は、学生への教育並びに新構成となった学務のスムーズ

な移行に成果を上げるべく、教員間の一層の協力・連携を図る。

＜執筆担当／人間健康学部 学部長 等々力 賢治＞

4. 松商短期大学部

(1) 事業計画書＜P＞

1) 短期大学部の現状

2010(平成 22)年度 230 名から 2013 年度 269 名へと年々回復基調にあった本学の志願者数は、2014(平成 26)年度生が 240 名(今年 2 月時点)と 3 年振りの低水準となった。本学全体の定員ならびに商学科および経営情報学科の学科毎の定員は充足する見込みではあるものの、学生募集において予想以上の苦戦を強いられた感は否めない。文部科学省基本調査に基づき、長野県高校卒業者の進路別人数を見ると、2013 年 3 月と 2014 年 3 月の数値で高校卒業者は 980 人の減少、四年制大学進学者が 208 人の減少、短期大学進学者が 154 人の減少、専門学校進学者が 328 人の減少となり、その一方で就職者は 204 人の増加となっており、進学よりも就職という傾向が見られる。また、本学志願者数の大幅な減少となった高校によれば、高校からの就職者数の増加が短大志願者数の減少に繋がったということである。なお、専門学校についても同様に、その数を減らしており、専門学校によって本学の志願者が奪われるという事態には至っていないと思われる。

2) 短期大学部の課題

高校卒業者の就職環境が好転した結果、本学の志願者数が減少したという状況は、景気回復により企業の雇用環境が好転した一方で、高校卒業者を抱える家庭の経済状態は依然として厳しい状況にあり、経済的な面から進学よりも就職という意志が強く働いた結果であると思われる。この点では専門学校も同様に学生募集では苦戦しているようであるが、長野県の高校生の進学状況を見る限り、依然として短大進学よりも専門学校進学を志向する生徒が多く、さらにここ数年は、高校生とりわけ女子高校生の四年制大学進学志向が強まる傾向にあり、本学を取り巻く状況は、非常に厳しいと言わねばならない。高卒での就職状況にかかわらず、短大の志願者数を今以上に増加させていくためには、専門学校志願層を如何にして本学に取り込んでいけるかということが、依然として大きな課題となる。特に、2014(平成 26)年度には、翌年度に松本駅前に開校する大手専門学校の学生募集活動がいよいよ本格化する。この厳しい状況の中で、専門学校にはない本学の教育の独自性、四年制大学にはない魅力ある教育システム、すなわち本学のカリキュラム・ポリシーを、これまで以上に高校生やその保護者、高校教員に強くアピールし、専門学校に対する本学の優位性を強調していかねばならない。

3) 短期大学部の 2014(平成 26)年度の計画

前年度に引き続き以下の 4 つの施策を実施する。

① 入学者選抜段階における施策

「特待生入学制度」および「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続、同時に、本学進学への経済的優位性を高校生にアピールする。

② 修学意欲向上のための施策

「資格奨励金制度」および「学業成績優秀賞授与制度」を維持し、本学学生の学業に対するモチ

バージョンの維持向上につとめ、同時に、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発および作成を継続し、本学学生に合わせたわかりやすい授業の展開と学生の学習意欲向上を図る。また、昨年度から始めた、入学直後のプレイスメント・テストを継続実施し、入学生の基礎学力のデータを収集、状況把握を行い、本学の教育活動・学生募集活動に活用する。

③進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の強化拡大、四年制大学への編入対策の強化を図る。また、昨年度単位化した「就職試験における集団討論」の対策講座を継続し、同時に、県内製造業生産拠点の海外移転傾向を加味して、業務ツールとしての英語力育成に取組み、企業ニーズに対応した人材育成を行う。さらに就職内定者に対しては早期離職防止対策を強化し、また「キャリア教育としての税務知識教育」に取組む。

④地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業に取り組む。9年目を向かえる穂高商業高校との連携を、高校生に対するキャリア教育の一環として県内の他の商業高校にも拡大する。また、松商学園高校商業科との連携事業を今年度も継続し、高校・短大5カ年教育を視野に入れた高短大接続教育プログラムの研究開発をさらに進めていく。

4) 商学科および経営情報学科の新しい取組み

本学のディプロマ・ポリシーにそって、2014(平成26)年度から、①企業活動の国際化に対応したグローバル人材育成教育、②昨年度導入したiPadの更なる活用と携帯型パソコンの導入に取り組む。

① グローバル人材育成教育の推進

本学の学生を採用する企業においても英語等の語学力を重視する企業が今後ますます多くなると思われることから、本学における英語教育を必修化する。また、昨年度トライアルとして試行、検討を重ねてきた「国際コミュニケーション・フィールド」を立ち上げ、多文化共生社会に対応した異文化コミュニケーション能力を有するグローバル人材の育成に取り組む。具体的には、ネイティブの先生との双方向型授業(Interactive English)、留学生などの外国人が参加するプログラム(Active Learning)、そしてiPadおよび携帯型PCを活用したe-Learningなどを有機的に結びつけた授業を展開する。また、海外の大学との交換留学制度の創設に向けた研究に着手する。

② iPadの活用と携帯型PCの導入

現代社会は情報通信技術(ICT)が急速に発達し、インターネット等を通じて世界の人々は相互の結びつきを強めてきている。このようなICTを介したグローバル化の中、本学では、入学生一人ひとりにiPadを貸与し、また2年生一人ひとりには携帯型PCを貸与し、本格的なICT教育に取り組む。このICTを活用した教育では、授業前学習で講義DVDの視聴や問題演習、授業でのグループ学習やディスカッション等のアクティブ・ラーニング、そして授業後学習では従来の「メモ力育成」の取り組みなどの双方向型授業を展開することで、学生の様々な能力、特に社会人・職業人として必要不可欠な実践的で応用可能な能力(コンピテンス)を高める教育を展開する。

(2) 「平成26年度事業計画」に対する実施状況<D>

1) 入学者選抜段階における施策

前年度に引き続き入学生に対して「特待生入学制度」と「入学金割引制度」に基づく経済的支援を行った。今年度の特待生は、授業料全額免除の一種、同半額免除の二種のうち、推薦入試段階で、経済支援特待一種1名、同二種2名、学業学力特待二種2名、一般入試・センター利用入試段階では、学力特待二種3名、入学金免除（特待三種）1名であった。また、入学金割引については推薦入試段階で、専門資格取得割引の対象者が10名（漢検4、簿記6）、兄弟姉妹割引が4名、一般入試・センター利用入試段階で資格割引が3名（漢検2、英検1）、兄弟姉妹割引が3名であった。資格割引については入学時点での申請が12名（漢検10、英検1、ITパスポート1）あり、この制度導入時から想定していたとおり入学決定後から入学までの学習目標としての機能が果たされていると考えられる。

2) 修学意欲向上のための施策

制度発足以来大きな効果が現れてきている「資格奨励金制度」と「学業成績優秀賞授与制度」について、今年度も継続実施した。今年度資格奨励金は総額で2,581,800円（昨年度2,222,870円、一昨年度1,713,260円）、延べ受給者は498名（昨年度549名、一昨年度393名）となり、総額で約36万円の増加、延べ人数で51名の減少となった。また、学業成績優秀者表彰は、前期（1・2年生）・後期（1年生）2回行い、各学年成績上位10名を表彰した。各回各学年で素点平均点95点以上と非常に高いレベルでの受賞であった。両制度とも本学学生の学業に対するモチベーションの維持向上に大きな効果が認められた。

本学入学生の修学意欲向上のためのツールの一つである初年次教育オリジナルテキスト「基礎ゼミナールワークブック」は今年度より、入学生一人ひとりに貸与されているiPadにおいて閲覧し、活用することとなった。また、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発を継続し、今年度は廣瀬豊准教授「ユニバーサル・デザイン入門」の作成、また藤波大三郎教授「銀行論入門」の増刷を行った。オリジナルテキストはこれで全9冊となったが、来年度も継続し、専任教員全員（16名）によるシリーズ化を目指す。

3) 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の開催状況は、例年通りの合同説明会が3回（各回参加企業約50社）、長野県中小企業団体中央会主催の合同説明会（参加23社）が行われ、単独企業説明会は54回の開催となった。本学学生延べ参加人数は552名（昨年比86名増）であり、多くの学生が内定を得るに至った。

四年制大学への編入は、松本大学総合経営学部総合経営学科3名、富山大学経済学部1名であった。また、昨年度に締結した韓国の国立済州大学との交換留学協定に基づき、1名が一年間の留学を経て同大学3年次へ編入し、また昨年9月より今年度8月まで同大学3年生男子1名が本学のカリキュラムにそった科目履修に取り組みつつ、本学学生との交流を行った。

業務ツールとしての英語力を主とした異文化コミュニケーション能力の育成については今年度、「松商ブランド基礎フィールド」の中に前期必修科目として「English I」、後期選択科目として「English II」「中国語 I」「ハングル I」を設置した。「English I」は入学直後に実施した英語のプレイスメントテストの得点に基づくクラス分けを行った。「English II」は57名、「中国

語Ⅰ」は8名、「ハングルⅠ」は10名が履修した。また、昨年度のトライアルを経て「国際コミュニケーション・フィールド」を新たに開設、前期は「短期語学研修」2名、「観光旅行英語」21名、「Interactive EnglishⅠ」6名、後期は「Interactive EnglishⅡ」17名、「時事英語」18名が履修した。さらに、国際交流プログラムのトライアルとして、2月2日に中国の嶺南師範学院から教員4名と学生8名を迎え、学生8名と教員1名は2月13日までの滞在の間に日本文化体験、本学の「簿記」「マーケティング」「日本の社会福祉」「日本の食文化」「経済学」「日本社会」といった授業体験、本学学生との交流を行った。

平成23年度開設以来着実に実績を挙げている「金融スペシャリスト・プログラム」については今年度、短大部としては初めてファイナンシャルプランニング(FP)技能検定2級に1名(2年生)の合格があり、同3級については13名(1年生6名、2年生7名)が総合合格、1年生8名が学科あるいは実技のみの部分合格を果たした。今年度は、アベノミクスによる日本経済の回復、雇用の拡大に伴い、学生の就職環境は昨年度に増して好転し、その結果、本学学生の内定率もここ数年では最高となった。この状況の中で、今年度特に、金融機関への就職が大きく伸びたが、このプログラムの効果に拠るところが大きいと言える。銀行への内定を決めた2年生1名がFP2級、5名が証券外務員Ⅱ種試験に合格を果たしたことも、内定後のモチベーションが維持されているという点で高く評価できる。

4) 地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業も穂高商業高校とは9年目を向かえ、例年通りグレードアップ型連携、チャレンジ型連携を実施した。また、松商学園高校商業科、飯田OIDE長姫高校、辰野高校ともチャレンジ講座を開催し、総勢200名を超える高校生に対応した。また、昨年度始まった長野県商業教育研究会主催の「マーケティング塾」において「消費者心理～いかにお客様の心をつかむか～」 「原価計算と価格決定」の二講義を実施した。さらに、穂高商業高校の文化祭の支援として同校において金子准教授が「カラーマーケティング」の講義を実施し、また金子ゼミナールは昨年と同様に「バレンタインスイーツ対決」において県下商業高校の生徒とともに、商品開発・販売実践に参加した。

5) 新たな施策

国際交流委員会の主導のもとに、韓国の東新大学、国立済州大学に加えて新たに中国の嶺南師範学院と交流協定を結び、今後、学生間、教員間の交流促進を図る。

ICTを活用した新たな教育手法の開発においては、一昨年度から3年連続で文部科学省「活性化設備整備事業」に採択され、初年度のiPadに加えて、本学学生用モバイルPC、来学者用モバイルPCを整備することができた。今年度は、1年生にiPad、2年生にモバイルPCを全員貸与し、昨年度の反省に基づき、飛躍的にその活用が促進されてきている。また、3月に実施した高大連携事業においても一部科目で高校生がモバイルPC100台を試験的に利用した。

(3) 「平成26年度事業計画」の実施状況を受けての点検・評価<C>

入学者選抜段階における施策については、学生募集の観点からも重要な取組であり、「特待生入学制度」は優秀な学生の入学を促すべく重要であり、「入学金割引制度」は本学独特の取組として

他の短大との差別化の観点からも意義がある。特に、推薦入試等による早期の入学決定次期から4月入学までの期間の勉学に対するモチベーション維持向上のためにはとても有意義な制度であると言える。

修学意欲向上のための施策については、本学在学生の勉学意欲を高めるために効果のある取組ではあるが、本年度は、短期大学部では約36万円の増加、学部でも約150万円の大幅な増加となり、奨励金総額が400万円を超える事態となった。次年度の向けてこの制度の存続を前提としながらも、各資格の奨励金の減額・廃止等の見直しを行う。

進路支援に対する施策については、就職環境の好転を受けて、好調な状況となっている。企業説明会等の機会を更に増やすことによって、より質の高い就職実績につなげられるようにしたい。同時に、就職活動スケジュールの大幅な変更が、どのような影響をもたらすのかを見極めることも重要となる。

地域貢献のための施策については、これまでの高大連携事業を継続しつつ、更なる参加高校の増加を図る。内容面では、昨年度導入したモバイルPCの高校生に対する有効な活用方法の研究・開発・実践に取り組む。

新たな施策のうち国際交流については、今年度「国際コミュニケーション・フィールド」が新設され、多くの学生が関心を持ち科目を履修した。しかしながら、学生たちの多くは、自身の経済的な問題から、海外における短期の語学研修プログラムや長期留学への参加が困難な状況にある。また、本学の海外交流協定校が少ないことから、学内の留学生比率が極めて低く、学内における外国人との交流もほとんどないという状況もある。そこで、交流協定校を増やすべく今年度新たに中国の嶺南師範学院と協定を結び、2月にトライアルのプログラムを実践し、参加した中国の学生からも本学の学生からも好評価を得ることができた。さらに来年度、欧米の英語圏の協定校獲得に向けてすでに準備を始めている。

最新ICTの活用による教育については、これまで導入したiPadとモバイルPCについて、これまでの活用方法の反省を踏まえて、更なる展開に取り組む。来年度からは、1年生にモバイルPCを2年間、2年生は昨年から引き続きiPadを携帯させ、その活用方法の深化を図る。

(4) 「平成26年度事業計画」の実施状況を受けての点検・評価<A>

1) 短期大学部の現状

2010(平成22)年度から2013年度へと年々回復基調にあった本学の志願者数は、2014(平成26)年度が241名と3年振りの低水準となり、2015(平成27)年度生に至っては、この6年間で最低の202名(2月末現在)となっている。長野県内高校生の進路選択において、四年制大学志向、専門学校志向、就職志向が高まる一方で、短期大学だけが志望を減らしているという状況が本学にも当てはまっていると言える。

2) 短期大学部の課題

昨年と同様に、高校卒業者の好調な就職状況が本学の志願者数減少をもたらすという状況は、景気回復により企業の雇用環境が好転した一方で、高校卒業者を抱える家庭の経済状態は依然として厳しい状況にあり、経済的な面から進学よりも就職という意志が強く働いた結果であると言

える。またこの点では専門学校も同様に学生募集では苦戦しているようであるが、長野県の高校生の進学状況を見る限り、依然として短大進学よりも専門学校進学を志向する生徒が多く、専門学校進学に対する本学進学の優位性、特に就職面での優位性の周知がまだまだ不足していると言わざるを得ない。さらにここ数年は、都市部の四年制大学の積極的な学生募集戦略によって、県内高校生の都市部四年制大学進学に拍車がかかる傾向にある。また、高校によってはこれまでは本学を志願していた層が、松本大学志願へと移行している傾向も見られる。

このように、本学を取り巻く状況は、ここ数年では最も厳しいと言わざるを得ない。この厳しい状況の中で、中長期的には、短期大学の将来ならびに松本大学の将来像を見通した上で、本学の学生募集定員の削減、4学期制への移行を視野に入れたカリキュラム改革が課題となるが、2015年度においては、本学のカリキュラム・ポリシーを、これまで以上に高校生やその保護者、高校教員に強くアピールし、高卒での就職に対する本学進学の優位性、専門学校にはない本学の教育の独自性と就職の優位性、四年制大学にはない魅力ある教育システムを強調していかねばならない。

＜執筆担当／松本大学松商短期大学部 学部長 山添 昌彦＞

第2部 委員会別点検・評価

I. 学生センター部門

A: 教育推進充実部門

1. 教務委員会

(1) 全学教務委員会

平成26年度の全学教務委員会は、各学科からそれぞれ選出された代表者6名と、課長以下5名の教務課職員によって構成され、定期的におよそ月1回、長期休業中を除く計10回の委員会を開催した。

平成26年度の全学教務委員会の活動を総括すれば、これまでの変革を継続しつつ、平成27年度に前倒して実施することとなった大学認証評価を踏まえ、その準備を兼ねた「教学制度の見直しと改善」、「松本大学スタンダードに基づくカリキュラム編成」といった視点から確かな学士力の養成に繋がる充実した教学展開を目指して活動した。

1) 計画<P>

ここ数年、教務運営は各学部・学科が主導してきたそれまでの形から、全学的な展開へと大きく変貌してきており、それに伴って全学教務委員会の責任や役割もこれまでとは違ったものとなっている。また、県内および近県を含めた周辺の大学環境の変化により、本学が置かれている状況や、大学認証評価受審を控えていることなどを踏まえた上で、全学的な立場から教学制度、カリキュラム編成、学習環境整備などについての検討が求められている。

こうした課題に対して、学部学科の「独自性」と全学的な「共通性」といった両側面からの視点を持ち、学生にとってよりよい教学展開ができるようにしなければならない。また、認証評価を新たな教学展開の挑戦の機会ととらえ、これまでの教務運営を踏襲しながらも、新たな体制を構築していく必要がある。

①松本大学スタンダードに基づくカリキュラム編成

これまでも各学部学科では、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーのいわゆる3ポリシーを意識してカリキュラムを編成・展開してきた。しかし、2013年度にカリキュラムの見直しを進めていく過程で、全学的な3ポリシーを踏まえたカリキュラム編成が、特に共通教養科目を中心に必要であることが明らかになった。これらのことを踏まえ2014年度は、大学の理念に基づく松本大学スタンダードとなる標準的学力を明確にし、学生の学力向上を図るためのカリキュラム編成を一層重視していきたい。

②教学制度の見直しと改善

学部間で共通化を図るべき内容と、学部の独自性を保持すべき内容をより明確にした上で、2013年度に確定できなかった◇追再試を含む試験制度◇出席規定◇評価の表示方法などに加え、◇履修上限規定◇進級条件の策定◇出席管理の厳正化など外部評価への対応も視野に入れつつ、教学制度のより一層の整備を行う。

③学習環境の整備

タブレットPCを用いたWEB会議システムの授業での積極的導入、学生用メソフィアの表示項目の整備などハード面の環境整備とともに、カリキュラムについての一層の見直しや整理、基礎教

育センター、教職センター、キャリアセンター、地域づくり考房『ゆめ』などの学内機構との連携などのソフト面での環境整備に力を入れていくことが重要である。

2) 実績・現状<D>

①松本大学スタンダードに基づくカリキュラム編成

a) AP (アドミッションポリシー)、CA (カリキュラムポリシー)、DP (ディプロマポリシー) の見直しに伴うカリキュラム編成の変更について

AP, CA, DP の見直しにより、カリキュラムの一部見直しを行うこととした。特に、教養科目の共通化、学生の学力把握および確認・伸張、などについて、全学的な対応、学部ごとの対応などの視点を保ちつつ、問題点の洗い出しを行った。

b) 科目ナンバリングのコード配分について(経過措置)

これまでは主として学術的な性格に基づき科目区分や表記をしてきたが、平成 27 年度から体系的な学修を推進するためにナンバリングコード表記をすることとした。ナンバリングは①学部・学科、②専門分野、③レベル(学年)、④カリキュラム表の科目区分、⑤通し番号の 5 項目とし、ナンバリングコードを付与することで科目の特性をよりわかりやすくした。

c) シラバスの様式について(経過措置)

科目の特性を明確にして体系的な学修を展開し、さらに WEB 上での操作をより容易にするために、平成 27 年度よりシラバスの様式を改訂することとした。主な改善点は・開講年度のシラバスを作成する(履修対象学年、旧科目名を表示)・ナンバリングを表示・オフィスアワー、研究室を表示・科目種別、DP・CP との関連性を表示・事前事後学修を入力などである。

d) 学生の学力の確認ならび可視化(経過措置)

現在実施している外部テストの状況を確認した上で、平成 27 年度から 1、2 年生に実施していた一般教養テストは廃止し、新入生プレイスメントテストに国語と数学を追加することとした。なお、既に新入生プレイスメントテストを実施していた英語については、テスト内容を TOEICBridge に変更することとした。

e) グローバル化を踏まえた単位認定について(経過措置)

海外の提携大学の増加に伴い新たに短期大学部で開講している「海外事情」について、学部学生も履修できるようにした。文部科学省の指導を踏まえ平成 27 年度は学部のカリキュラム変更はせず、今後 2 年間は大学と短大で単位互換協定を新たに結び、「海外事情」について、学部生の卒業単位として認定することとした。なお、国際交流に関連する科目については、その間の推移を見ながら、2 年後に共通教養科目に入れ込む方向で検討することとした。

②教学制度の見直しと改善

a) 進級制度について

これまで制度化していなかった進級制度を新たに制定し、併せて進級に関する規程整備を行い 2015 年度入学生から適用することとした。規定は 2 年次から 3 年次への進級が対象で、3 年次への進級要件は、総合経営学部：40 単位、人間健康学部：45 単位とし、両学部の特性や状況を鑑み単位数は統一しないこととした。なお、本制度の対象となる科目の単位数は、卒業要件に算入される科目の総修得単位数にすることとした。

b) 成績評価の表記について

学部ごと異なった運用をしていた成績評価の表記について、学則の評価表示が S、A、B、C、D のみとなっていることから、Q、R、J は「D 評価」の分類とし、これまで通り、Q、R、J は「D 評価」の詳細として表記することに統一した。

c) 講義欠席回数による単位認定基準について(経過措置)

これまで基準が明確ではなかった講義欠席回数による単位認定に関して、1 年間の準備期間を設けた後、平成 27 年度より全学部において「R (欠席超過)」の評価基準を統一ルールで運用することとした。欠席超過の評価基準は、『3 分の 2 以上の出席がない科目は単位認定しない』とすることとし、「R (欠席超過)」は、D 評価の理由として記載することとした。

e) 他学部他学科履修の上限単位数の規定について(経過措置)

学部ごと上限単位数が異なっていた他学部他学科履修について、1 年間の準備期間を設けた後、平成 27 年度より全学部において年間 6 単位 (4 年間 計 24 単位) とすることとした。なお、短大の科目等は卒業単位には含まれないが、履修上限単位には含めることとし、資格関連科目については履修上限単位には含めないこととした。

f) オフィスアワー制度について(経過措置)

これまでは各教員の裁量で実施していたオフィスアワーを平成 27 年度より完全制度化し、全専任教員が 1 週間に 1.5 時間のオフィスアワーを設定することとした。また、非常勤教員についても講義前後の時間をオフィスアワーに充てることとした。なお、併せてオフィスアワー時間を利用した指導記録や学生への周知などについても方策を立てることとした。

g) 集中講義における履修登録抹消制度について

2014 年度入学生より集中講義も履修上限単位数に含まれることから、集中講義日程の確定後 2 週間は履修未梢の申請期間とすることとした。

h) SA(スチューデント・アシスタント)制度の整備について

これまで SA 制度はアルバイト学生と同様の扱いになっていたため、学修支援の充実の観点から、SA 制度および内規について改正した。

i) 転学部・転学科試験の改正について

内規に一部形式的不備があった。また、試験要項についても実情に合致していない部分があり併せて改正した。

j) 再試験制度について

進級制度の導入に伴い各学部・学科により異なっていた再試験制度について検討し、それぞれの学部・学科の実情に応じた対応をとることとした。

③学習環境の整備

a) 受講者数の上限について

教育効果向上のため、教室における講義の受講者数について、講義科目は 240～250 名、演習・実技科目については 40～50 名を上限として定めた。なお、科目の特性や指導方法によって柔軟に対応することとした。

b) 学内機構との連携について

学内機構と連携しながら、効果的な学生の学修支援ができるようにした。特に基礎教育センターによるリメディアル教育や、資格取得センターによる外部委託による講座開設、キャリアセンターの講演会や会社説明会などは各学部・学科の実情に応じて支援・協力を行った。

c) 学生ポータルサイト活用について

学生ポータルサイトはこれまでも成績および単位取得状況の閲覧に利用されてきたが、GPAの推移が表示されるようになったことで、学修状況を学生自身が理解しやすくなっただけでなく、教員の指導にも活用されるようになった。

④学修指導、その他

a) 学生の学修状況分析について

前年度の退学者数及び退学率について、その状況及び分析を実施した。大学・短大を合算すると、2014年度は人間健康学部開設以降、最も低い水準であった。

b) 個別面接について(一部経過措置)

全学的に休退学の予防および留年者の対応策として、一定の修得単位数およびGPAを下回った学生について、二段階の基準を設け、本人に対して個別指導を行うとともに保護者への連絡・面談を行うこととした。また、後期成績発表後、各学年における成績基準を下回る学生の家庭を対象とした保護者相談期間を新たに設けて、早期の休学・退学予防および卒業に向けたフォローを行うこととした。なお、学生への指導履歴および内容を記録するための、「学生指導実施記録」記入を平成27年度より行い、教務課へ提出することとした。

3) 点検・評価の結果<C>

本学が置かれている状況、大学認証評価を控えているため、教学制度、カリキュラム編成、学習環境整備などについて、教務事案について点検・改善に取り組んできた。

①カリキュラム編成について

3ポリシーを踏まえカリキュラム編成を見直すことができた部分もあるが、これまでの学修の継続性や教員負担などの人的問題、学部間の実情の違いから、必ずしも十分なカリキュラム改編ができたとは言えない面も少なくない。

②教学制度改正について

制度面では全面的に見直しを行った。その結果、これまで課題となっていた点や、見落とししていた点などが明らかとなり、多くの内容について制度の新設や改正に結びつけることができたと判断している。

③学習環境

計画していたハード面の改善はある程度進める事ができたと考えているが、カリキュラム改訂を含め、ソフト面は改善の余地がまだ多いと考えている。

④学修指導

これまでの学修指導を制度化することを中心にした。退学率、休学率など減少傾向にあるが、全国と比較してみるとまだ若干平均値を上回っている状況である。また、GPAなど学修状況や単位取得の内容まで踏み込んだ指導の必要性を感じている。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①経過措置内容の確実な実施

今年度、多くの内容について見直しを行った結果、教学制度を中心に経過措置としたものが数多くある。計画や規定整備したものを現実に実施に移すのは平成27年度からとなるため、来

年度は数多くの新設した内容や改正した点を学生、教員を問わず全学的に周知し、実行していくことが大きな課題となるが、確実に実施できるようにしたい。

②全学的な共通理解を図る

教務活動全体を見通し、これまで通り学部・学科中心の教学展開が必要な内容と、全学的に共通の視点から取り組むべき内容を精査した上で、教養科目を中心としたカリキュラム、教学制度など大学として共通化が必要な点について共通理解を図りながら改善していきたい。

③学修指導の徹底

オフィスアワー制度、評価制度など、今年度、新設や改正した制度は、学生の学力の向上や確かな学士力の養成に結びつけることが究極の目的である。そのため、こうした制度改正が本当に意味を持つものになったかどうかは学生の学修状況によって判断されるべきであるという視点から学修指導を進めていくことが重要である。

＜執筆担当／全学教務委員会 委員長 岩間 英明＞

(2) 総合経営学部教務委員会

総合経営学部の教務委員会は、総合経営学部教員7名と教務課の職員によって構成されている。原則として月1回定例会議を行い、これに加え必要に応じて会議を開催している。内容はカリキュラム・時間割・履修登録手続・ガイダンス・保護者説明会・卒業に関する事等、学生の勉学に関する問題を検討し、その解決を図っている。

1) 当初の計画<P>

本学部の教育研究上の目的は、「地域社会の総合的運営に関わる研究を推進し、それを基盤に、社会を構成する諸組織体のマネジメントに関する理解と能力を高めつつ、地域社会を総合的に捉える素養と、それに基づく総合的な経営能力を養い、もって活力ある地域社会の創造に貢献しうる人材を養成すること」である。この目的に則した教育がなされるよう調整を図ることが、本委員会の使命であり計画であるが、平成25年度入学の1年生から計画されている新カリキュラムの導入と適切な運用が今年度の具体的な計画となる。3年以上の学生はこれまでのカリキュラムと卒業要件に沿って運用されるため、旧カリキュラムと新カリキュラムに分けて混同することのないよう教職員への告知、学生指導に注意を払いながら導入を実施することとした。

また、平成27年度に実施される予定の外部評価を考慮して、全学的に行うべき課題への対応を進めていくこととした。

なお、新カリキュラムの特徴は次の3点である。

- ①目指すべき国家資格等の設定及び支援科目の設定
- ②キャリア形成・就職試験対策科目等の就職支援科目の強化と充実
- ③総合経営学部としての教育スタンダードの確立と教育の質の充実

2) 現状の説明<D>

概ね計画どおり実施した。

- ①新カリキュラムにそって、新1～2年生の科目が実施された。また、新カリキュラムへの移行期間については、担当コマの不均衡が生じることなどを教員に説明しながら、新カリキュラムと旧カリキュラムが混在する時間割の編成をおこなった。

②昨年に引き続きメソフィアを用いた成績開示、履修登録を実施した。また、「授業回数の確認のため書類として講義の出席簿を代用する」「学生の欠席状況を把握することにより成績不振学生のチェック体制を強化充実させる」などの観点から、メソフィアを用いた出席管理の導入を推進した。

3) 点検・評価の結果<C>

特に大きな問題はなく、良好と評価できる。

- ①新カリキュラムについては、学科会議及び関連部門との連携をとりながら2年目の実施を計画通りおこなった。
- ②教養科目については、ヒューマンベシク・コモンベシク・導入科目等の第1科目区分、人文科学・社会科学等の第2科目区分を整備した。特に大学共通の導入科目区分では、大学の理念科目・地域貢献活動への導入科目、キャリア教育への導入科目を整備した。
- ③メソフィアに関しては、大きな混乱はなく、良好と評価できる。また、出席管理の導入実施にも大方の教員の協力が得られた。これに伴い、学生の個別指導の徹底も図られた。

4) 成果と今後の改善点<A>

今年度の活動の重点は、新カリキュラムの円滑な導入であった。概ね計画通り進んだが、完成に至るまでには今後2年間を要する。また、今後の環境変化に応じて改善、修正されるべきものであると考える。

なお、昨年度から本格的にスタートした「資格試験対策講座」について状況を述べる。総合経営学科では、「宅地建物取扱主任者(宅建)」「ファイナンシャルプランニング技能検定(FP)」「通関士」「消費生活アドバイザー」などの対策講座が新カリキュラムに盛り込まれた。今年度、宅建では2名、FP3級では学科10名、実技9名、総合8名の合格者が出た一方で、一部の資格については資格取得の難易度も影響し、受講者数が伸び悩む傾向が見られた。今後、資格取得への動機づけの方法の見直し、対象資格の再検討なども視野に入れていく必要があると思われる。また、観光ホスピタリティ学科では、「国内旅行業務取扱管理者」「総合旅行業務取扱管理者」「社会福祉士」などの対策講座があるが、今年度、「国内旅行業務取扱管理者」では7名、「社会福祉士」では4名の合格者が出た。今後さらなる成果を期待したい。

<執筆担当/教務委員会総合経営学部 主任 畑井 治文>

(3) 人間健康学部教務委員会

人間健康学部教務部会では、各学科から2名、教務課職員3名の7名により構成され、およそ月1回の割合、計11回の部会を開催した。

1) 計画<P>

県立短大が4年制大学へ移行し、管理栄養士課程の設置がほぼ確実視され、山梨学院大学や金沢学院大学が体育学部やスポーツ健康学科の設置を検討しているという現在の状況は、本学部にとって極めて厳しい状況であると言える。それだけに、確かな学士力の養成をはじめ、各種資格取得など、教務委員会に関わる内容は非常に重要である。そのため、こうした背景を踏まえた教務展開をしていく必要がある。

①スムーズで確実な教務運営

- ・カリキュラム改訂に伴う新旧カリキュラムの並進状況は2014年度で終了する予定であるが、担当者、開講時期などの細かな手直しは今後も行われると思われるため、引き続き学生への教学指導は教務委員会が中心となって、全教員で進めていく。
- ・学生ポータルを活用による学生の学習環境の整備、厳格な教務運営を一層推し進める。

②資格取得の一層の推進

- ・本学部において、これまで資格取得目標の中心であった管理栄養士、健康運動指導士などに加え、コンピュータ関連資格やTOEICなどの教養分野の資格についても積極的な取り組みを行う。
- ・公務員や教員などの資格を生かした進路指導を視野に入れ、キャリアセンター、資格取得センター、教職センターなどの他機関と緊密な連携を図りながら、資格取得の先を見通して、学生が積極的に資格取得に取り組もうとする環境づくりに努める。

③学生理解の深化と適切な指導

- ・修学指導の状況について家庭が十分理解できる場を設けたり、教員ポータルを活用したりして多面的な学生理解をすすめ、家庭や教員間で連携をとりながら、より深い学生理解と適切な修学指導を行う。

④共通教養科目の充実

- ・共通教養センター、全学教務委員会の検討を踏まえた上で、本学部開講科目の共通科目化の検討を進めると同時に、教員の負担を考慮しつつ、共通教養科目開講に向けた協力を仰ぐ。

⑤外部評価への準備

- ・認証評価に向けた検討の中で明らかになったAP(アドミッションポリシー)、CP(カリキュラムポリシー)、DP(ディプロマポリシー)のいわゆる3ポリシーについて、大学、他学部のものとの整合性を図るための形式的・内容的検討を行う。
- ・3ポリシーを踏まえた修学指導について、それぞれのポリシーの内容と実際の教学展開が合致しているのかについて再点検と改善を行う。
- ・学部共通科目である「大学入門ゼミ」について学科間に齟齬があることから、学科の実情を考慮しながら共通化を図る。
- ・教務規約やポータルなど、学部間で調整しなければならない点について、全学教務委員会の検討結果に基づき、適切な改善を図る。

⑥その他

- ・学部開設から7年が経過し、カリキュラム改訂も含め、教務事項はある程度落ち着いてきていることから、今後は中長期的な展望に基づいた教学展開について検討を進めていく。
- ・COC関連事業について、学生の学びにつながるような活動は教務面から積極的にサポートを行い、COC関連事業が本学部のポリシーを達成する一助となるようにする。

2) 実績・現状<D>

①教務運営について

- ・教務運営については学部教務委員の共通理解のもと、学部としての共通性や学科のもつ特性をそれぞれに生かした形で教学展開ができ、問題なくスムーズに活動できた。
- ・メソフィア(教員ポータル)の活用状況から判断すると、出席管理や評価の厳密性など、確実に実施している教員が増えた。

②資格取得について

両学科の主要資格の合格率は以下の通りであった。

- ・管理栄養士 77名受験 68名合格 合格率88.3% (養成課程平均合格率95.4%)
- ・フードスペシャリスト 98名受験 96名合格 合格率98.0% (全国合格率81.8%)
- ・専門 // (食品開発) 9名受験 3名合格 合格率33.3% (// 26.7%)
- ・ // (食品流通・サービス) 15名受験 7名合格 合格率46.7% (// 47.1%)
- ・健康運動指導士 20名受験 15名合格 合格率75.0% (養成校平均合格率56.6%)
- ・健康運動実践指導者 36名受験 26名合格 合格率72.2% (// 58.5%)

③学生理解に基づく学修指導

- ・全学年において前期終了時の成績が以下の基準を下回った学生を抽出し、ゼミ担当を中心に、指導を要する学生として個別指導を実施した。

<個別指導抽出基準>

- 1年生：卒業単位10単位以下
- 2年生：卒業単位45単位未満および前期修得単位10単位以下
- 3年生：卒業単位70単位未満および前期修得単位10単位以下
- 4年生：卒業単位110単位未満

- ・以下の基準を下回る学生については、成績表と同時に注意喚起文を保護者に郵送するようにした（特別な事情がある学生を除く）。

<注意喚起文郵送基準>

- 1年生：卒業単位10単位未満
- 2年生：卒業単位30単位未満
- 3年生：卒業単位65単位未満
- 4年生：卒業単位103単位未満

- ・休学、退学の抑制を目的に学生指導の年間取得単位およびGPAによる成績基準を設定した。

<本人との面談、指導をする基準>

- 1年生：35単位未満
- 2年生：65単位未満
- 3年生：95単位未満
- 4年生：留年者

<保護者との面談、指導をする基準>

- 1年生：30単位未満
- 2年生：45単位未満
- 3年生：卒見発行不可者
- 4年生：留年者

さらに上記基準に加え、累積GPA1.0未満および卒業必修科目を落としている学生

なお、保護者との面談、指導の方法については、保護者への電話連絡も含み対応することとした。

④学部、学科のAP(アドミッションポリシー)、CP(カリキュラムポリシー)、DP(ディプロマポリシー)3つのポリシーについて

- ・健康栄養学科のAPの「自ら打ち込んだものに対して、高い評価を受けた人」という項目は「現代社会における食の課題解決に積極的に取り組む意欲のある人」に変更した。
- ・スポーツ健康学科のAPから、「各競技種目において北信越大会、各地区ブロック大会出場以上、またはそれに準ずる競技成績のある人」の項目を削除した。
- ・学科の3本柱について3つのポリシーとの関連を確認した。

⑤学部共通科目の設定(経過措置)

- ・「大学入門」は学部共通の演習科目として両学科で開講することにしたが、開講期および単位については、学科ごと違っているため、1年間の準備期間を経た後、平成27年度から同一の開講期、単位とすることにした。

⑥他学部・他学科履修の上限単位について

- ・本学部は他学部・他学科履修における履修上限単位数が規程されていないため、全学教務委員会の審議決定を受け、上限を設けることとした。その結果、総合経営学部と同様の上限単位数、年間6単位、4年間24単位とすることとした。

⑦シラバスについて

- ・ナンバリング、オフィスアワー、事前事後学修など新しい制度に基づいた記載事項が入ったため、シラバスの改訂があったが、全教員の協力により滞りなく進められた。

3) 点検・評価の結果<C>

①学修指導について

今年度はこれまでゼミ担当教員や科目担当教員の裁量に任せていた学修指導を基準を明確にして制度化した。退学率の減少や資格取得状況の好転など、ある程度の効果は感じられたが、今後、継続的な実施とそれに伴う検証が必要であると考えている。

②資格取得状況について

管理栄養士の合格率がこれまでと比較して飛躍的に向上した点、フードスペシャリストの合格率の高さが注目されるが、その背景には国家試験合格に向けた健康栄養学科教員 のきめ細かな指導があった。また、健康運動指導士、健康運動実践指導者の合格率は、これまで同様養成校の中では群を抜いているが、資格取得につながるカリキュラムが維持された結果といえる。

③認証評価に向けて

開学部以来、教務内容について継続的な見直しと、着実な改善を試みてきたことから、本学部においては大きな変革をする必要を感じなかった。ただ、教務規定や制度、考え方など他学部と大きな差異を感じることも少なくなかった。

④カリキュラム編成について

今年度のカリキュラムおよび時間割を基に、変更が必要である点について検討した。時間割については、資格取得科目の重複を修正していくことに加え、体育施設の組み合わせを見直し、より効率的な施設利用を目指す。また、共通教養科目の改編に伴い、全学的にカリキュラムおよび時間割の変更が必要となることを確認した。

4) 今後の課題<A>

①円滑なカリキュラムの推進

来年度、新しいシラバスに基づいた学修指導を展開する。また、全学的な共通教養科目の改編なども予定されており、円滑にカリキュラムを推進していくことを心掛けなければならない。特に、健康栄養学科の時間割編成については、大きな影響が予想されることから、慎重に指導していきたい。

②学生の学修指導の推進

これまで通り、学習活動が進まない学生に対する指導に加え、来年度はカリキュラムマップや履修モデルなどを提示し、これまで以上に積極的な学修指導対応を心掛けていきたい。さらに、健康栄養学科から要望のあった資格関連科目群での GPA 集計および順位表示など、学生ポータルを利用した学生一人一人の学修情報を積極的に開示し、学生の学習意欲を喚起するようになりたい。

③全学的な教務展開への貢献

人間健康学部も開学部してすでに8年を経過しており、新学部という甘えは許されない状況であることから、来年度予定されている認証評価を教務展開の新たな挑戦の機会ととらえ、全学教務委員会を中心とした教学展開に学部として全面的に協力していきたい。特に、なかなか進まない大学としての共通化をするべき内容を洗い出し、他学部と協調してよりよい教学展開に結び付けたい。

また、4学期制や評価配分率、国際交流など新たな教務課題に対しても、大学全体をリードしていけるような検討を進めたい。

<執筆担当者／教務委員会人間健康学部 主任 岩間 英明>

(4) 松商短期大学部教務委員会

1) 年度当初の予定<P>

平成25年度の自己点検・評価報告書で報告されている、平成26年度当初の計画は以下のとおりである。

①カリキュラムについて

平成26年度に実施したカリキュラムの検証と、平成27年度入学生用の新カリキュラムの作成を行う。とくに、新たに設置した必修の英語と国際コミュニケーションフィールドの検証と、次年度のカリキュラムでは、専門学校との差別化という点を考慮に入れ慎重に議論を行いたい。

②専門ゼミのあり方について

常に議論となっているが、今後も継続審議としたい。

③履修放棄制度について

より明確で説明しやすい形の方法を議論し、決定していくこととする。

④アウトキャンパス・スタディ Day について

今年度、教員にアンケートを実施し、自分の講義では行う必要がないが、全体として行なったほうが良いという結果であった。補講日との関連もあり、実施する・しないから再度議論を行なっていく。

⑤欠席の考慮について

本人の責任があるかどうかで欠席の取り扱いを変えた方が良いのではという議論と、サークルや就職活動など、どこまでが本人に責任があるかの議論、さらに学生や教職員の中にもその

捉え方に差があり、不満が常にある。それらをどう結論づけるのかは、常に議論となっているが、結論を出すことが難しく、今後も継続審議としたい。

⑥ 進級規定について

1年次の取得単位数が極端に少ないケースなどでは、進級しないほうがメリットの大きい場合もあるが、2年で卒業したい学生に不利益が生じないように、議論を重ねることとする。

⑦ 大学祭でのゼミ展示について

大学祭でのゼミ展示の明確な意味付けができないまま実施されており、ゼミのあり方とも合わせて議論を重ねる。

2) 計画の実施・現状の説明<D>

① カリキュラム

平成27年度のカリキュラムを検討し作成した。国際コミュニケーションフィールドは、中国語や韓国語のプログラムも充実、集中講義や教員の交流、海外の大学との講義スケジュールなどを検討し、科目や担当者を見直した。また、専門学校との差別化を図るため、公務員や難関企業対策を含めた就職支援プログラム（筆記試験対策）の科目を進路支援フィールドに含めることとした。

その他、留学生フィールドは設定せず、2コマ連続で実施していた簿記科目は、週2回実施するように変更した。

② 専門ゼミのあり方について

専門ゼミの決定方法については、前年度の方法を踏襲し、以下の点を変更して実施した。①専門ゼミのプレゼンテーションを学科ごとではなく、全学生を232教室に集めて1度だけ行う方法に変更した。②公平性を保つため各ゼミ独自の基準は使わないこととした。③事前調査は行わない。

その結果や学生のアンケートを確認し、今後の専門ゼミのあり方を検討したが、数年間同様なやり方で実施しているため、考慮すべき点は少なくなっている。

③ 履修放棄制度について

学部が実施している履修抹消制度を取り入れることについて検討したが、短大ではガイダンス講義週間を設け、履修の有無について検討する期間を設けていることから、履修抹消制度は取り入れないこととした。

④ アウトキャンパス・スタディ Day について

アウトキャンパス・スタディ Day は、例年、前期・後期に各1日ずつ設定しているが、実施科目のほとんどがゼミナールであり、アウトキャンパス・スタディ Day を積極的に活用する講義は少ない。一方、アウトキャンパス・スタディ Day のために、平日の補講日の確保ができていない。そのため、次年度は、6月と11月の平日に補講日を設定し、その日にアウトキャンパス・スタディを実施することも可能とすることとした。

また、アウトキャンパス・スタディは講義の一環として実施することが前提となるため、実施計画書のフォーマットを変更し、講義との関連性をより詳細に記載するようにした。

⑤ 欠席の考慮について

就職活動に伴う欠席の配慮については、検討の結果、例年通り、理由によらず講義を欠席し

たことには変わらないが、その扱いについては科目の特徴によって様々であるため、共通のルールは作成せず、科目の担当者に一任することとした。また、昨年度同様、教務委員会としてのルールを文書化して示すこととした。

⑥ 進級規定について

今年度は、必要な事例もなく検討まで至らなかった。

⑦ 大学祭でのゼミ展示について

今年度は、例年通りの対応となり、検討まで至らなかった。

3) 点検・評価の結果<C>

① カリキュラム

概ね、現在の社会の要請等を含めた次年度カリキュラムが完成したと考えている。若干、肥大化する傾向にあり、わかりづらい点もあるため、より明確な形に設定する必要があると感じている。

② 専門ゼミのあり方について

昨年度からの変更点が3点あり、ゼミナールの人数の偏りは軽減したものの、解消には至らなかった。学生へのアンケートの結果も、概ね昨年度と同様の結果であった。一部の学生からの意見ではあるが「特定の学生が優遇されているようだ」との意見もあり、そのような疑問が生じないような実施方法を検討することとした。

③ 履修放棄制度について

履修抹消制度を取り入れると、履修に対する意識が低くなることや、教科書の配布の問題など、様々なデメリットもあるが、GPAの計算や、システム上ばかりでなく、教員・学生ともわかりやすいなどのメリットも大きい。ただし、本学はキャップ制（履修単位の上限）を行っておらず、GPAも特待生等一部の学生にしか活用されていないため、メリットを感じる学生も少ない。今後も継続して審議が必要だと考える。

④ アウトキャンパス・スタディ Day について

アウトキャンパス・スタディ Day を廃止し、平日の補講日とした結果、どのような利用となるのか、次年度の経緯を確認し今後の検討材料とする必要がある。

⑤ 欠席の考慮について

現在のところ、大きなトラブルは起きていないが、講義への出席と就職活動を両立させる良いアイデアは生まれていない。次年度から、就職・採用活動の時期が後ろ倒しへと変更されるため、今後も状況を確認しながら、より良い方法を検討する必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

① カリキュラムについて

平成27年度は、その次の年度に向けて、4学期制の検討を始めることとする。また、より成績評価の基準を明白にするためにルーブリック等の評価基準を取り入れるなどの検討を始める。

② カリキュラムマップ・ナンバリングについて

カリキュラムマップやナンバリングについては、作成しており、Web上で公開しているが、まだまだ積極的に利用されているとは言い難い。次年度は、シラバスにナンバリングを取り入

れるとともに、学生が得られる学習成果を明確にすることを目的に履修登録などで活用するための準備を行うこととする。

③ 専門ゼミのあり方について

グローバル化を目的とする4学期制を取り入れることになると、これまでのような通年・必修講義の形でのゼミナールも難しくなると予想される。面倒見の良い短大を維持したままで、どのようにゼミナールを捉えていくのか、継続して検討していく。

④ アウトキャンパス・スタディ Day について

アウトキャンパス・スタディ Day を設けずに、補講日とした結果、どのようになったかを確認しながら、次年度の方向を検討していく。

⑤ 欠席の考慮について

就職・採用時期の後ろ倒しに伴い、本学の学生の就職活動がどのようになったかを見極め、年間の講義日程や講義と就職活動の両立のための方策の検討を継続して行う。

＜執筆担当／教務委員会短期大学部 主任 浜崎 央＞

(5) 共通教養センター運営部会

1) 年度当初の計画＜P＞

認証評価の受審が1年前倒しになったことを踏まえ、本運営部会の目的を当面、認証評価に向けての対応とし、その後、本学の教養教育についての議論を行うこととした。認証評価に向けての対応として、①問題点の洗い出し（大学入門について、共通教養科目のディプロマポリシーとカリキュラムの対応について）、②学部学科のディプロマポリシーについて、共通教養に関連する部分についての検討を行うこととした。

2) 実施状況＜D＞

全学教務委員会から提出された資料（認証評価についての課題の洗い出し）に基づき、教養教育に関する項目を確認し、履修者の上限の設定、各学部学科で運営方法が異なる大学入門の統一を図った。また、全学に関わるディプロマポリシーについて、各学部案の共通化を図り、全学教務委員会へ上程した。

共通教養科目である「地域活動入門」、「TOEIC」、「地域社会と大学教育」について、募集方法や開講時期、外部委託の方法、効果的な運営方法について検討した。国際交流センターからの要請を受け、「海外事情」を共通教養科目として設置することを検討したが、来年度は短期大学部に設置し、学部学生は単位互換制度を利用して履修することとした。2年後の全学共通科目化を目指す。

3) 点検・評価結果＜C＞

年度当初の計画に定めた目的は達成できた。

4) 次年度に向けて＜A＞

認証評価への対応は引き続き行っていく。合わせて、本学の教養教育についての議論を再開する時期を検討し、センター機能強化で共通認識の構築、結論を得られるよう議論を進める。また、「海外事情」については経過を踏まえ、1年後の全学共通科目化に向けて検討する。

＜執筆担当／共通教養センター運営部会長 福島 智子＞

（６）キャリア教育センター運営部会

本運営委員会は、平成 24 年度に設置された委員会である。また、本委員会の役割・業務内容は、キャリア教育と就職活動支援の棲み分けを行うと共に、大学としての共通のキャリア教育のあり方について検討することである。

1) 年度当初の計画＜P＞

本年度は、キャリア教育の定義について、大学や各学部等での文言を確定するとともに、各学部で実施されているキャリア教育と就職活動支援についての棲み分けを行うことであった。

2) 実施状況＜D＞

年度末までに、大学としてのキャリア教育の定義や各学部のキャリア教育の文言を確定した。また、各学部で実施されているキャリア教育科目と就職活動支援科目を精査し、各学部で棲み分けを行った。

3) 点検・評価＜C＞

当初予定していた、キャリア教育の定義、キャリア教育と就職活動支援の棲み分けの 2 点について計画通り実施された。

4) 次年度に向けて＜A＞

次年度は、本年度のキャリア教育と就職活動支援との棲み分けを受けて、学部共通科目としてのキャリア教育科目を設定し、必要に応じて再編成や新規開講科目を決定することである。

＜執筆担当／キャリア教育センター運営部会長 糸井 重夫＞

（７）資格取得センター運営部会

今年度は、資格取得支援センター運営部会が、全学教務委員会の下部組織として再編された最初の年度であり、昨年度からの課題を検討しつつ、全学教務委員会とも連携を取りながら事業を進めてきた。

1) 年度当初の予定＜P＞

平成 25 年度の自己点検・評価報告書および平成 26 年度事業計画に記載されている本センター運営部会の計画は以下の 2 点である。

①奨励金の見直し

②公務員対策講座

なお、防災士養成研修に関しては、当初計画には含まれていたが、別センターでの対応となったため、取り上げないこととする。

2) 計画の実施・現状の説明＜D＞

①奨励金の見直し

奨励金に関しては、財源である後援会からの出資総額を減少させることと、前年度からの検討事項を考慮し、以下の方針により再設定することとした。①下位の級（3級程度以下）には奨励金を付けないこととする。②授業の内容の中でもトップレベルの検定試験については検定料相当の奨励金とする。③授業の内容を超える検定試験については検定料以上の奨励金とする。④授業の内容を大きく超える検定試験に関しては、奨励金の上限を5万円とする。

また、対応する授業科目がない奨励金については対象としないなど、奨励金の対象となる検定試験についても見直しを行った。運営部会案を全学教務委員会および三学部教授会で検討された結果、運営部会案を一部修正して承認され、平成27年度からは、新しい奨励金制度で運営していくこととする。

②公務員対策講座

昨年度より検討してきた公務員講座は、東京リーガルマインド（LEC）と交渉を進め、関係部署とも検討した結果、学部3年生を対象とする正課外の公務員講座を開講することとなった。予想以上に説明会への参加者も多く、4月からの公務員講座を、実際に受講した学生は総合経営学部29名、人間健康学部42名、また後期からを予定していた短期大学の学生も面接等でそのモチベーションを判断した結果、3名が参加することとなり、合計74名の参加となった。

（後期からは、前期の履修者から、総合経営学部1名、人間健康学部7名、短期大学部15名が追加で参加し、合計97名の参加となっている。）

以上のような現状や大学の方針もあり、この公務員対策講座をより手厚く行うことが提案され、本運営部会を中心に、東京リーガルマインド（LEC）やキャリアセンター等の関連部署と検討を重ねた結果、①基本的な知識の修得を1年次から始め、積み上げ式に対策を考えることとし、②専門科目に関しても対応できるように、正課科目とも連携を取りながら開講することとする、等の方針が立てられ、以下の形で公務員対策講座を次年度より開講することとした。

対象	講座	概要
学部1年	基礎力養成講座	公務員・民間筆記試験に役立つ基礎力要請講座。数学、国語の基礎、社会科学全般の基礎的事項を確認し、定着を図る。
学部2年	プレ基礎講座（教養）	3年の教養講座を学ぶ上での基礎講座。数的処理、社会科学、自然科学の重要な事項を学び、3年の学習の前提となる基礎力を養う。
	プレ基礎講座（専門）	3年の専門講座を学ぶ上での基礎講座。憲法、経済学、民法、行政法など市役所試験受験に必要な専門科目の基礎を学ぶ。
学部3年	基礎講座（教養）	教養科目の基礎講座。数的処理、文章理解、社会科学、自然科学の知識を学び、合格に必要な実力を養成する。
	基礎講座（専門）	専門科目の基礎講座。憲法、経済学、民法、行政法などの専門科目を学び、合格に必要な実力を養成する。

学部4年	実践演習講座（教養）	大学卒業レベルの教養分野（数的処理、文章理解、社会科学、人文科学、自然科学）の問題演習を行う。
	実践演習講座（専門）	大学卒業レベルの専門分野（法、経済学、民法、行政法など）の問題演習を行う。
短大1年	プレ基礎講座（教養）	数的処理、社会科学、自然科学の重要な事項を学び、短大・高卒レベルの教養分野の知識を学習する。
短大2年	実践演習講座（教養）	短大・高卒レベルの教養分野の教養分野（数的処理、文章理解、社会科学、人文科学、自然科学）の問題演習を行う。

（平成29年度完成案・平成27・28年度は経過措置として部分的に開講される）

3) 点検・評価の結果<C>

①奨励金の見直し

奨励金に関しては、これまで教務委員会を始め講義担当者等からも見直しを求められてきたが、後援会の出資という関係もあり対応部署が決まっておらず、曖昧な形となっていた。今年度初めて本運営部会で一定の方針を立て大幅な見直しを行うことができたことは評価したい。

②公務員対策講座

昨年度より計画をしてきた正課外の公務員対策講座を開講でき、予想以上に受講者も多かった点は評価したい。しかし、実施した結果、特に後期では、極端に出席率が低下しており（回によって出席率が20～60%）、受講者の中には、まったく出席していない学生も見受けられた。原因の1つとして、受講者の学力格差が大きいことが挙げられる。低学力の学生は内容の理解に追いつかずあきらめてしまい、また逆に高学力の学生にとっては物足りないという声も聞かれた。また、1年間（50回程度）で多くの科目の理解を必要とする公務員試験の対策を行うことがそもそも困難であり、それらに対応するために、次年度から全学年で初級者から積み上げていく方式の公務員講座を開講することとなった。今後は、参加人数や出席率を始め、効果なども測定し、今後、検討していくことが必要である。

③その他

本運営部会のメンバーが全学にわたっている関係と、今年度は、早急に判断しなければいけない内容が多かったため、一部のメンバーで結論を出してしまい、運営部会の開催とそこでの議論が年間を通して非常に少なかったことは反省すべき点である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①奨励金の見直し

次年度の奨励金の実績を確認しつつ、社会が求める資格の変化やカリキュラムの変更等による本学が身に付けさせたい知識やスキルに応じて、奨励金の見直しを継続して柔軟に対応していくこととする。

②公務員対策講座

今年度の実績を確認しながら、計画の見直しを状況に応じて柔軟に対応していき、次年度の計画を修正していくこととする。また、今後は、本センターだけにとどまらず、基礎教育セン

ターやキャリアセンター、学部公務員対策講義担当者、東京リーガルマインド（LEC）の講師等とも認識を共通にして検討していく必要があり、次年度より、それらの関係者が参加する連絡会議を開くこととする。

現在、考えられている検討が必要な事項は以下のとおりであり、次年度では、解決に向けて議論を重ねていくこととする。

- i. とくに専門科目での、学部で開講している正課科目と、この正課外の対策講座との内容等の調整
- ii. 開講時間が多くなっていくため、正課授業との時間の調整
- iii. 開講科目の拡大による事務作業の増加への対応
- iv. 学生から徴収する受講料の適正化と全体的な財政を健全への調整
- v. とくに短大生の、民間の就職活動と公務員受験との調整

＜執筆担当／資格取得センター運営部会 会長 浜崎 央＞

（８）基礎教育センター運営部会

平成 26 年度、基礎教育センターにおける業務は、全学協議会の教務委員会担当の等々力副学長、センター運営委員長の齊藤、センター教員の福嶋（紀）、日野谷、及び中田、センター事務の鈴木の計 6 名で担当し、10 月から中田に代わり赤羽が英語を担当することとなった。

また、センター運営委員会は上記 6 名（10 月に交代があった）に加え、各学科より 1 名ずつ選出された教員、及び丸山教務課長により構成され、計 5 回の運営委員会が開催された。

本センターの主たる任務は「リメディアル教育」である一方、学生の就職支援等、学部学科の実情も踏まえながら、より幅広い活動が求められていると言える。このような事情も踏まえ、平成 25 年度の自己点検・評価報告書で指摘されているアクションプランに基づいて、PDCA サイクルに沿って点検・評価を行う。

1) 年間計画＜P＞

基礎教育センター会議を通じて確認されている平成 26 年度に向けた課題（計画）は以下の通りであった。

- ①「10 分間学習」の内容の充実
- ②1・2 年生一般常識業者テストの実施時期・回数の検討と業者選定
- ③キャリアセンターと連携した就職筆記試験対策
- ④低学年段階での基礎学力作りへの取り組み
- ⑤本学での数学検定試験、漢字検定試験の継続と対策講座の強化

2) 基礎教育センターの活動状況＜D＞

- ①「10 分間学習」は、総合経営学部、及び人間健康学部 1 年次前期の「地域社会と大学教育」の授業において、解答と解説を実施。また、短大部 1 年におけるキャリアスタンダード I においても実施。昨年に引き続き人間健康学部 2 年における「キャリアデザイン I」の 20 分間で、「10 分間学習」の実施と解説を行った。
- ②「朝の学習講座」[SPI 数学、基礎数学、人文科学、言語分野、及びベーシック・イングリッシュ（後期のみ）] を朝の 9 時～9 時半継続して実施し、低学年を中心に基礎学力向上への取り

組みを行った。

- ③今年度の一般常識業者テスト（㈱ベネッセコーポレーション「一般常識・基礎学力テスト」）は、人間健康学部2年生のみ、後期の「キャリアデザインⅠ」の授業内で実施した。また人間健康学部の3年生「キャリアデザインⅡ」では、就職能力試験問題の解説をおこなった。なお、来年度以降は、入学時にプレイスメントテストとして、国語、数学、及び英語（TOEIC Bridge）を実施する（教務委員会が管轄）。
 - ④昨年に引き続き、短大部1年前期キャリアスタンダードⅠにおいて15時間、および後期のキャリアスタンダードⅡにおいて7時間を、基礎教育センターによる一般教養授業を行った。
 - ⑤スポーツ健康学科1・2年生において、基礎学習として全18回の「一般教養基礎問題」を実施。また「入学前学習用問題集」「春期課題問題集」、及び「夏期課題問題集」を通して基礎学力の向上を図った。
 - ⑥本学において、数学検定試験（1回）、及び漢字検定試験（3回）を実施した。数学検定試験の受験者は4名（うち合格者1名、1次合格者2名）であった。また、漢字検定試験については54名が受験をし、18名が合格をした。共に2級受験者の拡大など、上位級への受験者数が増加する傾向にあるため、両検定に向けた対策講座を実施した。
- なお、数学検定試験については申込時期が夏休み中となってしまう、受験者の確保が難しかったため、次年度は実施日を変更（11月14日（土）へ後ろ倒し）することとした。

3) 活動に対する評価<C>

a: 就職試験対策に向けた取り組み

①キャリアセンターとの連携

- ・キャリアセンターとの連携により、一般教養的知識を授業形式で解説する機会が増加している。
- ・一昨年から引き続き、短大部のキャリアスタンダードⅠの「一般教養コース」を基礎教育センターが担当している。実務教育出版社の問題集と、ベネッセコーポレーションの一般常識問題集をテキストとして使用し、国語・数学・英語・社会・一般常識の5科目を担当した。
- ・短大部後期のキャリアスタンダードⅡにおいては、一般教養対策講座を7回担当した。
- ・ベネッセコーポレーションの問題集は総合経営学部・人間健康学部の2年生に配布し、人間健康学部のキャリアデザインⅠでは、これを参考としながら「10分間学習」の実施と解説を9回担当した。

②公務員講座への関わり

- ・今年度より開始された公務員講座（外部委託）の前段としての基礎学力の向上に、センターとしてどのように取り組むことができるか、今後の課題となる。

b: 連続的な課題の提供と学生との接点

①「10分間学習」の定着

- ・総合経営学部・人間健康学部の「地域社会と大学教育」で実施する「10分間学習」には、基礎教育センターの学生に対する関心を高める効果もあると考えられる。

②講座開設

- ・「朝の学習講座」は1時限目の開始前の9:00~9:30までの時間を利用し、SPI数学、

基礎数学、人文科学、言語分野及びベーシック・イングリッシュ（後期のみ実施）について、以下の通り前期・後期継続して実施した。

月曜（福嶋）：言語分野（S P I 言語、朝日新聞社説を読む）

火曜（日野谷）：基礎数学

水曜（日野谷）：S P I 数学基礎

木曜（福嶋）：時事問題（ニュース検定3・4級）

金曜（赤羽）：ベーシック・イングリッシュ（後期のみ）

なお、参加者の数は年々増加している（大学192名、短大部576名）。

③スポーツ健康学科「一般教養基礎問題」の実施

- ・「一般教養基礎問題」として全18回、1回につき10問分を実施しているが、基本問題でありながら半分以下の正答率の学生もおり、いわゆる「やりっぱなし」にならない工夫が必要であると考えられる。

④長期休みの課題

- ・「入学前学習用問題集」は、今年度より人間健康学部についても配布することとなった。学生の提出率は非常に高い。その一方で、「夏期課題問題集」については、学部学科によって提出率に大きな差があり、提出率向上への対策は引き続き今後の課題である。

4) 次年度に向けた課題<A>

基礎教育センター会議を通じて確認されている次年度への課題は、以下の通りである。

- ①低学年段階での基礎学力作りへの取り組み
- ②利用者増加への取り組み（広報活動の充実）
- ③公務員対策講座への関わり（連絡会議を通して）

なお、新しく国語の担当者が加わることもあり、本センターに求められる役割はより大きなものになると言えるだろう。

<執筆担当/基礎教育センター運営部会 会長 齊藤 茂>

2. 教育改善推進委員会

1) 年度当初の方針<P>

①カリキュラム・ポリシー（C P）に示された大学側の意図に沿って、ディプロマ・ポリシー（D P）を達成するという成果があがっているかどうか、②大学側の目論見を実現する、或いはポリシーを学生に徹底するために何が必要か、必要な企画があれば財政的措置を伴って実施する。この委員会は、このような問題意識に基づいて、一つには現在実施されている授業を改善するためのF D・S D運営部会を傘下に置いている。さらに、こういった教育企画が実施できれば、学部・学科の目指す教育効果を実現するのに有意義であるといった動きを加速するために、教育企画推進部会が置かれている。どちらの部会も大学教育の改善を推進するという目的を持っている。

この委員会は二つのそれぞれの部会が、その目的に沿った活動をきちんと実施していること、必要ならば合同の部会を開催することなどを主な目的としている。

2) 今年度の実施状況<D>

後に示すように、二つの部会がそれぞれその任務を全うすべく、活動を行っていた。その活動内容については、それぞれの部会の報告を参照のこと。教育企画推進部会においては学部・学科による違いが見られた。FD・SD運営部会の方は、全学部挙げて統一した方針で実施できている。

今回特に開催する必要性は無かったので、二部会の合同会議は開催していない。

3) 点検評価と今後の方針<C・A>

教育を改善するとい目的を達成しようと、わざわざ二つの部会を置いている。特に教育企画推進部会は、教務委員会でもなくFD・SD部会でもなく独立させた部会としていることに意味がある。学科等教育組織を挙げて、教員が総力で学生を育てようとする意思を表現してもらいたい。各学科の教育改善への取り組みのステージにも依るが、短大部を含めた全6学科において、教育改善に繋がる積極的な意思表示がなされるようにしたい。

(1) 教育企画推進部会

本委員会は、「学科等組織を単位とするカリキュラムポリシーを実現するために必要な教育的企画を提案し、予算化し、実践すること」(平成23年度『自己点検・評価報告書』111頁参照)を目的とし、教員7名、事務局2名で構成されている。

1) 当初の計画<P・D>

この部会が扱う教育企画は、教員個人の企画ではなく、学科会議または教授会で了承された、組織としての教育改善のための企画であることが、予算を計上するために課せられた条件となっている。

授業改善のために、これまで短期大学部では本学学生に適合したオリジナルテキストを作成するという目標を掲げ、これまで既に9冊が出版されている。今年度もさらにこれを充実させるという方針を掲げた。

①総合経営学部

特に計画はなかった。

②人間健康学部

本年度は、健康栄養学科による①「和食にまつわる知恵」、スポーツ健康学科による②「学ぶ意味を考える講演会」の実施を計画した。①では、健康栄養関連の専門知識を有する有識者を招聘し、授業のみでは伝えきれない知識や最新的话题を学生に提供することを目的とした。②では、「なぜ大学で学ぶのか」、「大学で学ぶことは、自分の人生にとってどのような意味があるのか」という点について、学生に考えて貰う機会を提供することを目的とした。

③松商短期大学部

本年度は、①「アウトキャンパス・スタディ」、②「独自テキストの作成」、③「サイバーキャンパス運営」の実施を計画した。①では本学の実学教育の充実を図ると共に、将来の職業や人生について考える機会を設けることを目的としている。②では、学生に適した水準のテキストを作成することを、③ではICT教育の充実を目的としている。

2) 評価<C>

①総合経営学部

特になし。

②人間健康学部

本学部の「講演会」は一昨年から継続している事業であり、学生の学習意欲の向上、広範な知識の修得、学ぶことについての動機付けなどに効果が見られる。なお①の一部と「一日限りのレストラン」はCOC事業に移管された。

③松商短期大学部

①と②は一昨年から、③は昨年度から実施している事業である。この事業の効果として、学生の修学意欲並びに習熟度の向上、実社会で活用が進むICT機器の活用力の育成において一定の効果があったものと考えられる。

3) 次年度の事業計画<A>

①大学院

特になし

②総合経営学部

本年度の申請がなかった点は残念ではあるものの、来年度は、「道の駅連携教育プログラム」、「Tabletを用いた教育関連費用」、「ソーシャルワーカーの姿勢を学ぶ」の実施が計画されている。これらの内容は斬新なものが多く、今後の学部の実学教育に寄与することと推測される。

③人間健康学部

本学部では、「国家試験模試対策講座」、「全国レクリエーション大会 in ながの参加」、「学外講師による特別講義」、「健康づくり指導者に求められる社会参加姿勢の重要性を学ぶ」の実施が計画されている。継続して実施している「学外講師による特別講義」の他に新たな試みとして事業の申請があり、一層の活発な活動が見られる。

④松商短期大学部

来年度も「アウトキャンパス・スタディ」、「独自テキストの作成」、「サイバーキャンパス」の実施が計画されており、複数年にわたる地道な活動を通して確実に定着化を図っており、その効果も大いに期待できるものと思われる。

<執筆担当/教育企画推進部会長 増尾 均>

(2) FD・SD 運営部会

大学の教育力を高める目的で、文部科学省が「FDの義務化」を開始してから七年目となる。教育力を高めるためにはSD（職員の職務内容改善）との連動が不可欠であるということから、FD（教員の授業改善）とSDを連動するという考え方が定着し、両者の統合・一体化によって活動を強化することとなり、一昨年本学でも委員会の名称が「全学FD・SD委員会」に改められ、そして平成26年度においては、教育改善推進委員会へ「全学FD・SD運営部会」として再編された。

FD・SD運営部会では、引き続き「教職協働の強化」を重点目標に掲げ、主要項目ごとの検討や草案作り、中間アンケート、授業アンケート等を活用した教育改革、またFD・SD研修会による教職員の意識改革やスキルアップ等を図った。教員・職員が教育力向上の両輪となり、学生が主役の大学作りを目指した。

1) 年度当初の計画 <P>

①授業アンケート

より良い授業を実現するため、「中間アンケート」（中間期）と「授業アンケート」（後半期）を実施する。

・中間アンケート

授業改善に活用できるような、中間アンケートの「雛形」（講義系と演習・実習系の2種類）を委員会で作成し、平成25年度から活用されている。なお、中間アンケート実施において、雛形を使用するかしないかは、担当教員の任意とする。

本アンケートは、前期・後期の各々の中間地点に実施する。大学年間予定表に明示し、また実施前には「中間アンケート実施のお願い」文書を全教員に配信し、実施の徹底を図る。学生から寄せられた意見のうち、より良い授業の実現に資すると担当教員が判断したものを後半の講義に取り入れるよう教員に依頼する。

・授業アンケート

準備として、実施科目の選定（確認）を行う。1教員2科目で、必修科目から1科目、選択科目から1科目を基本とする。学科や教員の実情を勘案して、決定する。授業アンケート実施の依頼文書を、専任教員・非常勤教員に配付し徹底を図る。

アンケート実施期間はテスト期間を含む1ヶ月間（前期7月、後期1月）を確保するとともに、集計作業の迅速化・円滑化を図る。また実施直前にはメールによる一斉送信等を行うなど、実施の徹底を図る。

②授業参観

気楽に授業参観ができる雰囲気づくりを目指すとともに、授業参観のあり方を各学部の特長も念頭において再検討する。

③卒業アンケート

卒業アンケート及び短大部在学者アンケートについては、平成23年度中に総務課から移管されたため、当委員会の視点でアンケート内容を点検し、所要の見直しを図ったうえで実施する。

④FD・SD研修会

教職協働の強化を念頭において、教職員双方を対象としたテーマでFD・SD研修会を開催する。

2) 実施した活動の概要<D>

①授業アンケート

・中間アンケート

事前に、「平成26年度中間アンケート実施のお願い」文書を全教員に配信した。

各期のおよそ中間地点である6月（5/27～6/23）と11月（11/20～12/3）に実施した。

・授業アンケート

授業アンケートを、テスト期間を含む1ヶ月間（前期7/7～7/31、後期1/5～1/30）に実施した。

授業アンケートの質問項目については、大筋、前年度との比較に利用するなどの観点から従来と同内容（平成22年度に改訂）とした。また、平成25年度より、中間アンケートに関する質問項目*を1つ追加した。

* 「授業をよりよくするために実施された中間アンケート調査など、寄せられた要望について、その後の授業で反映されていましたが」という項目を盛り込んだ。

②授業参観

平成 25 年度より、授業参観のあり方を各学部の特長も念頭において再検討したが、実施には至らなかった。

③卒業アンケート

卒業アンケート及び短大部在学者アンケートについては、平成 24 年度に質問項目等の見直しを行っているので、本年度も引き続き同内容で実施した。

④FD・SD 研修会

「教職協働の強化」をテーマに掲げ、FD・SD 研修会を下記のとおり開催した（研修会の概要を『蒼穹』平成 26 年 12 月号に掲載）。

・平成 26 年 9 月 18 日（木）「教学 I R の意義と役割：教育の質保証にむけて」（同志社大学・教育支援機構副機構長 山田礼子氏）

大学内の情報を数値化・可視化し、評価指標として管理し、その結果を教育・研究、学生支援、大学経営等に活用するという先進的な I R 活動についての実例を交えて説明していただいた。県内の他大学からの参加も得て、活気あふれる研修会となった。

3) 点検・評価の結果<C>

①授業アンケート

授業アンケート集計作業の事務フローを点検し、実施日程管理表を作成・活用することにより、集計作業の効率化・迅速化を図ることができた。ただし、後期の授業アンケートについては、アンケート実施科目の選定依頼が遅くなった影響で、実施日程が管理表よりも遅れた。結果的には年末年始をまたがらずに実施できたので良かったともいえる。昨年度までと変わって後期末試験が 1 月末までに終了する予定となったため、年始から授業時間のなかでアンケートを実施するとなるとかなりタイトなスケジュールにならざるをえない。年末年始をまたがって実施するかどうかは今後の課題としたい。

②授業参観

気軽に授業参観し合える雰囲気づくりを目指した取り組みを始めて 5 年目であるが、各学部の特性もあり、本年度は授業参観を有効活用できるには至らなかった。

③卒業アンケート

本年度のアンケート結果の取りまとめ作業（集計・分析作業とも）は迅速に行うことができた。

④FD・SD 研修会

本年度の重点目標である「教職協働の強化」を意識し、ホットな話題である「I R 活動」の研修会を開催することができた。FD と SD のどちらからでも興味をもてる内容であり、研修参加者の評価も好評で、総体的に実りある研修会とすることができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①授業アンケート

中間アンケート「雛型」の活用（使用するかどうかは担当教員の任意）により、授業アンケ

ートを教員・学生双方がさらに授業改善に役立てていくことが望まれる。そのためにも、半期毎に作成している授業アンケート報告書である『わかりやすい授業を目指して』を各教員がさらに授業改善に活用してもらえよう啓発していく必要がある。また、アンケート内容の再検討も望まれる。

②授業参観

授業のウデを上げるには「授業参観によって感動を得たら試行錯誤を繰り返す」ことが有効とされている。授業参観を有効活用していくためには、授業をする人のクリニックが目的ではなく、見学者が自分の授業改善に役立てるのが狙いであることを共通認識としていく必要があるように思われる。

③卒業アンケート

卒業アンケートの取りまとめ作業を迅速化し、アンケート結果を学生指導・対応に有効活用することが望まれる。

④FD・SD研修会

教育の現場が多様化している状況を考えると、「教職協働の強化」は、重要な課題である。教員と職員が連動する大切さを、様々な機会を通じて学んでいく必要を感じる。また、他部門の開催している研修会も多くのケースでFD・SDに関連しており、他部門との共催も視野に入れて時宜にかなったテーマでFD・SD研修会を継続的に企画・開催することが望まれる。

<執筆担当／FD・SD運営部会長 長島 正浩>

3. 教職センター運営委員会

本年度は、教職センター内のメンバー及びセンター長の交代によって、年度開始、すぐの時点で当初の目標から新たな目標に変更され、実行された。

○作成時点での視点

今年度、教職センターのメンバーが5名体制から4名体制となり、またセンター長の交代もあって新年度が開始された時点で、大学全体の方針に沿った方向での到達目標が改訂された。その視点としては、1) 平成26年度卒業予定者の教員採用試験の合格を目指し支援を行うための新たな委員会の設置を含むものである。2) 本学における「教員免許状更新講習」実施については、県内では、ほとんどの大学が教員免許状更新講習を開催していることから検討を行う。3) 教職センター組織および教職センター施設・設備の整備については、教職関係授業の充実をふくめ、再検討する必要があると指摘された。4) 卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけさせることは、1)と関連して、小学校教諭2種免許状取得支援の指導体制の整備を含むものである。

1) 目標<P>

年度当初の目標を検討し次の項目が到達目標としてあげられた。

①平成26年度卒業予定者の教員採用試験の合格を目指し支援を行う。

平成26年度卒業予定者の教員採用試験の合格を目指し、組織及び支援活動の方法を検討する。

②本学における「教員免許状更新講習」実施の検討。

現在、県内では、ほとんどの大学が教員免許状更新講習を開催していることから、松本大学でも必修講習及び選択講習の開催の検討を行なう。

③ 教職センター組織および教職センター施設・設備の整備。

教職センター組織および教職センター施設・設備の整備のために教職関係授業および教職ガイダンスの充実を目指す。

④ 卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけさせる。

卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけさせるために、授業を通して実践的指導力の向上をめざすことと、また、小学校教諭2種免許状取得支援プログラムの充実を目指す。

2) 目標への成果・実績<D>

①平成26年度卒業予定者の教員採用試験の合格を目指し支援を行う。

- ・教員採用受験指導に関わる授業の充実に対応するために、「教員採用受験指導センター運営部会」が設置された。
- ・学生に対する教職課程履修に関する相談支援活動の充実のために、教員採用試験対策面接講座として、3,4年生を対象に個人面接を行った。
- ・「梓友会」(教職に就いている本学出身者の会)の開催を通して、在学生の教員採用試験受験に向けての動機づけを高めた。

②本学における「教員免許状更新講習」実施の検討。

- ・10月までに来年度の開催日程と講師の人選を行ない、教員免許状更新講習準備委員会を設置し検討を行い内容の精査を行った。
- ・11月に文科省への申請を行い、1月に必修講習1講座、選択講習19講座の認可を得て、来年度の開催にむけて準備を進めている。

③教職センター組織および教職センター施設・設備の整備。

- ・次年度に向けた教職関係授業の改定を行った。これまで集中講義で行われていた科目を通常授業の中に組み込むことで長期休業期間中の学生の活動の幅が広がることを目指した。
- ・教職課程履修学生の教職授業の履修を支援するために、複数回にわたり学年ごとに教職課程カリキュラムガイダンスおよび説明会を実施した。
- ・教職センターの広報活動の一部として、オープンキャンパスにおいて教職センターの説明会を行った。
- ・本学ホームページに教職センターの活動を掲載するようにした。

④卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけさせる。

- ・「教職実践演習」授業の中で、現場で実際に生ずる課題を中心に、討議・ロールプレイを通して、実践的指導力の養成を行った。「教職特講演習」では実習を行う前に現場での授業を参観した。
- ・「教職特講演習」では、内容を教員採用試験対策に特化した指導を充実することで教員採用試験の受験勉強の支援を行った。
- ・教職特講演習Xでは、小学校教員養成対策講座として通信レポートの提出のための指導も行っている。
- ・小学校教員養成対策として、教職センター学習室への「電子ピアノ」の設置も行った。
- ・教職センター学習室での指導として、教職センターの教員が交代で学生への対応を行った。

- ・後期からは教職センター学習室での「教員採用試験対策自主ゼミ」を開催し、指導を行っている。
- ・「教育実習事前事後指導」の授業で教育実習報告会を行った。

3) 成果・実績の点検・評価<C>

① 平成 26 年度卒業予定者の教員採用試験の合格を目指し支援を行う。

「教員採用受験指導センター運営部会」の設置については、初年度ということもあり、大局的な観点からの方針を立てるのみであった。学生に対する教職課程履修に関する相談支援活動の充実については、教員を主たる進路とする学生向けの「教職特講演習Ⅰ～Ⅹ」を実施した。また、「教職実践演習」授業の中で「教師に求められる人権感覚」の授業が行われたことは、今後も続けられるべきであろう。さらに、教職相談支援室の活動として、全員の教員採用へのモチベーションを高めるために、3,4年生を対象に、個人面接を行ったことは評価できるところである。梓友会の開催も、前年度に引き続いて、春季および冬季の2回が開催され、多くの在学生が参加したことは教員採用試験に向けて、意義のあることである。

② 本学における「教員免許状更新講習」実施の検討。

必修講習および選択講習の選択の段階で、内容が教員免許状更新講習にふさわしいものであるかどうかの検討が行われたが、講師の判断に任される部分が多く、精査できない部分が残った。これについては、初年度を実施したうえで、より多くの学内の教員に参加してもらえるように働きかける必要がある。

③ 教職センター組織および教職センター施設・設備の整備。

学生の学修の充実という視点から、集中講義の減少及び教職関係授業の内容の充実は望ましいことである。教職センターの広報活動については、これまで行われてこなかったことを考慮すると、より積極的に推し進めることが期待される。教職課程カリキュラムガイダンスは、教職課程を途中で履修放棄する学生がいることから、説明会を実施した。また、オープンキャンパスでの夏休み期間中の説明会については、他のイベントと重なったことから、参加者が少数であったことは改善の余地がある。

④ 卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけさせる。

卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけることを目指した並行した複数の試みや学習室での機器の充実は評価できる。「教員採用試験対策自主ゼミ」は参加者が少ないことが問題である。「教育実習事前事後指導」における学年を超えた学びあいの実践について、4年生の実習体験談などは、4年生から3年生へ教育実習に関する大切な情報の伝達であり望ましい授業であると言える。また、小学校教諭2種免許状取得支援プログラムでの学修は、途中での脱落者を防止するためにも、より充実する余地があるように思われる。

4) 次年度への改善事項及び課題<A>

① 平成 26 年度卒業予定者の教員採用試験の合格を目指し支援を行う

「教員採用受験指導センター運営部会」の活動をより活発にすることが望まれる。3,4年生を対象とした個人面接は、非常に教員の労力を要することであり、評価できる。学生が自ら学ぶという動機づけを高めるために自主ゼミ等の充実が望まれる。梓友会については、より多く

の卒業生や非常勤講師の教員にも参加を促すことで、より充実したものになると期待できる。

② 本学における「教員免許状更新講習」実施の検討

来年度の開催日程と講師の人選については、必修講習と選択講習の開講数検討と、より現場の教師が望むような講習の開講を考慮して検討をする必要がある。また、学内の教員免許状更新講習のための設備の充実と、他大学との連携による（大学間コンソーシアム等）開催も検討してもよいであろう。

③ 教職センター組織および教職センター施設・設備の整備

集中講義の減少及び教職関係授業の充実は、さらに進める必要がある。そのためには教員の増員も視野に入れてゆきたい。教職センターの広報活動については、学内ホームページの中での独立したページの計画などを検討することも考慮することも可能であろう。オープンキャンパスでの説明会については、より高校生の集まる夏期休業期間での実施を目指す。

④ 卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけさせる

「教職実践演習」授業での実践的指導力の養成は、今後も継続することが望ましい。卒業時における教員としての質の向上と実践的指導力を身につけさせるためには、授業の充実とともに、実習・授業参観などの多方面から指導を進めることは今後とも続けたい。また、4年生の実習体験談や学校現場にいる先輩の報告や講話は、教育現場への具体的なイメージをつくるうえで非常に役立つことから、今後とも継続してゆきたい事項である。小学校教諭2種免許状取得支援プログラムでの学修は、レポートの提出が遅れ気味であることへの対策を検討する必要がある。

＜執筆担当／教職センター運営委員会 委員長 川島 一夫＞

4. 図書館運営委員会

1) 年度当初の方針＜P＞

2014年度は、次の3点を柱として設定した。

- (1) 運営基盤、運営体制の見直し
- (2) 図書館サービスの点検
- (3) 中期的な図書館計画の策定

「(1)の運営基盤、運営体制の見直し」「(2)の図書館サービスの点検」は、従来から懸案事項として取り組んできた。特に2009年から2012年までは、年度方針に掲げて取り組んだ。翌2013年度は方針に盛り込まなかったが、2014年度に再び方針に盛り込むことにした。というのは、2013年度の方針を立案したときは、開館時間の延長や職員増、学生1人あたりの貸出数が3倍になったことなどで一定の進歩がみられたため計画から外したのだが、同年に書庫のカビ対応や夜間職員の補充困難といった課題が生じて、あらためて運営基盤が不十分だったことが明らかになった。そこで、原点に戻って現状把握に努め、将来構想につなげることを目的として上記の方針を設定した。

2) 現状の説明＜D＞

2014年度は前年度末に休職した職員の体調が復調せず、結果的に正規職員が1年間不在の職員体制となった。その対応として派遣職員を充員した。また、9月からは欠員だった夜間対応の職員も補充することができた。これらの職員間で業務の合理化や情報の共有化を進めたので、ほぼ通常業

務を遂行することができた。また、新規に企画した活動もあった。とはいえ、喫緊の課題を遂行することを優先する必要があったことから、年度当初の方針に基づいた図書館運営の遂行ということでは、不十分な結果になった。

①業務の合理化・情報の共有化

研究図書の会計処理や受入作業が煩雑だったため、処理方法を見直した。職員の努力もあり、図書が到着してほぼ3日以内に教員に研究図書を届けられるようになった。

講義期間中は、ほぼ毎週スタッフ会議を行って職員間の意思の疎通を図った。また、クラウドを利用して、館長・職員共同のフォルダーを設置し、データのやりとりをスムーズにした

②図書館からの発信

11月の読書月間に、多くの企画を実施した。その他、ノーベル化学賞受賞に関わる展示、12月のクリスマスプレゼントに擬した貸出企画、松本山雅のJ1昇格にちなんだ展示、長野新幹線延長に伴う展示などを実施した。

③学生の声の反映・図書館同好会発足

司書科目受講生を中心にして図書館同好会が発足した。会報を2回発行。11月の読書月間には、図書館の企画に積極的に参加すると共に、自らの企画「折り紙講習会」も行った。また、選書ツアーを実施して、購入した図書のPOPを作成し、展示した。図書館のよき理解者、協力者として活動した。

④図書館の利用実態

【利用統計】2014（平成26）年度

図書(雑誌)貸出冊数・AV資料閲覧点数(図書：冊, AV資料：点)

	所 属	図書	合 計	AV 閲覧	合 計
短大	商学科	898 (16)	1,660 (26)	537	938
	経営情報学科	762 (10)		401	
総合 経営	総合経営学科	1,020 (56)	2,558 (150)	715	1,245
	観光ホスピタリティ	1,538 (94)		530	
人間 健康	健康栄養学科	3,229 (75)	4,293 (109)	132	744
	スポーツ健康学科	1,064 (34)		612	
	大学院	88 (10)	88 (10)	2	2
	教職員	1,075 (106)	1,075 (106)	7	7
	計	9,674 (401)	9,674 (401)	2,936	2,936

学生1人あたり貸出数

年 度	学生数 5/1 現在(人)	貸 出 数 (冊)	1人当り貸出数 (冊)
24年度	1,929	6,929	3.59
25年度	1,943	6,753	3.48
26年度	1,927	8,599	4.46

入館者数（延べ人数）		（人）	
	24年度	25年度	26年度
館内利用者	87,992	90,710	90,794
うち学外者	421	199	153

3) 実践に対する点検<C>

①運営基盤、運営体制の見直し

事務局から全面的な業務委託の提案があり、図らずも根本的などころから運営基盤や運営体制を考えることになった。全面的な業務委託の是非を図書館運営委員会で検討するとともに、2月には館長と職員2人が大学図書館の視察を行った。

検討の結果、現段階では全面的な業務委託は得策ではないという結論に至った。しかし、今後はさらに業務の合理化や図書館サービスの質的転換を進めていく必要がある。効果的な委託の導入や運営体制のあり方については引き続き検討していく必要があるだろう。

②図書館サービスの点検

正規職員不在のまま1年推移したが、館長・嘱託職員・派遣職員が協力して業務にあたった結果、サービスの停滞を招かずに済んだ。利用統計をみると、視聴覚資料の閲覧数は減少したものの、入館者数、貸出数、貸出延べ人数は今までの記録を更新した。特に、学生1人あたりの貸出数は初めて4冊台になった。

図書館サービスで特に力を入れたことは、「分かりやすく使いやすい環境づくり」と「魅力的な資料の提供」である。

資料へのアクセスのしやすさを実現するため、パソコン関係や就職関係の資料を一カ所に集め、独自の番号をつけて探しやすくした。また、図書に貼付するラベルの表記は、著者記号表を使用する複雑な方法を変更してカタカナ表記にした。利用の多いよく利用される文庫本、新書、児童文学については遡及分についても対象として、開架している図書のすべてのラベルをつけなおした。

デジタル環境では、館内のパソコンとプリンターの機器を全部更新した。また無線LANのアクセスポイントの増設工事を行ってよりつながりやすい環境を整えた。

学生に魅力のある図書館ということでは、シラバスに掲載されているテキストや参考図書はもとより、人気のある作家の本や映像化された図書なども積極的に購入して利用に供した。

これらの結果が利用増につながったと考えられる。職員体制の弱さが直接利用に影響しなかったのは幸いだった。しかし、例年行ってきたデータベース講習会は実施できなかった。また人手不足のためにサービスチャンスを逃していると感じられる場面が何度かあった。その意味では、できるだけ早く万全の職員体制で臨みたい。

③中期的な図書館計画の策定

今期は準用していた規程類を見直し、規程類を整備した。見直しの作業をするなかで、本学の図書館の機能は、学習、教育および研究の支援にあることを明確にすることができた。中期的な計画を策定できなかったが、学習・教育・研究を柱に、今後の計画を立案することになる。

4) 次年度に向けて<A>

職員体制の問題が早急に解決できる見通しが無いため、将来的な図書館計画の策定は一時的に保留とする。とはいえ、中断するわけではない。この間は、将来的な図書館構想づくりの助走の期間と捉えたい。そこで、次のような方針を立てた。

①学修を支援する図書館

- ・入館ゲートを設置して学生の滞在時間を把握できるようにした。統計結果を見ながら必要な働きかけをしていく。
- ・授業の課題について、担当の先生にアンケートをとる。

②学生を刺激する図書館

- ・それぞれの書架の棚を魅力的にする。
- ・より利用のニーズにそった選書を進める。
- ・話題に関わる掲示をする。

③業務の合理化と情報の共有

- ・研究図書 of 会計処理の分離を検討する。
- ・業務の合理化をさらに図るとともに、職員間の情報の共有化を一層進める。

＜執筆担当／図書館運営委員会 委員長 篠原 由美子＞

5. 情報センター運営委員会

1) 年度当初の予定＜P＞

情報センターでは、通常業務として「研究・教育の支援（パソコン教室（ハード・ソフト）整備、コンピュータ関連科目整備、学生向けオリエンテーション実施、学生アシスタント手配、資格管理）」、「情報機器の維持・管理（教職員パソコン、貸出ノートパソコン等、ネットワーク、サーバ類等）」、および学内外に対して「講習会の実施」等を行っている。その中でも、平成26年度当初に計画された情報センターの新規事業は以下の通りである。

① 学術研究・教育の支援

- パソコン教室の整備（211 教室, 212 教室のパソコンリプレース、ソフトウェアのバージョンアップ）
- 情報機器の拡充（旧型の貸出用のノートパソコン、デジカメ、デジタルビデオ）
- 教育環境整備の検討
- 情報セキュリティの強化

② 情報機器の維持・管理

- 教職員パソコン定期購入、研究室プリンタ購入
- 学務管理システムの拡充
- 備品管理システム構築

③ その他

- 情報ポリシーの見直し
- 資格対策について検討、実施

2) 計画の実施・現状の説明＜D＞

多くの通常事業および新規事業は、計画通り実施された。当初予算より変更されたもの等について

て、以下に記述しておく。

- ①(a)PC 教室のリプレースに関して、入札を行った。PC 関連機器の納入実績のある 3 社に見積もりを依頼し、プレゼンテーション形式での提案書と見積書の提出を求めて最適な企業からの納入を決めた。教職員のパソコン入替は、8 月 9 日に機器納品、8 月 19 日以降順次入替を開始し、10 月末までに作業を終了した。
- ①(c)教育環境に関しては、フロアに設置した PC について、劣化が進み使用不能となっている機器も多い。このため、学部からの要望を待たずに、情報センター運営委員会にて積極的に交換を進めることについて協議し、学生の利便性を第一に考えて、本年度補正予算を組み、可能な限り交換をすることとした。WiFi 環境についても、整備を行った。
- ①(d)セキュリティを高めるため、専用のウィルス対策ソフトを導入することとした。
- ②(a) 本年度、35 台の教職員用 PC の入替を行った。まだ十分に機能する PC については、学内各所のフロアに設置している老朽化した PC と入替していくが、対象とする場所について、1 号館～7 号館に均等に振り分けて整備することとした。
4 号館 3 階のエレベータ前のフロアに、学生用のプリンタを整備することとした。ロケーションフリーのシステムを構築し、システムが完成しだい整備することとした。

3) 点検・評価の結果<C>

平成 26 年度は、4 回委員会を開催した。議論を深めながら、業務を遂行できた点は評価したい。以下に、点検・評価の結果について示す。

- ①(a)211、212PC 教室のパソコンのリプレースと、ソフトウェアのバージョンアップを行うことにより、情報教育の授業におけるコンピュータ環境の改善が図られた。
- ②(a) 教職員用 PC の入替を行うことにより、教職員の作業効率の改善が図られた。
- ①(a)PC 教室のリプレースに関して、委員会にて入札内容を審議し慎重に決定した。これにより、大学にとって適切な PC 教室の構築ができ、利便性の向上が図られた。
- ①(c)教育環境に関して、どの情報機器を優先的に交換するかについて、慎重に議論して決定した。これにより、今後は定期的にフロアに設置する PC についても定期的に入れ替えることが可能となり、教育環境の改善が図られることになった。
- ①(d)セキュリティを高めるため、専用のウィルス対策ソフトを導入することについて、これまで利用してきた対策ソフトの弱点について議論し、その弱点をカバーする対策ソフトを決定できた。これにより、大学のセキュリティ対策の向上が図られた。
- ②(a) 教職員用 PC の入替を行う際に、現状の教職員の個々のコンピュータ環境について委員会にて情報を共有し、どの PC を優先的に入れ替えるかについて議論を重ねた。これによって、教職員の作業効率の向上が図られた。
4 号館 3 階に学生用のプリンタを設置することについて、どのようなシステム形態が学生にとって最も使いやすいかについて、委員会にて慎重に議論して決定した。これによって、学生が自分のスマホやタブレット、PC から直接印刷をすることが可能となり、利便性の向上が図られた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

平成 27 年度は以下の新規事業を予定しており、予算申請を行っている。しかし、情報機器の変化

は激しく、学生や教職員から求められるものも、立場の違いによって様々である。そのため、いずれの事業においても、委員会で再度検討し、必要なか必要でないのかをきちんと議論してから実施することとする。また、実行した事業の評価も、ある立場からの主観で判断することなく、客観的な評価活動を実施することとする。

① 学術研究・教育の支援

- (a) パソコン教室の整備 (パソコンリプレース、ソフトウェアのバージョンアップ)
- (b) 教職員パソコン定期購入、研究室プリンタ購入
- (c) その他

② 情報機器の維持・管理

- (a) サーバ機器クラウド化の対応
- (b) ネットワーク整備
- (c) 学生用ロケーションプリンター入れ替え
- (d) 学務管理システムのカスタマイズ

＜執筆担当／情報センター運営委員会 委員長 小林 俊一＞

6. 国際交流センター運営委員会

本年度の国際交流センター運営委員会は、短期大学部は1名、学部は各学科から1名、大学院は1名の計6名で構成され、糸井が委員長となった。

前年度の課題としては、①国際交流の在り方についての長期的なビジョンの検討・策定、②留学生に対する学習支援体制の整備、③情報の共有化、の三点が指摘されていた。また、①に関連して、国際交流センターの役割や、出来ることと出来ないことの棲み分け等について明確にすることも、今年度の課題となっていた。

1) 計画＜P＞

グローバル化がますます深化する現代社会の中で、高等教育は10年、20年先を見据えて、そこで求められる知識や技能（コンピテンス）を育成することが期待されている。しかしながら、本学の国際化は他の大学に比べて進んでいるとは言い難く、まだまだ改善の余地が多分にある。

このような認識から、本年度は、まず学内の国際化を図る観点から、短期の日本語プログラムを学内で実施し、これに本学の学生を参加させることで、グローバル化への学生の意識改革を促す取り組みを企画することとした。また、大学のグローバル化には教員の意識改革が不可欠であるため、教員交流による意識改革を促す観点から、協定先の大学の教員が本学の授業を担当する取組や、本学の教員が協定校で授業を担当する取組を次年度以降実施することにした。

他方で、このような短期の日本語プログラムの実施や教員交流のためには、価値観を共有する大学等との連携が求められるため、今年度は協定締結による国際交流の推進が期待される韓国と中国の大学との連携・協定締結を計画した。また、国際交流センターの役割は国際交流の推進であるが、学生の「派遣」については単位認定等、現在の国際交流センターの守備範囲を超える事案が多いため、上記のような「受入」を中心に国際交流事業を企画し、次年度の本格実施を前にトライアルでの学生交流プログラムを実施した。

また、前年度からの課題である留学生に対する学習支援体制の整備については、日本語力を高め

るための語学コースの設置や寮の完備等が考えられるが、本学の規模やマンパワー等の面で対応が難しい。従って、これらについては、本学の国際交流の在り方を含めて全学的に議論していくことが必要であろう。次に、情報の共有化については、各学部の国際交流の取り組みの動きや、学生を海外のプログラムに「派遣」する場合等の情報の共有化が求められていると考えられる。この点については国際交流センターの役割と共に次年度以降検討する。

2) 活動内容<D>

2-1. 新規事業

本年度の活動内容は、従来の活動に加えて、①価値観を共有する海外の大学との協定締結、具体的には韓国の東新大学と松商短期大学部、中国の嶺南師範学院と松本大学並びに松商短期大学部との協定締結、②トライアルでの短期日本語プログラムの実施、③トライアルでの派遣プログラムの実施、であった。

①については、11月に韓国の東新大学を訪問して短期大学部との協定締結に合意すると共に、国立済州大学にも訪問し、トライアルで実施される短期日本語プログラムへの参加を依頼した。また、12月には学長が嶺南師範学院を訪問して交流協定に調印し、学生交流に加えて教員交流を進めることで合意した。

②の本学の短期日本語プログラムは、2月に2週間実施され、嶺南師範学院の学生8名が参加した。また、このプログラムには、本学の学生や地域住民を含めて30名ほどが様々なかたちで関わり交流を深めた。

他方、③については、3月に1週間の日程で実施された嶺南師範学院のプログラムに2名（学部生1名、短大生1名）の学生が参加した。トライアルということで機関を短くすると共に、体験を重視するプログラムで実施された。

2-2. 通常活動

従来の活動の「派遣」については、8月のオーストラリアのニューカッスル短期語学研修には3名（学部生2名、短大生1名）の学生が参加し、韓国国立済州大学のプログラムには短大生1名が参加した。

「受入」については、中国から5名、韓国から2名の計7名で、総合経営学部総合経営学科に3名、観光ホスピタリティ学科に4名であったが、観光ホスピタリティ学科の中国籍の学生1名が除籍となった。さらに、6月にシンガポールの学生24名と職員1名を受け入れ、益山ゼミと合同ゼミを実施した。

その他の活動としては、10月の「留学生による日本語スピーチコンテスト」（第1位：イー・ジヒョンさん、第3位：アルズグリ・トルスンさん）、11月の湘北短期大学主催の「英語スピーチコンテスト」（レンブラントホテル厚木賞：沼波楓さん）、12月の松本ワイズメンズクラブ「私費留学生小論文コンテストアジア賞」（優秀賞：イ・ソヒョン、佳作：リ・シイ、ユウ・ジヒョン、伊藤賞：ト・ジャフィ）、同月の「留学生・日本文化フィールド・トリップ」などの支援活動を行った。活動の詳細については、アニュアルレポートを参照されたい。

3) 点検と評価<C>

本年度、韓国の東新大学、中国の嶺南師範学院との間で協定を締結することで合意したことによ

って、政府の「キャンパス・アジア」構想に対応した体制が整備された。また、短期プログラムを相互に実施し、学生交流と教員交流を推進する体制も整えることが出来た。その意味では、学内の国際化と、学生・教員の意識改革のための環境は整備されたことになり、次年度以降のプログラムの実施によるグローバル化の促進が期待される。

従来の活動については、スピーチコンテストでの第1位や小論文コンテストでの優秀賞など、留学生の活躍が目立った。留学生に対する支援については従来の支援内容を踏襲したが、期待以上の成績を残している。

4) 今後の国際交流活動について<A>

次年度以降については、学内の国際化の観点から短期日本語プログラムを充実させていく必要がある。トライアルでは中国の嶺南師範学院の学生のみが参加したが、次年度の夏に実施されるプログラムでは、嶺南師範学院などの協定校や本学と関係のある大学の学生の参加も促していく。また、この短期日本語プログラムに英語圏の学生を参加させるため、4～5年かけて欧米の学生が参加しやすいプログラムに改善させていくことが求められよう。

<執筆担当/国際交流センター運営委員会 委員長 糸井 重夫>

7. 地域健康支援ステーション運営委員会

本ステーションは、文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマA】「食の課題解決に向けた質の高い学士の育成～地域の食に関する課題解決への意欲と実践的能力を有する食の専門家の育成～」の採択を受け、人間健康学部健康栄養学科内に設置され平成22年4月から本格的に活動を開始した。大学教育推進プログラムが平成23年度に終了した後、平成24年度からは本学の特徴ある取り組みとして継続され、平成25年9月には本学が文部科学省COC事業の採択を受けたことから、健康運動指導士を専任スタッフとして配置した。それ以後、栄養と運動の両面からの地域貢献を理念とし、スポーツ健康学科も含めた人間健康学部全体の地域活動と学内教育をつなぐ窓口として活動の幅を広げている。

1) 組織と会議

- ①組織：運営委員長1名（健康栄養学科長） 委員3名（スポーツ健康学科長、総合経営学科、観光ホスピタリティ学科各1名） 事務局5名
- ②運営委員会：3回 5月23日、12月16日（文書審議）、1月19日（文書審議）

2) 当初の事業計画<P>

地域健康支援ステーションのH26(2014)年度の事業計画は以下の通りである。

- ①健康づくり指導事業
ア：栄養健康教育 イ：運動実践指導
- ②啓発事業 メニュー開発
- ③広報事業
- ④卒業フォローアップ事業

3) 事業報告<D>

地域健康支援ステーションの独自の取り組みと、文部科学省より採択を受けたCOC事業（健康づくり部門）を並行して実施した。

①健康づくり指導事業

公共機関、企業、団体等からの依頼を受け、個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行った。主として指導教員と専任の管理栄養士・健康運動指導士スタッフが指導を行い、学生はその補助等を行った。

ア：栄養健康教育

依頼の目的に則した内容で、クイズや食事診断などの参加型の内容を組み入れた講話を行った。平日に依頼された講演には学生の同行が難しいため、講座で活用する教育教材の作成などで学生に関わってもらう場を設定した。休日に依頼された講演には学生も同行し、学生とともに、クイズや食事診断など行った。

「林業初任者研修の講師」（7月・8月）

（依頼元：財長野県林業労働財団、指導教員：廣田直子）

「スポーツ食育講習会」（1月）

（依頼元：セダックサッカースクール、指導教員：廣田直子）

イ：運動実践指導・レクリエーション

地域住民及び精神障害者等の福祉施設入所者に、運動による健康づくりに関する講話と実践を行った。運動の重要性及び、当該日に行う内容に関する講話を行い、理論に基づいて実践を行うことで、参加者は、健康寿命延伸についてより理解を深めたと考えられる。また、定期的な講座では1年間の成果をみるため、簡単な体力測定を取り入れた。現場には、運動実践健康運動指導士スタッフが中心になって、時にスポーツ健康学科の学生も参加した。定期的に開催された運動教室では、外部講師を招いたりレクリエーションを取り入れたりと楽しく継続できることを重点として、施設では楽しみながら、無理なく軽いトレーニングができるように提案した。地域から講師依頼のあった健康づくり教室等のはのべ126回で受講者はのべ1,894人であった。参加住民からは、運動教室が生きがいとなった、知らず知らずのうちに痛みが取れた等の感想をいただき、好評であった。また、レクリエーション全国大会において地域での取り組みを、参加学生とともに発表した。年間を通して自主参加した学生は、延べ50人以上であった。学生がスタッフとして実践指導した運動教室の中には、参加者の年齢幅や体力差が大きく、臨機応変の工夫が求められ貴重な体験のできる現場があった。正課であるゼミナールや実習とは異なる場所で自分の学びを生かし、また反対にこうした体験を正課で役立てながら、地域貢献と自らの成長のための学習に取り組むことができた。

「健康教室の講師」（通年75回）（依頼元：塩尻市吉田公民館、指導教員：中島節子）

「介護予防運動教室の講師」（通年10回）（依頼元：朝日村長、指導教員：中島節子）

「介護予防運動教室の講師」（通年22回）

（依頼元：塩尻市本山区長、指導教員：中島節子）

「介護予防運動教室の講師」（通年10回）

（依頼元：長野県農協共済福祉事業団等、指導教員：中島節子、田邊愛子）」

「特別養護老人施設でのレクリエーション」（6月）

- (依頼元：特別養護老人ホーム「岡田の里」、指導教員：犬飼己紀子)
- 「ウォーキング講座実技指導」(7月)
- (依頼元：塩尻市役所健康づくり課、指導教員：田邊愛子)
- 「軽運動を伴うレクリエーション事例発表」(9月)
- (依頼元：長野県レクリエーション協会、指導教員：犬飼己紀子)
- 「山形村こころケア 朝日村デイケアたんぽぽ交流会」(10月)
- (依頼元：朝日村長、指導教員：犬飼己紀子)
- 「『66歳のいきいき講座』の講師」(10月) (依頼元：朝日村長、指導教員：中島節子)
- 「コレ捨て減る脂一(ヘルシー)講座 ウォーキングの話と実技」(10月)
- (依頼元：塩尻市役所健康づくり課、指導教員：中島節子)
- 「お元気づくり講座『高齢者の健康体操指導』の講師」(10月)
- (依頼元：塩尻市社会福祉協議会、指導教員：中島節子)
- 「交流会レクリエーション指導」(12月)
- (依頼元：就労支援事業所そよ風の家、指導教員：犬飼己紀子)
- 「健康教室の講師」(1月) (依頼元：朝日村長、指導教員：中島節子)

②啓発事業 メニュー開発

地域等からの依頼を受け、人間健康学部の学生が主体となり、本ステーションの管理栄養士、健康運動指導士の専門的サポートと学科教員の指導のもとに実施した。

- (ア)「須坂高校野球部栄養サポート(通年8回)
- (依頼元：須坂高校野球部、指導教員：廣田直子)
- (イ)「有線放送番組の企画と出演」(毎月放送、収録4回)
- (依頼元：更北有線放送、指導教員：廣田直子、中島節子)
- (ウ)「食育SATシステムによる食事診断」(12月)
- (依頼元：長野県諏訪保健福祉事務所ほか、指導教員：廣田直子)
- (エ)「食育SATシステムによる食事診断」(2月)
- (依頼元：長野県木曾保健福祉事務所ほか、指導教員：廣田直子)
- (オ)「松本山雅スタジアム『食』第5期メニュー開発」
- (依頼元：株式会社 松本山雅、指導教員：廣田直子、石原三妃、成瀬祐子)
- (カ)「世界健康首都会議 健康弁当提案プロジェクト」
- (依頼元：松本市ほか、指導教員：成瀬祐子、水野尚子、石澤美代子)
- (キ)「6次産業安曇野そばスイーツコンテスト支援」
- (依頼元：安曇野はそばの郷振興委員会、指導教員：矢内和博)

③広報事業

ホームページ、学報「蒼穹」、キャンパスガイド等で、内外に当ステーションの活動内容等を紹介したほか、在学生へのオリエンテーションにて当ステーションの活動を紹介し、学生の参加を促した。

また学外の研究討論会において当ステーションの活動と具体的な取組みを発表した。

- (ア) 地域健康支援ステーションホームページのブログ記事の更新(随時)
- (イ)「蒼穹」第115、116、117、118号原稿執筆

(ウ) 在学生オリエンテーション (3月)

(エ) 長野県健康づくり研究討論会発表「学生の提案する健康弁当プロジェクトの取組について」
(2月) (主催：長野県健康福祉部)

④卒業フォローアップ事業

卒業した学生を中心に健康知識の習得やキャリアアップをめざし、実施した。

卒業生フォローアップ研修会 特別講演「ペップトークで人生が変わる」堀内裕一朗氏

4) 点検・評価の結果<C>

①健康づくり指導事業

ア：栄養健康教育 イ：運動実践指導

地域から受け入れた健康づくり指導事業は129件で受講者はのべ2,169名であった。そのうち、学生が同行した事業は20件で、のべ49名の学生が参加し、日ごろの学習成果を実践場面で発揮することができた。

健康づくり指導事業では、ステーションスタッフが講師となって出向いた指導により、大学の専門的知識等を地域の資源として還元することができたと考えられる。

学生は、現場に同行した活動においては健康教育におけるマネジメント(PDCAサイクル)を実践的に学ぶことができ、学内で既習の内容を実際の教育現場で活用することで自身の専門知識の不足を知り、更に深く学び直すことにつながった。また、学外に出て地域の人々と接する中で言葉づかいや態度等を学び、就職活動や就職後の就業にも生きてくる経験となった。学生の同行が難しい講座では、教育現場を想定しながら健康教育の内容を企画立案する形で事前に教育教材の作成補助などを学生と連携して進める活動も行った。

指導の依頼主の中には、学生が関与することで、講座全体に活気が生まれるという相乗効果を期待することもあり、概ね好評であった。

②啓発事業 メニュー開発

啓発事業の受け入れは7件で、のべ118名の学生が活動に参加し、今までの学習の積み上げを実際の成果と結びつけることができた。

指導教員とステーションスタッフのコーディネートのもと、学生が主体となって活動した。アイデアを提案するものから、本人が実際に試作調理するもの、飲食業者に採択され商品化されるもの等、幅広い活動を展開することができた。実際に商品化された物として、松本山雅フットボールクラブのスタジアム飲食物は7種類で、販売日にはそれぞれ完売し、中には販売日以降の試合日にも販売を続けてくださり200食超を売り上げた商品もあった。世界健康首都会議で販売した健康弁当は当日240食が売れ、話題の提供等大いに地域に貢献することができた。学生にとって、自分のアイデアが具体化され商品となって実際に販売され、地域の方々他に購入していただくことによる達成感は大きいものであった。このような事例は、テレビ・FMラジオ・新聞等に数多く取り上げられ、学生の活躍が広く知られることとなった。

③広報事業

ホームページ訪問数(セッション)5,287、訪問人数4,442人であり、多くの方に当ステーションの活動を披露することができた。学報「蒼穹」への原稿執筆は年4回行い、多くの読者に広報を行うことができた。

在学生へのオリエンテーションや掲示板にて学生の参加を促すと共に、県の研究討論会において当ステーションの活動と具体的な取組みを発表し、健康づくり関係機関等に本ステーションの存在を広くアピールした。

④卒業フォローアップ事業

在学時に登録した卒業生に対し、キャリアアップや専門知識習得をめざし、COC講演会と併催で行った。今年度は卒業生の参加は得られなかった。

5) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

本学独自の取り組みであるため、財源の確保が重要である。また、活動は地域からの依頼に拠るため、当ステーションの存在や実践を周知し認知度を高めて依頼につながるよう、さらに努力が必要である。

また、地域の健康づくりを効果的に支援するために、管理栄養士スタッフと健康運動指導士スタッフが有機的に連携した活動を展開していくことも重要であり、その活動を通じて人間健康学部として広い視野を持った学生の育成もできると期待される。

平成25年度後期から健康運動指導士の専任スタッフが配置され実績を積んできていることにより、当ステーションへの運動指導の依頼が増加している。ただ、限られたスタッフの中では依頼のすべてに対応することが難しくなってきたため、今後ステーションとして派遣できる人材の確保をどうするのか、地域の要望にどのように応えていくのかなど、課題を整理していきたいと考えている。

①健康づくり指導事業

運動指導、栄養指導とピンポイントで依頼されることがほとんどであるが、健康づくりには運動と栄養のバランスも重要な事柄である。そこで、栄養と運動のそれぞれのスタッフが連携を図り必要に応じて協同で対応するなど、広く人間健康の視点を意識した活動として充実させるとともに、地域活動をさらに推進していく。

受託事業で使用する指導用の媒体、器具などは、学生にも活用体験をさせるとともに、学生の視点によるよりわかりやすい教材や資料の作成なども推進し、将来、健康運動指導士や管理栄養士として就業した場合にも活用できる共有教材として整備を進めていく。

②啓発事業

メニュー提案は専門知識の学習がまだ十分ではない低学年でも行いやすい活動であるため、例年並みの受託をめざすとともに、多くの学生が参加しやすいよう学生への働きかけを工夫していく。

③広報事業

活動報告を記事としてまとめ、積極的にホームページや学報等に掲載していくとともに、学内外に対するステーション活動のアピールについて、機会を捉えて行っていく。

④卒業フォローアップ事業

人間健康学部の卒業生の資質の充実および向上を図るとともに、卒業生相互の交流の場として、有益となる事業（研修会等）を企画し、卒業後のネットワーク構築につなげていく。

<執筆担当/地域健康支援ステーション運営委員会 委員長 廣田 直子>

8. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会

本年度の運営委員会は学部・短大部の各学科より教員1名ずつ、事務局2名（教務課長・職員）計8名で運営した。委員長は昨年に引きつづき短期大学の廣瀬が担当した。

「地域社会との学生コーディネート機関」、「学生の活動を側面から支援する」といった本来的機能を点検評価し、継続的に高めていく。それは、学生が地域実践と関わることで大学における学びの意義を見出し主体的に学ぶ姿勢へと変化し、その学びを専門ゼミや専門教育で地域実践に生かしていくサイクルの構築を目指している。しかし最近、専門ゼミナール、専門教育などとの棲み分けに課題を残していることから、学内における役割の明確化が求められている。

地域づくりコーディネーター養成講座については、地域からの参加については一定の評価を得ているが、学生の参加は少なく魅力あるプログラム・到達目標の構築が求められている。

1) 年度当初の事業計画<P>

地域づくり考房『ゆめ』の年度当初の計画は以下のとおりである。

- ① 学生の地域活動促進事業
- ② 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業
- ③ 考房『ゆめ』自主事業
- ④ センター組織の整備事業
- ⑤ 広報啓発事業

2) 事業報告<D>

①学生の地域活動促進事業

新入生の考房『ゆめ』への活動促進を図るため、各学部の新入生オリエンテーションにおけるガイダンスや学生スタッフによる説明会「ゆめカフェ」を4月に行った。また、4月には、人間健康学部及び総合経営学部の1年生講義「地域社会と大学教育」、5月には短期大学の1年生講義「基礎ゼミナール」にて、地域社会活動の意義と役割および地域活動紹介を行い、学生の地域活動への参加促進を図った。

今年度の考房『ゆめ』の地域活動の年間受入れ件数は117件、そのうち学生の年間参加件数は81件あり、参加学生の延べ人数は1,199人となった。

②学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

地域からの依頼事業への参加は29件（学生の参加は延べ70人）あり、学生・地域両者への相談・支援を行った。

(ア) 学生の自主企画

学生の自主企画による活動は、学生チャレンジ奨励制度対象プロジェクトが5チーム、対象外プロジェクトが2チーム稼働した。

(イ) 地域からの依頼による活動

行政や企業、自治会、NPO、施設等からの依頼を受けて学生がプロジェクトを組み実施したイベントや学生自ら企画したイベントは9件あり、それぞれの自主性・主体性を重んじた活動支援を随時行った。

(ウ) 地域とのパートナーシップ事業

年間 16 事業が展開され、地域を拠点に活動し地域課題を肌で感じ、その解決のきっかけとなる取組が実施された。5月～11月の「すすき川花火大会」の関わりは、町会や地元企業、行政の協力により4年ぶりに復活したイベントであり、本学学生も実行委員会に加わり活動した。中断していた松本の風物詩である花火大会を復活させるために、地域住民や企業行政と共に行動することで、地域づくりのきっかけとなる貴重な活動を経験することができた。

③ 考房『ゆめ』自主事業

(ア) 学生チャレンジ奨励制度と企画書作成指導

地域づくり学生チャレンジ奨励制度審査会は、継続的事業については3月(前年度)に行い、1年生などが加わることができる新規事業については、9月に計画したが、応募件数がなく、本年度は継続プロジェクトのみとなった。プロジェクトについては、個別指導を随時行い活動の指導を行い、また、随所で会計指導・報告書作成指導や支援を行うことで、奨励金の適切な運用を管理しつつ自主事業の支援を行った。また、3月18日には、学生チャレンジ奨励制度の活動報告会を実施した。さらに、同日次年度の学生チャレンジ奨励制度の審査を行い、6プロジェクトが認定された。

(イ) 松本大学地域づくりコーディネーター養成講座

本年度で第4期を迎えた「松本大学地域づくりコーディネーター養成講座」は、学生と社会人がともに学び高め合う講座で、「知る」(基礎講座)、「考える」(応用講座)、「育む」(実践講座)、「高める」(プレゼンテーション)により、地域づくりのコーディネーターに必要な知識・技術を身に付けることを目的としている。本年度この講座のうち「知る」(基礎講座)と「考える」(応用講座)の講座が、総務省のモデル事業「地域の担い手創造事業」に採択された。そのため、「知る」(基礎講座)、「考える」(応用講座)を修了した者が、次年度開催される「育む」(実践講座)、「高める」(プレゼンテーション)を受講し松本大学地域づくりコーディネーターとして認定されることとなる。第4期の受講者は21名(社会人17名、学生4名)である。

(ウ) センター組織の整備事業

相談・支援体制は、専任の教員1名、職員3名(内2名パート)、学生スタッフ6名、取材班(地域活動撮影スタッフ12名、ゆめ通信編集委員19名)31名を配置し、学生の活動支援の強化を図った。教職員によるコーディネーターとして、学生及び地域ニーズへの相談・支援、活動への調査・発掘、活動に関する情報の収集・整理と提供、活動紹介及び連絡・調整・資源の発掘・開発及び支援ニーズの把握等を行い、学生が地域活動をスムーズに展開できるよう支援した。

a) 学生スタッフの配置

学生スタッフを配置してから6年目となった。今年度の学生スタッフは、継続メンバーであったため活動運営がスムーズに進行し、研修・交流会では主体的に会を企画運営することができ、各プロジェクト同士の横の連携もでき、プロジェクト活動は活発に展開することができた。

b) 研修会・交流会の開催

26年度の研修会や交流会は、学内外さまざまな分野で行われた。教職員が関わりながら研修会形式で各プロジェクトの学生の質向上や地域や関連団体とのコーディネーターを行った。学生が中心となってすすめていくプロジェクトは、地域や関係団体とのトラブルも多いため研修形

式をとりながら指導を行っている。

学生スタッフ・プロジェクトリーダー合同研修会は前期・後期に学生が企画し実施された。ここでは、各プロジェクトが活動の振り返りと今後の活動に向けて話し合いを行うとともに、連携を図る情報交換や交流会行われた。

「全国まちづくりカレッジ in 東海（9月）」には、学生14名が参加した。また、新入生に向けた学生による学生のための情報誌「Vole re!!」制作は、昨年度加わった新メンバーが中心となり積極的に取り組み、地域との関係も深まり、充実した内容となった。

c) 視察の受入

文部科学省のCOCに採択されていることやこれまでの実績により、大学や調査機関などからの視察依頼があり、多くの教職員・学生が訪れた。

⑤広報啓発事業

学内外に向け、ウェブサイト（ゆめHP）・学生ブログによる情報発信やゆめ通信による広報紙発行、蒼穹への活動記事掲載を行った。また、（株）アルピコの好意で設置していただいている北新松本大学駅前の掲示板も活用し学生や地域の駅利用者への情報発信を行った。新聞社各社にも記事として学生の活動が取り上げられた。月刊イクジイにも活動が紹介された。

3) 点検・評価の結果<C>

①学生の地域活動促進事業

新入生の入学時のオリエンテーション、ゆめカフェ、講義「大学教育と地域社会」や「基礎ゼミナール」、ゆめ掲示板等による情報提供により、学生の地域活動への参加に繋がった。

その際、学生の興味関心だけではなく、教育的な視点をもって、学生たちの創造性・自主性・主体性を重視した活動となるよう取り組んだ。また、学生に地域人としての生き方を学ぶ機会を提供し、学生の想いと地域の想いを対等につなげ、地域と協働・共創した活動に向け、総合的に支援した。

このことで、学生は実践的な活動から学習し「積極的に取り組む自主性」「企画を立案する発想力」「視野の拡大と異文化対応力」「実体験に基づく社会認識力」「やり遂げる持続力」「困難やアクシデントを克服する忍耐力」「様々な他者との協調性」等が育まれた。学生は地域に学び、地域は学生のパワーや感性を得る、両者の相乗効果のなかで地域が元気になり、大学の社会貢献を推進する力となった。地域から寄せられる期待や信頼は学生の自信に繋がった。

②学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

地域との連携活動により、地域の実態や課題を知り活動につなげるための活動が展開され学生の成長につながった。さらに、地域課題を中心に各プロジェクト間の連携が生まれ、新たな活動ステージへと発展した。学生は、経験を重ね関係機関を通じて地域のニーズを知り、自らの活動につなげることができるようになってきている。

③考房『ゆめ』自主事業

平成26年度地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、25年度からの継続及び在学生の新規事業の募集を3月に行い、追加募集として1年生の企画も含めて9月に追加募集を行った。しかし、昨年に引き続き9月の追加募集は0件であった。新入生はまず、既存のプロジェクト等への参加をするため、地域との関わり方や、自主企画の難しさを知る機会となったためと考えら

れる。昨年度に引き続き9月の応募を継続するか否かについては検討が必要である。

第4期を迎えた松本大学地域づくりコーディネーター養成講座は、社会人の認定者により地域で活躍すると共に本学学生と協働事業も展開され本学と地域とのネットワークが形成されつつある。本年度は総務省のモデル事業「地域の担い手創造事業」に採択されたこともあり、社会人の参加が増加したが、学生の参加は少なく、学生にとって魅力ある講座、受講しやすい講座環境を検討する必要がある。

④センター組織の整備事業

学生スタッフを配置してから6年目となり、学生による活動運営がスムーズに進行し、研修・交流会では主体的に会を企画運営することができるようになってきた。各プロジェクト同士の横の連携もでき、プロジェクトが合同で活動することもできるようになってきた。

⑤広報啓発事業

積極的な情報発信は、地域社会に対して「ゆめ」の活動や本学の教育・学生支援活動への理解が深まり、学生と地域住民との円滑な連携を促す効果が生まれた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

地域社会の創造と発展に寄与する人材を育成するために、考房『ゆめ』を拠点に、施設・人材の両面で拡充をはかり、支援体制の一層の充実・発展を目指して事業展開していく。

①学生の地域活動促進事業

・学生の地域活動の原点となる開設以来の地域受け入れ票については、学生の参加状況や活動内容の再確認を行い、学生のスムーズな地域活動への受け入れ体制を整えていく。

②学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

・先駆的・開拓的課題への対応として、学生および地域からのニーズによる新プロジェクトの開発・創出・促進を図っていく。また、継続事業の支援も強化していく。

③考房『ゆめ』自主事業

・地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、3月と9月年の2回の募集とすることで、既存プロジェクトは年度当初から事業展開をすすめ、未熟な自主企画についてはじっくりと時間をかけて企画から支援を展開していく。しかし、9月の募集については、2年続けて応募者がいない状況であるため、次年度の応募状況から事業の見直しをすることとしたい。

④センター組織の整備事業

・各プロジェクトの適正な事業推進を図るため、全プロジェクト対象に年度初めに年間計画書の作成とプレゼンテーションの機会を設ける。また、中間および年度末に活動振り返りと引き継ぎ及びリーダー研修を実施することで、地域に求められる人材育成を目指す。
・「全国まちづくりカレッジ」等の他大学や他地域の活動に参加し、交流研修を通じ、学生の主体性形成に向けた資質向上を図る。

⑤広報啓発事業

・ホームページやブログ、掲示板での的確・迅速な情報発信を進める。また、活動の動画配信等学生の視点からの情報発信を進めていく。

<執筆担当/地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 委員長 廣瀬 豊>

B：学生支援部門

1. 学生委員会

(1) 全学学生委員会

平成 26 年度、全学学生委員会は各学部より選任された学部主任 3 名及び委員である教員 3 名（各学科より 1 名）、学生課長及び学生課職員 4 名の計 11 名によって構成され、計 11 回の全学学生委員会を開催して議論を重ねてきた。本年度に委員長の改選があった。

1) 年間計画<P>

学生委員会では正課教育と課外活動が大学教育の両輪であるとの認識の下、これまでの積み上げを最大限に活用し、課外活動全体の活性化を図ってきた。こうした学生の活動の活性化に伴い、結果が出始め、学生からの要望も従来以上に多彩なものとなってきており、本委員会における課外活動への援助は重要なものと位置付けられるようになっていきている。以上を踏まえ、全学学生委員会では平成 26 年度の計画を以下のように立てた。

- ①学友会活動の支援
- ②クラブ活動の支援
- ③学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み
- ④その他（学生生活支援）

2) 現状の説明<D>

①学友会活動の支援

本学には、短期大学部、総合経営学部及び人間健康学部の各学部には学生の自治組織である学友会が存在する。この各々による独自の活動に加えて、全学的な連携を図り、学生同士の横の繋がりを積極的に活動へと展開してきた。今年度、全学的に取り組まれた主な行事は以下のとおりである。

- ・3 学部合同新入生歓迎会（4 月 5 日）：新入生歓迎とクラブ・サークルの紹介等
 - ・松本子どもまつり（5 月 2 日）：地域の子どもの記念手形づくり提供
 - ・花火大会（7 月 9 日）：学内での花火大会
 - ・松本ぼんぼん（8 月 2 日）：湘北短大学友会を招き松本大学連として参加
 - ・学部合同体育大会（M カップ）（9 月 27 日）：一昨年ハイキングに代わる行事
 - ・大学祭（10 月 18 日・19 日）：テーマ「あの一、隣あっています？～きっかけはココから～」
 - ・焼き芋大会（12 月 10 日）：短大中庭にて実施
 - ・学友会 3 学部合同リーダーズキャンプ（2 月 9 日）：
3 学部学友会役員が来年度活動について議論
 - ・学部・短大合同スノーボード教室（2 月 12 日）：
爺ヶ岳スキー場にて開催、約 40 名参加
 - ・学友会新聞「Page. 1」の発行（7 月・12 月）：豊富な学生の話題を提供
- 以上の行事を通して 3 学部学生間の交流が促進され、連携が強化された。

②クラブ活動の支援

- ・「松本大学課外活動団体運営要綱」が昨年度作成され、本年度から施行された。その運用に従

い、クラブ等の部長については学長より委嘱されることとなった。

- ・学生の自主的な活動であるクラブ活動におけるリーダー育成の観点から、従来通り、「松本大学クラブ協議会リーダーズキャンプ」を今年度も開催した（8月4日）。
- ・新規の同好会として、松大イベントサークル、図書館同好会の設立を審議し、承認した。
- ・強化部・重点部の監督・コーチ等の選定・継続について必要性の検討、新規選考においては面接等を行った。また、学外指導者規程（内規）に基づき、学外指導者の更新を行った。
- ・スポーツ特待生の継続審査を行った。
- ・その他必要に応じてクラブ活動、競技において、授業への届け出等の対応を本委員会にて協議した。

③学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み

ア) 学内マナー向上への取り組み

- ・キャンパスルールブックの内容の見直しを行い、新年度配布へ向け検討を行った。
- ・マナー向上、健康維持の観点から、禁煙への取り組みを強化した。健康安全センターの受動喫煙調査を参考に学生への取り組みを呼びかけた。喫煙場所、喫煙時間の縮小へ進む。

イ) 不正乗車撲滅に向けた取り組み

- ・本委員会において学生処分の検討、及び今後の抑止策について検討を行った。従来同様、不正乗車の撲滅に向けた大学としての姿勢を強く示すことを目的に、警告文の掲示、メールでの事前配信、オリエンテーション時での呼びかけ、キャンパスルールブックでの注意喚起等を行った。
- ・処分決定の起算日について、一部の見直しを行った。

④その他（学生生活支援）

- ・学生の修学支援に関連し、日本学生支援機構奨学金の貸与に際した面接や対応、及び経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査、面接を行った。
- ・経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度の運用に当たり、学生本人の自助努力の確認、利用後の効果性等、細部にわたり検討を数回行う。
- ・同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰の選考に関わる機会が多いため、その都度、全学的に協力を求め、学生の活躍に敏感に対応するよう対処した。

3) 点検・評価の結果<C>

①学友会活動の支援

- ・第48回梓乃森祭を中心に活発な学友会活動が展開されており、その後方支援を行う。特に予算管理について強化した。

②クラブ活動の支援

- ・新規同好会結成への働きかけ、及びリーダーズキャンプの研修内容充実化などより活性化しているクラブ活動に対して支援を行った。
- ・「松本大学課外活動団体運営要綱」に基づく運用で指導者の充実、責任の所在など明確になり適正な運用に寄与している。
- ・学生課の「松本大学課外活動団体運営要綱」に基づく年度更新業務が明確になった。

③学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み

- ・不正乗車は年々減少している（昨年度3件→本年度2件）。しかし、完全撲滅には至っていない。
- ・学内マナー向上はみられるも、一部不当なマナー行為が見られる。徹底した対処が必要である。

④その他（学生生活支援）

- ・今年度は、「日本学生支援機構奨学金」「経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度」について、データに基づいて利用率等の分析を委員会にて行った。学生の動向を適正に把握することに努めた。
- ・各種学生表彰について、運動系の学生の活躍が目立つことを評価した。

4) 次年度へ向けた改善・改革に向けた方策＜A＞

①学友会活動の支援

- ・従来同様、正課教育と課外活動が大学教育の両輪であるとの共通認識の下、より多くの学生に学友会活動や行事への参加を促していく。
- ・3学部共通して、学友会活動が学生の自主的、かつ主体的な活動となりつつあり、積極的な支援を継続していく。
- ・予算管理や活動内容等、より精度の高い活動内容を求めていく。

②クラブ活動の支援

- ・クラブ・同好会の設立、運営等に対し支援を積極的に行い、活動の活発化に寄与する。
- ・リーダー研修会等を通じ、学生が成長する機会を継続して設ける。
- ・「松本大学課外活動団体運営要綱」及び「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」を基に、責任の所在を明確にし、より活動に専念できる環境整備を今後も検討していく。

③学内マナー向上、不正乗車撲滅に向けた取り組み

- ・日々の生活の中から、適正な学生への注意喚起を働きかけていく。
- ・不正乗車撲滅については、安易な厳罰化に配慮しつつ、発生件数0件を目指す。社会的マナー遵守への理解を学生に求めていく。

④その他（学生生活支援）

- ・既存の制度や各種表彰の運営上の充実を図る。特に学生支援の観点から、その必要性を常に念頭に置いて検討を重ねることとする。
- ・学生の健康に留意しつつ、それに必要な取り組みは積極的に行う。

＜執筆担当／全学学生委員会委員長 尻無浜 博幸＞

(2) 総合経営学部学生委員会

総合経営学部の学生委員会は、全学学生委員会の下部組織に位置付けられ、全学学生委員でもある主任1名と学部委員5名の計6名（内2名は全学学生委員会委員である）と学生課の職員によって構成されている。学部単独の会議は2回開催した。

1) 当初の計画＜P＞

学部部会においては、平成26年度において以下のような計画を立てた。

- ①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

- ②学部学友会の組織強化と事業の実施
- ③学内でのマナー徹底

2) 現状の説明<D>

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

全学委員会と関連する議案として、本学部に関与する不正乗車は、今年度は発生しなかった。しかし、対処過程を掌握した上で学部において共有した。不正乗車ではないが、盗難事件等起きており、その処分は厳格に対処した案件があった。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

学部学友会が主催する行事は多くありその活動ぶりは充実している。両学科の学生が平均的に学友会の執行部に加わり盛り上げている。大学祭に発表する「地域貢献大賞」があるが、普段の学部の活動を丁寧に精査しその賞へのエントリーを学部的に試みた。平成26年度卒業生向けに卒業文集が昨年度に引き続き作成され、式当日配布された。

③学内でのマナー徹底

全学的な取り組みに関連して、学部においてもより丁寧に共有し学内マナー向上に取り組んだ。特に男子学生が多いことから、喫煙マナーについては、本質的なアプローチを行った。

3) 点検・評価の結果<C>

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

結果的に不正乗車は今年度みられなかった。不正乗車が発生しそうな時期を想定して注意喚起を行ったことは一定の効果があったと思われる。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

こうした一連の試みが「地域貢献大賞」へのエントリーへと実際に繋がった。また、事業への学生参加は確実に増え、一定の評価はできる。

③学内でのマナー徹底

マナー違反の学生に対しては、その都度指導を徹底することとした。また、必要に応じて掲示板等で働きかけた結果、マナー向上の文化を多少なりとも作りあげることが出来た。

4) 成果と今後の改善点<A>

①不正乗車の撲滅とその厳正な対処

継続した学生への注意喚起を行う。また盗難事件等発生において加害者側にある場合は、社会的責任を果たすべく対処を厳正に行う。

②学部学友会の組織強化と事業の実施

活動が安定してくると活動が内向きになる傾向になるため、事業内容の見直しによってその充実を図っていく。3学部共通のバランスを引き続き保っていく。

③学内でのマナー徹底

全学的な取り組みの中で、学部でできる教員の協力、意識の統一を図っていく。マナー向上とは日常性のもので、その都度対応できる体制、取り組みを心がける。

<執筆担当/学生委員会 総合経営学部主任 尻無浜 博幸>

(3) 人間健康学部学生委員会

平成 26 年度、人間健康学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員 3 名、学生課長および学部担当の学生課職員 1 名によって構成され、議論を重ねてきた。

1) 年間計画<P>

学部部会においても、全学と同様、学友会活動やクラブ活動等の課外活動の活性化、及び、より快適な学生生活への支援を目的とし、平成 26 年度当初の計画を以下のように立てた。

- ①学友会活動の支援
- ②その他（主に学生への生活支援）

2) 現状の説明<D>

①学友会活動の支援

- ・人間健康学部の学友会は、執行部、学祭局、体育局、渉外局、及び報道局により構成されており、各局員が各クラスより選出されている。
- ・人間健康学部学友会が独自に行った行事は、フレッシュマン・フェスティバル、学生大会、体育大会（K-1）及び卒業文集の発刊であった。
- ・上記に加え、他学部の学友会と協同で行ったものは、ウェルカム・パーティー、まつもと子どもまつり、総合経営学部・人間健康学部合同体育大会、花火大会、松本ぼんぼん（湘北短期大学との交流会含む）、大学祭「第 48 回梓乃森祭」、3 学部交流会、学友会主催スノーボード教室、学友会学内放送、及びフリーペーパーの発刊、であった。

②その他（主に学生への生活支援）

- ・交通防犯講話を実施した。
- ・人間健康学部では 21 年度より、在学生全員が大学生協の「学生総合共済」に必ず加入することになっている。今年度も必要に応じて、加入者の確認や未加入者への呼びかけを行った。

3) 点検・評価の結果<C>

①学友会活動の支援

- ・学部の枠を超えた学友会活動が活発に展開され、その支援を行った。

4) 年度へ向けた改善・改革に向けた方策<A>

①学友会活動の支援

- ・昨年度に引き続き、学友会活動が学生の自主的で主体的な活動となっており、より積極的な支援を行っていききたい。

②その他（主に学生への生活支援）

- ・学生の状況を把握した上で、交通防犯講話等も継続して実施していく。
- ・本学部では、在学生全員に学生総合共済（又は同等の保険）への加入を義務づけており、来年度以降も必要に応じて加入者の確認や未加入者への呼びかけを行っていく。
- ・学部としても、様々な機会を通じて不正乗車の撲滅に向けた取り組みを行っていく。
- ・禁煙および喫煙マナー（喫煙可能時間の厳守や歩きタバコやポイ捨て）の指導を継続して行っていく。

<執筆担当/学生委員会 人間健康学部主任 沖嶋 直子>

(4) 松商短期大学部学生委員会

1) 年度当初の計画<P>

松本大学松商短期大学部学生委員会の平成 26 年当初の計画は以下の通りであった。

- ①学生の自主活動の支援
- ②学生生活における健康・安全
- ③ルール・マナーの教育

2) 現状の説明<D>

①学生の自主活動の支援

(ア)学友会活動の支援

松本大学松商短期大学部の学友会は 42 名で構成される常任委員会がリーダーとなって以下のよ
うなイベントを行った。

a) 松商短期大学部学友会単独で行ったイベント

- ・新入生歓迎会 (4 月 5 日) : 短大生対象の新入生歓迎会
- ・夏の体育大会 (7 月 2 日) : やまびこドームにおいて開催
- ・湘北短大リーダーズキャンプ参加 (8 月 20 日、21 日) :
湘北短大校内: 短大生 18 名 (うち学部生 2 名)、教職員 2 名が参加
- ・秋の体育大会 (11 月 5 日) : 松本市総合体育館において開催
- ・学友会常任委員改選 (11 月~12 月) . . . 選挙および互選により決定
- ・次期学友会リーダーズキャンプ (12 月 23 日) :
学友会役員と次期役員が集まり、次年度活動の構想などを相談
- ・「学友」の発行 (3 月) : 教職員や学生が寄稿

b) 松本大学総合経営学部学友会及び人間健康学部学友会と共同で行ったイベント

- ・3 学部合同新入生歓迎会 (4 月 5 日) : 主としてクラブ・サークルの紹介
- ・松本子どもまつり (5 月 3 日) : 地域の子どもの対象とした記念手形づくり
- ・花火大会 (7 月 15 日) : 学内での花火大会
- ・松本ぼんぼん (8 月 2 日) : 湘北短大友会を招き、松本大学連として参加
- ・大学祭 (10 月 18 日、19 日) テーマは「あの一、隣あいてます?」~きっかけはココから~
- ・ハロウィン (10 月 31 日)
- ・学友会クリスマスパーティー (12 月 17 日)
- ・焼き芋大会 (12 月 13 日) : 短大側中庭にて実施
- ・学友会 3 学部合同リーダーズキャンプ (2 月 9 日) : 3 学部学友会役員が来年度活動につい
て議論
- ・学部・短大合同スノーボード教室 (2 月 12 日) : 大町市爺ヶ岳スキー場にて開催
- ・学友会新聞「Page. 1」の作成 (7 月、12 月)
- ・学友会ブログの運営 (通年)

(イ)サークル活動の支援

平成 25 年度の短大部のサークルは以下の通りであった。

- ・男子バスケットボール ・女子バスケットボール ・女子バレーボール
- ・フットサル ・ファッション

なお、大学部クラブ協議会に属する団体に短期大学生が所属する場合は、その団体に対して予算から分担金を拠出した。

本学および後援会の支援を受けて参加した大会は以下の通りである。

- ・全国私立短期大学体育大会（9月1～4日）
- ・長野県私立短期大学体育大会（9月12日）

前者には男女バスケットボール、女子バレーボール、および、卓球のサークル員、計31名が参加した。女子卓球ではダブルスで第三位という好成績を収めた。後者は、本年度本学が主幹大学となり、会場の設営、運営など、幹事校と協力し、学友会及び学生委員会主体で行われた。男女バスケットボール、女子バレーボール、女子バドミントンのサークル員、計34名が参加した。女子バレーボールが二位、女子バドミントン、女子バスケットボール、男子バスケットボールが第三位という好成績を収めた。その他、昨年度始まった、湘北短期大学との交流試合には、湘北短期大学から学生を招き、男女バスケットボール、女子バレーボールの交流戦を行った（12月14日）。その後、学友会常任4役が司会をし、軽食を食べながらの懇親会も開かれた。

(ウ) 他者理解、自己研さんのきっかけ及び場の提供

昨年度同様学生が他者との関わりを通して、能動的、および、責任感や自覚のある活動を行うことができるよう指導するため、以下のような研修会、イベントを行った。なお、リーダー研修会については本年度は成果をよりゼミ活動に活かすことができるように、ゼミ担当教員にゼミ長、副ゼミ長が記したリーダー研修後のアンケートを配布したり、報道局が活動を記録したりし、その映像を大学祭で公開した。

- ・リーダー研修会（9月19日、20日）：昨年度同様1日目をうみてらす名立（新潟県上越市）、2日目をラボランド黒姫（長野県信濃町）で実施した。
- ・ウェルカムフェアでの学生スタッフ起用（3月14日）：本年度は各ゼミのボランティアを加え、さらにゼミ長、副ゼミ長からなる代議員会のメンバーを加えた。

②学生生活における健康・安全

学生の健康は健康安全センターが担当し、心理面では嘱託非常勤のカウンセラーもおり、さらに24時間電話対応の外部業者による健康相談も利用した。また、1年生に対しては本学保健師作成による資料を使って、各ゼミで禁煙講習も行った。

交通安全および防犯についての講習は入学直後のオリエンテーションの中で松本警察署から講師を派遣して頂き、実施した。

③ルール・マナーの教育

ルールやマナーは入学直後の1年生オリエンテーション内で「松本大学キャンパスルールブック」を用いて伝えた。また、電車の不正乗車等については後期オリエンテーションや進級オリエンテーションの中で厳重に注意を与えた。

3) 点検・評価の結果<C>

①学生の自主活動の支援

学友会は常任委員長を中心に各局との連絡を密にして活動した。学生委員会はできる限り学生の自主活動を促す方向で支援した。サークル活動はスポーツ系のサークルにおいては本年度

も大会での好成績が示すように活発に活動を行っている。また、文化系サークルも大学祭などで、日頃の活動の成果を発表している。さらに本年度は短期研修、交換留学生の受け入れ増加などに伴い、国際交流クラブ、茶道部、ラート部などに留学生と交流する場を提供し、自主活動の支援を行った。しかしながら、男子学生数の少なさに加え、サークル加入数に偏りがあり、全国、県レベルの大会に出場できない部もあった。数の偏りがサークル開催日などの情報提供の不足が要因であることも考えられ、今後随時サークルの情報を伝えるシステムを構築する必要があるかもしれない。また、文系サークルの活動の支援については広がりつつあるが、評価などを含め、支援の検討が必要だと思われる。

リーダー研修会は今年度は参加しているゼミ長・副ゼミ長がより成果を発揮できる場を提供できるように内容を改めたが、ゼミ担当教員との連携についてはまだ改善の余地がある。また、新入生への時間割づくりのアドバイザーなどを経験できる貴重な場の提供については、本年度はさらにゼミによるアドバイザーの数の偏りの是正も含め、ゼミ長、副ゼミ長で構成される代議員会に参加を促し、新入生の興味の多様性に対応できるように改善した。

②学生生活における健康・安全

学生の健康や安全については一定の対策ができていると思われる。今後、必要と思われるものは積極的に取り入れていきたい。禁煙については、本年度は全学の取り組みとして、喫煙時間を制限し、さらに喫煙の健康被害について周知することで、全面禁煙に向けての布石となったと考える。

③ルール・マナーの教育

今年度も電車の不正乗車が1件発生したのが悔やまれる。しかしながら、アルピコ交通に4ヶ月定券を作ってもらおうよう要請し実施されたこともあり、3カ月の定期的期限切れが要因の不正乗車は発生しなかった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

①学生の自主活動の支援

ゼミ担当教員との連携

サークル活動を活発にするための支援

②学生生活における健康・安全

相談・交通安全・禁煙への取り組み

③ルール・マナーの教育

不正乗車に対する注意喚起

喫煙マナーの徹底

<執筆担当/学生委員会 短期大学部主任 中村 純子>

2. 就職委員会

(1) 全学就職委員会

全学就職委員会は、平成24年度より新設された委員会であり、平成26年度で3年目の活動となる。3学部の就職委員会の主任及び大学院研究科の委員、及び事務局としてキャリアセンター職員が参

加して構成され、委員長には平成 24 年度から継続して短大部就職委員の藤波が就いた。本委員会の目的は、各学部及び大学院研究科で共同して行う就職支援活動の調整にある。

1) 年度当初の計画<P>

全学就職委員会としては各部及び大学院研究科の就職支援活動についてその特色、すなわち文系 4 大、理系 4 大及び大学院、そして短大があることを勘案し、具体的な計画は各部に一任することとした。

共同で行う就職支援としては、平成 27 年度の就職活動の後ろ倒しに伴い、6 月、12 月、2 月に開催している学内合同企業説明会は、3 月、4 月、10 月に変更したため、平成 26 年度は、6 月と 3 月だけの開催を計画した。

また、キャリア・カウンセリングについては、名称を「キャリア面談」と変更すると共に、県外カウンセラーから一部を県内カウンセラーへシフトし多額の交通費（宿泊費）の削減を図ることとした。

なお、就職先の開拓として、キャリアセンターにおいて①メンタルケアへの配慮が出来ている企業、中小企業（総合経営学部）、②県外企業や優良企業（人間健康学部）、③地元に根付いた中小企業等（短大部）を開拓することを目指すことは従来通りとした。

そして、キャリアセンターの閉館時間を、昨年度同様、5 月 7 日から 7 月 25 日まで、17 時から 18 時に延長するほか、センター内のパソコン 3 台の入れ替え、並びに個人相談ブースを設置することとした。

2) 現状の説明<D>

全学が共同で行う学内合同企業説明会については、就職活動開始直後の 12 月は大企業を中心とし、2 回目以降の 3 月、6 月は地域の企業中心に行うことが例年の内容となっている。

この開催については、大企業は採用計画が早期に設定され、採用活動への取組も早いこと、また、地域の企業は大企業の後に採用活動を活発化させる傾向があることを踏まえた結果となっている。しかし、平成 27 年度は就職活動スケジュールの後ろ倒しに伴い、第 1 回目を 3 月に行い、2 回目以降は次年度とした。

キャリア面談については、その多くを県内人材にシフトして実施した。また、そのキャリア相談

の情報はメソフィアに入力されゼミナール担当教員が閲覧できることとなり、就職活動支援で個々の学生の個性に合せた指導がより一層可能となっている。

キャリアセンターの企業開拓は調査役を中心に県内全域を、県外企業は課長以下の職員によって出張等を含めた活動を行っている。

3) 点検・評価の結果<C>

6 月に実施した学内合同企業説明については土曜日開催としたが、学生の参加者数は内定状況の改善もあり、芳しくはなかった。3 月に開催した次年度卒業生対象の合同企業説明会は、盛況であり就職環境の好転を反映していた。今年度は業界研究会を 12 月から 1 月にかけて 11 回行った。その参加合計人数は 1,005 名であり、昨年度の 7 回合計 490 名を大きく上回った。

キャリアセンターの企業開拓についても少ない人員の中で相応の成果を上げているが、学生の一部に就職活動が低調な者もいることから学内の個別企業説明会は前年比3社減の54社となり、これによる内定者数は前年比5名減の55名に留まった。

企業開拓については、例年、就職活動解禁時期に併せて約12,000社余りに求人票を送付しているが、今年度は送付先企業の条件見直しを実施するとともに、インターンシップのアンケートについても併せて同封した。

なお、キャリアセンターの閉館時間は、5月7日から7月25日まで、17時から18時に延長された。

また、就職活動用の証明書類の発行は機械化され、3月から即時発行されることとなった。

4) 次年度に向けた対応<A>

平成27年年度は就職活動が後ろ倒しとなったが、全学就職委員会としては各部及び大学院研究科の就職支援活動についてその特色、すなわち文系4大、理系4大及び大学院、そして短大があることを勘案し、従来通り、具体的な計画は各部に一任することとした。

但し、各学部共通のスタンスとして、内定率の維持、就職環境の好転を受けた量と質の充実、多様化する学生への就職支援の充実を目指すこととした。

なお、就職関係書類は機械発行となったが、その申請書については、1週間以内にキャリアセンターに学生から提出を求め、学生の就職活動の状況把握に努めることとする。

各学部共同で行う就職支援としては、4月、10月、3月に行う学内合同企業説明会があり、これらは全て平日開催とし、適切に開催する。但し、10月開催について見直すこともありえる。また、個別企業説明会の回数は増加を目指す。

そして、平成25年度から始めた全学合同の業界研究会は平成27年度も継続する。

就職先の開拓としては、引き続きキャリアセンターにおいて①就労環境への配慮が出来る企業、中小企業（総合経営学部）、②県外企業や優良企業（人間健康学部）、③地元根付いた中小企業等（短大部）を開拓することを目指す。

キャリアセンターの閉館時間については、平成26年度同様、5月7日から7月24日の間、18時まで延長することとする。

<執筆担当/全学就職委員会 委員長 藤波 大三郎>

(2) 健康科学研究科就職委員会

1) 年度当初の計画・実績<P・D>

大学院生の就職支援については、専門性を生かした仕事のできる就職先を紹介できるかという点にある。また、定員が少ないということで、どうしても個人指導にならざるを得ない点がある。専門性の高い大学院であるから、大学院生が描く将来像は、かなり絞られてくる。したがって、彼らの希望に添える就職ができるように支援体制を整えることが急務となっている。

以上を踏まえた上で、平成26年度の支援活動は、求人企業の紹介や合同企業説明会の案件などは、学部の学生と同じように実施し、また、大学院生ではあるが、就職活動の基本的な点(履歴書の書き方、エントリーシートの添削、面接練習など)は学部生と同様の指導を実施した。その上で、研究科の教員と連携し、きめ細やかな個別支援を実施した。

平成 26 年度の修士修了者は 4 名であったが、その内 3 名は社会人であったため、実際に就職活動を行った院生は 1 名であり、全員が就職することができた。

2) 点検・評価の結果<C・A>

研究機関（大阪大学大学院医学系研究科研究補助員）への就職が昨年度に続き、1 名内定したことは、本学にとって嬉しい結果であった。今後も、研究機関へ就職できる院生が増えることが期待される。

院生の就職支援のポイントとしては、1 年間に修了する院生の数が 5 名前後と少人数であることを生かして、大学院生の個別支援を強化し、個々の希望に添った求人開拓を実施するということが重要である。また、キャリアセンターと研究科との連携も今後より一層強化する必要がある。

<執筆担当/大学院健康科学研究科就職委員 根本 賢一>

(3) 総合経営学部就職委員会

1) 年度当初の計画<P>

平成 26 年度総合経営学部就職委員会の重点課題は、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上」であった。それを実現するための具体的な業務改善計画は、次の通りである。すなわち、

まず〔計画 1〕として、より効率の高い就職支援体制の構築である。

2・3 年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）については実施の有無から再検討を行っていく。

〔計画 2〕として、公務員（警察・消防・役所など）への就職試験対策の強化があげられる。委員会に専門の担当教員を配置し、より具体的な就職支援体制を構築していく。最低でも年 10 名以上の公務員の輩出を目指していきたい。

〔計画 3〕として、ゼミ担当教員との密接なコミュニケーション体制の構築である。

ゼミ担当教員との密接なコミュニケーションによって就活生の動向等をより細かく把握していく。ゼミ担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、何らかの進捗が見られた場合には、教職員及び学生の間で速やかに連絡が取れる体制を構築していく。

〔計画 4〕として、大学全体での就職支援体制の構築である。

ゼミ担当教員だけではなく、学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。たとえば、就職活動関連の諸行事に、就職委員のみではなく、学部長、学科長、そして他の教員も積極的に参加するよう依頼・誘導をしていく。これにより就活生の状況等を正確に把握することで円滑で、効率的な就職支援が可能になる。

2) 現状の説明<D>

上記の当初の計画に対する主な改善の実施状況は、次のとおりである。

〔計画 1〕に対しては、3 年生に集中している就職関連諸行事の開催について、根本的な見直しが見込まれている時期にきていると認識している。各々の行事に対し、従来開催してきたから開催するという認識ではなく、より効率的に就職率を向上させるという重点課題に照らし合わせ、精査し

ていくべきであろう。しかしながら、このような行事の開催は本学部就職委員会だけの議論には限界がある。引き続き、全学就職委員会にて議論・検討を重ねているところである。

〔計画2〕に対しては、委員会内に専門の担当教員をおき、公務員志望の就活生への積極的な支援を行っている。たとえば、担当教員が公務員試験対策の講座を週1回開設し、試験対策のきめ細かな支援を重ねてきている。しかしながら、公務員試験は一般企業の就職活動とはその性格が少し異なり、とくに科目筆記試験に重点があるため、本学部におけるこれまでの対策だけでは高いハードルになっているのも現状である。

〔計画3〕に対しては、ゼミ担当教員から月に1回、定期的に就活生の状況を把握し、就職活動進捗状況確認シートを送付していただいている。このシートに基づき、委員会として就活生一人ひとりに対するきめ細かな就職支援の基礎資料として大いに活用している。また、日頃よりゼミ生の状況変動に対する情報を逐次共有している。

〔計画4〕に対しては、全学就職委員会を中心に、大学全体としてのサポート体制のひとつである「キャリア面談」のあり方について見直しが進められた。他の委員会と連携については、今後も継続的な取り組みが必要不可欠である。

3) 点検・評価の結果<C>

平成26年度には、当初の計画に沿う形で、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上」を進めてきた。たとえば、前述したとおり、キャリア関連科目、就職合宿、そして4年生のための各種就職講座など多様なチャンネルを通じて、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上」に努めてきた。こうした取り組みの効果が目に見える形で現れてくるまでには時間がかかるが、学生自身が大学卒業後のキャリアを真摯に考えることこそ、就職実績の向上への近道と考え、今後もさまざまな創意工夫を重ねていきたいと思っている。各種行事について、学生への積極的な告知などにより、前年度と比べて参加状況も大きく改善しつつある。

なお、今年度は全学就職委員会において「キャリア面談」のあり方について見直しを進めているが、今後は他の委員会とも連携を深めながら、「大学全体としてのサポート体制の検討」を進めていくことが重要になってくるものと思われる。以上のように、次年度以降も対処すべき課題は少なくない。

なお、平成26年度の総合経営学部4年次生(卒業生)の就職状況(下記の表を参照)については、96.5%となった。これを学科別に見ると、総合経営学科(就職希望者71名、就職内定者68名)が95.8%、観光ホスピタリティ学科(就職希望者71名、就職内定者69名)が97.2%であった。これは下記の表でもわかるように平成19年度から見ると、最も高い就職率を達成していることになる。今後、地域経済の動向を見極め、地域企業のさまざまなニーズに積極的に応えられるような体制と活動を行っていくことが重要である。

総合経営学部4年次生(卒業生)の就職率の推移

年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
就職率(%)	93.3	89.3	90.0	92.9	94.5	93.2	96.5

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

次年度は、「平成26年度事業計画」における大学全体の委員会構成の見直しの中で、キャリア教育と就職支援（企業開拓）の2つの役割分担を明確することとなった。しかしながら、実際の委員会の活動の中では、上記の役割分担が明確には実施されていないのが現状である。その故、就職委員会は就職支援（企業開拓）に特化する移行期である点を踏まえ、キャリア教育の側面を教務委員会に段階的にシフトさせながら、実際に就職活動を行っている学生一人ひとりに集中し、「きめ細かな就職支援体制を構築することで、就職率の大幅な向上」を目指していきたい。そのために、以下のような改善・改革に向けた方策を取っていくこととする。

〔方策1〕引き続き、2・3年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）、夏期就職合宿、保護者就職説明会等については実施の有無から再検討を行っていく。

〔方策2〕本学部就職委員会では、学部の特色をふまえ、公務員（警察・消防・役所など）への就職試験対策を強化していく。委員会内に専門の担当教員を配置し、より具体的な就職支援体制を構築していく。引き続き次年度も、10名以上の公務員の輩出を目指していきたい。

〔方策3〕ゼミ担当教員との密接なコミュニケーションによって4年生の状況と動向等をより細かく把握する。ゼミ担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、受け持っている就活生に何らかの進捗が見られた場合には、教職員と学生の間で速やかに連絡が取れる体制を構築していく。

〔方策4〕学部全体の就職支援体制の構築、とりわけ学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。たとえば、就職活動関連の諸行事に、就職委員のみならず、他の教員も積極的に参加するよう依頼・誘導をしていく。

＜執筆担当／総合経営学部就職委員 主任 成 耆政＞

（4）人間健康学部就職委員会

1) 年度当初の計画＜P＞

本年度は、人間健康学部生に対して、就職活動の心構えを持たせ、可能な限り早い段階から就職活動を進め、就職内定時期の早期化を目指した。その理由として、健康栄養学科においては、病院管理栄養士・公務員希望等の専門職希望者は残し、その他の学生は栄養士資格等を十分活かし早期に内定することで、国家試験勉強のための時間確保、優良企業への内定を決定させるためである。スポーツ健康学科においては、過去の実績からも、最終的に一般企業への就職を決める比率が非常に多い中、春先の優良企業の求人時期に就職活動を積極的に行う者が少ない。しかし、過去の卒業生の状況からも、企業側から人物評価で好印象を受けるケースが多いため、より多くの求人がある時期に学生自身に、企業を選択する就職活動を経験させ、より自分の将来の幅を広げてもらうためである。今後も大変厳しい求人倍率になるであろうことが予想されることに加え、平成27年度には、就職活動時期の繰り下げが決定しているため、現3年生(健康栄養学科、スポーツ健康学科)182名を就職戦線に送り出すための準備を含め、就職委員会活動・就職指導体制をより強化・活性化することを目指した。

2) 実績・現状＜D＞

① 2年生に対しての就職支援

ア) キャリア面談

大学入学後から約1年経過した、6月に一年間の自己振り返りと、今後の目標設定を定めるためのキャリア面談を実施。(健康栄養学科100%、スポーツ健康学科94.9%と高い参加率を維持した)

大学生活において、学業面、課外活動面においても自由度の高い時間が使える大学2年次の過ごし方を無駄にしない指導に力を注いだ。

イ) 後期必修講義「キャリアデザインⅠ」

後期の「キャリアデザインⅠ」を通して、働くことの理解と社会人になるために必要な力について理解を深めた。学科別に、様々な分野で働く卒業生を招き、新卒1年目のグループと、社会人3年目以上となる先輩のグループの話に分けて聞かせていただき、様々な仕事、職種の理解とともに、社会人になっても成長をし続ける事を意識させた。この他、自己理解、企業講演等も実施し、3年次の就職活動準備に繋げるものとなった。

②3年生に対しての就職支援

ア) 前期必須講義「キャリアデザインⅡ」

前期の「キャリアデザインⅡ」において「就職」に対する意識向上を促し、先輩たちの実績やデータから目標とする就職活動の流れを確認させる内容とした。

イ) 後期「就職支援ガイダンス」

後期の「就職支援ガイダンス」においては、単位科目ではないことから、出席率が心配されたが、具体的な就職活動準備の提示、事例紹介、情報提供を行うとともに、参加の必要性を訴え、高い出席率を維持することにつながられた。また前記からの繋がりを意識させ、本科目で情報を得ることの大切さを理解できたものと思う。ちなみに、平成25年度の健康栄養学科、スポーツ健康学科の学生の出席率はそれぞれ85.8%、61.4%に対して、平成26年度の出席率はそれぞれ86.0%、82.0%であった。

ウ) 各種希望制講座の実施と参加強化

夏季就職合宿、12月就職対策講座、2月就職活動直前対策講座、メイクアップ講座、企業業界研究勉強会等、様々な支援講座を企画実施した。特に本学部生への参加を促すため、全体講義やゼミ担当からの指導を強化した。本年度は、3月に就職活動解禁日が移行となることを受け、企業業界研究勉強会には企業の人事担当者にお越し頂き講演形式での勉強会を実施した。

③4年生に対しての就職支援

ア) ゼミ担当による就職活動状況調査の徹底

毎月1回、ゼミの終了時間等を利用し、活動状況を確認し表にまとめてキャリアセンターに報告を行った。この際に、ゼミ生同士の情報交換にも繋がり、就職活動への意欲を掻き立てた。

イ) キャリアセンターとの連携

ゼミ担当からの報告を受け、キャリアセンターでの企業マッチングや学生指導に注力した。また、学生自身がキャリアセンターを活用する方向に導くようゼミ担当が指導を行った。

ウ) キャリアセンタースタッフのゼミ訪問

後期以降は、ゼミ終了時間を利用し、未内定者に対してキャリアセンタースタッフが訪問し個別面談を行った。学生の活動状況から提案できる求人を提案するなど、実活動に結びつける指導が行われた。

エ) 未内定者対象の「キャリア面談」の義務化

昨年度まで、未内定者向けのキャリアカウンセリングについて本学部は希望者対象に対してのみ実施していたが、2015年度からは、その時点の進路未決定者に対して全員必須で面談を受けるよう指導した。また、キャリア面談実施にあたっては、面談内容に応じて、その後、具体的な指導、企業選定、企業マッチングが必要な学生はそのままキャリアセンターに移動し、指導を受ける流れを徹底した。キャリア面談により、就職活動における自信喪失やモチベーションの低下を防ぎ、夏からの就職活動を加速させる効果を生んだ。

3) 点検・評価の結果<C>

①就職支援

2年次開講のキャリアデザインⅠ、3年次開講のキャリアデザインⅡ、就職支援ガイダンスの科目を通して、学生には自己のキャリアを考えさせる機会とした。昨年度に比べ、就職活動を迎えた3年生のキャリアセンター関係の講座への出席率が向上した。恐らく、第1回目の講座で強く原則出席を全員に促したこと、カリキュラムの中に、学生が就職先として興味がある分野で活躍される方々を講師として招くなど学生の要望も取り入れていったことが、その数字につながったのであろう。また、学外の合同企業説明会への学生参加を支援するためのバスツアー、キャリアセンター主催の関連講座、進路未決定者対象の支援ガイダンスなどを実施した。特筆すべきは、夏季就職合宿、12月就職対策講座、2月就職活動直前対策講座全てに、参加した3年生に対し、本学部の就職活動を終えた4年生先輩からアドバイスをもらえる機会を増やして、4年生先輩の内定先についても職種、業界等豊富なラインナップを揃え、その可能性を大きく広げ視野を広げさせることにも繋げられた。特に、12月就職対策講座の際には、「先輩の企業紹介&就活体験談」ブースを7号館1階のフロアーに、1日に20ブース設け、先輩と触れ合う機会を大きく増やした。参加した学生の振り返りには、履歴書の添削指導や模擬面接に加え、特に評価が高かったのは、4年生先輩の体験談と助言を得たことが記されていた。

②就職状況

人間健康学部の今年度の就職内定率は98.9%と過去5年間では最高値であった(平成25年度97.4%、24年度93.9%、23年度96.5%、22年度97.0%)。この要因は、これまでのキャリア関連の各講座や就職合宿がブラッシュアップされたことに加え、何より、キャリアセンタースタッフによるゼミ別での学生個別面談の実施が、学生の就職活動をさらに支援して内定へ導くことになった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

① 就職先の質の確保

学部全体の就職内定率はこれまで通り95%を維持しつつも、健康栄養学科、スポーツ健康学科ともに、各学科の専門に関する分野でのさらなる開拓と質の獲得に力を入れていく必要がある。特に、健康栄養学科においては、学生のほとんどが専門(管理栄養士、栄養士)を生かせる職場という希望を持っている。

② 学生の県外への就職促進、意識形成への試み

本学学生の就職希望先はほとんどが県内であり、本学部学生においてはさらに専門性を生か

した分野を希望するものが多い(健康栄養学科：管理栄養士・栄養士、スポーツ健康学科：健康運動指導士、健康運動実践指導者)。就職希望先を県外に、また、就職希望分野を専門分野から少し膨らませた分野へと学生の意識改革をしていく必要がある。

③ 教職センターとの連携強化

スポーツ健康学科においては「保健体育」(中・高校)教員、健康栄養学科においては、「栄養教諭」への希望者が少なからずいる。本学においては、すでに総合経営学部において教員免許取得の指導を行ってきたが、教員免許の取得までの指導にとどまり、採用試験合格への積極的な指導は制度的になかった。しかし、人間健康学部においては、教員採用試験合格への要求は、極めて高いといえ、かつ今後の学生募集にもその結果が大きく影響するように推測される。したがって、新3年生の教員試験対策に対して、教職センターの役割は今後さらに重要となる。これまでの教員免許取得指導担当だけでなく、教委採用試験対策担当としての役割を果たすことが期待される。また、教員採用試験(保健体育科教諭、養護教諭、栄養教諭)の可否、不合格者となった者の非常勤教員としての採用の情報等を、キャリアセンター(就職委員会での情報共有)と教職センター間での連携強化が密になることを期待する。

＜執筆担当／人間健康学部就職委員 主任 根本 賢一＞

(5) 松商短期大学部就職委員会

1) 年度当初の計画＜P＞

経済情勢が回復傾向を見せはじめた平成25年度においては、松商短期大学部学生の就職状況も改善し、内定率も95.1%とここ数年で最も高い数値となった。平成26年度においては引き続き経済情勢の好転が見込まれるものの、依然として急速な人口減少社会への移行、国際的な経済競争の激化、高学歴化等を背景とする未婚率の上昇や晩婚化・晩産化の進展とともに、就職に関する企業と学生とのミスマッチが生じ、非正規雇用で働く若者が増加するなど、近年の雇用を取り巻く環境は多くの課題を抱えている。

このような情勢を踏まえ、2年生の就職活動支援については、平成25年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開することとした。また、「キャリアクリエイトⅢ・Ⅳ」を引き続き必修科目として実施し、「キャリアクリエイトⅢ」においては、業界・業種研究、マナー研修をはじめとする実践的な就職活動支援を、「キャリアクリエイトⅣ」においては、早期離職防止を目的とする社会人としての必須知識の習得を狙った講義を展開することとした。

1年生に対しては、フリーター等で満足してしまうような学生数をより減少させるため、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイトⅠ・Ⅱ」を引き続き必修科目とし、「キャリアクリエイトⅠ」で「現代社会の理解」「働くことの意味」「高等教育機関で勉強することの意味」「学ぶことの意味」「本学で学ぶことの意味」などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と就業意識の形成を促すことにした。そして、「就業力」と「学士力」向上の観点から「メモを取る力」の育成を企図して「出席レポート」の取り組みと携帯メモ帳『EYE』の取り組みも継続実施することとした。

また、平成24年度から原則として全学生の保護者に対し、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送することとしている。また、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を

送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促す取り組みを継続して行うことにした。

さらに、新しい試みとして12月から1月にかけてキャリアセンター主催で行われる全10回の「業界研究勉強会」への参加を1年生に促すこととし、2月には、従来どおり集団面接講座を実施することとした。なお、就職活動スケジュールの後ろ倒しに伴い、3月に総合経営学部・人間健康学部とともに学内合同企業説明会を行うこととした。

2) 現状の説明<D>

短期大学部における進路支援は多岐に渡っており、これは大きく分けて、①キャリア系講義、②インターンシップ、③面接練習および就職相談、④キャリア面談、⑤資格取得、⑥ゼミ担当教員による個別指導という6つから構成されている。これらの進路支援のうち、特に、①キャリア系講義のシラバス作成から始まる講義運営や②インターンシップの実施、③④の面接練習・相談・キャリア面談については、「就職委員会」および「キャリアセンター」がその中心的役割を担っている。本学キャリアセンターが収集した情報は、キャリア系講義内で、学生に周知徹底される。これは、紙ベースのみならず、学生全員が所有するIT端末へも配信される。なお、キャリアセンター内では、さらに細かい情報や、卒業生の就職活動報告書を整備し、学生はこれらの豊富な情報をいつでも閲覧可能である。最新の情報は、就職委員会で逐次把握するとともに、学生の応募状況や就職内定状況等の情報をすべての教員・事務局と共有することで、状況に即応できる体制を構築している。

2年生の就職活動支援については、平成25年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開した。なお、2年次の必修科目として、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅲ・Ⅳを実施した。「キャリアクリエイトⅢ」では、業界・業種研究、マナー研修、講演など就職活動にあたり必要な知識の習得を目指すとともに、具体的企業情報の提供を行った。また、「キャリアクリエイトⅣ」においては、就職内定者教育を強化することとしつつ、就職活動が遅い未内定学生に対しても卒業間際まで就職支援を行えるようにした。

1年生の就職活動支援については、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅰ・Ⅱを実施し、「キャリアクリエイトⅠ」で現代社会の理解、働くことの意味、学ぶことの意味などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と職業意識の形成を促した。そして、就業力と学士力向上の観点から「メモを取る力」の育成を企図して「出席レポート」の取り組みと携帯メモ帳『EYE』の取り組みも継続実施した。この取り組みは、汎用的能力(ジェネリック・スキル)向上の観点から、従来就職指導で実施してきた「メモを取る力」の育成の取り組みを、専門教育や教養教育、課外活動等にも拡大させてその育成を図る取り組みである。これら「キャリアクリエイトⅠ」の必修化と「メモ力育成」の取り組みは、本学学生の「就業力」と「学士力」の向上に資する取組みであり、目的意識を持って積極的に就職活動に取り組む態度を育成するものである。また、「キャリアクリエイトⅡ」においては、1年次3月にスタートする就職活動に向けた実践的知識の習得を目指した内容の講義を実施した。これにより、就職活動期にスムーズに移行することが可能となる。さらに、1年次2月末には、全学生を対象として、本学教職員を面接員とする集団面接講座を実施した。また、「キャリアスタンダードⅠ・Ⅱ」においては、就職活動のうち、筆記試験対策に特化した内容の講義を実施することとし、進路支援に万全を期している。

本年度の新たな試みとして、12月から1月にかけてキャリアセンター主催で行われる全10回の「業界研究勉強会」への参加を短大1年生に促したが、これは多様化する進路先に対する理解をより一層深め、ミスマッチの解消を狙うことが目的である。

保護者に対しては、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送した。そして、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促した。

3) 点検・評価の結果 <C>

2年生に対する支援については、就職環境が改善するとともにキャリアセンターを利用する学生の数も増加しており、学生の就職希望先企業・業種の多様化に対応するよう積極的に学生に働きかけた結果、内定率において平成25年度の95.1%を上回る97.1%を達成することができた。このことは、地域経済の回復傾向によって後押しされたところが大きいですが、1年次から引き続くキャリア面談や業界研究、マナー研修をはじめとするキャリア支援プログラムとともに、ゼミナール教員による、手厚い個別指導により、不安解消とサポートを充実させた成果であると考えている。

一方で、学生の就職先の多様化から、本学がこれまで多くの学生を就職させてきたような企業との関係が希薄になることが懸念される。事実、年々金融機関を受験し就職できる学生は減少しており、JR等のこれまで多数の本学学生が受験してきた企業への応募者も減少してきている。また、このような就職希望企業・業種の多様化は、職員が行う企業開拓や求人開拓等について問題を惹起した。すなわち、従来から本学へ求人を出す企業を受験する学生が減少したことから、事情説明と次年度への求人の継続依頼が中心になるとともに、学生が就職を決める企業に対するアフターフォローの増加、さらには新規開拓企業に学生が受験しないという問題やそもそも就職活動をしないう学生、行っても低調な活動しか行わない学生に対する支援の在り方の問題の顕在化である。

また、従来からであるが筆記試験に合格できない学生が多数おり、この傾向は今後も続くものと予想される。ここ数年の多様な学生の入学に対応するため、入学前教育を活用して『社会教養』等のテキストを配布し、入学前の段階から基礎学力向上に力を入れている。さらに1年次の早い段階から一般常識・基礎学力の模擬試験を行い、効果測定を実施している。就職委員会としては、単に全体的に学力が低下したのではなく、基礎学力の高い学生から低い学生までの幅が広がってきていると認識しており、全体的な基礎学力の向上を期待するものの、就職活動本番までの短期間では急速な基礎学力の向上は見込めないと考えている。

さらに、「日本再興戦略」では、「インターンシップに参加する学生の数の目標設定を行った上で、地域の大学等と産業界との調整を行う仕組みを構築し、インターンシップ、地元企業の研究、マッチングの機会の拡充を始め、キャリア教育から就職まで一貫して支援する体制を強化」し、また「インターンシップの活用の重要性等を周知し、その推進を図っていく」とされているが、短大のカリキュラム上、インターンシップを単位化していくことにはかなりの困難を伴う。平成26年度のインターンシップ参加者は9名と減少の一途をたどっており（ちなみに平成25年度は17名であった）、改革が求められる点である。

他方で、最重要課題は学生の就職活動の活発化にあるのであって、学生を「求職カードを提出した形式的な就活生」とするのではなく、「就職活動を積極的に行う実質的な就活生」とすることが求められる。平成26年度においては、内定者における前述の就職関係書類の平均発行回数は4回、

そのうち年明け1月以降まで就職活動を続けた学生の平均は6回である。一方で、未内定者の平均は2回という結果であり活動を続けた学生と3倍の差があった。また、書類発行回数9回以上の学生で未内定者は一人もいなかった。これは、例年見られる傾向であり、本学学生で就職できない大きな要因は、その学生の不活発な就活態度にあるという結論に達している。学生の就職モチベーションをいかに高く維持するか、どうすればそういう就職指導ができるのかが当委員会の喫緊の課題である。

4) 次年度に向けた対応<A>

次年度は、日本経済の回復傾向が継続し、それに合わせて雇用環境も大きく改善するものと予想される。しかしながら、平成27年度においては、就職活動スケジュールが後ろ倒しされ、事実上の就職活動開始時期は平成26年度の12月から、平成27年3月へと変更されるため、様々な混乱等が生じる恐れもありうることから予断を許さない。

これらの状況を見据えながら、本学がこれまで多くの学生を就職させてきたような企業との関係が希薄化する傾向については、昨年度同様、企業・業界に対する理解をより一層深めることを目的として、「業界研究勉強会」への参加者をより増加させることを目指したい。基礎学力向上については、平成24年度からキャリアスタンダードIに導入したクラス制を引き続き実施し、SPI試験、一般常識・基礎学力試験にきめ細かい対応が出来る講義形態とする。これによって筆記試験で挫折し、就職活動から撤退する学生の減少を目指すこととする。また、インターンシップ参加者の減少に対しては、これまでも様々な議論を重ねてきところであるが、次年度は具体的な改革案を構築し、多くの学生が参加できるような環境を整える必要があるだろう。

最も重要な課題として挙げた学生の就職活動の活発化については、2年後期のキャリアクリエイトIVにより就職内定者教育を強化することとしつつ、就職活動が遅い未内定学生に対しても卒業間際まで就職支援が行えるようにする。特に未内定者への個別のヒアリングも実施することで、個々の事情に合わせた就職支援を行ったが、この成果も着実に表れているため、平成27年度も継続していく予定である。なお、本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として従来同様に集団面接の面接練習を行うこととした。これによって就職活動の不安を軽減することを目指している。

<執筆担当/短期大学部就職委員会 主任 木下 貴博>

Ⅱ. 教育・研究推進及び管理部門

1. 研究推進委員会

1) 年度当初の目標<P>

平成 25 年の委員会構成の変更によって、教員の研究活動に係る委員会が研究推進委員会のもとに集約された。これにより、従来からの研究推進委員会に加えて研究誌出版委員会、地域総合研究センター、松本大学出版会が研究推進委員会の下部組織と位置付けられ、学長、学部長、研究科長、学科長により構成された。基本的には一つの組織であるが、取り扱う内容の違いに関する歴史的な経緯があり、適宜別な委員会として開催し、議事の決定を行った。

研究推進委員会の目的は、もちろん本学教員の研究活動の支援であり、そのための研究資金の配分と実際の研究活動実施の支援を委員会は司っている。本学では研究資金として大学が支援できる金額には限界があり、教員各人が外部資金を獲得して研究を実施することが望まれる。大学教員の研究活動のための重要な外部資金は科学研究費補助金であり、教員それぞれが科研費を取って研究を行うことが好ましい。しかしながら科研費は採択率が 3 割程度の競争的資金であり、基本的に過去の実績を重視する審査である。したがって、科研費に応募するための準備研究に関しては、個人研究費や大学の学術研究費で支援する必要がある。

2) 目標の実施状況<D>

- 科研費の萌芽研究と同様に、過去の実績を問わない、次年度や次々年度での科研費申請の準備になるような研究をするための萌芽研究の枠組みを学内の学術研究助成にも作った。
- 学術研究助成費を旅費に使う際に、学会や研究会での「当該研究での成果発表」に制限されていたが、研究の助成期間と成果発表の時間差や、共同研究の成果である場合を鑑み、過去の学術研究助成の発表や共同研究者の発表の場合であっても良いように、規定を変更した。
- さらに、分野によっては現地での資料収集や調査が重要になることもあるので、そのための出張にも旅費をつかるようにした。
- 研究評価の適正化を行うために、学術研究助成には成果の出版を義務付けた。
- 現在COC事業予算による地域志向研究の支援があるため、学内研究予算での地域志向・教育志向の研究に関しては、COC予算での活動予算申請との調整を行った。

3) 点検・評価<C・A>

- 平成 25 年度に申請した科研費の新規採択は 2 件であった。科研費の採択数が減少しており、それにもまして、近年科研費への応募数が減少している。教員の研究環境の改善が望まれる。
- 学術研究助成の萌芽分野に関しては 3 件の応募があり、予算査定の後採択された。研究成果に期待したい。
- 平成 26 年度学術研究助成の査定にあたっては、過去の成果発表の実績や今年度の科研費申請との整合性を厳格に判断した。
- 近年、学術研究助成の申請が減少し、特定教員による申請に限られるという傾向がみられる。できるだけ多くの教員が研究を行うような環境整備と研究活動を重要視する教員の意識改

革が必要である。

- 科研費以外の外部資金に関しては、専門分野ごとに状況が大きく違うので、各部局ごとに適切な情報収集に努め、応募を促していく必要があるであろう。

＜執筆担当／研究推進委員長 室谷 心＞

（１）研究誌編集部会

研究誌編集委員会は、学長、大学院研究科長、総合経営学部学部長・両学科長、人間健康学部学部長・両学科長、松商短期大学部学部長・両学科長を委員として運営した。事務には管理課があたった。

1) 年度当初の目標＜P＞

- ①昨年度の規定変更に伴い、「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」の両誌を研究誌編集委員会が管轄することとなった。新しい規定での実質的な一年目であり、規定自体の有効性を確認しながら、運用していく。

2) 目標の実施状況＜D＞

- ①新しい規定にのっとして、「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」の両誌原稿募集、編集出版を行った。「地域総合研究」15号には、論文5編、調査・事例報告1編、教育実践報告2編の計8編の論文が掲載された。「松本大学研究紀要」第13号には論文7編、研究ノート3編教育実践報告1編の11編の論文が掲載出版された。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

- ①昨年作られた執筆規定にのっとして原稿募集を行い、形式査読を行った。論文執筆に当たっては、研究分野のそれぞれに慣習があり、それを無視した統一的な論文スタイルの適応に関しては、執筆者からの批判が多かった。
- ②形式査読に関しても、“形式査読”の概念自体が不明瞭であり、査読者によって作業内容にばらつきがあった。また、査読の労力が大きく、効果に見合うのかどうか疑問である。

4) 次年度に向けて＜A＞

- ①本学の研究誌編集委員会の目指すものは、本学所属教員の活発な研究成果発表である。教員が論文発表を円滑に続けていけるように、意味のないプロセスは見直し、執筆規定などを改正していきたい。
- ②CINIIの廃止に伴い必要となる事務作業の変更を確認し、本学教員の成果発表の場を確保していくことは重要である。

＜執筆担当／研究誌編集部会長 室谷 心＞

（２）松本大学出版会運営部会

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況＜P・D＞

a) 出版予定と結果

①出版希望者の募集

平成 26 年度の出版希望は一件だけであり、それを出版した。

「シニアのための堅実な資産運用~ゆとりある生活のために~」 藤波 大三郎著
2014.7.20 発行 500 冊

②松本大学の歩みの書籍化

大学創立 10 周年・短期大学部創立 60 周年の記念事業として、松本大学の歩みを書籍として出版し、松本大学方式の真価を問う機会とすることとした。

「松本大学の挑戦~開学から 10 年の歩みから」松本大学創立 10 周年記念誌編集委員会
2015.3.31 発行 1,000 冊

③松本大学東日本大震災災害プロジェクト活動の出版

プロジェクトの活動内容を書籍として出版するための準備を進めるという予定通り、平成 24 年度の活動を報告書としてまとめて、『地域総合研究第 15 号 Part 1』に掲載した。

④COC 公開講座の書籍化

前年度実施した COC 公開講座を、雪のため中止になった 2 回分も盛り込んで書籍にまとめて発行できた。

「ローカルとグローバル~グローバル時代における大学教育~」松本大学 COC 連絡会議 編
2014.9.26 発行 500 冊

b) 広報活動

【継続して実施している活動】

前年度より引き続き①~⑥の活動を実施する予定でスタートした。

①既存の書籍の販売に力を注ぐ。(学生の協力も得て実施する)

②本が出版されたら、新聞各社に記事として取り上げてもらえる広報活動をおこなう。

今年度は特に、「シニアのための堅実な資産運用~ゆとりある生活のために~」が 12 月 24 日付毎日新聞全国版で紹介され、大きな反響があった。

「松本大学の挑戦~開学から 10 年の歩みから」は発行が年度末となったため、広報活動は平成 27 年度実施する。

③広報活動のできる出版社で書籍を作成することも検討する。

④講演会・研修会・学会・授業等、教員にも販売協力を引き続きお願いする。

⑤松商サポート・松本大学生協へ販売協力を依頼する。

⑥DVD の販売に関しては、健康指導の研修会や講演会を実施する際は、必ず販売のために同伴する。

上記①~⑥までの活動を実施した。

【新規におこなった活動】

① ホームページリニューアルを行った。

12 月 4 日にホームページをリニューアルし、タイムリーに情報発信できるようにした。

2) 点検評価<C>

a) 出版書籍について

①書籍出版

今年度は二冊の書籍を出版できたことは、成果であった。「シニアのための堅実な資産運用～ゆとりある生活のために～」は広く興味を集め、販売部数も伸びた。また、公開講座をまとめた書籍は、本学の特徴がよく出ており、広報活動に効果的であることが期待できる。次年度以降、高校へ配布することも視野にいれて広く活用していくように、広報委員会に働きかけることが考えられる。

一般に学術・研究書で採算をとるような出版事業を行うことは難しいが、大学が研究書を出版することの必要性については経営陣も一定の理解を示すようになってきた。今後とも、研究書は本学の広報活動の一環との考え方が根付くよう説明努力を行って行きたい。

②増刷検討書籍について

引き続き在庫が少なくなっている以下の書籍（4点）の再版あるいは増刷を検討する必要がある。中野和朗著『続・幸せづくりの人づくり』・糸井重夫編著『日本経済の変容と人材』・山根宏文編著『地域と美術』・今井朗子編『女性企業家に学ぶ』

b) 広報活動

- ・従来通り、機会（講演会、シンポジウム、学会等）を捉えて、書籍やDVDを販売するよう努めたが、特段、売上の変化はみられなかった。ただ今年度は、本出版会発行の書籍としては初めて、新聞の全国紙で紹介された書籍があり、これに関しては反響が大きかった。
- ・販売方法について、アマゾンへ店舗を開設する検討を進めている。
- ・本来、出版会で作成する書籍は、教員の研究成果を広く世に問うための手段であり、必ずしも売り上げに結び付く物ばかりではない点を、機会あるごとに説明して今後も理事・監事等の理解を求めていく。

c) 事務処理のマニュアル化

事務処理の円滑な引継ぎができるように、事務作業のマニュアル化を進めたが、十分な成果は得られなかった。来年度以降の課題である。

d) 検討事項

現在在庫として抱えている書籍についての有効利用を検討したい。従来からの提案のように、本学の広報活動の一環として、関係機関や来訪者に提供することを学内に周知し、有効利用していただくことを学内関係各位に提案したい。

3) 来年度の事業計画<A>

a) 出版予定

- ①出版希望者を募り、希望者の中より1件選定し26年度中に書籍を出版する。
- ②COCの活動の一環として実施した公開講座を書籍としてまとめる。
- ③大学創立10周年・短期大学部創立60周年の記念事業として、松本大学の歩みを書籍として出版したので、次年度は、本学の教育の特徴がまとめられているこの書籍を、本学への理解の促進に役立たせるために広く配布し、併せて販売にも力を入れる。

- ④松本大学東日本大震災災害プロジェクトの活動を書籍として出版するための準備を進める。
当面は、平成 26 年度の活動を報告書としてまとめる作業をしていただく。

b) 広報活動

- ・年度当初計画していた①～⑥の活動を地道に実施する。
- ・アマゾンへ店舗を開く。

c) 事務処理のマニュアル化に着手する。

d) 検討事項（継続）

- ①松本大学創立 10 周年を契機に、松本出版会の業務内容の検討（継続）。
②在庫が少なくなった書籍について、再版するか否かの検討をおこなう。

＜執筆担当／松本大学出版会運営部会長 室谷 心＞

（3）地域総合研究センター運営部会

今年度からセンター運営委員会は研究を司る部門の一つということで、研究推進委員会のもとにおかれ学長、学部長、研究科長、学科長により構成された。センターの研究員は従来通り本学の全専任教員であり、外部研究員として中野和朗、建石繁明の 2 名が認められた。

1) 年度当初の計画＜P＞

平成 26 年度の活動計画は次の通りであった。

- ①地域総合研究第 15 号の発行、但し形式査読を研究誌編集委員会に依頼する。また、Part I, II の 2 部形式を踏襲し、II 部はアニュアル・レポートとする。ただし、地域総合研究センターは出版を受け持つものであり、Part I の編集作業は研究推進委員会研究誌編集部会が行い、Part II は自己点検・評価委員会がデータの収集整理を行う。
- ②外部団体等から大学宛に持ち込まれる、新規・継続を含めた委託事業（研究、共同事業、調査など）の受付窓口となる。運営委員会において、適任者を決めてお願いし、その活動のサポートを行う。また、個人宛の委託事業の場合でも当センターがその受入窓口となり、財政管理等の実務を担当し、報告書作成などの支援も行う。
- ③ 松本市と連携して実施する事業
- (ア) [地域づくりに係わる松本大学との連携協力に関する協定]に基づく事業
- a) 人材育成（地区コーディネーター、職員等育成・研修事業他）
 - b) 地域づくり・市民活動に関する研究集会事業
 - c) 各地域への指導・助言
 - d) 上記を実施するために必要とみなされた、調査研究
- (イ) 観光ホスピタリティ・カレッジにおいて、企画立案を含めてその運営に主体的に取り組む。
- ④ 講演会、シンポジウム、フォーラム等のバックアップ（特に、チラシ作成、報告集の作成など）
- ⑤ 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトよりの依頼業務（運営管理と会計処理）文部科学省初等中等教育局児童生徒課「平成 25 年度緊急スクールカウンセラー等派遣事業」（委託事業補助金額 6,865,320 円）
- ⑥ その他

2) 活動状況<D>

本年度の活動計画に沿った活動を実施することが出来た。

- ①について。地域総合研究誌 15 号の発行は、少し予定が遅れたが、論文 5 編、調査・事例報告 1 編、教育実践報告 2 編の計 8 編の研究活動の成果が報告された。第 2 部の報告書の部では、教育事業報告「ひらめき☆ときめきサイエンス実施報告」、「子供料理教室」。平成 25 年度生坂中学校調査報告」の 3 件とボランティア活動報告として「松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト平成 25 年度活動報告」および「心のケア・カウンセリング 3 年目を迎えてー」の 2 件の報告が掲載された。

例年のように、本誌の Part II はアニュアル・レポートになっている。

- ②委託事業について。継続事業として「平成 26 年度松川村観光振興支援業務」、「平成 26 年度池田町観光振興支援業務」「生坂村提携・協力協定にもとづく事業」、筑北「キラリ☆アクア健康教室」「三ノ輪中部中学運動能力向上プログラム指導・研究協力」、「キラリ健康塾（アルプスあづみの公園）」の 6 件が実施され、新規事業としては、美勢障子との「えんえんの状態の研究開発」が実施された。また、活動自体は主に平成 27 年度に持ち越されたが、国土交通省がすすめる「道の駅」と大学の連携に参加し基本協定を締結した。
- ③松本市と連携して実施する事業に関しては、COC 戦略会議および、観光ホスピタリティ学科が松本市と連携しながら活動を行い、次年度にも継続させている。
- ④講演会、シンポジウム、フォーラム等に関しては、今年度は COC 事業として行われ、報告集の編集と出版を地域総合研究センターが行った。
- ⑤松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトについては、例年通り、本センターとしてはプロジェクトの活動の支援を行った。とくに、学生の派遣などにもなう事務処理や、心のカウンセラーや学習支援活動等に対して文部科学省からの補助金等の会計処理を行い、報告書の作成にも積極的に関与した。

3) 点検・評価<C・A>

- ①論文については、編集員会で手分けをして形式査読を行った。論文スタイル統一の方向で進んではいるが、各分野での論文作成の習慣に違いがあり、統一的な基準に関しては、関係者の意見を聞きながら模索中である。多岐にわたる専門性の違う教員が混在する本学本センターの研究論文で、そもそも統一的なスタイルが必要なかどうか、どの分野を基にして統一すべきかなど、執筆者の意見を聞きながら修正を行う必要がある。執筆者にも差読者にも苦勞の多い「形式査読」に意味があるかどうかの評価を進めて行きたい。
- ②委託事業については、前節にあげた事業を実行した。COC 戦略会議や地域健康支援ステーションが存在するので、今後、地域総合研究センターが扱う事業の明確化が必要であろう。
- ③松本市と連携して実施する事業に関しては、COC 戦略会議および、観光ホスピタリティ学科が主体となって行っており、必要なサポートを続けて行きたい。
- ④講演会、シンポジウム、フォーラム等に関しては、COC 戦略会議が主体となって行っており、今後も出版などの必要なサポートを続けて行きたい。
- ⑤松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトに関しては、次年度を一応の区切りとすることで、

計画を進めている。

〈執筆担当者 地域総合研究センター運営部会長 室谷 心〉

2. 研究倫理委員会

1) 役割<P>

当委員会の役割はつぎの2つである：

- ① 本学において研究・教育をおこなう者がヒトを対象とした研究を実施する際に、当該研究が倫理的、法的小よび社会的観点から適正に遂行されるための要件を満たしているかを審議する。具体的には研究を遂行するにあたり、研究実施者より申請のあった研究計画について、上記を踏まえて審査する。
- ② 「研究の倫理に係わる基本的事項に関すること」や「その他研究の倫理に関すること」について審査する。2014年9月に文科省策定による研究活動における研究不正に関するガイドラインを受け、研究不正にかかわる事項も包含する（後述）。

2) 活動<D・C>

① 研究計画に対する審査

2014年度に当委員会へ研究倫理審査申請のあった案件は以下のとおり8件であった（以下、受理番号（提出日）、代表研究者名、研究題目、研究期間、承認日、承認番号）。また、審査実施日はつぎのとおりである：平成26年6月4日（案件(1)、(2)、(3)、(4)）、平成26年9月24日（案件(5)；メール会議）、平成26年12月24日（案件(6)、メール会議）、平成26年3月1日（案件(7)、(8)；メール会議）。

- (1) 第14-01号（H26/5/20）、廣田直子、大学を基点とした食育推進によるソーシャルキャピタルの醸成と食文化の継承、H26/4/3～H28/3/末日、H26/6/4、53
- (2) 第14-02号（H26/5/20）、山根宏文、男性長寿日本一の松川村における高齢者を中心とした食生活・ライフスタイルに関する研究、承認日～H26/7/末日、H26/6/5、55
- (3) 第14-03号（H26/5/30）、呉 泰雄、高校生スポーツ選手（スキー選手）の食物摂取状況と乳酸濃度との関連について、承認日～H27/12/31日、H26/6/18、56
- (4) 第14-04号（H26/6/4）、福島智子、イタリアにおける看取りに関する聞き取り調査、承認日～H26/12/31、H26/6/4、54
- (5) 第14-05号（H26/9/18）、呉泰雄、身体活動と生きがいの関係—活動の種類とその意味—、承認日～H27/3/31、H26/10/22、57
- (6) 第14-06号（H26/12/1）、大森恵美、高校サッカー選手の食生活と食事準備者の働き方に関する調査～「食生活バランスチェック票-3500 kcal 版-」を用いた栄養教育導入に向けて、承認日～H28/3/31、H27/1/15、58
- (7) 第14-07号（H27/2/26）、呉泰雄、登山中のエネルギー効率のちがひ、承認日～H28/3/31、H27/3/13、59
- (8) 第14-08号（H27/2/26）、呉泰雄、運動中のエネルギー消費量の個別性について、承認日～H28/3/31、H27/3/13、60

上記審査対象案件の要旨および当委員会の意見と審査結果はつぎのとおりである。

案件(1)

研究の意義と目的：申請者は異世代交流による食の伝承プログラムの展開を考えている。食文化には、人々が食に目を向けるための要素がたくさんあるが、現在はその食文化が次の世代に受け継がれにくい状況にある。申請者は、地域の高齢者が主体的に食文化の発信者となり、若い世代に伝えることにより食育を推進したいと考えている。この活動の主体となる高齢者について基礎データの収集を目的として本調査の実施を計画した。

本委員会の意見と承認：重大な倫理上の問題を含んでいないことを確認し、各種倫理指針に沿った研究計画であると認めた（2014年6月4日）。

案件(2)

研究の意義と目的：松川村の男性の平均寿命が市町村レベルで日本一となった。その要因については色々あるとされているが、信憑性は定かではない。そこで申請者は主として80歳以上の男性を中心に食習慣、ライフスタイルに関するアンケート調査を実施して長寿の要因を探ることを計画した。目標としては対象となる長寿者80%以上からアンケートを回収し、多くの対象者データの分析からより信憑性の高い要因を究明する。さらにこの調査により松川村の地域ブランドを高め、村づくりにも貢献する。

本委員会からの質問：主な点はつぎのとおり：①高いアンケート回収率（80%）の根拠。②調査方法の具体的な内容について。③アンケート回収の具体的方法について。

承認：以上の点についての確かな回答を申請者より得て（2013年6月5日）、同日に承認。

案件(3)

研究の意義と目的：スポーツ選手の運動能力と栄養との関係は従来より極めて重要な問題として考えられている。特に高レベルのスポーツ選手にとって、食事面への配慮の必要性は近年ますます増大している。しかし望ましい運動や食事の内容、試合前後の栄養管理の正しい知識についてはあまり広まっていないのが現状である。本研究では高校生スポーツ選手（スキー選手）の食物摂取状況と乳酸値との関連について実験を行うことによって、体力と栄養摂取の現状を把握することを計画した。その結果から申請者は選手自身はもちろん、監督・指導者が選手の体力と栄養状態について知ることによりさらに科学的な指導ができ、競技力の向上に寄与することを期待した。

本委員会の意見：いずれも小さな問題点を指摘した：①FFQ g の質問紙を添付する。②血中乳酸測定をおこなうことから、痛み等の不快な状態が生じ得るので申請書の該当する項目にチェックする。③被験者データはすべてID化するため、申請書の該当する項目にチェックする。④被験者への説明文書に記載したインフォームド・コンセントの内容について申請書の適切な箇所にチェックを入れる。⑤被験者に健康被害等の有害事象が生じた場合の補償について考慮すること。⑥本研究について、臨床経験が十分にある医師より適切な助言を得ているか確認。

承認：これらの質問に対する回答を受け、2014年6月18日に承認。

案件(4)

昨年、すでに承認済みの研究について、研究期間の延長とインタビュー対象者の数を10名程度追加することを申請。

承認：当委員会は、変更が妥当であると判断し、2014年6月18日に承認。

案件(5)

研究の意義と目的：本研究の目的は、一次予防事業の参加者を対象として身体活動量、生きがい尺度、個人の活動に対する意味（役割度、価値、満足度、興味）を調査し、身体活動量と生きがい尺度の関係および身体活動量と個人が感じる活動の意味との関連性を検討することである。その結果、個人のどのような活動が生きがいにつながっているのかを明らかにし、行政施策としての地域支援事業における「高齢者が望む生活の継続的な支援」の重要性を明らかにする。

本委員会の主な意見：①分かりづらい研究タイトル名（身体活動量と生きがい尺度および活動の意味との関連について）。②不足する被験者への説明（なぜ、アンケートを被験者へ依頼するのか（＝意義）について、分かりやすい説明が必要）。③そのほかマイナーな書類の不備を指摘。

承認：これらの意見に対して申請者は的確に回答し、2014年10月22日に承認。

案件(6)

研究の意義と目的：本研究の目的は、「食生活バランスチェック票-3500 kcal 版-（本ツール）」を用い、高校サッカー部監督が栄養教育を導入する際に有効な質問紙を開発することにある。監督を対象に、①食知識習得のために研究責任者らがこれまでに作成してきた栄養教育教材と講義内容が、偏差値40程度の高校生においても理解できるものであることを知ってもらう。②選手の食生活と食事準備者の働き方を把握してもらう。③②を踏まえ、選手の健康・栄養教育に関して食事準備者から具体的な協力を得るための対策を、監督とともに講じる。そして選手を対象に、④食事準備者が整えたものを食べる高校生が、食事準備者の働き方を把握したうえで適切な食生活に関する協力を求められるようになるかどうかを知る。これら4項目をねらいとし、監督が栄養教育を導入・継続する際に役立つ質問紙に改良していくことを計画。

本委員会の意見：①被験者の選定方針および研究協力者の位置づけが不明確である。②「個人情報匿名化をしないで厳重に管理する」特別な理由は何であるか。③アンケートの回答方法の改善を要求（被験者が自由な意思で本研究に参加し、かつ回答できる方法になっていないことを指摘）。④タイトルとアンケート内容とのズレがある。⑤そのほか小さな問題7点。

承認：対象者による研究参加の意思についての確認方法、アンケート回答および回収作業について具体的な方法についてなど、申請者より適切な回答を得、2015年1月15日に承認。

案件(7)

研究の意義と目的：最大酸素摂取量(VO_{2max})は持久性体力の指標として内外で受け入れられている。しかし、申請者の経験では登山中の体力は必ずしも VO_{2max} とは一致しない。そこで申請者らは、登山中、体内に取り込まれた酸素がエネルギー産生にどれほど寄与するか、その効率性（エネルギー効率）こそが登山の体力を決める要因であることを明らかにすることを計画した。研究の意義としては、自分の体重を上げ下げする登山活動でエネルギー効率に個人差のあることが明らかとなれば、登山に限定することなく日常の身体活動におけるエネルギー消費量の個別性の説明につながる。また、このことは体重のコントロールで考慮すべき要素となり得る。

本委員会の意見：①文字の誤植を指摘、②採血などにより有害事象が生じたときの補償について明確にする、③被験者への説明文書中に「参加の意思により学業成績には影響しない」旨を明記する。

承認：申請者よりの確かな回答を2015年13日に得て、同日に承認。

案件(8)

研究の意義と目的：同じ仕事量の運動をしても、エネルギー消費量（体重および時間当たり）は各人で異なる。この理由は不明である。エネルギー消費量を大きく規定するのは心拍数であり、心拍数を左右する2大因子として交感神経および甲状腺ホルモン活性が知られている。本研究では登山を含めた運動中、つぎの2点を明らかにすることを計画した：①エネルギー消費量には個別性があるか。②その要因として交感神経および甲状腺ホルモン活性が関与しているか。

本研究の意義：運動性（および非運動性）身体活動で消費するエネルギー量が各人でセットされたものであるなら、体重のセットポイント説を説明し得る可能性がある。

本委員会の意見：①文字の誤植を指摘、②採血などにより有害事象が生じたときの補償について明確にする、③被験者への説明文書中に「参加の意思により学業成績には影響しない」旨を明記する。

承認：申請者よりの確かな回答を2015年13日に得て、同日に承認。

②そのほかの研究倫理に関わる審議：とくになし。

③研究活動の不正に対する規約の作成

つぎの目的のために規約を新たに整備した：本学の研究活動における不正行為への対応に関する取り扱いについて必要な事項を定め、研究活動の公正性を厳正に確保すること及び公的資金等を適正に運営及び管理する。

同時に研究不正に対処するための責任体制を確立した。

不正行為とはつぎの行為(1)および(2)を指す：

(1) 研究活動の過程における、以下に該当する行為。

イ 捏造、即ち、存在しないデータ及び研究成果等を作成すること。

ロ 改ざん、即ち、研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ又は研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

ハ 盗用、即ち、他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究成果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。

ニ その他、本学諸規程を含む関連法令等に反する行為。

(2) 本学の研究費並びに、国、地方公共団体、独立行政法人及び特殊法人等の公的機関から交付される研究費で本学の責任において管理すべきもの（以下「研究費等」）を、この規程を含む本学諸規程及び関連法令等に反して使用すること。

3) 来年度に向けて<A>

研究倫理教育の実施とモニタリングについて：

本委員会の審査対象となる研究者とは、常勤および非常勤に関わらず本学において研究に携わる者(携わっていた者を含む)のすべてを含む。また学生は学部および大学院に在籍する者のほかに研究生や留学生も包含する。したがって研究倫理教育は、全学的な取り組みを可能とする体制作りが必要であり、ことに研究不正に対しては不正が起りえないシステム整備が欠かせない。研究不正は不正行為者だけの問題に帰するのではなく、それを監査し得ない大学の責任も追求される。

2014年度は研究倫理教育を運用するための準備期間とした。次年度はモニタリングを含めた研究倫理教育体制を現場に即したものにバージョンアップならびに修正しつつ整備していく。

<執筆担当/研究推進委員会 委員長 三村 芳和>

(1) 動物実験部会

1) 年度当初の目標<P>

当委員会は、「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和 48 年法律第 105 号）」、「実験動物の飼育及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成 18 年環境省告示第 88 号）」及び「研究機関における動物実験等の実施に関する基本指針（平成 18 年文部科学省告示第 71 号）」を踏まえ、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成 18 年 6 月 1 日日本学術会議）」を参考に、科学的視点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験を行う教職員・学生等の安全確保の観点から動物実験を適正に行うために設置されたものである。

学長から諮問のあった実験計画を精査し、その安全かつ適正な実施について意見具申することが主要な目的である。

2) 目標の実施状況 <D>

①実験申請について

本年度は下記の 4 件の審査要請があった。

第 14-01 号（新規）

動物実験責任者：大学院健康科学研究科 呉秦雄准教授

研究課題：卵巣摘出ラットにおける短時間・高強度スイムトレーニングが骨代謝及び糖代謝に与える影響

研究目的：卵巣摘出ラットへの短時間・高強度スイムトレーニングが与える骨代謝及び糖代謝への効果の検討

動物実験実施者名：健康科学研究科 2 年 田中さくら スポーツ健康学科 4 年 市川健人 健康栄養学科 3 年 小林彩香

実験実施期間：承認日（平成 26 年 4 月 21 日）～平成 26 年 5 月 31 日

使用動物：ラット（雌）36 匹

第 14-02 号（新規）

動物実験責任者：松本大学松商短期大学部 川島均准教授

研究計画名：マウス走運動習慣の時間経緯に伴う microRNA 発現量変化

研究目的：自発的走運動習慣によるマウス海馬 microRNA 発現量の変化を追跡する。

動物実験実施者名：川島均准教授

実験実施期間：承認日（平成 26 年 4 月 21 日）～平成 27 年 3 月 31 日

使用動物：マウス（雄）約 60 匹

受付番号 第 14-03 号（継続変更あり）

動物実験責任者：大学院健康科学研究科 山田一哉教授

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂食後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 高木勝広教授 健康栄養学科 浅野公介助手 健康栄養学科 羽石歩美助手 他に学生 30 名（別紙）

実験実施期間：承認日（平成 26 年 4 月 21 日）～平成 27 年 3 月 31 日

使用動物：ラット（雄）50匹 マウス（雄）40匹

第14-04号（継続変更なし）

動物実験責任者：大学院健康科学研究科 山田一哉教授

研究課題：生化学実験（健康栄養学科2年後期）

研究目的：絶食時および高炭水化物食摂食後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手 健康栄養学科 羽石歩美助手

実験実施期間：平成26年9月1日～平成27年1月31日

使用動物：ラット（雄）15匹

②動物実験に関する情報開示等

- ・ 規程・自己点検評価・実験動物の飼育数をホームページ上で公開した。
- ・ 平成26年11月12日に開催された文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等に関する説明会に参加した。環境省による「動物の愛護及び管理に関する法律」の2年後の改訂時までには、現在行われている動物実験については、大学等の自主管理に任せておいても問題ないというデータを示さなければならない。そのために、動物実験を行うほぼすべての施設において、統一された基準をもとに情報公開・自己点検・外部評価を行う必要性が説かれた。また、この件について、学内で動物実験を実施している研究者に対して報告会を行い、情報を共有した。

③その他

例年行われているように、平成26年5月21日に学内で動物慰霊祭を挙行了した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

- a) すべての計画について審議の結果、規程に沿った実験計画であり、問題を含んでいないため、異議なく承認した。それぞれ審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。本年度の実験に用いた動物数は、ラット75匹、マウス70匹であった。
- b) 公私立大学動物施設協議会から統一基準の自己点検評価フォームを入手し、必要な情報を収集した。

4) 次年度に向けて＜A＞

動物実験に関する様々な情報を得るために、公私立大学動物施設協議会に入会することが強く望まれる。

本学では、動物実験に関わる研究者の数は多くないため、審査等には詳細にまで踏み込める利点がある。しかし、たとえ規模が小さくとも動物実験を遂行していくうえで、公私立大学動物施設協議会の自己点検評価ルールに則って、機関内規程・自己点検評価の結果・外部検証の結果・飼養及び保管の状況等の情報公開を、学長を中心に大学として一体となって積極的に実施していく必要がある。今後は、限られた人数の中で、早急に未整備の部分を抽出して適切に整備していく予定である。

＜執筆担当／動物実験部会長 山田 一哉＞

(2) 遺伝子組み換え実験安全部会

1) 年度当初の目標<P>

当委員会は、「遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成 15 年法律第 97 号）及び同法に基づく政省令・告示に基づき遺伝子組み換え生物等の第二種使用等に当たって採るべき拡散防止措置及び安全確保に関して審議するものであり、本学学長から諮問のあった案件について計画の適正性及び使用等に関する教育・訓練及び健康管理などの適切性などを審査・審議し、意見具申することが主要な目的である。

2) 目標の実施状況<D>

今年度は下記の機関承認実験計画 3 件、機関届出実験計画 1 件、教育目的実験計画 1 件の申請があった。

新規実験計画

第 14-01 号（機関承認実験）

実験管理者：人間健康学部健康栄養学科 木藤伸夫教授

実験課題名：細菌ベン毛モーターのイオン選択性、回転機構等に関連する遺伝子の解析

場所名称：微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

実験目的：細菌鞭毛モーターのイオン選択性と回転機構の調節メカニズムについて、モータータンパク質のアミノ酸置換変異体を用いて解析する。

第 14-02 号（機関承認実験）

実験管理者：健康科学研究科 山田一哉教授

実験課題名：高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

実験目的：1) 高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。

2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを複製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

第 14-03 号（機関承認実験）

実験管理者：健康科学研究科 山田一哉教授

実験課題名：新規転写因子ファミリー ZHX の生物学的役割の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

実験目的：1) 新規転写因子ファミリー ZHX の機能解析と標的遺伝子の検索

- 2) ZHX ファミリー、グルコキナーゼ (GCK) 、Brd ファミリー、LacZ および EGFP 遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作成し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

第 14-04 号 (機関届出実験)

実験管理者：人間健康学部健康栄養学科 木藤伸夫教授

実験課題名：大腸菌のカタラーゼ、スーパーオキシドディスムターゼ遺伝子のクローニング

場所名称：微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

実験目的：申請者は窒素プラズマを用いた低温滅菌装置の開発に関わっているが、プラズマによる殺菌メカニズムは不明で、喫緊の課題となっている。そこで、プラズマ照射により二次的に発生されたヒドロキシラジカル等のフリーラジカルによる DNA ダメージが殺菌効果に関与するとの仮説を立て、その検証を試みることにした。

第 14-05 号 (教育目的実験)

実験管理者：人間健康学部健康栄養学科 高木勝弘教授

授業科目：食品微生物学 (含実験)

実験課題名：酵母の形質転換

場所名称：共同実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験

実験期間：平成 26 年 7 月 7 日～平成 26 年 7 月 21 日

3) 点検・評価の結果 (目標の達成状況) <C>

すべての計画について審議の結果、規程に沿った実験計画であり、問題を含んでいないため、異議なく承認した。それぞれ審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

4) 次年度に向けて<A>

本学では遺伝子組み換え実験を行っている研究者が少ないため、詳細にわたって実験計画を検討することができる。次年度も、このような体制で進めていきたい。

<執筆担当/遺伝子組換え実験安全部会長 山田 一哉>

Ⅲ. 入試広報部門

1. 入試委員会

(1) 全学入試委員会

全学入試委員会は、各学部・学科の代表委員計7名および入試広報室の職員により構成され、2014年度は総合経営学科代表が委員長の職を担っている。全学入試委員会の役割は、大きく以下の3点に集約できる。

①学生募集関連業務

松本大学への受験者の増加を目的に、主体的な役割を担っている。大きく、A)オープンキャンパスに代表される高校生を対象にした大学内での説明会の運営、B)大学外で実施される高校生を対象にした説明会への参加、C)高等学校内での説明会への参加や高等学校への訪問、D)大学総合パンフレットに代表される、学生募集用各種媒体の作成、確認と発行、に区分できる。

②入学試験関連

入試問題の作成ならびにその確認、さらには入試当日における試験の円滑かつ失敗なく遂行する役割を担っている。また各入試制度をチェックし、必要に応じて制度の新設・変更を実施する。

③全学的なコントロールと調整

上記①②に関連し、各学部・各学科からの提案を審議し、承認する。またその提案が全学的に影響を及ぼすことが想定される場合には、各学部・各学科、さらには学長（全学協議会）との調整を担当する。

1) 年度当初の計画<P>

2014年度（2015年度学生募集）は下記項目の達成を目標とした。

①学外での学生募集への関与とその選別

例年どおり、より効果的に松本大学を認知してもらい、多くの高校生に関心を抱いてもらえるよう、全学をあげて学生募集説明会を主催、または外部の説明会に参加する。2015年度学生募集についてもPRの最適な方法を模索するとともに、これらに積極的に関与していく。

また昨年度に引き続き、コストパフォーマンスという観点から、学生募集説明会への参加を検討し、費用に比べて効果が薄いと考えられる説明会への参加を見送ることとする。

②オープンキャンパスの充実

学生募集における中心業務の一つにオープンキャンパスがある。これまでも毎年、その充実を図ってきたが、2015年度学生募集においても引き続き、各学部入試委員会と連携の上その内容や時間配分等の充実に努めていきたい。

また大学間や専門学校との競争の激化から、効果的・効率的なオープンキャンパスの開催についても、議論を深める。

③円滑かつ失敗のない入学試験の実施

入学試験におけるトラブルは絶対にあってはならない。そこで入試委員会各学部会と連携した上で、これまで以上に教員間、または教員と職員間のコミュニケーションを密にしてトラブルを防ぐ。また新たに新設された入試問題検討部会とともに、入試問題のチェックに万全を期する。

④高校生向け授業公開の運営

昨年度から検討してきた「高校生向け授業公開」をいよいよ今年度より開始する。オープンキャンパスという特別な場だけではなく、「普通の大学」を見たいというニーズの高まりから、この授業公開というイベントは重要な意味を持っていると考える。この運営に関し、仕組み作りを行っていく。

⑤WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

大規模大学、または大都市圏の大学では WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開が一般化してきている。この流れはコスト削減や利便性という観点から避けて通ることのできないものとする。そこで本学でも次年度 2016 年度からの活用に向けて、2015 年度にその検討・準備を進めていく。

⑥松商学園高校との連携の強化

同じ学校法人が運営する松商学園高校からの志願者を増加させるべく、全学をあげて同校との連携を強めていく。

2) 現状の説明<D>

①学外での学生募集への関与とその選別

説明会への参加については十分な回数であったと考える。ただし、残念ながら着席学生数が少ない説明会等が少なからず見られた。

②オープンキャンパスの充実

オープンキャンパスはさらに充実したと考える。ただし、時間遵守という観点からはやや問題があり、スケジュール通りに進行しないことが少なからずあった。

③円滑かつ失敗のない入学試験の実施

昨年度の反省を踏まえ、事前準備を徹底し、複数によるチェックを実施した結果、入学試験においてミスやトラブルは発生しなかった。

④高校生向け授業公開の運営

7 月ならびに 10 月に授業公開を実施したが、予想よりも多くの来場があり、また事後のアンケートをみても大変好評であった。

⑤WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

2016 年度学生募集より活用できるよう、2014 年度内に業者の選定ならびにデモシステムのチェックを行い、操作性などを確認した。

⑥松商学園高校との連携の強化

松商学園高校との連携を深めるべく、大学は学科ごとに、また短大は両学科共通で、松商学園高校内にて連携講座を実施した。また同校への訪問回数や電話回数を増やすなど、より多くのコミュニケーションを取るよう努めた。

3) 点検・評価の結果<C>

①学外での学生募集への関与とその選別

費用対効果の観点から、参加する学生募集説明会を取捨選択できたと考える。しかしながら着席数が少ない説明会もあったことから、より精緻な費用対効果に関する分析を進める必要がある。

また単純に費用対効果だけでは判断できないことも明らかになった。例えば着席数が少ないという理由で特定の地域をしばらく訪問しないと、着席数がさらに減じるという負のスパイラルが生まれるということを経験的に学習した。この点と費用対効果をどのように両立するかが重要である。

②オープンキャンパスの充実

オープンキャンパスの運営については問題ない。反面、マンネリ化しているというジレンマがある。何らかの新しい取り組みを考える必要があると同時に、新設された高校生向け授業公開がどの程度学生募集に貢献するのか、オープンキャンパスのありかたとともに注視していきたい。

③円滑かつ失敗のない入学試験の実施

特段の問題は生じなかったものの、ミスがないことが当たり前である。油断せずに引き続きチェック体制の強化に努める。

④高校生向け授業公開の運営

授業公開の反響は当初の予想を上回るものであり、次年度も引き続き取り組んでいく方向である。ただし時間的制約から広報にかかる時間が足らなかったのも事実である。オープンキャンパスのあり方とともに注視していく必要がある。

⑤WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

準備についてはおおかた終えたと考える。次年度に実際に稼働した後、どのような問題点が生ずるのかを注視していきたい。

⑥松商学園高校との連携の強化

昨年度よりも連携が強くなったことについては評価している。事実、松本大学全体への同校からの志願者は昨年度の78名から今年度は90名に増加している。他方で志願者をさらに増加させる余地は残されていると考える。従って次年度も同校との連携をより強めていく必要がある。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策< A >

①学外での学生募集への関与とその選別

費用対効果の観点を維持しつつ、各地の高校生徒とある程度以上のコミュニケーションが確保できるよう、引き続き説明会の取捨選択を進めていきたい。

②オープンキャンパスの充実と授業公開の充実

オープンキャンパスをさらに充実させるべく、新たな取り組みを模索していく。併せて高校生向け授業公開の充実も議論するとともに、オープンキャンパスと授業公開の融合についても、その可能性や現実性を議論していく。また授業公開については早めの広報活動を行う。

③円滑かつ失敗のない入学試験の実施

引き続きミスのない運営を目指す。そのためには、現状のチェック体制に関し、再度見直しを行い、さらに完成度の高いチェック体制を模索する。

④WEB 出願ならびに WEB 上での募集要項の公開

2016年度学生募集における運用状況を監視するとともに、想定外のトラブルについては迅速に対応する。

⑥松商学園高校との連携の強化

さらに連携を深めるべく、松商学園高校ではなく大学内での連携講座の実施、連携講座の内容の充実、さらには高校生以外の関係者、例えば教員や保護者向けの連携講座やイベントの実施などを模索していきたい。

＜執筆担当／全学入試委員会 委員長 上野 隆幸＞

（２）総合経営学部入試委員会

総合経営学部の入試委員会は、教員４名と入試広報室の職員により構成されている。会議は通常は２～３ヶ月に一回程度、また入学試験実施期間中は頻繁に開催される。なお２０１２年度より学生募集業務が入試委員会の業務に付加された。そのため、入試委員会総合経営学部会の役割は、大きく以下の２点に集約できる。

①学生募集関連業務

総合経営学部受験者の増加を目的に、主体的な役割を担う。大別すると、A) オープンキャンパスに代表される高校生を対象にした大学内での説明会の運営、B) 大学外で実施される高校生を対象にした説明会への参加、C) 高等学校内での説明会への参加や高等学校への訪問、D) 大学総合パンフレットに代表される、学生募集用各種媒体の作成、確認と発行、となる。

②入学試験関連

入試問題の作成ならびにその確認、さらには入試当日における試験の円滑かつ失敗のない遂行という役割を担っている。また入試結果に基づいた上で、総合経営学部受験生の合否判定においても判定会議の素案作成等の重要な役割を担う。またさらに総合経営学部における各入学試験をチェックし、必要に応じて制度の変更を実施する。

1) 年度当初の計画＜P＞

２０１４年度（２０１５年度学生募集）では下記項目の達成を目標とした。

①系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園高校からの進学者の増加は、学生募集という観点からは非常に有意義であり、また質の高い学生を多く獲得できるといったメリットがある。他方で人間健康学部の創設以降、総合経営学部への松商学園高校からの進学者はやや低迷しているといえる。そこで松商学園高校との連携をより一層強め、同校からの進学者の増加に努めたい。

②オープンキャンパスの充実

学生募集における中心業務の一つにオープンキャンパスがある。これまでも毎年、その充実を図ってきたが、２０１５年度学生募集においても、引き続き全学入試委員会と連携の上、その内容や時間配分等の充実に努めていきたい。

③ミスのない入試運営

例年に引き続き、入学試験における様々なミスを皆無にする。

2) 現状の説明＜D＞

①系列校からの進学者の増加

系列校である松商学園高校からの進学者を増加させるべく、全学入試委員会とともに松商学園との

連携を強化した。松商学園が実施する大学説明会への参加はもちろんのこと、当大学単独で松商学園の教員や生徒への説明会を実施する、また進路担当者と密に連絡を取り合うなどを試みた。

②オープンキャンパスの充実

各学科で実施されるミニ講義や体験講座の内容やそのタイトルについて議論した。その結果、内容のみではなくタイトルも含め、ミニ講義や体験講座について大きな改善を実施した。

③ミスのない入試運営

例年以上に事前の打ち合わせを多く実施した。また委員が習熟してきたことも手伝って、ミスのない入試運営を実現することができた。

3) 点検・評価の結果<C>

①系列校からの進学者の増加

2015年度学生募集において、系列校である松商学園高校からの進学者数を見ると、総合経営学科では、急増した前年度を上回る24名の志願者となり、過去最高となった。これにも増して特筆すべきが観光ホスピタリティ学科であり、同学科についても過去最高の21名の志願者となった。いずれの学科も過去最高の志願者数であり、結果として総合経営学部としても過去最高の45名の志願者であった。この結果については高く自己評価している。

同時にこの志願者数の水準を今後もどのように維持していくかが大きな課題と言えよう。

②オープンキャンパスの充実

改善の結果、高校生に対するわかりやすさという点では非常に効果的であったと考える。事実、オープンキャンパスにおける動員数が増加しており、これはより魅力的なミニ講義や体験講座をアピールできたことが大きいと考えている。

③ミスのない入試運営

今年度の入試では特筆すべきミスは生じなかった。ミスがないことが当たり前ではあるものの、高く自己評価している。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①系列校からの進学者の増加

総合経営学部への進学者を増加させるべく、松商学園高校とのより緊密な連携を模索する。その一環として同校との連携講義を増やすことを考えている。また同校の進路指導教員はもとより、担任レベルの教員とのパイプもより太くする試みが必要であろう。

②オープンキャンパスの充実

次年度も引き続き、各学科の特徴訴求できる内容の講義・講座を提案すべく、議論していく。同時にキャッチコピーにあたる見出しについても再検討を実施する。さらに講義・講座を各学科で考案するのではなく、入試委員会総合経営学部会が主導する形で新たなプログラムを提案していく。

③ミスのない入試運営

引き続きミスのない入試運営を目指す。そのためには今年度の入試を再レビューし、ミスを生じさせる可能性が残っていないかを委員会として確認していく。同時に慢心から生まれ

るミスもあるため、学部の教員すべてに対して再度、注意喚起を行う。

＜執筆担当／入試委員会 総合経営学部主任 上野 隆幸＞

（3）人間健康学部入試委員会

平成 26 年 4 月、健康栄養学科には 65 名（定員 80 名）、スポーツ健康学科には 104 名（定員 80 名）が入学した。また、健康栄養学科では 4 期生（平成 25 年度卒業生）の管理栄養士国家試験の合格率が 75.8%（合格者：50 名／66 名、全国管理栄養士養成課程平均合格率 91.2%）、スポーツ健康学科では平成 25 年度卒業生の健康運動指導士の合格率は 52.6%であった（合格者：10 名／19 名、全国平均合格率：49.9%）。

大学を取り巻く社会環境としては、平成 27 年 4 月に大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校松本校が開校、さらに平成 30 年度には長野県立大学が開校予定となっている。特に長野県立大学は、総合マネジメント学部や健康発達学部（管理栄養士養成を含む）など本学と重複する学部構成なため、入試での影響は避けられない。また、平成 27 年 3 月北陸新幹線が開通することによる、受験生の動きにも注意が必要である。大学を取り巻く社会環境は楽観視できないが、受験に関しては、昨年度よりも 18 才人口が減少している。

文部科学省の学習指導要領の改正でいわゆる「ゆとり教育」が見直されて、特に理科や数学では科目内容の大幅な改訂が行われた。したがって、今年度の受験生は浪人すると不利になるので、多少レベルを落とすとしても、現役で合格を目指すといわれている。平成 26 年度は、こういった状況を見極めながら、定員割れ起こさないように入学者数に気をつけながら、より質の高い学生を獲得するために活動した。

1) 年度当初の目標＜P＞

- ①入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。
- ②年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。
- ③推薦入試改革。
- ④入学後のミスマッチを起こさないように、高等学校の先生に、本学部としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する。
- ⑤編入学受験者の増加を目指す。
- ⑥キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。
- ⑦アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

2) 目標の実施状況 <D>

- ①入試区分及び高等学校の評定値と入学後の成績・異動状況等を分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う

健康栄養学科では、1～4 期生の管理栄養士国家試験合格結果を基に、合格者の本学入試区分・出身高等学校での評定値・本学の管理栄養士必修科目での GPA、就職決定時期、全国模擬試験での偏差値等に関する詳細な分析を行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定

校評定値の見直しおよび公募推薦での評定値を変更した。

スポーツ健康学科においても、これまでの全入学者のGPA値や異動（退学者・休学者）に関する分析を同様に行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での評定値を変更した。

また指定校枠・評定値については、各学科会議での確認と相前後して、入試広報室との議論を通して作成した最終案を教授会に上程し、承認・決定された。

②年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく

両学科会議において、本年度入試の方針について議論した。

健康栄養学科では、2年連続で定員割れを起こさないようにするため、年内入試の推薦入学とA0入試による入学者数を50～53名を目標にすること、全体で80～88名を目指すことが確認された。また、本学科の志願者数を増やし、学力を担保した学生の獲得を目指す取り組みの一つとして、松商学園高等学校への出前講義（全13回）を実施することになった。その際、受講生に健康栄養学科としての学びの特色と魅力をアピールすることが確認された。また、スポーツ健康学科では、定員に配慮しつつ、良い成績が期待される学生を積極的に取っていくこと、また志願者の動向に応じて審議していく方向性が確認された。

③推薦入試改革

健康栄養学科では、推薦入試の受験資格の評定値を3.6から3.4に引き下げた。

④入学後のミスマッチを起こさないように、オープンキャンパスの学科説明時や高等学校の先生に、本学部としてアドミッションポリシー「求める学生像」及び必要履修科目を説明する

高等学校で化学や生物を履修していないため、良い資質を持ちながらも入学後の勉学についていけなくなるケースもある。そこで、高等学校入学時、あるいは入学後の可能な限り早い時期に、健康栄養学科は理系であることを強調してもらい、進学を希望する生徒には、必ず化学や生物を履修しておくことを生徒に説明してもらえるように、昨年に引き続き依頼した。

また、進学説明会における出席者や県内の高等学校の先生方にも、同様に入学者の動向について説明し、高等学校のうちからどういうことに気をつけて大学入学に向かうべきかを説明した。

⑤編入学受験者の増加を目指す

編入学受験者増加のため、大学公式ホームページやオープンキャンパス等において、編入学を検討している学生に対して、学科における学びの特徴や取得可能な資格等を分かりやすく提示または説明することに努めた。

健康栄養学科の編入学受験者は3名で、またスポーツ健康学科では1名であった。

⑥キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する

キャンパス見学会、出前講義及び模擬授業の回数は表の通りである。

◆キャンパス見学会

回数(全6回)	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回
日程	5月11日	6月15日	7月13日	8月3日	8月23日	9月20日

◆出前講義及び模擬授業等の回数 平成26年度（人間健康学部）

模擬講義・ 出前講義	学校見学に 於ける講義	オープンキャン パスミニ講義	オープンキャン パス体験講座	高大連携の 模擬講義	松商学園高校 特別模擬講義
---------------	----------------	-------------------	-------------------	---------------	------------------

37 講座	7 講座	15 講座	10 講座	12 講座	16 講座
-------	------	-------	-------	-------	-------

また、高校生の大学選びとしてキャンパス見学会だけではなく、ふだんの授業や学生態度をみるという流れが、本学でも始まった。実績を以下に示す。

◆高校生のための公開授業

回数（全2回）	第一回	第二回
日 程	7月21日	10月13日

⑦アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な能力を持った学生の確保を目的として、学部・学科ごとに入試を実施しているが、入試問題の作成においては、以下の流れにしたがって行った。

推薦入試における「文章理解」問題及び一般入試試験問題については入試委員会の専門部会である入試問題検討部会において、アドミッションポリシーに沿った出題方針を科目ごとに検討している。5月に作題者を交えた入試問題検討部会を開催し、本学のポリシーや出題範囲、難易度等の意見交換を十分に行い、両者の意見に齟齬が無いことを確認後、後日、正式に作題者に依頼を行った。作題者は、部会での内容に基づき問題を作成し、その後、学内担当者・作題者間で校正と訂正を繰り返し行い、最終的に学内の入試委員会において校正を行い試験問題として採用した。

3)点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

①年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく

両学科とも、年度当初の学科会議で、大枠を了承してもらったおかげで、円滑に入試業務を進行することが出来た。

②入試区分及び成績と入学後の成績動向等を分析し、よりよい選抜につなげる

昨年度、健康栄養学科においては全国的な食品・栄養系の受験者数減少の中で、入試はかなり苦戦し、定員を大幅に割りこんでしまった。本年度におけるキャンパス見学会の参加者数は昨年とほぼ同数であったが、昨年とは異なり入学志願者の実数は増加した。また入試区分別の受験者数を見ると、推薦入試では昨年並であったが、A0入試、一般・センター入試の受験者が大きく増加し、また一般入試およびセンター入試の歩留まりが過去最悪であった昨年に対し、例年以上の結果となった。内容は、指定校推薦による入学者数が16名、公募推薦が10名、A0入試が15名、一般入試が20名、センター入試が24名、社会人A0が2名で、合計92名の入学者となった。一方、4年連続で推薦入試による入学者数が定員の50%以下に抑えられた。

スポーツ健康学科では、キャンパス見学会の参加者は微減しながらも入試志願者の実数はほぼ同数であった。また、指定校推薦による入学者数が37名、公募推薦が22名、A0Ⅰ期入試11名、A0Ⅱ期入試が4名、一般入試が20名、センター入試が9名、社会人A0が2名で、合計105名の入学者となり定員を大幅に上回った。

③推薦入試改革

健康栄養学科では、公募制推薦入試における受験者数の増加を図るため、今年度の推薦基準を以前の3.4に戻した。しかし、今年度の志願者は前年とほぼ同数であった。単年度で結論を出す

わけにもいかないが、今後もこの基準を維持し様子を見ていきたい。

④入学後のミスマッチを起こさないように、高等学校の先生方に、本学部として求める人材像及び必要履修科目を説明する

松商学園高等学校および県内の高等学校の進路指導の先生方に対する説明会を行った。説明会で、両学科が求めている学生像は十分に伝わったと思われる。

⑤編入学受験者の増加を目指す

引き続き、編入学受験者の増加のための編入希望者への対応を行っていく。

⑥キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する

表に示したように、2014年度のキャンパス見学会参加者（全学年および3年生）は、前年度と比較して健康栄養学科は約20名の増加が、スポーツ健康学科はほぼ同数であった。このうち、リピーター数は、前年度と比較して両学科ともほぼ同数であった。昨年に引き続き、高校生からの注目度が維持している結果だと思われる。したがって、広報活動が効果的に機能していると思われる。

表. オープンキャンパス参加者数（春のオープンキャンパスを除く）

	2014年度				2013年度			
	全学年		3年生のみ		全学年		3年生のみ	
	素数	リピーター	素数	リピーター	素数	リピーター	素数	リピーター
栄養	197	38	128	36	177	40	106	37
スポーツ	208	50	156	49	206	57	152	51
合計	405	88	284	85	383	97	258	88

⑦アドミッションポリシー「求める学生像」に基づいた入試問題の作成

先に示したスケジュールにしたがって、無事に行われた。

4) 次年度に向けて<A>

入学定員確保とそれを維持していくことは、最重要課題であると捉えている。したがって、次年度も精力的に本学・学部・学科のアドミッション・ポリシー及びそれに基づく多様な情報を、オープン・キャンパスはもちろん、高等学校等進路室訪問、高等学校及び相談会場等において受験関係者に直接伝える機会を増やしていくことに努める。また、大学案内、募集要項、大学ホームページへなどに加え、SNS など様々な媒体をとおして、広く内外に周知し、受験生や保護者、高等学校の教員が必要とする情報を詳しく精査したうえで、正しく理解されるよう工夫を凝らし、積極的な広報活動を通して認知度を一層高め、最終的に志願者増に結びつけるべく取り組んでいくべきである。

【健康栄養学科】

今年度、健康栄養学科では92名の入学生を獲得することができたが、受験生の動向が安定的な状況であるとは言い難い。そのような状況を考慮し、健康栄養学科は、次年度もまた定員確保を第一に掲げ、取り組んでいくべきであると考え。しかし、以前のように定員確保をめざすあまり基礎学力が足りない学生を入学させるのは、将来の国家試験の合格率に影響するため、決して良い選択とはいえない。したがって、次年度入試では、上述の内容を総合的に判断し、バランス

よく合否を判断していきたいと考えている。

[スポーツ健康学科]

スポーツ健康学科は、今年度入試もまた非常によかったため、次年度も同様の方向で行うべきであるとするが、定員を超過していることが、入学後の教育面を圧迫していないか、点検をすべきであるとする。

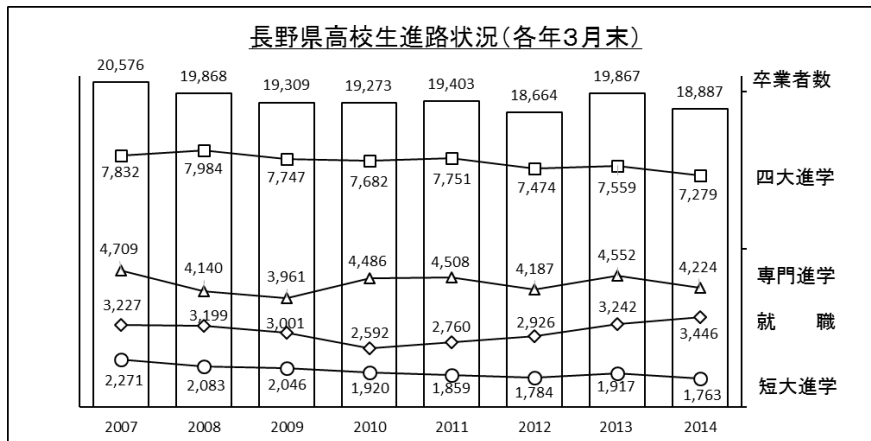
＜執筆担当／入試委員会 人間健康学部主任 高木 勝広＞

(4) 松商短期大学部入試委員会

1) 平成 26 年度当初の計画<P>

短期大学部入試委員会の平成 26 年度当初の目標は、入学志願者 250 人・入学定員 200 人の確保であった。

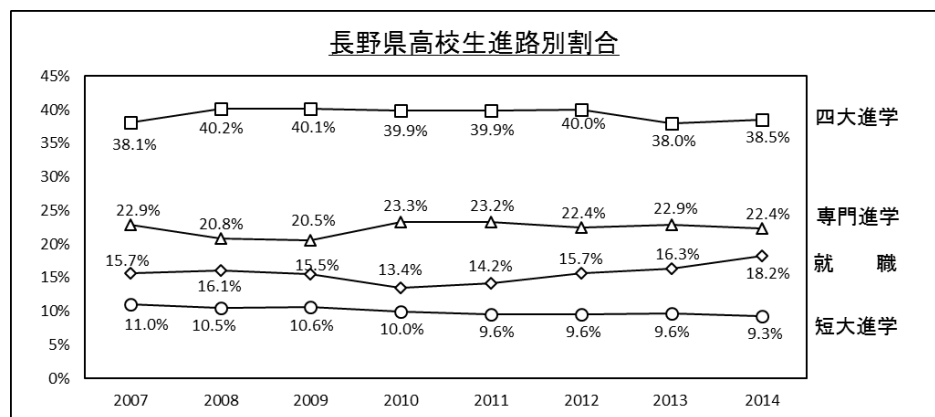
文部科学省学校基本調査によれば、平成 19(2007)年から平成 26(2014)年までの長野県高校卒業者の



の進路別人数は、以下の通りである(各年3月末)。県内高校卒業者は平成 20(2008)年以降、2万人を割り込み平成 24(2012)年、平成 26(2014)年は1万9千人を割り込んでいる。平成 25(2013)年と比較した平成 26(2014)年の特徴

は、卒業生の 980 人の減少を受けて、四年制大学進学者が 280 人、短期大学進学者が 154 人、専門学校進学者が 328 人のいずれも減少し、その一方で就職者が 204 人の増加となっており、進学よりも就職という傾向が見て取れる。

卒業者に対する進路先の割合で見ると、以下の通りとなる。平成 22(2010)年以降の 5 年間で見ると、四年制大学進学率は 40%で頭打ちとなり、専門学校進学率は 22%台で落ち着き、短大進学率は 9%台後半から前半へと減少し、なんとか 9%台を維持しているという状況である。それに対して就職者の割合は、この 5 年間で約 5%の伸びを示し、平成 26(2014)年には専門学校進学率に迫る勢いである。ここから、最近 5 年間の短期大学の学生募集の苦戦の原因を高卒段階での就職者の増加と捉えることができる。



本学の志願者数は、平成 22 (2010) 年度の 225 人 (入学者 200 人) という危機的な状況から、翌年度 254 人 (入学者 213 人)、平成 24 (2012) 年度 269 人 (入学者 232 人) と回復したものの昨年度は志願者 241 人 (入学者 208 人) と減少し、例年目標とする志願者 250 人は届かなかった。四大進学率および専門学校進学率が伸び悩み、就職者の割合が増加する中で、本学に対する志願者の減少が顕著となってきており、本学を取り巻く状況は、厳しさを増している。さらに今年度は、本学と競合する大手専門学校が松本駅前に開校し、学生募集活動が本格化する。したがって、今年度の学生募集活動は、高校就職希望者および専門学校志願者に対する働きかけが、例年以上に重要となる。フィールド・ユニット制における質の高い教育とその結果としての就職における優位性を前面に打ち出した募集活動が望まれる。

2) 平成 26 年度 (平成 27 年度入試) の実績～現状の説明～ <D>

①松商短大部入学志願状況

今年度を含む過去 3 年の入試区分別志願者数は次表の通りである。

入 試 区 分		特待生	推 薦	一 般	センター・留学	AO	計	
26年度 (27年3月末)	商&経営情報	経済支援 6	指定 110	A 12	センター 11	I 期 15		
		学業学力 9	一般 25	B 1	留学 2	II 期 11		
	自己 1	C 1	社会人 0	計 15	136	14		13
25年度 (26年3月末)	商&経営情報	経済支援 8	指定 136	A 12	センター 14	I 期 7		
		学業学力 17	一般 35	B 0	留学 0	II 期 8		
	自己 4	C 0	社会人 0	計 25	175	12		14
24年度 (25年3月末)	商&経営情報	経済支援 15	指定 128	A 18	センター 20	I 期 15		
		学業学力 10	一般 44	B 0	留学 0	II 期 12		
	自己 6	C 1	社会人 0	計 25	178	19		20

今年度の志願者数は昨年度から 37 人減の 204 人となり、年度当初の目標 250 人には届かなかった。入試区分ごとの増減は表の通りであるが、AO入試では 11 人の増加となり一昨年度の水準まで持ち直したものの、特待生入試で 10 人の減少、特に推薦入試での 39 人の減少が全体の志願者減に大きく影響したと言える。

②本年度入学試験区分別状況

入試区分毎の志願者・合格者・入学者数を過去 3 年で比較してみると以下のとおりである。

昨年度に比べた年内実施の試験における志願者数の減少は 37 人であり、これが今年度全体の志願者数の減少となった。そんな中で志願者数が増加したのは AO 入試のみであり、昨年と同数であった推薦後期入試 (一般) を除いて他の入試はすべて減少となった。特に減少が目立つのは、指定校推薦入試の 26 人であり、次いで推薦前期入試 (一般) の 10 人、学業学力特待生入試の 8 人 (経済支援特待生入試と合わせれば 10 人) である。この結果、年内入学者は昨年度に比べて 27 人減の 166 人となり、定員確保に向けてかなり厳しい状況となった。

年明けの入試に関しては、一般A入試については昨年度と同様の志願があり、また、昨年度志願の無かった一般B・C入試についても1人ずつの志願があった。一般入試の入学者については昨年度よりも5人の増加となった。その一方で、センター入試における志願者は全体で昨年度に比べて3人減少、入学者は7人の減少となった。年明けの全入試での志願者数は昨年度と同数であったが、入学者は1人の減少となり、年明けの入試における入学者は計15人となった。その結果、今年度入学者は180人となり、平成15(2003)年度(入学者167人)以来11年ぶりの定員割れとなった。

26年度 試験日	入試区分	志願者数			合格者数			入学者数		
		26年	25年	24年	26年	25年	24年	26年	25年	24年
11月1日	特待生(経済支援) (学業学力)	6	8	15	2	2	3	2	3	3
		9	17	10	2	3	2	2	2	2
11月8日	推薦前期(指定) (一般)	110	136	128	110	136	128	110	134	128
		22	32	39	22	32	38	22	32	37
12月14日	推薦後期(一般) (自己)	3	3	5	3	3	5	3	3	5
		1	4	6	1	4	6	1	4	6
12月14日	留学生	1	0	0	1	0	0	1	0	0
9月19日	AOⅠ期 社会人AOⅠ期	15	7	15	15	7	15	14	7	15
		0	0	0	-	0	0	-	-	0
11月1日	AOⅡ期 社会人AOⅡ期	11	8	12	11	8	12	11	8	12
		0	0	0	-	0	0	-	-	0
年内計		178	215	230	167	195	209	166	193	208
1月31日	一般A	12	12	18	12	11	17	9	6	15
3月6日	一般B	1	0	0	1	0	0	1	0	0
3月19日	一般C	1	0	1	1	0	1	1	0	1
2月	センターⅠ期	5	11	16	5	10	15	1	6	7
3月	センターⅡ期	5	2	2	5	2	1	1	2	0
3月	センターⅢ期	1	1	2	1	1	1	0	1	1
2月20日	留学生	1	0	0		0	0	1	0	0
年明け計		26	26	39	25	24	35	14	15	24
総計		204	241	269	192	219	244	180	208	232

③志願者・入学者の出身地区別状況

過去3年間の志願者・入学者の出身高校地区別一覧は次のとおりである。

地区	26年			25年			24年		
	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者
中信	18	113	105	19	142	122	23	166	141
南信	13	45	37	15	41	36	16	52	44
北信	13	24	20	13	31	27	12	34	31
東信	5	8	8	8	17	14	6	10	10
計	49	190	170	55	231	199	57	262	226
県外	6	12	8	9	10	9	5	7	6
計	55	202	178	64	241	208	62	269	232
留学	2	2	2	0	0	0	0	0	0
計	57	204	180	64	241	208	62	269	232

県内外を合わせて志願実績のあった高等学校数は55校(留学生は除く)で昨年度から9校の減少となった。内訳は中信地区で1校、南信で2校、東信で3校、県外で3校の減であり、昨年度と

同数の北信地区を除く全地域で減少となった。志願者では、中信地区で29人、北信で7人、東信で9人の減であり、南信地区で4人、県外で2人の増加となった。入学者は、中信地区で17人、北信で7人、東信で6人、県外で1人減、南信で1人の増であった。

志願者に対する入学者の割合は、中信で93%(昨年86%)、南信で82%(昨年88%)、北信で83%(昨年87%)、東信で100%(昨年82%)であり、県内計では、88%(昨年86%)、県外および留学生を加えた全体でも同様の割合となった。

④入学者の出身高校別状況

過去3年で本学への入学実績が5人以上であった高校は次表の通りである。

今年度、本学に志願者のあった学校数は55校(留学生2名を除く)、昨年度は64校、一昨年度は62校であったが、入学実績5名以上で比較してみると、今年度が10校98人、昨年度が11校121人、一昨年度が18校172人であった。入学者5名以上では昨年度より1校のみ減ではあるものの入学者で23名の減少となり、入学者数の上位3校の合計では今年度53人、昨年度61人、一昨年度66名となり、上位10校では今年度98人、昨年度116名、一昨年度126名となった。今年度は、本学を志願する高校の減少といわゆる常連校からの入学者の減少が目立つ結果となった。

上位校の顔ぶれは、1位と2位が昨年度と同じ松商高校と豊科高校であり、昨年度7位から5人増やした塩尻志学館高校が3位、穂高商業が3人減らして4位、5位は昨年度と同じ松本美須ヶ丘高校であった。上位5校の顔ぶれは、田川高校が塩尻志学館高校に替わった以外変化はなかったが、各高校において入学者の3~4人の減少となり、今年度の厳しい状況が現れている。6位以下では、辰野高校以外の4校が昨年度と入れ替わり、かつてのベスト10常連校であった梓川高校、大町北高校が復活したが、その一方で昨年度まで5年連続で毎年10人以上であった田川高校が、今年度4人となり、昨年度6位の長野商業高校が今年度2人となった点は、憂慮すべきである。この両校の進路指導教員によると、生徒の多くが短大よりも就職を選んだということであり、生徒の意識として、昨年度と同様いやむしろより強く進学よりも就職という意識が働いたと推測される。

27年度入学(26年)		
①	松商学園	28
②	豊科	13
③	塩尻志学館	12
④	穂高商業	10
⑤	松本美須ヶ丘	8
⑥	諏訪実業	7
⑦	梓川	5
	伊那西	5
	大町北	5
	辰野	5
計		98
⑪	岡谷南	4
	松本筑摩	4
	田川	4
	東京都市大学塩尻	4
計		114

26年度入学(25年)		
①	松商学園	31
②	豊科	17
③	穂高商業	13
④	田川	12
⑤	松本美須ヶ丘	11
⑥	長野商業	9
⑦	塩尻志学館	7
⑧	下諏訪向陽	6
⑨	岡谷東	5
	松本第一	5
	辰野	5
計		121

25年度入学(24年)		
①	穂高商業	26
②	松商学園	22
③	豊科	18
④	田川	13
⑤	梓川高校	9
⑥	塩尻志学館	8
	大町北	8
	須坂東	8
⑨	辰野	7
	諏訪実業	7
	長野南	7
	東京都市大学塩尻	7
	松本筑摩	6
⑬	赤穂	6
	松本蟻ヶ崎	5
⑮	松本美須ヶ丘	5
	上田東	5
	松代	5
計		172

3) 点検・評価の結果<C>

今年度は志願者 204 人、入学者 180 人といずれも年度当初の目標には届かず、11 年ぶりの定員割れという非常に厳しい状況となった。

入試別に見てみると、年内実施のAO入試のみが昨年度からプラスとなったが、特待生入試、推薦前・後期入試においてはすべてマイナスとなった。例年、特待生入試の不合格者が前期推薦(一般)に回る傾向があり、その結果、特待生入試の志願者減がそのまま一般推薦入試志願者減につながる傾向にある。今年度は、特待生入試志願者が昨年度に比べて 10 人減、不合格者 9 人減となり、この 9 人分が前期一般般推薦の志願者 10 名減に繋がったと考えることができる。とすれば、今年度の定員割れの最大の原因は、指定校推薦入試における志願者 26 名の減に尽きることとなる。

年明けの入試では、一般入試およびセンター利用入試、留学生入試を合わせた志願者数が昨年度と同数となり、入学者についても 1 人の減にとどまった。年明けの入試については多くは期待できないものの、この 2 年の実績がだいたいの目安となると思われる。年明けの入試全体での合格者に対する入学者の割合いわゆる歩留率は、56% (昨年度 62.5%、一昨年度 68.5%) であり、一般入試の歩留率は 78.6% (昨年度 54.5%、一昨年度 88.8%) と昨年度よりも高く、センター利用入試は 18.2% (昨年度 69.2%、一昨年度 47%) と非常に低くなった。

平成 23 (2011) 年度から始めた高校時代の専門資格の取得状況に応じた入学金割引制度、本学への兄弟姉妹入学者についての入学金割引制度の利用状況は、推薦入試段階で専門資格取得割引の対象者が 10 人(昨年 14 人)、兄弟姉妹免除が 4 人(昨年 16 人)、一般入試段階(センター試験利用含む)で資格割引が 3 人(昨年 2 人)、兄弟姉妹割引が 3 人(昨年 2 人)であった。また、今年度から、松商学園高校出身者に対しては入学金の全額免除を実施し、推薦入試段階で 27 人、一般入試段階で 1 人が該当した。資格割引の 4 月入学時申請が昨年と同じ 12 人あり、入試合格時点から入学までの学習目標としての効果が大きく、高校から短大への教育接続の面でも良い傾向にあると言える。

入学者の出身地区をみると、県内では南信地区を除く中信・北信・東信地区で減少し、中信で 17 人、北信で 7 人、東信で 6 人の減少となった。この中信地区での減少を今年度松本駅前が開講した大手専門学校の影響と見るべきか否かは、現時点では判断ができない。

入学者の出身高校を見ると、入学者数上位校の顔ぶれには大きな変化は認められないが、それぞれにおいて数名ずつの入学者減があった。特に、かつて本学にとって超大口校であった、穂高商業高校、田川高校の人数減が非常に気になるところである。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

今年度の入学者 180 人という定員割れの状況は、果たして、来年度回復できるのだろうか。本学を取り巻く状況は、今年度と同様に決して予断を許さない。県内高校生の進学状況を見る限り、中堅クラス以上の高校生の四年制大学進学志向の上昇、中堅クラス以下の高校生の就職・専門学校志向の増大が予測され、本学は依然として厳しい状況に晒されている。

唯一の明るい兆しとしては、今年度、就職環境が改善し、本学の学生の就職も質・量ともに近年にはない好調な実績をあげることができた点がある。この本学の就職における優位性を積極的にPRして高卒就職希望者、専門学校進学希望者を本学志願に取り込んでいかねばならない。更に、iPad やモバイルPCを活用した最新の教育手法、外国語を基礎とした異文化コミュニケーション

ョン能力育成教育など、ビジネス系の専門学校と本学の教育内容の違いを鮮明に打ち出し、専門学校にはない本学独自の「学びの多様性・専門性」を具現する教育システム「フィールド・ユニット制」とそれに基づく質の高い就職の実現をこれまで以上に強力にPRし、志願者増に結びつけていく。また、経済的な支援の面でもこれまでと同様に、本学独自の学費免除制度、入学金割引制度、就学支援制度を強くアピールして志願者増につなげていかなければならない。昨年度と同様、長野県内各地域を中心に、新潟県、山梨県も視野に入れての学生募集活動も重要になる。

ビジネス系であるならば、専門学校よりも松商短大という点を強力にアピールしながら、来年度も入学志願者 250 名・入学定員 200 名の確保を目指したい。

<執筆担当/松商短期大学部入試委員 主任 山添 昌彦>

(5) 入試問題検討部会

入試問題検討部会は各学部・学科の代表計 9 名および入試広報室の職員により構成され、2014 年度は全学入試委員長が部会長を兼任している。具体的には、国語・数学・現代社会・地理・日本史については総合経営学部から、英語・生物・化学については人間健康学部から委員が選ばれており、また国語については短期大学部からも委員が選ばれている。

入試問題検討部会は今年度の新設された部会であり、入試委員会の下部組織となる。

同部会の役割は、大きく以下の 4 点に集約できる。

①入試問題の出題方針の決定

一般入試（計 4 回）に出題される試験問題に関し、各科目の出題方針を決定する。この際、科目担当委員と出題者との間で綿密なコミュニケーションを取る必要があり、最終的には両者合意の上で出題方針が決定されることとなる。出題方針が決定できなかった際には、入試問題検討部会ならびに入試委員会で審議の上、出題方針を決定することとなる。

②入試問題案の途中チェック

作題者より試験問題案が提出された後、各担当者は方針通りに試験問題が作成されているか、また出題ミス等が生じていないかチェックする。方針と異なる出題やミスが発見された場合には、作題者に修正を要請する。

③入試問題案への責任

上記②のプロセスを経た上で、最終的な試験問題が確定するが、確定後もミスがないか、再度、入試問題の確認を実施する。その際、教員のみならず事務職員にも協力を依頼し、複数によるチェックを行う。

④作題者との綿密なコミュニケーション

上記プロセスでは作題者との多くのやりとりが生ずることとなり、担当委員には非常に重い負荷となる。しかしこれは作題を丸投げしていないことの証でもある。

やりとりの内容は、可能な限り入試委員会ならびに入試問題検討部会に報告することとなっている。

1) 年度当初の計画<P>

上述の通り、今年度に初めて設けられた部会であるため、試行錯誤の連続でもあったが、その

中で2014年度は以下の項目の達成を目標とした。

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

大学の出題方針を明確にするために、作題者ならびに担当委員を全員招集する会議を、年度の早い段階で開催する。

②新指導要領への対応

今年度は理科において新指導要領に基づく出題となるため、教科や出題範囲について、詳細な打ち合わせが必要となる。

③ミスのない試験問題の作成

当たり前だが、出題ミス等が生じないように、万全のチェック体制を整える。

2) 現状の説明<D>

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

同会議を6月に開催し、作題案の最終締切や今後の流れなどについて説明を行った。その後、作題者も含めて意見交換等を行い、白熱した議論となった。

②新指導要領への対応

生物・化学担当の委員および作題者で出題範囲に関する意見交換を行い、決定された。その後、入試委員会で最終決定となった。

③ミスのない試験問題の作成

チェック体制の整備に努めた結果、今年度の入試問題にミスは生じなかった。

3) 点検・評価の結果<C>

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

会議を6月に開催したが、その後の締切日や担当委員と作題者間でのコミュニケーションを考えると、さらに年度の早い時期に会議を開催するべきと考える。事実、今年度も試験問題案の大きな差し替え等が発生したが、最終締切までに時間的余裕がなく、作題者に多大な迷惑をかけることとなった。

②新指導要領への対応

新しい試験範囲への対応については、この方法が機能していると考えている。具体的な教科・科目となるとしろうと詳細はわかりにくく、常に考えている作題者ならびに担当委員に一任する方法が、当学にはマッチしているといえる。ただしあくまでも推奨案の作成をお願いするのみであり、最終的な意思決定は入試委員会で実施する。

③ミスのない試験問題の作成

試験問題にミスがなかったことは、評価できる。ただしミスがないことが当たり前なので、引き続き緊張感をもって試験問題のチェックに臨む。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①作題者ならびに担当委員全員が集まる会議の開催

会議を5月に開催し、最終締切までの時間的余裕を大きくするようにする。また同会議におい

て、試験問題の作成が完了するまでの流れを再度、議論したい。

②新指導要領への対応

次年度は国語と英語で新指導要領に基づく出題となり、出題範囲の変更の可能性がある。今年度と同様の方法で対応していきたい。

③ミスのない試験問題の作成

現状のチェック体制の制度をさらに高めるよう、再度見直しを行う。

＜執筆担当／入試問題検討部会長 上野 隆幸＞

2. 広報委員会

本委員会の役割は、主として公式ウェブサイトの運営管理と学報『蒼穹』の編集発行（年4回）を通じた大学広報である。

平成27年4月に大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校松本校が開校、さらに平成30年度には長野県立大学が開校予定、さらに、平成27年3月北陸新幹線が開通と、長野県における受験環境は大きく変化してきている。そういった中で、大学の良さ（独自の取り組み等）を世間に広く広報する本委員会の役割は大変に重要である。

1) 年度当初の計画＜P＞

昨年（2013（平成25）年度）の基本方針「情報収集活動及び情報発信活動を強化し、広く大学をPRしていく」を引継ぎ、①公式ウェブサイトの一層の充実を図るとともに、②学報『蒼穹』を広く大学をPRするためのツールとして利用できるような広報誌に衣替えする。

2) 実施した活動の概要＜D＞

①公式ウェブサイトの運営管理

昨年、リニューアルした公式ウェブサイトを基本に、さらに情報発信力を高めるため、内容の充実を図った。

高校生等に、授業（実験・実習等）の様子やゼミナール活動や大学の教育・研究環境を知ってもらうため、担当教員による授業レポートを定期的に発信したり、また、各教員紹介ページの下段に「ゼミナール」の項目を、また健康栄養学科では「施設・設備」をそれぞれ追加した。合わせて「教員紹介」および「出前講座」のページについては年次更新を随時行った。

②広報誌としての学報『蒼穹』の編集発行

昨年度より、『蒼穹』の体裁がカラー印刷、横書き等に一新され、さらに巻頭特集を新設するなど広報誌として内容の充実が図られている。また編集にあたり、編集会議を兼ねた全学広報委員会を定期的開催し、情報収集・編集体制を強化する等内容の充実に努めた。

なお、今年度の巻頭特集は、『全学一丸となって取り組む就職支援』（2014年6月号）をはじめ、『地域に有意な人材の育成をめざして 高大接続・高大連携』（9月号）、『安心・安全なまちづくり防災・災害対策支援の取り組み』（12月号）、『大学COC活動の道筋を描く』（2015年3月号）を取り上げた。

③その他

情報収集活動及び情報発信活動の強化を図る観点から、次のような変更を実施した。

- a) ビジュアルアイデンティティ (V. I.) マニュアルの規定整備：本学のシンボルマークやロゴマークの運用に対する規定で、大学での発行物、文書、グッズなどでロゴマークを利用する際のガイドラインとして教職員に配布し、周知徹底した。
- b) 入試委員会にて導入が決まっている Web 出願に併せ、本学ホームページ内の入試情報サイトのリニューアルを行った。
- c) 卒業生 Web キャリア図鑑の情報収集が年度末に偏っていたので、本年度より随時行った。

3) 点検・評価の結果<C>

①公式ウェブサイトの運営管理

公式ウェブサイトの情報の更新および追加を行ったことにより、内容の充実化等が図られた。

②学報『蒼穹』の編集発行

編集会議を兼ねた全学広報委員会を定期的開催することによって、情報収集・編集体制の強化が図られた。「本学の特色ある取り組み」をもっとも効果的に世間に伝えられるよう、特に巻頭特集の内容については、編集会議でよく吟味し、広報誌としての役割に一定の改善が図られた。

③その他

V. I. マニュアルの規定を周知徹底することにより、大学教職員等における大学のロゴマーク等の運用に関する整備が図られた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①公式ウェブサイトの運営管理

今後も、利用者の要望等を踏まえ、公式ウェブサイトの利便性の向上、内容の充実化等を図る。

②広報誌『蒼穹』の編集発行

今後も、「本学の特色ある取り組みをわかりやすく伝える広報誌」になるよう、さらなる改善に努める。そのためにも、大学・学部・学科等における取り組み情報をできるだけ多く収集するシステム作りに努めて参りたい。

<執筆担当/全学広報委員会 委員長 高木 勝広>

3. 高大連携推進委員会

1) 平成 26 年度当初の計画<P>

地域の若者を育て地域に定着させることを目的に掲げる本学にとって、高校との連携は重要な取り組みとなっており、本学では高校と大学だけでなく、地域の協力を得ながら高大連携事業に取り組んでいる。高大連携事業は本学の地域連携事業の一つであり、同時に本学の学生募集にも繋がる重要な取り組みであり、この観点から例年、連携協定校を如何に増やしていくかが重要な取り組みとなっている。

これまでに本学が連携協定を結んでいる高等学校は、松商学園高校、飯田 OIDE 長姫高校、丸子修

学館高校、エクセラン高校、岡谷東高校、穂高商業高校の5校である。また、地元の田川高校、梓川高校、辰野高校とは、事業ベースで協力連携関係を築くとともに、飯田長姫 OIDE 高校との地域人教育や県内の商業高校と連携して実践的な商業教育である「デパートサミット」事業にも取り組む。

学部別の当初計画は以下のとおりである。

(1) 総合経営学部

総合経営学部においては、これまでの連携事業を継続させるとともに、地元の若者を地元に着させるという目的意識を明確にして、より地域を担う人材育成を目指して広大連携事業を質量ともに充実させる。具体的には、①飯田長姫 OIDE 高校との地域人教育推進のための連携を通じて、地域の担い手を育成するモデルを構築するとともに、高大7年間の一貫教育をめざす、②長野商業教育研究会と連携し、県内商業高校を対象に実践的な教育「デパートサミット」を実施し地域の担い手として人材育成を目指すとともに本事業を通じて高校の教職員とのネットワークを構築する、③高大連携チャレンジ講座および出前講義では、経営、福祉、観光、地域づくりなどの本学部の持つ専門性を活かし、高校生の地域に対する理解を図るとともに本学の教育についても関心をもつ機会を創出する、④穂高商業高校の文化祭の支援では、高校生と地域の連携を図るとともに本学学生との交流を通じて本学に対して理解を深めることを目的とする。

(2) 人間健康学部

人間健康学部では、スポーツ健康学科が岡谷東高校との連携事業を継続的に実施するとともに、平成26年度から新たにスポーツ健康学科と健康栄養学科の両学科が、松商学園高校において出前講義を実施する。岡谷東高校との連携事業は7年目となり、これまでと同様に①スポーツ及び健康科学における同様の専門を有することより、それぞれの立場からお互いの利点を活用することによって、双方の教育力、専門性の向上を図ること、②教職関係授業における実習の場としての活用及び専門的内容を高校生にも分かりやすく伝達する教育スキルの向上、③スポーツ健康学科の特色等を実際に理解してもらうことにより、よりよい入学者の確保を目的として、取り組む。また、松商学園高校における出前講義においては、本学の教育内容やカリキュラム等への理解を深め、本学に進学を希望する学生の参考となるようにプログラムが設定された。

(3) 短期大学部

例年通り、穂高商業高校、松商学園高校商業科との連携事業を中心に、総合経営学部観光ホスピタリティ学科との共催で、飯田 OIDE 長姫高校、辰野高校との連携事業に取り組む。

2) 平成26年度の実績～現状の説明～<D>

(1) 総合経営学部の取組

総合経営学部では例年、高大連携への取組を積極的に展開している。今年度は以下のとおりの取組を行った。

① デパートサミット (マーケティング塾・デパートゆにっと)

「デパートサミット」は、長野県商業教育研究会が主催し本学が全面的に支援する、県内の商業を学ぶ高校生が「地域」と「商品開発」、「マーケティング」をコンセプトに学習と実践を行なう取り組みであり、本学がこれまで進めてきた高大連携のすべてを集約した取り組みとして位置づけられ、将来の地域社会を担う若者を育てつつ、その力を地域に還元して地域自身も元気に

なる挑戦でもある。「デパートサミット」は、県内の商業を学ぶ高校生を対象にマーケティングについて理論と実践について学び商品開発を行なう「マーケティング塾」とその成果を百貨店で発表し検証する「高校生合同販売会（デパートゆにっと）」によって実施されている。

〈第2期 平成25年10月～平成26年9月〉

第2期として8回亘りマーケティング塾を開催し、その成果の発表として、平成26年8月にながの東急にて、「デパートゆにっと」として3日間実施し、高校生が13校から60名、教員20名が参加した。

〈第3期 平成26年10月～平成27年3月（継続中）〉

第3期のマーケティング塾として2回（平成27年3月まで）実施し、高校生が12校から40名、教員15名が参加した。

〈スイーツ対決 平成27年2月7・8日〉

2日間にわたり、諏訪実業高校、穂高商業高校、丸子修学館高校、辰野商業高校、松商学園高校と観光白戸ゼミ、短大金子ゼミが参加してスイーツの商品開発と販売を行なった。事前の準備として商品発表会等を行った。

② 高大連携チャレンジ

〈平成26年夏〉

短期大学部と合同で7月30～31日に飯田長姫OIDE高校と辰野高校から延べ約63名が参加して実施された。総合経営学部としては、「コミュニティ・ビジネス」をテーマとして、「地域づくりと小さなビジネス」、「観光まちづくりとビジネス」、「ビジネスと法律」、「福祉とビジネス」、「グループディスカッション～高校生が創る地域のビジネス」の講義を実施した。（短期大学部高大連携チャレンジ参照）

③ 地域人教育

飯田市と飯田長姫OIDE高校および松本大学が進める「地域人教育」は、飯田地域が抱える地域課題を人材の育成という観点から解決しようという取り組みである。平成23年度に飯田長姫高校（当時）の教員から地域を担う人材として高校生を育てるプログラムについて一緒に取り組みたいという要望が本学にあり、その議論の中から「地域人教育」の取り組みが始まった。「地域人」とは、「地域に愛着を持ち、地域を学び、地域に貢献する」人材を指す。飯田市と、飯田長姫OIDE高校、本学の3者で平成24年度に地域人教育の推進に向けての連携協定を締結し、1年次から3年次まで3年間で7単位、245時間のプログラムを大学と飯田市が協力して実施するものである。

本年度は1年次から地域人教育を受けた卒業生が、本学に入学し7年間一貫教育の一步を踏み出した。本年度は、総合経営学部より延べ6名の教員が高校にて「飯田の産業史」、「ブランドづくり」などをテーマに高校にて講義を行なったほか、松本市内におけるフィールドワーク実習やリヤカー販売実習、飯田市内におけるフィールドワーク、高校生の活動を大学生が評価する交流事業などを実施した。また、地域人教育の円滑な推進のために、高校教員や飯田市職員との協議や学習会、研修などを行い、信頼関係を構築するとともに、事業の目的などの共通理解を図った。

④ 穂高商業高校文化祭の支援

短大部との高大連携に加えて、25年度に引き続き、大学生と高校生と一緒に文化祭の企画を行なう事業を実施した。総合経営学科、観光ホスピタリティ学科の各1ゼミ、短大部2ゼミが3年生の4クラスをそれぞれ担当し、高校生と大学生が本学教員の指導の下文化祭の企画を準備し実施した。高校生や教員、文化祭に来場した地域の住民から大変評価を受けた。

⑤ 梓川高校・田川高校と地域の連携教育への支援

梓川高校による地元波田地区との連携に関して、観光ホスピタリティ学科として支援を行っており、本学からは4年前より福祉の科目について教員を講師として派遣している他、学校評議員会にも委員を派遣している。その結果、地元地域と高校との間で連携協力関係が構築されている。また、田川高校については、高校の地元村井駅前の商店街より高校との連携を発展させたいとの要望が本学に寄せられ、7月に開催された「村井商工祭」において、高校生と大学生のコラボレーションによるカフェ等の出店を実施した。

⑥ 松商学園高校における出前講座

総合計絵学部において松商学園高校で実施された出前講義は以下の通りである。

【総合経営学科】全3回 17:00～18:00

	日程	内容	担当教員
1	6月2日	ネットの凄さと怖さ ～インターネットと上手に付き合う方法～	室谷
2	6月16日	自分の心の中をのぞいてみよう ～働く人を支援する心理学	矢崎
3	6月23日	仕事のできる社会人とは ～経営学を知っていると得をする	上野

【観光ホスピタリティ学科】全3回 13:00～14:00

	日程	内容	担当教員
1	7月14日	長野県の国際観光	益山
2	7月15日	新しい経済で地域を創る	白戸
3	7月16日	データで読み解く長野県の福祉事情	佐藤(哲)

⑦ 松代高校のキャリア教育への支援

松代高校からの依頼により、高校1年生を対象としたキャリア教育プログラムを本学が企画して実施した。(主催は松代高校)高校1学年を対象に将来地域を支える人材として活躍する意識を育て、これからの高校生活に活かすことを目標として、大学での講義と企業の見学を組み合わせたプログラムを実施した。松代高校から1学年187名および引率教員10名が参加し、大学での地域経営に関する講義および企業見学のオリエンテーションを行ない、その後少人数に分割して、テーマ別の企業見学を行なった。

プログラムは以下の通りである。

実施日：2014年9月26日(金) 午前10時～15時30分 場所：松本大学・周辺地域

10:00	オリエンテーション	
10:05～11:45	パネルディスカッション これからの地域と新しいビジネス	本郷鶏肉山崎社長・笹井酒造笹井会長・ 牛越製作所牛越社長

11:45～12:00	県内高校生の進路選択について	松本大学中村入試広報室長
12:00～15:00	アウトキャンパススタディ	3 コース 6 グループ

アウトキャンパススタディは、以下の3コース6グループに分かれて実施した。

・地場産業コース

テーマ「地域資源に付加価値をつける企業」

① 野菜加工

現場見学 美勢商事餃子製造工場・直売所えんえん（食品加工）

② 池田町の地域活性化と地域資源活用

講義「資源を活かした観光と産業の融合について」池田町観光協会

現場見学 大峰公園カモミール圃場・ビストロカモミール（食材加工）

・ニュービジネスモデルコース

テーマ「地域課題解決型ビジネス～遊休農地の活用・リサイクル・障がい者雇用」

① リサイクルと障がい者就労

現場見学 山形村社協フランス鴨飼育施設（食事及び笹井氏の説明）

ハートフル松本 FVP（障がい者によるプラスチック再生工場）

② そば製造

講義 かまくら屋（スズキアリーナ松本）田中社長

そば米活用方法に関するアイデアに関するディスカッション

現場見学 かまくら屋圃場・そば乾燥工場・そば製粉工場

・テクノロジーで全国・世界に挑戦する企業経営コース

テーマ「技術開発の現状と世界的・全国的な展開」

① テスコム

現場見学 テスコム（ドライヤー製造）

② 日邦バルブ

現場見学 日邦バルブ（水道給水部品製造）

(2) 人間健康学部の実践

①岡谷東高校との連携事業

実施概要（期日・場所・内容）については以下の通りである。なお、本事業実施に向けての打合せは、メール、電話を利用すると共に教育実習校訪問、高大連携成果発表会（岡谷東高校）時に行った。

○高校生の大学授業・キャンパスライフ体験 ※場所はすべて松本大学。

No.	月日	対象	時間	内容	担当	講義タイトル
1	7月1日 (火)	1年生	9:40～ 9:55	オリエンテーション	中島 弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	三村 芳和	全速運動したときの心肺機能
			11:10～12:10	模擬講義	中島 弘毅	運動の脳に及ぼす影響

			12:10～13:00	昼食	中島 弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	中島 節子	養護教諭・健康
2	7月3日 (木)	2年生	9:40～ 9:55	オリエンテーション	中島 弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	犬飼己紀子	レクリエーション・GWT
			11:10～12:10	模擬講義	大窄 貴史	学校保健学
			12:10～13:00	昼食	中島 弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	田邊 愛子	体力・体脂肪率とは
3	9月11日 (木)	1年生	9:40～ 9:55	オリエンテーション	中島 弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	岩間 英明	スポーツを学ぶということ
			11:10～12:10	模擬講義	呉 泰雄	スポーツ栄養学
			12:10～13:00	昼食	中島 弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	江原 孝史	肥満について
4	9月12日 (金)	2年生	9:40～ 9:55	オリエンテーション	中島 弘毅	
			10:00～11:00	模擬講義	根本 賢一	トレーニング科学の理論と 実際
			11:10～12:10	模擬講義	等々力賢治	スポーツビジネスってなん だろう？
			12:10～13:00	昼食	中島 弘毅	
			13:00～14:00	模擬講義	齊藤 茂	スポーツ心理学

○本校教職課程学生の高校での実習(担当:大窄 貴史) ※場所は岡谷東高校。

No.	月日	対象	時間	内容
1	10月17日 (金)	保健体育、 養護教諭履 修3年生	12:30～13:20	4時間目授業参観
			13:30～13:50	5時間目(質疑応答)
			13:50～14:20	・保健体育/講話 ・養護教諭/保健室運営参観

(3) 松商短期大学部の取組

以下の通り、夏と春のチャレンジ型連携、年間を通したグレードアップ型連携を実施した。

① 大学授業チャレンジ型連携

高校の夏休み・春休みを利用して、本学において大学の経済・ビジネス系等の専門科目を受講しながら、学食利用、教室移動等の具体的なキャンパスライフを高校生に体験してもらうことを内容とした連携であり、今年度は、7月15日～17日の3日間で松商学園高校商業科生徒のべ約200名を、7月30日～8月1日で穂高商業高校99名、辰野高校商業科29名(7月31日・8月1日)、飯田OIDE長姫高校商業科8名(8月1日)を受け入れ、3月3日～5日に穂高商業高校の生徒96名を受け入れた。開講科目・時間割は以下のとおりである。

松商学園高校商業科チャレンジ講座2014

		3時限 14:00～15:00	4時限 15:10～16:10
7月15日	(火)	経営分析(山添)221教室 1年生3名 2年生23名 3年生16名 計42名	マーケティング(金子)221教室 1年生1名 2年生23名 3年生15名 計39名
7月16日	(水)	医療事務(浜崎)221教室 1年生0名 2年生14名 3年生9名 計23名	国際コミュニケーション(糸井)221教室 1年生0名 2年生10名 3年生3名 計13名
7月17日	(木)	ブライダル入門(小澤)221教室 1年生0名 2年生27名 3年生5名 計32名	進路講話(中村 入試広報室長)221教室 1年生0名 2年生15名 3年生0名 計15名

大学授業チャレンジ型連携(2014年夏) 講義時間割

	1時限 9:40～10:40	2時限 10:50～11:50	3時限 13:00～14:00	4時限 14:10～15:10
7月30日(水)	キャリアクリエイト①(糸井) 524教室 穂商99名	経営分析①(山添) 524教室 穂商99名	マーケティング①(金子) 232教室 穂商99名	銀行論①(藤波) 121教室 穂商99名
7月31日(木)	パソコン演習①(浜崎) 332教室(穂商53名)	Excel経営分析①(山添) 332教室(穂商53名)	銀行論②(藤波) 132教室 穂商64名	マーケティング②(金子) 231教室 穂商64名
	Excel経営分析①(山添) 322教室(穂商46名)	パソコン演習①(浜崎) 322教室(穂商46名)	マーケティング②(金子) 231教室 穂商35名 辰野29名	銀行論②(藤波) 132教室 穂商35名 辰野29名
	地域づくりと小さなビジネス (白戸) 521教室 辰野29名	観光まちづくりとビジネス (山根) 521教室 辰野29名	実業高校からの進学・就職を考える (中村入試広報室長) 524教室 穂商99名	アンケート記入 524教室 14:30終了
8月1日(金)	会計学入門①(長島) 521教室 穂商99名	経済学入門①(糸井) 513教室 穂商99名	グループディスカッション ～高校生が創る地域のビジネス～ (各教員) 521教室 長姫8名 辰野29名	
	ビジネスと法律 (増尾) 514教室 長姫8名 辰野29名	福祉とビジネス (尻無浜) 515教室 長姫8名 辰野29名		

7月30日(水)9時20～40分 開講式 524教室

大学授業チャレンジ型連携(2015春) 穂高商業高校講義時間割

	1時限 9:40～10:40	2時限 10:50～11:50	3時限 13:00～14:00	4時限 14:10～15:10
3月3日(火)	マーケティング③(金子) 521教室	経済学入門②(糸井) 523教室	経営分析②(山添) 514教室	実業高校からの 進学・就職を考える (中村入試広報室長) 524教室
3月4日(水)	パソコン演習②(浜崎) 332教室:59名	Excel経営分析②(山添) 332教室:59名	銀行論③(藤波) 514教室	マーケティング④(金子) 515教室
	Excel経営分析②(山添) 322教室:40名	パソコン演習②(浜崎) 322教室:40名		
3月5日(木)	銀行論④(藤波) 121教室	会計学入門②(長島) 121教室	キャリアクリエイト②(糸井) 523教室	閉講式 514教室(14:10～14:40)

② 高校授業グレードアップ型連携

穂高商業高校において既に日本商工会議所簿記検定2級を取得したか、それと同程度の実力があると認められる生徒を対象に、本学教員が同校に週1回出向いて日商1級の「商業簿記・会計学」「工業簿記・原価計算」を講義することを内容とした連携であり、毎週月曜日の2・3時限目(10時20分～12時10分)に今年度も全23回実施した(本学担当は長島・山添)。参加生徒は当

初 13 名であったが、6 月の日商検定以降 2 名追加となり、15 名となった。講義日程・内容は以下のとおりである。

高校授業グレードアップ型連携 2014 講義日程(穂高商業高校)

回	日程	科目	テーマ*	担当
1	4月14日 月	商業簿記・会計学①	簿記／簿記と会計の関係、現金預金の処理とその意味	長島
2	4月21日 月	商業簿記・会計学②	簿記／債権債務と補助元帳	
3	5月12日 月	工業簿記・原価計算①	意思決定会計総論～ディズニーランドへ行く～	山添
4	5月26日 月	工業簿記・原価計算②	意思決定のための利益計算方式～焼きそば屋台の利益計算～	
5	6月2日 月	商業簿記・会計学③	簿記／商品売買取引ー1ー	長島
6	6月9日 月	商業簿記・会計学④	簿記／商品売買取引ー2ー	
7	6月23日 月	工業簿記・原価計算③	業務執行的意思決定会計(1)～特別注文がきたらどうする?～	山添
8	6月30日 月	工業簿記・原価計算④	業務執行的意思決定会計(2)～部品を作るか、買うか?～	
9	7月7日 月	工業簿記・原価計算⑤	業務執行的意思決定会計(3)～最適セールスマックス～	
10	8月25日 月	工業簿記・原価計算⑥	業務執行的意思決定会計(4)～リニア・プログラミング～	
11	9月1日 月	工業簿記・原価計算⑦	構造的意味決定会計(1)～正味現在価値の計算～	長島
12	9月8日 月	商業簿記・会計学⑤	会計学／企業会計原則(一般原則)	
13	9月16日 火	商業簿記・会計学⑥	会計学／財務会計の概念フレームワーク	
14	9月22日 月	商業簿記・会計学⑦	会計学／金融商品に関する会計基準	山添
15	9月29日 月	商業簿記・会計学⑧	会計学／棚卸資産の評価に関する会計基準	
16	10月6日 月	工業簿記・原価計算⑧	構造的意味決定会計(2)～設備投資の意思決定モデル～	長島
17	10月27日 月	工業簿記・原価計算⑨	構造的意味決定会計(3)～法人税の支払いを考慮する～	
18	11月17日 月	商業簿記・会計学⑨	会計学／固定資産の減損に係る会計基準	山添
19	12月1日 月	商業簿記・会計学⑩	会計学／資産除去債務に関する会計基準	
20	12月8日 月	商業簿記・会計学⑪	会計学／リース取引に関する会計基準	長島
21	12月15日 月	工業簿記・原価計算⑩	構造的意味決定会計(4)～設備の自動化～	
22	12月22日 月	工業簿記・原価計算⑪	構造的意味決定会計(5)～取替投資～	
23	1月19日 月	工業簿記・原価計算⑫	構造的意味決定会計(6)～リースか、購入か?～	山添

(10:20～12:10)

3) 点検・評価の結果<C>

(1) 総合経営学部の取組

全体としては、目的に沿って多様な取り組みが行われ、ほぼ当初の目標を達成した。

デパートサミットでは、著しい成果が得られた。合同販売会には、新たに木曾青峰高校が木工品を販売したほか、北海道から鳥取まで全国 12 の商業高校が参加し、全国レベルのイベントとなった。また、第 2 期には生徒の実行委員会が組織されより生徒が中心となる運営となるなどより高校生主体の取組となっている。また、高校生が開発した商品は、いずれも地元の伝統野菜や和紙などの特産品を地域の様々な人々の協力を得て商品化したもので、単なる商品開発ではなく、地域資源を活用し地域を振興する意識と能力を持った若者を育てるという当初の目的に近づくことができた。

また、本取り組みは本学を会場に年間を通じて実施することもあり、高校生や高校教員が本学の教育を理解し関心をもってもらう機会としても重要な意味を持ち、結果として本学に進学する

商業高校生の増加につながっている。さらに今後は、農業高校や工業高校の参加も検討されており、地域の将来を担う若者を育てる重要な取り組みになることが期待されている。

地域人教育については、本年度からはフィールドワークをより効果的に実施するために、研修として松本市内においてフィールドワークを大学生の指導の下実施したほか、地域人教育の円滑な実施に向けて高校教員と飯田市職員を対象とした研修会を大学教員を講師に開催するなど、新たな取り組みに挑戦している。また、地域人教育の成果を進路に結びつけるために、「チャレンジ型講義」において、地域の課題を解決する「コミュニティ・ビジネス」の講義を行なうなどのプログラム間の連携も行った。課題としては、プログラムの発展に伴い、高校、市役所、大学間がより地域人教育の目的や理念を共有する機会を持つことが不可欠であり、定期的な協議の場を持つことや合同での研修などの具体的な取り組みが必要である。また、地域人教育の成果として地域における就職が増加した半面、大学に進学する生徒が少ないために高大7年間の一貫教育の実現が未達成であり、今後は広報活動との連携などの環境整備が欠かせない。

総合経営学部では、本学の地域との連携についての経験を活かし、高校を支援する「地域との連携支援型事業」を重視して実施しているが、本年度は辰野高校および穂高商業高校で具体的な取り組みを行う一方で、梓川高校では高校独自に地域との連携を深める取り組みが進むなど年度を超えた成果が生まれている。辰野高校の地域連携事業について本学教員がアドバイスを実施するとともに大学生の地域連携活動の現場に高校生が参加して研修を行い、その成果を生かすことができた。また、平成25年度より始まった穂高商業高等学校における3学年の文化祭クラス企画の支援の結果、地域からの来場者が増加し、平成27年度からは地域をテーマにした講義プログラムの新設を高校として検討するなど一定の成果を達成した。さらに田川高校においても地元商店街を巻き込みながら事業が開始された。

このような「地域との連携支援型事業」においては、これまでの取組から、①具体的なテーマや課題を切り口にして実践的な取り組みから始める、②高校生と大学生に加えてそれを支える地域の人々にも参画してもらい、③協定など形にとらわれずに、実践を積み重ねる中で信頼関係を築くことを大切にしてより教育的な効果をあげることができるような取り組みを行なうことが重要であることが今後の課題である。

全体を通じての、今後の課題としては、連携事業を担当する教員が観光ホスピタリティ学科に偏っていることから、総合経営学部の取り組みとしてより多くの教員の参画が必要となっている。また、広報活動との連携が十分とはいえず、学生の進路選択により結びつくべく、学内での連携も深める必要がある。

(2) 人間健康学部の取組

スポーツ健康学科の岡谷東高校との高大連携事業

本事業により、高校生にも大きな好ましい変化が現われている。また、本事業を活用した形で、高校生の学びを深める取り組みを高校側も実施している。主な評価ポイントは以下のとおりである。

- ①高校側とのこれまでの話し合いの成果により、高校生の受講態度が真剣なものとなり、各教員から高い評価を頂いている。
- ②教職課程履修学生が、実際の教育現場に行き、授業見学、質疑応答など直接的に学ぶ場と

して効果を挙げている。

③ 高校側における高大連携成果発表会の開催が文化祭時ならびに別途日時を設定して初めて他大学を含めて行われるなど、本学との取り組みが学内外に対するアピール材料として活用されている。

④ 進学者対象の各大学の出前講義に指名される。当該専門方面進学希望者への強いアピールができると共に学習意欲の高い生徒の存在確認ができた。

今年度の取組から次年度に向け、以下のような課題が挙げられる。

① 事業内容においてはこれまでのものを堅持し、実施してゆく。また、特定専門科目授業担当者との連携を深め、事業内容を更に深めたい希望を有している部分もあるので、更に検討を深めてゆきたい。

② スポーツ健康学科のみならず、健康栄養学科との連携も開始したいとの申し出があったので、実施に向けて検討してゆきたい。

(3) 松商短期大学の取組

穂高商業高校との大学授業チャレンジ型連携および高校授業グレードアップ型連携については、本年度で9年目となり、この間若干の科目担当者変更があったものの、年中行事として定着してきている。また、松商学園高校商業科のチャレンジ講座は、3年目となり、穂高商業高校とは一部異なる実施形態ではあるものの、徐々に定着しつつある。

7月30日から8月1日のチャレンジ型は、穂高商業高校生徒に加えて、昨年度と同様、総合経営学部観光ホスピタリティ学科との共同開催で飯田 OIDE 長姫高校、辰野高校にも参加を促したが、両校とも3日間はスケジュールが合わず、辰野高校が7月31日と8月1日の2日間、飯田 OIDE 長姫高校は8月1日のみの参加となった。松商学園高校についても昨年度と同様に、同校の夏休み直前の三者面談日の午後3日間を活用して、同校商業科1年生から3年生までの各生徒が受講希望の科目に自由に出席する形態での実施となった。

参加高校生の終了アンケートの回答によると、チャレンジ型に対する評価は良好である。特に各科目の内容に非常に興味を持ち、プロジェクター等の利用による学習環境の良さに驚きながらも満足していることが窺われる。また、ほとんどの学生が学生食堂の味・値段にとっても満足し、学食利用や教室移動を通して大学生活に対する具体的なイメージが持てたと記している。中には、進学の意欲が増した、本学への進学意欲が高まったという感想も少なからずあった。

グレードアップ型連携については、毎週月曜日の午前中、穂高商業高校の2・3時限目の授業として実施されており、日商簿記検定1級レベルの会計学と意思決定会計を内容としているが、高校生にとっては、やや難易度の高い内容となっている。参加生徒の「教えてもらう」という受け身の姿勢を、「自ら学ぶ」という能動的姿勢に変化させるような内容面での見直しが課題である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

次年度への改善・改革に向けては、点検・評価の結果<C>にて総括されている学部ごとの取り組みに加えて、全学的には以下の方策が必要となる。

① 高大連携活動と広報活動のさらなる連携によって、高校生の進路選択に結び付け、高大接続教育により発展させる。そのために高大連携活動に関する情報の共有や高校教員とのネ

ネットワークの共有など高大連携委員会と入試広報委員会、各学部・学科との連携を深めるとともに各高校との高大連携の推進について全学的に取り組む。

- ②高校のニーズをより把握し連携事業の充実を図るとともに、新たな高校との連携を行うために、広報活動と連携しつつ高校との交流を積極的に取り組む。協定の締結の増加にも取り組む。また本学の高大連携活動について学内外に情報を発信し、高大連携のモデルとして広く提起する。
- ③学部間における連携を深め、大学全体としての取り組みとすること。特に全学的に高大連携の重要性を理解することが重要である。ただし、現状では各学部におけるそれぞれの取り組みが各学部の特性を活かしながら進んでおり、早急な一元化ではなく、情報共有も含めて長期的な視点から進めることが重要である
- ④高大連携事業は、本学の各部署と密接に関わるために、事務局体制の充実も今後具体的に進めていく必要がある。具体的には担当者に情報等を集約するとともに、各部署間での情報共有を進める。また事務局体制の充実に加え、教学組織においてもより効果的な体制を整える必要がある
- ⑤高校生を対象とした講義の方法などについて調査・研究を行ない、講義や実習内容の充実を図る。必要に応じて研修の実施なども検討する。

＜執筆担当／高大連携推進委員会 委員長 白戸 洋＞

4. センター入試委員会

1) 年度当初の計画＜P＞

センター入試委員会の平成 26 年度当初の計画は以下のとおりである。

① 高校学習指導要領改訂に伴う移行措置を含んだ試験への対応方法の検討

平成 27 年度大学入試センター試験の変則的な試験実施方法について情報を集め、本学試験会場での具体的対応方法について検討する。

② 試験監督免除者の基準の検討

入試業務の煩雑さが予想されるため、監督業務免除の判断基準（原則 60 歳以上）という年齢設定について再検討する。

③ 監督者への事前研修の実施

大幅変更となった実施内容を周知徹底するための監督者向け事前研修について綿密な計画を行う。

④ 的確な試験業務の実施

準備作業を含む試験当日の業務を的確に行う。

2) 計画の実施・現状の説明＜D＞

① カリキュラム改訂に伴う移行措置を含んだ試験への対応方法の検討

平成 27 年度のセンター試験を受験する現役高校生の多くは、新学習指導要領に基づく新課程の数学及び理科の教科で受験することとなる。これを受け、平成 27 年度以降は数学と理科が新課程科目での出題となるが、浪人生や定時制生徒等の旧課程履修者に対する措置として、当年度のセ

ンター入試に限り旧課程科目の出題も併せて行うこととなった。

これにより、新課程受験生と旧課程受験生の科目選択パターンが複雑化することから、大学入試センターでは受験生の理科選択パターンを基準とした受験生の試験会場への割り振り作業を実施することとなった。本学試験会場では信州大学松本試験場と連携し、両会場をグループ化して一括りの会場として扱い、理科選択パターンごとの受験生の割り振りをするすることで、各教室における実施科目の単純化を図ることとした。

②試験監督免除者の基準の検討

これまで、原則として60歳以上の教員に対しては、負担の大きい監督業務を免除することを申し合わせてきたが、本年度は試験の実施内容が複雑化することから、再検討した。その結果、この申し合わせ事項を白紙として全教員に協力を依頼し、監督者の割り振り作業を行った。割り振り作業に際しては、個々の事情等を考慮しながら調整を行った。

③監督者への事前研修の実施

今年度は、監督者研修を例年実施している4回（監督者会議2回、リスニング担当者会議2回）に監督者会議を1回追加した。特に、地歴・公民と理科②の1科目受験または2科目受験の各教室における業務の流れが複雑であるため、複数回にわたり説明を行った。加えて、1科目と2科目の中間時間帯における受験生の移動（トイレ等）に際して円滑な誘導ができる様、誘導スタッフとの連絡方法について徹底した説明を行った。

また、試験時間割やリスニング機器の大幅な変更があったことから、事前研修では十分に時間を割いて説明を行った。

④的確な試験業務の実施

監督者の割り当てに関しては、変更時点で即座に最新版の割当表を配付して、各監督者に把握してもらった。各教室や試験場本部の準備作業に際しては、什器や看板の配置等を前年度の写真を参考にして作業の効率化を図った。

また、昨年度の反省点を列挙したリストと照らし合わせながら、問題点の有無をチェックしながら作業を進めた。

3) 点検・評価の結果<C>

①高校学習指導要領改訂に伴う移行措置を含んだ試験への対応方法の検討

信州大学松本キャンパスとの試験場のグループ化によって、新旧合わせて15ある理科の選択パターンを本学試験場では新課程受験者のみの6パターンに半減することができた。これによって同一試験室での複雑な座席配置や問題冊子の配布作業が不要となり、結果、当初の予想より業務の単純化に成功した。

②試験監督免除者の基準の検討

これまでの申し合わせ事項を変更することは、教職員の動揺を誘うのではないかと心配もあったが、今年度の状況に対する理解を得ることが出来、特段の問題もなく監督者割り当てを行うことができた。

③監督者への事前研修の実施

監督者会議を1回増やした点と、欠席者に対する事前事後の個別対応によって、業務内容の理

解が進み、試験当日の業務を円滑に進めることが出来た。

④的確な試験業務の実施

当日、試験室から細かな点（ごく小さなアラーム音が10秒程鳴った、写真票にシールを貼った受験生がいた、体調不良を訴えた者がいたが別室受験はしなかった等）でいくつかの報告や問い合わせがあったが、特別な対応を要する事案はなく終わった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①平成28年度試験の実施内容の早期把握と対応

平成28年度は新課程科目のみの試験となる。しかし、変更点があるので早期に内容を把握し、センター入試委員および関係各署への通知を行う。

②監督者への事前研修の実施

事前研修の時期と回数、説明内容について、委員会にて検討を行う。

③試験に向けた的確な準備と業務の実施

監督者の割り当て作業と準備作業を含む試験当日の業務を的確に行う。

<執筆担当/センター入試委員会 委員長 矢野口 聡>

IV. 管理部門

A: 大学運営管理

1. 全学協議会

学長、副学長、研究科長、各学部長・学科長並びに事務局長及び総務課長、学生センター長を構成員とする全学協議会は、平成 23(2011)年度の組織改革の中で、最高決定権者である学長の下に設置された学部横断的の事項に関する審議・決定機関と位置付けられ、短期大学部も含めた学部横断的な課題、事項について審議し、結論を得ていく役割を果たしている。

1) 年度当初の計画<P>

平成 25(2014)年度も、上記の設置主旨を踏まえつつ、当該月に開催された全学運営会議で事前に確認、整理された審議事項について慎重に審議し決定すること並びに、報告事項について適切かつ適確に周知を図るべく努める。とりわけ、新県立大学の設置・開設を睨んだ諸改革について、主導的役割を果たすべく取り組む。

2) 計画の実施と現状の説明<D>

年度当初の計画に基づいて、今年度もまた、8月をのぞく毎月一回、定期で計 11 回開催された。審議事項は、事前に全学運営会議における議論を経たものを中心に、全学委員会から各「担当」を経て適宜上程されたものも含めて審議し、結論を得てきた。また、報告事項についても、事前に全学運営会議において報告のあったものに加え、全学委員会等からのものも適宜報告され、情報の周知、共有に努めた。

5月 28 日に開催された第 2 回会議では、2017(29)年度開設を目指す新学部設置準備及び学部・学科改革などの取組予定を勘案し、当初、2016(平成 28)年度としていた日本高等教育評価機構による第三者評価受審を一年前倒しし 2015(平成 27)年度とすることが、住吉学長より提案され、審議の結果承認した。以降、報告書作成に主導的役割を果たすと共に、評価基準を睨みつつ教務関係を中心に点検を進め、規程整備など必要な取組を順次進めた。主要なものは以下のとおり。

- ・カリキュラムマップの作成、整備 (8月 2 日、第 4 回)
- ・オフィス・アワーの設置 (9月 24 日、第 5 回)
- ・学長表彰内規 (同上)
- ・学校教育法改正に伴う学則改定など (11月 26 日、第 7 回)
- ・クラスサイズに関する内規 (同上)
- ・転学部・学科に関する規程 (同上)
- ・3 ポリシーの整備 (同上)
- ・進級規程の整備 (2015 年 1 月 28 日、第 9 回)
- ・「松本大学図書館規程」(一部改正)、「松本大学図書館利用規程」(一部改正)、
「松本大学図書館資料収集・管理規定」(制定) (2月 25 日、第 10 回) 他

また、新県立大学設置への対応策を練るべく前年度に設置された「将来計画委員会」との関係もまた主要な事項であり、その議論状況について適宜報告され情報共有が図られると共に、7月 23 日の会議では、8月 2 日開催予定の「第 4 回将来計画委員会」に提案予定の「学長提案」が紹介、了

承され、以後の同委員会の議論をリードすることとなった。

そのほか、学部以外の人事、研究推進に関わる諸規程の整備並びに周知・徹底、国際交流事業の推進に関わる諸取組の推進、「公務員試験対策総合講座」の設置と「TOEIC」の一部外部委託、奨励金の削減などの案件について議論を進め、それぞれ成案を得て実施に移すべく態勢を整えてきた。

報告事項は、学長の情報共有重視の姿勢もあって実に多岐にわたったが、その中でも県内他大学の動向、各種補助金申請、高大連携事業、学生募集状況などについては適宜情報が提供され、それを基に今後の対策を練る下地づくりともなってきた。

3) 点検・評価の結果<C>

全学協議会は、審議・決定機関であって通常の業務遂行の任を負うものではないことから、必ずしも日常的な評価・点検には馴染まないと思われる。が、先に記した日本高等教育評価機構による第三者評価受審の一年前倒しや将来計画委員会に対する学長案の提示に見られるように、全体状況を把握、点検した上で、適切な方向性を指示し取組を促進してきた。

4) 次年度に向けた課題<A>

2015(平成 27)年度は、既述の日本高等教育評価機構による第三者評価受審年であり、また、2017(平成 29)年度 4 月の新学部設置並びに各学部・学科の改革に向けて、その具体像を明確にして実施に移す準備を旺盛に進めねばならない一年となる。したがって、それが遅滞しないよう適宜チェックし、推進策を積極的に講じていかねばならない。

そのためにも、各方面に情報を求め把握に努めると共に、それを踏まえた上で適切な方策を練り決定していくなど、積極的に議論を展開し主導性を発揮していく。

また、報告事項は、不要不急のものについては資料配付によって周知を図るなど省時間化を図り、その分議論時間を拡充すべく取り組む。

<執筆担当/副学長・人間健康学部長 等々力 賢治>

2. 自己点検・評価委員会

この年度から組織名称が自己点検・評価会議から自己点検・評価委員会へと変更された。その下にあった 4 つの委員会の内、FD・SD委員会は、教育改善推進委員会の下へと移行され、規程整備委員会は全学運営会議の諮問委員会となった。

本委員会には、新たにコンプライアンス推進部会が加わり、認証評価準備部会とIR推進部会(共に委員会から部会へと改称)の3つの部会を傘下に持つようになった。全体をコーディネートするという役割以外に、委員会として独自に実施している活動は、例年通り①アニュアル・レポートの発行、②学生版アニュアル・レポートの発行、③自己点検・評価報告書の発行がある。

1) 年度当初の事業計画<P>

今年度も上記①～③の3つの報告書を確実に発行する。また、アニュアル・レポートがあれば各種アンケート(例えば日経グローバル誌)にも、エビデンスに基づいて回答できるので、それに間に合うように準備する。また、学長賞を選定するための資料としても利用できるように、アニュアル

ル・レポートや報告書の精度を上げる。

昨年度の自己点検・評価報告書の〈A〉の部分では、提出が遅れがちな教員への対応を強化し、研究費に反映させる等の強硬手段を講じてでも、早期発行を期すと記されていた。さらに、作成された報告書を全教職員に配布するだけでなく、それが読まれるように工夫するとも記されていた。こうした方向を探求する。

次年度は第三者評価を受審するので、その日程に合わせて、早期（6月末には完成させている）に発行し、事前の受審準備として位置付ける。

以上に加えて、3つの部会を束ねて、それぞれの部会が独自の機能を果たしつつ、大学全体の改革・改善につなげるような機能を発揮する。

2) 活動実績〈D〉

3つの報告書は、内容の精度も高めて発行することは出来た。発行時期を早めようと、出だしは順調に始まった。例えば「はじめに」の文書は意気込んで2014.4.30付で書かれていた。それにもかかわらず最終的には、完成は例年より少しだけ早まっただけに止まった。

アニュアル・レポートは各種アンケートへの回答（特に日経グローバル誌）には大いに活用できた。

3部会はそれぞれの活動を展開していたが、それらをまとめて大学全体の機能強化を図るという視点では不十分であった。

第一回目の学長賞の選定には、このアニュアル・レポートや学生版アニュアル・レポート（学生指導の効果が数字に表れている）が役に立った。

3) 点検・評価の結果〈C〉

提出が遅れがちな教員に対する催促は、通常の請求に留まり計画通りの強硬な手段はとれていない。次年度の第三者評価に対する準備として、6月末という早期に評価報告書を発行出来るかどうかを成功への試金石として考えられていたので、不安が残る結果になった。

全専任教職員には配布されているが、読み終わっているかどうかの確認をとるところまではできていない。会議の席上などで、必読である旨を伝えただけに留まっている。

3つの部会をまとめるためには、それぞれの部会が確立してしっかりとした活動を行っていることが前提となるが、その前提が未確立という状況にあったため、十分な役割を果たせなかった。

報告書を活用するという点では、アンケートへの回答に利用できるように発行が間に合ったので、最低限の役割は果たせた。第一回の学長賞選定にも役立った。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策〈A〉

次年度は、第三者評価を受審するために、大学は「日本高等教育評価機構」、短大は「短期大学基準協会」に、2014年度の活動実績に基づいてそれぞれの指定された書式に従った自己点検評価書を2015年6月30日までに提出しなければならない。発行が遅れたでは済まないため、認証評価準備部会と連携を強化して、総力を挙げて取り組まねばならない。それ以外にも多くの部署との連携強化が出来なければ、第三者評価への対応は難しい。

第三者評価の受審がなければ、前述の①～③の文書をできるだけ早期（①は6月中、③は夏休み前、②は夏休み明けを目途）に発行し、その年度の運営に活かせるようにするというのが計画になる。②が遅れるのは、学生の活動を集計するのに時間を必要とするからである。さらに①～③の精度を上げることも付け加わる。特に自己点検・評価報告書には、中長期計画に基づく一年間の方向性が示されており、前の一年間の成果も纏められているので、全教職員に配布はしているが読んでもらえるような工夫をする必要もある。

さて、第三者評価向け報告書の執筆者は、本学独自の自己点検・評価報告書の担当者である学長、事務局長、学部長、全学委員長など殆どが重複している。従って第三者評価向けの報告書が比較的早い時期に出来れば、それに基づいて本学独自の自己点検・評価報告書を間髪を入れずに作成することが出来る可能性がある。二つを文書作成を融合しながら報告書作成することを方針とすれば良いであろう。

＜執筆担当／自己点検・評価委員会 委員長 住吉 廣行＞

（1）IR推進部会

1) 年度当初の計画＜P＞

・新規の取組

アニュアルレポートを基本に「教員の評価指標」を作り上げることを目標とした。教員の四本柱の活動を念頭に置いて、レーダーチャートで表現しようと考えていた。

・継続した取組

入試結果と入学後の成績（GPA等）との相関関係の分析

GPA分布の年次変化がどのように、経年変化しているか

入学前教育と初年次の退学率との関係

等について、例年通り進める。

2) 実施したこと＜D＞

継続的な取り組みは着実に実施できた。

新規の取り組みは、教員の評価指標の作成については未だ端緒に付いたばかりで、進まなかった。しかし、APに応募しようと申請書を書いているときに、本学においてもこういう事をやっておくべきだと感じるテーマが多々あった。その中で、学修行動調査を直ちに実施するよう、全学運営会議に提言し、同意を得て3ヶ月後に直ちに実行した。これ自身は、第三者評価に向けた対応にもなった。

3) 点検・評価＜C＞

レーダーチャートの軸をどのように設定するのか、軸は何本用意するのかなど、軸のウエイトはどのように付けるのか、その基本作成で難航し、進まなかった。

継続的な取組については、その結果が授業改善や学生支援にどう活かせるか、具体的に提示する必要がある。この点については、未だ手が着いていない。

4) 次年度に向けて<A>

学生版アニュアルレポートを、学生ポートフォリオへ昇華させるための研究に着手する。各学生が自分で自分の到達段階を判断し、PDCAサイクルを回して、次の段階として何に重点を置いて学生生活を送るべきかを考えるようにするためである。

<執筆担当/IR推進部会長 住吉 廣行>

(2) コンプライアンス推進部会

1) 計画<P>

コンプライアンスの推進は学園全体の課題として取り組んでいるが、大学・短大では委員会での推進活動の計画や全学教授会、職員会議などの場を通じて啓発活動を行うこととした。

また、研究費の使途やハラスメントなどの課題はそれぞれの委員会において進めていくこととした。

2) 実施と評価<D・C>

学長は全学教授会及び各学部の教授会において、機会あるごとにコンプライアンスの重要性を説き、啓発活動を行ってきた。

また、大学事務局長は事務職員会議や朝礼などの機会を捉え同じく啓発活動を行ってきた。

コンプライアンス意識については全教職員に浸透していると評価できる。また、内部監査室も研究費の使途内容やその手続きなどについてくまなくチェックを行っており、その成果は出ているものと評価される。

3) 今後の課題<A>

全体としてコンプライアンス意識の浸透はすすんでいるが、意識の慣れや緩みを注意し啓発活動は更に進めていかなければならない。

また、より具体性をもたせるために外部講師などを招き、研修などの開催も計画すべきである。

<執筆担当/コンプライアンス推進部会長 小倉 宗彦>

(3) 認証評価準備部会

認証評価準備部会は自己点検・評価委員会の下部組織であり、各学部の代表委員計4名および事務職員により構成される。2014年度は総合経営学部代表が委員長の職を担っている。その業務は第一に外部認証評価団体である公益財団法人日本高等教育評価機構（以下、評価機構と記す）や公益財団法人短期大学基準協会（以下、基準協会と記す）による評価を受審する際の準備や対策を主体的に行うこと、第二に評価機構の活動に対して評価員として参加し、他大学の受審を経験することで受審に際しての情報やノウハウを収集することである。なお、学部（総合経営学部・人間健康学部）と短期大学部のどちらも、2015年度に認証評価を受審する予定となっている。

1) 年度当初の計画<P>

2014年度は下記項目の達成を目標とした。

①情報の収集

2012年度より認証評価の基準が大幅に変更された。そこで変更点に関する情報を収集し、かつ前

回の認証評価との相違点を明らかにする。併せて認証評価準備部会委員がその内容を熟知する。

②自己点検評価および資料等の確認

上記①に関連し、変更による自己点検評価の体裁やその内容のあり方、また必要となる資料等を明確にする。同時に必要に応じて関係各部署にその情報を提供し、認証評価受審の準備を整える。

③評価員としての活動

評価機構や基準協会からの要請があった場合には、認証評価準備部会委員の中から評価員を選出し、他大学・他短期大学の認証評価を行う。

2) 現状の説明<D>

①情報の収集

委員は認証評価団体の主催するセミナーに参加し、評価基準の変更点についてレクチャーを受けた。また下記③のとおり、委員長は評価員として評価機構の要請に基づき、2013年度に引き続き、他大学の認証評価を担当し、情報やノウハウを収集した。

②自己点検評価および資料等の整理・確認

上記①で得られた情報を基に、当大学での自己点検評価における問題点や、今後の認証評価受審に際して必要な資料やエビデンスについて整理した。またその情報を認証評価受審に係る学内の教職員に公開し、説明した。

③評価員としての活動

今年度は委員長が評価機構の要請に基づき、評価員として他大学の認証評価を担当した。

3) 点検・評価の結果<C>

①情報の収集

前年度に引き続き、今年度も基準の変更点をさらに深く把握できた。とりわけ委員長が評価員として他大学の認証評価を担当したことは、評価基準や評価項目の詳細な情報を得ることにつながり、非常に有意義な経験であった。

他方で情報が委員長個人に留まり、認証評価対策委員のすべてと情報の共有が図られていないという問題もある。

②自己点検評価および資料等の確認

重要事項の説明、必要となる資料の確認等は実施したが、各部署との連携がまだ不十分である。実際に書類を整え、また資料を準備するのは各部署となるため、早急に認証評価準備部会から全学に対し、さらなる情報発信を行うとともに、翌年度の受審の準備を少しでも早くから進める必要がある。

③評価員としての活動

既述のとおり、委員長が評価機構の要請に基づき、他大学の認証評価を担当した。これにより、非常に有益な情報を収集することができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

①情報の収集

引き続き、基準も含めた認証評価全体に対する知識を深める必要がある。その際、実際の生きた情報を得る必要があるため、積極的に評価員として活動する。

②自己点検評価および資料等の確認

来年度の受審に向けて、必要となる情報や資料をさらに明確化する。

③情報の共有

認証評価準備部会が持つ情報を可能な限り、学内の各学部、各学科、そして各事務部門に伝達し、情報の共有を図る。

④評価員としての活動

認証評価団体からの要請があった場合には、引き続き積極的にこれに応ずる。

＜執筆担当／認証評価準備部会長 上野 隆幸＞

3. 人権委員会

平成 26 年度大学委員会構成の改編により、人権委員会は大学運営管理の一委員会として位置付けられ、ハラスメント防止部会及び個人情報保護部会の二部会でスタートした。委員は各学部学科からの教員委員 8 名、職員は学生課・教務課、情報センター、入試広報室、キャリアセンターの各部署から 11 名の総勢 19 名という多人数からなる委員組織となった。年度当初の会議で、前年度からの引き継ぎ案件について PDCA サイクルの確認を通して振り返り、あらためて 26 年度委員会職務についての共有を図った。その後、19 名の委員それぞれがハラスメント防止部会、個人情報保護部会の二部会を分担して担うこととし、委員会全体を機能させていくこととした。26 年度は、これまで継続審議となっていた「個人情報保護に関する細則」を再検討する部会委員と、ハラスメント防止啓発活動を進める部会委員とした。

1) 年度当初の計画<P>

- ①25 年度より継続審議されてきた「松本大学個人情報保護に関する細則」の改訂について所轄部署での承認を経ることで粛々と進める。
- ②全学教職員対象のハラスメント防止啓発研修を実施する。委員は学外研修に参加し、全国大学の情報収集をし共有するとともに、本学人権教育についての意識を高める。
- ③全学教職員対象の研修時に、担当部署の留守を預かるなどで研修に参加することが難しい管理職向けの研修会を実施する。
- ④ハラスメント防止に向け、防止啓発の諸活動を計画し実行する。

2) 現状の説明<D>

- ①全 12 回の委員会（合同委員会、部会別会議）を開催した。
 - ・全員で 19 名の委員からなる委員会を円滑に機能させるため 2 つの部会に分け、委員会開催をした。人権委員会 5 回、個人情報保護部会 3 回、ハラスメント防止部会 4 回の計 12 回開催となった。
 - ・「キャンパスにおけるハラスメント防止セミナー」21 世紀職業財団主催の人権研修に参加し、委員会にて報告した。（委員長）

②個人情報保護部会

「松本大学個人情報保護に関する細則」について、顧問弁護士の意見を参考に改訂原案を立て全学協議会に提出し承認された。これをもって当委員会にゆだねられ懸案とされてきた「個人情報保護に関する細則」の改訂作業に終止符を打ち、今後ハラスメント関連項目の学則・規程の整備、検討については、規程整備部署において進めることとなった。

③ハラスメント防止部会

- ・相談窓口を広く全学に周知することが諸問題の早期対応に重要である。パンフレットの配布やポスター告知に加え、教授会での委員会会議報告などでハラスメント防止への意識付けを図った。
- ・健康安全センターに設置されていた、相談窓口電話をメールアドレスの受付場所と同様の総務課長デスクに移行した。
- ・啓発ポスターを新しいものに貼り換えた。
- ・管理職研修として、「大学という特殊な人間関係に起こるハラスメント防止対策」講師に高野尾三穂弁護士を迎え、研修会を開催した。（9月17日）
- ・全教職員対象の人権研修は、「そもそも人間って何？」と題し、講師に福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授 天野和彦氏を迎え実施した。（2月4日）
- ・「ハラスメント防止啓発標語」を募集し、10月の大学祭「梓乃森祭」を発表の場として自由投票で上位4作品の優秀賞を決定し、賞状と記念品を授与した。

3) 点検評価の結果<C>

- ・人権委員会に多くの教職員が委嘱され大組織の委員会となった。事務局各部署の窓口の対応で学生に向き合い、日常の業務を進める必要から、「対する人に尊厳を持って向き合い職務に当たることが基本」の人材教育が求められる昨今、人権委員としてその自覚を持ち職務に当たることはそれだけをとっても当事者評価につながり、さらに委員会で実行する啓発運動や、全国大学の実情を情報として知っていくことが大学環境をより良いものとしていくと評価したい。
- ・26年度は2件の相談があった。2件とも相談専用メールに一報がなされ、学生(1件は保護者)からの相談であった。これは、専用メールの設置、及びパンフレットでの情報提供が功を奏したものである。今後とも信頼性のある相談窓口として、いかなる相談内容であろうとも、窓口での判断とせず、人権委員長(相談員)との連携をとり早期対応を心がけていくことが重要である。
- ・教職員向けハラスメント防止啓発研修は今期で4回目となる。研修形式がグループワークを含んだものであり、職域を超え教職員の討議を交えたため、参加者から好評を得る研修となった。終了後は参加者のアンケートをまとめ、結果を教授会・職員会議での報告資料として可視化させたことは、研修に参加できないでいた教職員にも知らせるうえで効果的であった。

4) 次年度への改善改革に向けた方策<A>

- ①27年度は人権委員会委員長、新体制下での新たな対策や啓発事業を進める。
- ②相談業務についての課題として、相談員の人選、委嘱について検討を要する。

- ④大学教職員向け人権研修について、講師・内容を検討する。人権委員会委員の学外研修への参加を働きかける。

＜執筆担当／人権委員会 委員長 犬飼 己紀子＞

4. 健康安全センター運営委員会

センター長を中心に学生・教職員の健康問題や、健康の維持・促進に組織的に取り組んできた。

1) 年度当初の計画＜P＞

今年度は、昨年度から継続して学生・教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

- ①学生・教職員健康診断のフォローアップ体制の充実
- ②心肺蘇生法の普及
- ③健康教育の充実
- ④学生相談員との連携の強化

を掲げ、取り組んできた。

2) 今年度の活動実績＜D＞

①学生の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康相談などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談して、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員と連携し、心身の健康状況に問題を抱える学生に関する相談に対応し、ケアカンファレンス、保護者面談への同席などを実施した。
- ・週2回、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士がカウンセリングを実施した。
- ・学生定期健康診断を実施した。受診率は学生全体で約98%と高い水準を維持している。再検査の指導、精密検査の指導、心身の健康問題に関する保健指導、また健康栄養学科教員の協力も得て、希望する学生に対して栄養指導を実施した。
- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、感染予防のためのワクチン接種について保健指導を実施した。
- ・体育大会、キャンパス見学会、入学試験などに伴い、それぞれの管轄部署からの依頼を受け、救護対応を実施した。
- ・学生センター連絡会に参加し、学生に関する情報共有と、対応についての検討を実施した。

②教職員の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康問題などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談し、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員定期健康診断・教職員胃検診を実施し、精密検査・治療の必要な教職員に対する事後指導、生活改善が必要と認められる教職員に対する保健指導を、個別のリーフレットを作成して実施した。人間ドック受診者は、受診医療機関での保健指導を受けているが、個別に希望する

教職員に対して、保健指導を実施した。

- ・教職員の健康状況に応じて、保健師が医療機関を訪問し該当教職員の主治医と職務内容等に関するカンファレンスを実施した。
- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、ワクチン接種について保健指導を実施した。

③学生への健康教育

総合経営学部、人間健康学部健康栄養学科、短期大学部からの依頼に基づき、「禁煙について」「クラブ活動中の応急手当について」「新しい創傷ケアについて」「実習・実験中に起こるケガへの応急手当について」「学校感染症について」に関する健康教育および資料の提供を実施した。

④心肺蘇生法の普及

- ・総合経営学部両学科、人間健康学部健康栄養学科からの依頼に基づき、AED の使用方法を含む心肺蘇生講習会を実施した。

⑤感染症発生への対応

- ・健康診断協力医療機関と連携し、強化部（硬式野球部・ソフトボール部）の寮生と、希望する教職員に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出席停止期間を決定し、学生および教職員への周知を図った。
- ・インフルエンザ発症の連絡を受けた場合、ゼミ担当や部・サークル活動の責任者への報告、濃厚接触者に対し感染予防のための保健指導を実施した。

⑥食中毒発生への対応

男子サッカー一部遠征先でのノロウイルスによる食中毒発生に伴い、

- ・症状の確認
 - ・宿舍を管轄する保健所への通報、連絡
 - ・部員への衛生指導の実施
 - ・男子サッカー一部の活動停止、および登校自粛の指示
- を実施した。

⑦職場復帰支援

職員の休職に伴い、

- ・健康状況の確認
- ・主治医との連携
- ・職場復帰支援プログラムの作成および実施
- ・プログラム遂行中の健康管理
- ・職場復帰可能かどうかの健康上の判断

を実施した。

⑦外部相談機関との連携

（株）ティーパック社と提携し、学生・教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

3)点検・評価の結果<C>

①学生の健康管理

学生定期健康診断時に、受診学生全員に保健師(外部委託保健師を含む)の事後指導を実施している。集合健診であるため、個別の対応を要するものについては、後日健康安全センターへの来室を促し、フォローアップに努めている。また精神面に関しては、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士のカウンセリングを実施している。健康安全センター保健師がカウンセリング受付を実施し、面談時の情報を連絡したり、カウンセラーのフォロー状況を適宜検討しケアに当たっている。

すでに医療にてフォローアップされている学生については、カウンセラーは学生の状況を判断し、カウンセリングによって症状の悪化が助長されると判断する場合は、実施を見合わせたり、必要に応じ医師の助言を受け対応している。思春期・青年期における特有の悩みや、家庭・友人関係の悩みなど、表出できない学生の存在も考えられるため、そのスクリーニングについて学生相談員と連携する必要がある。

②教職員の健康管理

教職員健康診断の受診(人間ドックを含む)の受診率はいまだ 100%に至っていない。多忙であることや、人間ドック施設の混雑等も原因と考えられるが、未受診者への受診勧奨を保健師が実施しているのみであるため、管理責任者と連携の上、受診率の向上を図る必要がある。

また、受診後のフォローアップに関しても、個々の意識に任されている部分もある。健康診断の受診が教職員の義務であり、健康管理は組織として重要であることをさらに周知していく必要がある。

③学生への健康教育

禁煙・創傷ケアなどについて健康教育を実施している。現在、学生の多くがメディアを通じて情報を得ている状況である。どうしてもイメージ優先となってしまう、必ずしも正しい知識を得ているとはいえない事例もあるため、健康安全センターが正確な情報収集に努め、それをできるだけわかりやすく学生に伝えていく必要がある。継続的な健康教育の実施を含め、今後の課題である。

④心肺蘇生法の普及

総合経営学部(総合経営学科・観光ホスピタリティ学科)1年生全員、人間健康学部(健康栄養学科)3年生全員を対象に心肺蘇生法講習会を実施した。

参加した学生からは「命の大切さを実感した」「いざというときに率先して動ける人になりたい」などの感想が聞かれ、また「定期的に受講し、技術や知識の維持に努めなければならない」との意見もあるため、今後も継続していきたい。

⑤その他

職場復帰支援については、健康安全センターだけでなく、大学全体あるいは学園全体で取り組まなくてはならない課題である。休職・復職に関する規定の作成や、職場復帰支援プログラムの充実などが必要である。

4)次年度への改善・改革に向けた方策<A>

今年度と同様、学生・教職員それぞれの健康問題に対して迅速に、また的確に対応していくために、さらに組織的な運営を目指していく。

①心肺蘇生法の普及

引き続き学生への講習を実施していく。ゼミや部・サークルなど特性に応じた講習ができるよう、さらに工夫していく。

教職員に対して各学部・課と連携して、100%の普及をめざし、一度受講した教職員に対するフォローアップ講習をスタートさせる。

また、地域住民への講習も引き続き実施していく。

③健康教育の充実

学生や教職員が健康を維持・増進させられるよう、ウェブサイトも活用し「健康安全センター通信」の発行などを継続して啓蒙活動を実施していく。

また、必ずしも講義形式でなくても、日々の活動の中で学生が自分自身で健康問題を解決していけるような働きかけをしていく。

④教職員ストレスチェック体制の整備

職場復帰支援プログラムの充実とともに、休職等に至らないよう日ごろからのメンタルヘルスのサポートをしていく必要がある。労働安全衛生法改正により教職員のストレスチェック実施が義務化された。情報の管理、フォロー体制も関係機関と連携を図りながら実施していく。

<執筆担当/健康安全センター運営委員会 委員長 三村 芳和>

B: 施設管理

1. 施設管理センター運営委員会

1) 組織と会議

運営委員長は大学事務局長、委員は研究科長、学部長3名と事務局2名（総務課長、職員）で構成され、委員が重なっていることもあり、必要に応じて全学運営会議の際に併せて実施した。

2) 計画<P>

本学は従来から計画的に施設の充実を進めてきたが、教育活動、課外活動の多様化、学生数の増加などで毎年様々な施設充実の課題が生まれてくる。

また、1号館から3号館、図書館などは建設後多年を経ていることもあり、様々な点で補修、改修が必要になって来ている。

平成26年度は新たな工事として太陽光発電設備の設置、動物飼育室の改装、校舎のバリアフリー化工事を大きな柱として計画した。

3) 実施と評価<D・C>

当初計画した次の工事は計画どおり施工できた。

- ・太陽光発電設備設置（4号館、5号館、7号館屋上に太陽光パネルを設置）
発電能力—100Kw
- ・動物飼育室全面改装
従来の動物飼育室は簡易のものであったため、結露や飼育室内の空気などの環境が悪化していたため、専門業者の設計により全面改装した。
- ・5号館東入口と6号館南入口の自動ドア化

車いすの学生がスムーズに入館できるようにバリアフリー化を図った。

しかし、以上の3事業は文部科学省の補助事業として計画していたが、文部科学省より、耐震化工事が膨大な件数で申請されたため、耐震化以外の一連の補助金は申請した大学の全てを不採択とする通達があり、補助金収入には至らなかった。

この他に文部科学省の「私立大学等教育研究活性化設備事業」として、放射線測定器やアクティブラーニングシステム情報機器一式や図書館入退館システム、タブレット端末100台などが補助金対象事業として完備された。この活性化設備事業は評価の得点に左右されるため、学内の諸制度への取り組みの充実が問われる。

また、1号館～3号館内の暖房用配管が何ヶ所も破裂し補修工事が行われ、更にトイレ用の地下水の揚水ポンプも腐食が激しく取り替えた。このように経年設備の補修が今後も多くなってくる。

借用施設であるが、女子ソフトボール部の新しい寮が完成し入寮することができた。今までの寮は老朽化し、危険性もあったので建設業者に依頼して新築の寮を借用した。

4) 今後の課題<A>

平成27年度は新学部設置に伴う、校舎の新設及び従来からの課題となっていた第2体育館の建て替え工事が計画されている。今後の大学運営に大きく寄与するために新校舎の計画を入念に詰めていかなければならない。

総合グラウンド及び多目的グラウンドの夜間照明の要望が従来からあり、これについては実施できるよう計画を進めていく。

<執筆担当/施設管理センター運営委員会 委員長 小倉宗彦>

2. 危機管理委員会

大学・短大を巡る危機は、学生・教職員の安全、ハラスメント、学生間の傷害事件、災害、教職員と学生間のトラブル、学外組織と大学とのトラブル、不正行為、盗難など常に起きうるものである。これらの予防、啓発、チェックなどは大学全体が対応していかなければならない。危機管理委員会では様々な課題に対応する核となる組織でなければならない。しかし、現在の対応は限定された範囲での対応であるので、他の委員会等と連携した全学的な対応策を今後進めていかなければならない。

<執筆担当/危機管理委員会 委員長 小倉 宗彦>

(1) 環境保全部会

1) 年度当初の計画<P>

学内におけるエネルギー利用の合理化や資源利用の適正化を進めること、もしくは、その活動を支援し、年2回ニュースレターを発行する。これらの活動を通じて、(1)事業所の環境活動を進め、(2)高等教育機関として環境配慮の人材育成に努めること、を目的とした。

2) 今年度の活動実績<D>

①教職員・環境活動を進める学生と連携し、これまでの活動を踏まえて、通年で使用できるエア

- コンの適正な目安温度を取り決め、ガイドラインとするよう各講義室のリモコンに貼付した
- ②太陽光発電を設置するにあたり、設置検討時より留意すべき点について情報を収集した。環境NPOの専門家にアドバイスを受け、計画通り設置が進められた。
 - ③ペットボトルの回収について、これまでの廃棄処理事業者からリサイクルに回す事業者に契約を変更し、資源化を進めた
 - ④ニュースレターを前期に発行、後期には発行できなかった。省エネ及び環境配慮にかかる情報を、全学生、および教職員に提供した
 - ⑤学生による環境活動団体「エコナビ」の活動を支援すると同時に、共同して活動を行った。具体的にはエアコン目安温度の各教室への貼り付け、駐車場のポイ捨てを減らすポスター掲示などである。また、学生組織である学友会等との連携で、学生活活動を活発にできないか検討してきたが、今年度は交渉時期が合わず見送ることとなった

3) 点検・評価の結果<C>

- ①学内の環境活動は、太陽光パネルの設置、リサイクルの進行など新たに進められた
- ②学内のエネルギーの利用状況、廃棄物の対策等、学内データについては、新規に調査し取りまとめることはできなかった
- ③ニュースレターの発行は、後期については予定通りにできなかった。委員の繁忙期と省エネ啓発時期が重なるためだが、ニュースレター作業の分業化の課題は解決できなかった。
- ④学生活活動の支援や体制づくりは、相互に連携を取りながら進めているが、ゆっくりとしたペースに留まる

4) 改善・改革に向けた方策<A>

太陽光発電を設置するという大きな事業があったが、学生への発信はもっと効果的にできたかもしれない。1年間の委員会の活動は総務課と調整して活動することが多く、学生や教職員に対する情報公開は例年よりもできなかったと反省する。会議が防災委員会と連続して年数回開催されており、会議の効率化は計れるものの、意思決定や課題への対応のタイミングには問題がある。再度、大学全体としての委員会の位置づけを確認したい。

<執筆担当/環境保全部会長 中澤 朋代>

(2) 防災対策部会

危機管理委員会内に環境保全部会と並び設置されている本部会は、a:自然災害を想定した体制整備、b:構内の防犯体制整備を活動の目的とする。

1) 活動方針<P>

本年度の事業計画は以下の項目である。

[a:自然災害を想定した体制整備]

- ① 本学防災訓練（本年度は短期大学部で実施） 6月10日（火）
- ② 本学を主会場とした松本市総合防災訓練の実施 9月1日（月）

③ 日本防災士機構「防災士」養成講座開講 11月15日（土）～16日（日）

④ 自主防災組織（仮称：松本大学消防隊）の結成

[b:構内の防犯体制整備]

① 防犯カメラの設置にともなう「松本大学防犯カメラ運用に関するガイドライン」策定

2) 活動内容<D>

[a:自然災害を想定した体制整備]

① 本学防災訓練

6月10日（火）12時20分1号館発災を想定した避難訓練を実施。教室および校内に示されている経路図に従い多目的グラウンドまで避難、学生および教職員計250名が参加しておこなわれた。

②松本市総合防災訓練

（準備会議）

・5月14日（水）13:30～ 第3会議室

参加団体：松本市、松本市町会連合会、松本広域消防局、陸上自衛隊、松本警察署、本学関係者ほか

会議内容：関係団体の初顔合わせ、訓練概要の説明、質疑応答等

・7月11日（金）13:30～ 513教室、多目的グラウンド

会議内容：訓練項目、訓練内容、当日のスケジュール確認、訓練会場（多目的グラウンド）の確認

参加団体：松本市、松本市町会連合会、松本広域消防局、松本市消防団、陸上自衛隊、松本警察署、本学関係者ほか

（訓練実施）

・9月1日（月）8:00～ 多目的グラウンド（主会場）、第1体育館、学生第1駐車場、正面玄関前ロータリー付近

発災想定：「糸魚川―静岡構造性断層帯」にてM8.0の地震発生、松本市全域において多数の死傷者、家屋の倒壊、ライフラインの寸断など甚大被害。

参加団体：松本市、松本市町会連合会、松本広域消防局、松本市消防団、陸上自衛隊、新村地区町会、信州大学医学部付属病院、相澤病院、中部電力、NTT東日本、松本市建設事業協同組合、本学関係者ほか13団体

本学からの参加者：教職員25名、学生ボランティア50名（内訳：総合経営学部13名、人間健康学部31名、短期大学部6名）

③「防災士」養成講座開講

・11月15日（土）、16日（日） 514教室ほか

受講者：104名（内訳：一般59名、本学学生45名）

本学学生は最終日の検定試験に全員合格した。

・平成27年3月13日（金） 麴町会館（東京都千代田区四谷）

日本防災士機構主催「全国防災士研修機関会議」に臼井管理課長、防災部会長矢崎の2名参加、

松本大学における第1回「防災士」養成研修会開催を報告する。

④自主防災組織（仮称：松本大学消防隊）の結成

・平成27年1月7日（水）13:00～ 512 教室

本学学生を対象とした「防災士」資格認定証授与式にて自主防災組織への加入呼びかけを実施。

3) 結果と評価<C・A>

- ① 防災訓練は、例年6月を開催月として短期大学部、総合経営学部、人間健康学部の順番で開催している。6月10日（火）は2時限目の途中で発災を全館一斉に放送、訓練の対象者が避難経路図に従い1,2年生約が整然と避難することができた。訓練全体の印象としては、私語等はないものの、行動の迅速さにおいてやや緊張感のなさを感じたものとなった。次年度は③の資格を得た学生を計画立案から実行まで参画させることで、松本大学一丸となった、より稔りのある訓練を実施したい。
- ② 松本市総合防災訓練は、天候にも恵まれた9月1日（月）9:00に丸山教務課長による松本広域消防本部宛の「地震により松本大学が被災、負傷者多数発生、屋内に取り残された学生もいる模様」との通報から訓練が開始された。本学学生ボランティアは、瓦礫の下敷きとなった者の救出活動、屋内に取り残された者のヘリコプターによる救出活動、炊き出し活動などに積極的に参加した。事前の準備会議、前日および当日朝の訓練概要の説明もあり関係機関、地域の防災ボランティア組織とも連携した活動をおこなうことができた。
- ③ 「防災士」養成講座開講は11月15日（土）～16日（日）の両日、県内外から104名の参加者を得て開講することができた。講師は小坂共栄元信州大学教授、東尾正元消防庁次長、廣井悠名古屋大学減災連携センター准教授などによる最新の知見を交えた講義と、実際の災害発生時の対処を想定した図上訓練がおこなわれた。本学学生の受講姿勢は、一般受講者の真摯な受講姿勢と相俟って、真剣かつ積極的なものであった。一般受講者よりリクエストされた「有資格者の組織化と継続研修による知識および技量保持」についての取り組みは今後の検討課題である。
- ④ 自主防災組織の結成については、防災士資格取得者を対象に参加を呼びかけたものの学生の反応は薄く目標とする組織加入学生数（5名以上）は未達となった。今後は地域消防組織である松本市新村消防団との訓練連携などを模索しつつ組織加入学生をどのように確保してゆくのかが課題である。

[b:構内の防犯体制整備]

- ① 設備設置完了を受け、他大学の例を複数参照して「松本大学防犯カメラ運用に関するガイドライン」を策定した。今後はこれに則った運用をおこなうとともに、防犯機材の保守点検費用（1,000千円程度）の予算化と真に防犯に資する運用継続が課題である。

<執筆担当/防災部会長 矢崎 久>

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門

(1) 事務部門充実の課題<P>

1) 人事を含む組織強化について

本学はこれまでもSD活動に力を入れてきたが、大学を取り巻く環境の激化に伴い、いっそうの事務職員の能力の向上の必要性が求められる。

平成25年度の日本私立学校振興・共済事業団の「未来経営戦略推進経費」補助金は「持続的な大学改革を支える職員育成に係る取り組み」であり、本学はこれに申請し、採択された。これにより従来のSD研修の内容を充実させ、職員の資格取得支援やスキルアップを充実し、更に人事考課制度の導入の検討や「プロスタッフ オブ ザ イヤー」賞の創設により事務職員のモチベーションを高める。

また、学生への支援の多様化に合わせ、事務組織の見直しも進めていく。

2) 大学広報について

県立大学開設や北陸新幹線の金沢開通や周辺他大学の大きな動きと2018年度から急激に減少する18才人口問題など、環境が激変する中で本学は如何に学生確保を維持していくか、大学内の改革と合わせ、県内高等学校を中心とした密度の濃い、効果的な広報を展開していく。

3) 財務関係について

志願者数の減少が財務状況に大きく響いてくる。本学を取り巻く環境が更に厳しくなることは明白な事実として迫って来ている。このような中で平成25年度はCOCをはじめとして競争的補助金の獲得に大きな成果がみられたが、平成26年度も引き続き、可能なかぎり補助金獲得に努める。

支出面では中期計画に沿って予算のスリム化をはかるように日々の運営に中で工夫に努める。

人件費や経費の抑制、老朽施設の改修なども中期的展望に沿って具体的な方策を進める。更に施設拡充や施設・設備の維持のための引当金、退職引当金の増強を図り、経営基盤の強化を図っていく。

4) 施設設備充実

施設設備の充実を継続し、平成26年度も引き続き以下のとおり施設充実を図る。

- ・太陽光発電設備設置工事
- ・動物飼育室の改修工事
- ・5号館、6号館入り口の自動ドア化
- ・ピッチング練習場の改修工事
- ・機械等第4号ボイラーの入れ替え（腐食により本体に穴が開いた）
- ・1号館ボイラー燃料用地下タンク期限切れによる地上タンクの設置工事
- ・公用車用カーポートの増設工事

更に、中期的計画として第2体育館建設、野球場、サッカー場の夜間照明について研究を進める。

(2) 実施・検証<D・C>

1) 人事を含む組織強化について

平成 25 年度において、日本私立学校振興・共済事業団「未来経営戦略推進経費」補助金（補助期間 5 年間）の採択を受け、職員の職能向上のための SD 活動に継続的に取り組んできた。平成 26 年度には主に次のような取組を展開した。

- ①資格取得の推進：キャリア・コンサルタント取得者 2 名、FP3 級取得者 1 名、SEI EQ アセッサー 取得者 1 名等
- ②防災士養成講座の企画・開講：受講者 105 名（本学学生 45 名 外部 60 名）
- ③TOEIC 講座の開講：職員対象のトライアル講座を設定した。
- ④課長会議のペーパーレス化：平成 26 年 12 月から着手し、具体的に運用した。
- ⑤職員の表彰制度の創設：「ベスト・スタッフ・オブ・ザ・イヤー賞」授与内規を整備し、職員相互の投票により表彰者を選出する制度を創設した。

人事面においては、平成 26 年度末に、これまでの各職員の取組を評価、勘案して、中堅職員の登用に意を用い、課長職、課長補佐職および係長職への昇進人事を内示するに至った。

2) 大学広報について

文部科学省の施策を受け、日本私立学校振興・共済事業団が管轄する「私大版大学ポートレート」に参加し、各委員会と事務職員が連携しながら全国ネットの Web サイトを完成させた。本取組は、教職員にとって“自大学の姿”を客観的に把握するという点でも意義あるものとなった。

また、入試広報室においては、「私たちが長野県を愛する理由」というキャッチ・フレーズを掲げて信濃毎日新聞全面広告を 3 回掲載し、本学の教育とその成果について県内に広く周知した。

さらに公式ホームページのリニューアルを完成し、より幅の広い情報をスムーズに発信しながら、Facebook や Line を取り入れた情報発信、情報共有のための環境も整えた。

又、県内高等学校を中心として訪問や説明会さらに出前授業などを積極的に展開した。

3) 財務関係について

本学の資金収入は学生納付金収入と補助金収入が基本であるため、学生数の減少が財務状況に大きな影響を及ぼす。平成 26 年度の 5 月 1 日現在の学生数は次の通りであった。（ ）内は平成 25 年度。

・大学院健康科学研究科	12 名 (13)	・総合経営学部	733 名 (718)
・人間健康学部	738 名 (758)	大学合計	1,483 名 (1,489)
・松商短期大学部	438 名 (447)	総合計	1,921 名 (1,936)

平成 26 年度の学生募集においては、健康栄養学科が定員に満たなかったが、他学科の入学者と併せて、大学全体としてはほぼ前年度と同規模を維持することができた。

日本私立学校振興・共済事業団の経常費補助および特別補助や文部科学省の改革総合支援事業による合算額は次の通りであった。（ ）内は平成 25 年度。

松本大学	: 219,040 千円	(225,473 千円)
松商短期大学部	: 104,387 千円	(114,522 千円)
合計	: 323,427 千円	(339,995 千円)

支出面においては、全学的に経費節減に努めたが、老朽化した施設設備の修繕費の割合が増加傾向にあった。

4) 施設設備の充実

平成 26 年度においては次の工事を進めた。①②③については、文部科学省の補助金申請を行っていたが、耐震工事補助金を最優先するという同省の方針の中で補助金対象外の工事となった。

- ①太陽光発電設備設置工事：最高値 100 k w を想定し、消費電力の低下が期待できる。
- ②動物飼育室改修工事：動物実験に関するガイドラインに適合するものとした。
- ③5 号館・6 号館入口の自動ドア化：キャンパスのバリアフリー化をさらに進めた。
- ④ピッチング練習場の改修工事：雨天時の練習に支障をきたさないよう屋根を増設した。
- ⑤機械棟のボイラー入替え：金属腐食による故障を改善した。
- ⑥1 号館ボイラー用の地上燃料ランク設置：地下タンクの保守の限界に対応した。
- ⑦公用車カーポート増設工事：公用車を適正に管理するために整備した。

別に、野球場、サッカー場（総合グラウンド）の夜間照明設備の設置について検討したが、平成 26 年度事業としては見送ることとした。

（3）今後の課題<A>

1) 新学部設置準備室の開設・運営

本学を取り巻く急激な環境変化への対応と今後の本学の方向性を学内検討委員会で検討してきた結果、平成 29 年度に新学部を開設することを目指して設置準備室を立ち上げ、文部科学省との協議、教員確保、施設の準備、財源の確保、申請書の作成、裏付けデータの収集など、タイトでハードなスケジュールをこなしていかなければならない。

また、これに合わせ既存学部の改革も平行して進めていく。

本学を取り巻く環境の変化に対応し、10 年後を見据えた新学部の新設、は既存学部の改革により安定した大学運営を目指す。

2) 認証・評価の受審

松本大学は日本高等教育評価機構の短期大学部は短期大学基準協会の 7 年に 1 度義務づけがされている認証評価を受審する。このため自己点検評価報告書及びエビデンスの準備を手落ち無く進めることが必要となる。

3) 人事を含む組織強化

新学部設置準備、既存学部の改革、大型補助金の執行、認証・評価の受審、国際交流の拡大充実など大学運営上の取り扱う業務の大幅拡大と、事務職員の定年を見据えて、専任事務職員の採用と組織強化を図る。従来、本学の主要部門でも専任職員が配置出来なかった部署があったが、取り扱う事業内容が高度化するに伴い、専任職員を配置し、責任体制を明確化する必要もあり、組織強化を図る。

また、平成 27 年度は「大学人サミット」を本学で開催することとなっている。これは SD の効果が大きいイベントであるため、これを成し遂げることは本学職員にとって大きな収穫となる。そのための準備も滞りなくすすめていく。

平成 26 年度に引き続き、日本私立学校振興・共済事業団の「未来経営戦略推進経費」補助金を活用して SD 研修の内容を充実させていく。

4) 大学人サミットの開催

平成 27 年度は本学において第 9 回大学人サミットが開催される。これは全国の国公立大学に参

加を募り、11月7日（土）、8日（日）の2日間に亘り、大学に関わる諸問題についての意見交換や大学自慢、情報交換会などが行われ、他大学の様々な情報を得たり、様々な大学の職員と交流をする催しである。

この企画から運営に至るまで本学の若手職員に任せ、大会を成功に導くことは本学職員にとっても大きな成長に繋がるものと期待される。

5) 財務関係について

志願者数の減少が財務状況に大きく響いてくる。本学を取り巻く環境が更に厳しくなることは明白な事実として迫って来ている。平成27年度入試において大学は定員を満たしているが、短期大学部では商学科が入学定員を割り込んだ。いずれにしろ今後の見通しを考慮して、支出面では、本中期計画・目標に沿って財政の健全化に努めるべく、昨年度の各種奨励金の見直しに引き続き奨学金及び各種補助金についても見直しを進め、可能と判断されたところから実施に移していく。併せて、各種予算のスリム化を図るように策定・査定を厳格化を進め、日々の運営の中でも工夫に努める

更に、学費の見直しも行い、一部値上げを実施する。

＜執筆担当／大学事務局長 小倉 宗彦＞

II. 総務課・管理課

〔はじめに〕

総務課・管理課の業務は多岐に亘る。日常業務を適正に遂行していくためには、幅広い大学運営に関する知識が必要である。ともすると、専門性が高いが故に個人が分担する業務のみの知識に偏重し、視野が狭くなりがちである。総務課、管理課の業務においては、直接的に学生との接点を持たないものが多いが、単に機械的に事務処理をするのではなく、その背景に学生がいることを常に念頭に置き、幅広い視点をもって個々の業務に対して意義付けをすることが大切である。

学生を直接的に教育する立場にある教員との日常的な事務連絡、会計処理、教育環境の整備、労務管理等、すべての面において、その立場を慮る姿勢が根底にあり、その上で様々な基準や規則に基づき、的確に判断することが事務職員に求められる。学生を中心において、教員と職員が協働するという背景には、有り体に言えば「教員にとって痒いところに手が届く職員」であることがベースラインである。誤解があってはならないが、職員は教員の命により労働するわけではないからこそ、このような心持と協力的な行為が組織人として必要なのである。こうした考え方を基本として総務課・管理課に分掌された業務の意味や、その役割を常に考えることこそが地に足の着いた新たな提案や改善に繋がる。

総務課・管理課の事務処理の基本事項を再点検し、大学の全体的な動き、各委員会・各会議の動き、教員の教育研究活動等について正確に理解したうえで、個々の立場で考え工夫することを常とし、一人ひとりが配慮の行き届いた実務の遂行に心がけることが肝要である。

また、加速度的に進む我が国の高等教育政策、刻々と変化する本学を取り巻く環境の変化に深い関心と危機感を持ち、現代の大学運営に求められる生きた知識の獲得に努力し、新たな発想により本学の揺るぎない持続性の確立に向けて前進していかなければならない。

1. 総務課（総務・会計）

（1）基本計画＜P＞

1) サーバー上のデータおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ①サーバー上のデータの整理・整頓を進める。
- ②各種保存書類、各種台帳等の再整理をする。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①各教授会開催に向けた正確な資料準備と適正な資料の管理に努める。
- ②各種委員会における事務担当者の役割を再認識し、的確な対応に努める。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理

- ①日常会計の証憑書類の適正な整備に努める。
- ②物品購入納品時の第三者による検品の徹底を進める。
- ③適正な稟議と適正な予算執行に努める。
- ④ランニングコストの節約に努める。

4) 規程の整備

- ①電子化して規程集の総点検（学内 web システムに掲示）を進める。
- ②規程整備委員会の下で規程の改正及び未整備にある規程の制定を進める。
- ③改廃規程の管理をサーバー上で一元化する。

5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団の各種補助金に係る情報収集に努める。
- ②文部科学省以外の民間団体の各種補助金に係る情報収集に努める。
- ③上記の競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進めていく。
- ④補助金申請のエビデンスを明確し、確実に資料を保存する。

6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ①老朽化が目立つ施設設備の補修、修繕等に、施設管理センター運営委員会と連携して取組む。
- ②学内のバリアフリー化を段階的に進める。
- ③外構の整備および美化に取組む。

7) 情報公表

- ①広報委員会と連携した公式ホームページでの情報公表の充実を図る。
- ②公表している情報の見せ方の工夫を広報担当者と連携し進める。
- ③文科省が進める「大学ポートレート構想」へ参加していく。

8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①学校法人としての基本データを的確に整備する。
- ②公的調査に対する適正な対応に努める。
- ③民間機関の調査・アンケートに適正に対応する。
- ④回答した調査・アンケートの整理・整頓に努める。

9) 後援会の運営

- ①役員会・総会の円滑な運営を進める。
- ②予算に基づく、効果的な学生活動の支援を進める。

(2) 実際の実組み<D>

1) サーバー上のデータおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ①平成 25 年度に引き続き、サーバー上に分散している各種データの保管様式の定型化を進めた。課員が共有することを前提としたフォルダ名称の設定、関連フォルダの統合、ナンバリング、個人ファイルとの区別、不要な文書の廃棄を進めた。
- ②保存資料の整理整頓に着手した。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①教授会資料の定型化を進め、分かりやすさと効率化を進めた。総務課共通サーバー上で複数の課員が対応できるようにし、チェック機能を働かせ、正確に資料を準備できるような体制の構築を進めた。
- ②各種委員会における事務担当者の役割のうち、議事録の作成が大きなウェイトを占める。全学共通の議事録様式を提案し、内容を分かりやすく標記するとともに効率よく管理できるように取り組んだ。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①日常会計の証憑書類について、特に物品購入の会計書類として、見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることを全員で推進し、取引業務の公正性を担保するために、総務課員による検品の徹底を進めた。
- ②工事等については、軽微なものも含め業者に対して工事完了報告書等の確実な提出を求め、万が一の瑕疵に対応できるように関係書類を整備した。
- ③予算の執行に際しては、金額の多寡に拘わらず、可能な限り安価な支出とするために、業者との交渉に努めた。
- ④光熱水費をはじめランニングコストは上昇傾向にある。電燈の消灯、空調機の設定温度の調節等、環境保全委員会と連動した取組みも行った。設備面においては、節電に対処すべく太陽光発電設備（最高値 100 k w 出力を想定）の設置に着手した。

4) 規程の整備

- ①平成 27 年 4 月施行の改正学校教育法に照らし、現行の関連規程を改正した。
- ②平成 27 年度に受審する予定の大学機関別認証評価（第三者評価）に向けて、現行規程の改正、新規規程の制定を進めた。
- ③改正、制定規程については、随時学内 Web にアップした。
- ④規程の改廃の経緯が分かるように、サーバー上のフォルダを整備し一元管理できるようにした。

5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ①文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）の各種補助金に係る情報を収集し学内に周知した。文科省「大学教育再生加速プログラム（AP）」、私学事業団「私立大学等改革総合支援事業」（①私立大学経常費補助金 ②私立大学等教育研究活性化設備整備事業 ③私立大学等教育研究設備整備費補助）等である。
- ②上記の競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進め、最終的に次の補助金を獲得することができた。

- ・「地（知）の拠点整備事業（COC）」（2 年目） 38,483 千円

- ・私立大学等教育研究活性化設備整備事業
 - 18,769 千円（大学タイプ 1）
 - 10,941 千円（大学タイプ 2）
 - 5,582 千円（短大タイプ 1）
 - 7,170 千円（短大タイプ 2）
 - ・未来経営戦略推進経費（2 年目）
 - 6,000 千円（SD 大学職員力向上）
- 合計：86,945 千円
- ・「大学教育再生加速プログラム（AP）」 大学、短大とも不採択
 - ・太陽光発電設備、動物飼育室の改修整備、5・6 号館入口の自動ドア化については、所定の補助金申請を行ったが、文科省の耐震対応にシフトした経費配分により財源不足となり補助対象外となった。

6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ①太陽光発電設備：最高値 100 k w 平成 26 年 11 月から試験稼働、同 12 月に完了。
- ②6 号館動物飼育室改修：国の実験動物の飼育に関するガイドラインに適合するもの。
- ③5・6 号館入口の自動ドア化：学内バリアフリー化の一環
- ④ピッチング練習場改修：雨天時の練習に対応
- ⑤1 号館ボイラーの補修：老朽化による蒸気漏れに対応
- ⑥図書館ディレクションシステム：故障中のもの入替え
- ⑦5 号館大教室（514・515・524・525）の机及び椅子の改修：机盤面の角度調整及び椅子クロス
の張替え
- ⑧公用車カーポート増設：車輛増に対応
- ⑨全建物の法定点検を平成 27 年 3 月に実施：3 年に 1 回義務づけられているもの

7) 情報公表

- ①学校教育法施行規則に基づく、大学の教育情報の公表義務のある 9 項目に加え、私学事業団が努力義務としているすべての項目を公表した。これは経常費補助金の増額に反映されるものである。
- ②広報委員会および大学広報担当者と連携し、公表している情報の見せ方の工夫（図表による表示）に着手した。
- ③私学事業団が管轄する「大学ポートレート構想」へ参加した。各委員会と関連事務部署が連携し、掲載原稿を作成した。

8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①文科省、私学事業団の公的調査にスムーズに対応できるよう、総務課で取扱う事項の基本データの整理を進めた。
- ②公的調査および意義ある民間機関の調査・アンケート等に対応した。

9) 後援会

- ①役員会及び総会の円滑な運営に努めた。
- ②資格取得支援センター運営部会において、検定・資格取得に対する奨励金の減額についての検討を進めた。

(3) 取組みに対する点検<C>

1) サーバー上のデータおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ①サーバー上に分散している各種データの保存形式を定型化することで、定型的な書類およびデータの共有を進めることができた。
- ②保管庫内の整理・整頓が不十分である。鍵の整理に努めた。マスターキーの管理方法を厳格なものにした。多用する会議室のキーの管理方法を変更し分かりやすくした。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①各教授会の事前配布資料の準備方法を定型化し、効率良く正確に資料準備をすることができた。
- ②各委員会の委員長と担当事務局が連絡を密にするよう心がけ、各委員会が概ね円滑に運営された。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①見積書・納品書・請求書等の証憑書類の不備はかなり減少させることができた。
- ②物品購入の際の検品の体制を確立することができた。
- ③各種工事に関する完了報告書を確実に保存する体制を整えた。
- ④コスト意識をもって予算の執行にあたることを課内で徹底した。特に消耗品の節約に努めた。

4) 規程の整備

- ①規程集の電子化を終え、学内 Web システム (Ridoc) への掲示の流れを確立した。
- ②制定規程、改廃規程の管理について、サーバー上のフォルダを整備し一元化した。
- ③今後、未整備の規程の制定と各規程間の整合性の再点検が必要である。
- ④規程、内規、規則・基準等の整理とそれぞれの取扱方法を明確にしていく必要がある。

5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ①文科省と私学事業団がジョイントした「私立大学等改革総合支援事業」における補助金交付基準は、個々の大学の大学改革に対する取組状況に応じて傾斜配分する特別補助金の割合がますます高くなる傾向にあり、実質的には競争的補助金に近い形に変化してきている。平成 26 年度においては、大学、短大とも「タイプ 1 および 2」の調査票において基準値を超えることができたが、最低基準値の上昇に伴い、補助金交付決定額は平成 25 年度よりも減額となった。
- ②大学、短大ともに AP (アクセラレーション・プログラム) に申請したが、不採択であった。新たな取組を計画する背景となる本学の学内改革の現状を踏まえ、必要な改善を進めつつ次年度への申請に繋げていく。
- ③平成 27 年 1 月 22 日に私学事業団の補助金に関する現地調査を受けた。各種補助金の申請に際しては、適正な根拠資料に基づき判断し、その根拠資料を確実に保存することが大切である。

6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ①太陽光発電設備、動物飼育室の改修整備、5・6 号館入口の自動ドア化については、文科省の補助金申請を行ったが、耐震対応にシフトした経費配分により財源不足となり補助対象外となった。5 号館大教室の机・椅子の改修工事により使いやすさを向上させた。
- ②老朽化した短期大学の施設設備の継続的なメンテナンスが必要である。また、建築後 12 年を経過した 4 号館、5 号館等の施設設備の点検、保全の時期を迎えている。

7) 情報公表

- ①公式ホームページがリニューアルを行い、時宜を得た幅広い情報発信を行った。
- ②平成 26 年度からスタートした「大学ポートレート」の掲載内容について、実情に合わせて適宜変更していく。
- ③公式ホームページ上に、新たに研究倫理、動物実験、遺伝子組換え実験に関する情報を公開した。関連法令に準拠した取組みである。

8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①多岐に亘る公的調査および民間機関の調査・アンケートに対して効率よく対応できるようにする。
- ②自己点検・評価報告書の「エビデンス集」でほとんどのものをカバーできる。各種調査・アンケートは当該年度の 5 月 1 日を基準日としているため、学校基本調査、学校基礎調査等と並行して進める。

9) 後援会

- ①検定・資格取得奨励金の給付基準について見直しを行い、対象とする基準を引き上げ、平成 27 年度の予算編成において奨励金を減額させた。
- ②活発化する学生の課外活動の支援をさらに拡大していくことを基本方針とする。

(4) 今後の取組みに向けて<A>

1) 電子データおよび紙ベースの保存書類の整理・整頓（仕事の効率を上げるために）

- ①サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
- ②書庫・書棚の整理・整頓、鍵類の分かりやすい管理方法を進める。

2) 定例会議・各種委員会への対応

- ①各教授会開催に向けた事前配布資料の準備の定型化をさらに進め、正確な資料準備に努める。
- ②各委員長に対し、担当事務職員からきめ細かな連絡、相談を行うことで円滑な委員会運営に努める。
- ③各委員会議事録の様式を統一し分かりやすくする。

3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ①コスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ②消耗品の節約に継続的に努める。
- ③環境保全部会と連携しながら、光熱水費の節約に努める。
- ④電気料金については、新たに設置した太陽光発電設備の効果を測定していく。

4) 規程の整備

- ①未整備の規程について継続的に整備を進める。
- ②各規程間の整合性の再点検を進める。
- ③規程、内規、規則・基準等の取扱いおよび管理方法について明確化する。

5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ①補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。
- ②学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。

- ③補助金申請の根拠資料の整備について再点検する。
- ④「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査票の内容を精査し、得点アップに向けて本学の実情を踏まえつつ改善・改革に積極的に取り組む。

6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ①新学部の開設に必要な教室棟（8号館）の建設に取り組む。
- ②老朽化した第2体育館の解体工事に着手し、8号館と一体化させた建造物とする。
- ③老朽化が進む1号館2号館等の設備の改修工事を効率的に進める。
- ④私立大学等教育研究活性化設備整備事業補助金の制度を効果的に活用していく。

7) 情報公表

- ①公式ホームページの情報公表におけるデータの見せ方をさらに工夫する。
- ②広報委員会、広報担当者と連携し、私学事業団が管轄する「大学ポートレート」の掲載内容を充実させていく。

8) 各種調査・アンケートへの対応

- ①社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
- ②認証評価の受審に向けて、全学的に整合性のとれたデータおよび資料の整備を進める。

9) 後援会

- ①後援会の予算規模に照らし、学生生活の有効な支援方策について検討を進める。
- ②資格支援センター運営部会の検討も踏まえ、奨励金の予算を減額させたことを点検・評価していく。

総務課の業務はここに掲げた項目以外のものも多々あり、その内容も多岐に亘るため、総務課は効率性を重視し適正に業務を遂行し得る組織でなければならない。特に平成27年度においては、認証評価の受審、新学部の設置申請業務等に対応すべく、新たな事務体制を構築していく。

＜執筆担当／総務課長 柴田 幸一＞

2. 管理課

地域の地（知）の拠点として松本大学における研究や教育、地域連携活動の特色や成果を学内外に知らせて継続させる事が大学のブランド形成につながっている。

研究や教育に携わる教員や学生、院生にとって有益となる外部資金情報を迅速にかつ効果的に紹介して、研究資金を獲得するだけでなく、成果の知的財産化につなげる役割が委員会事務局には求められる。

また専任、嘱託、派遣という雇用形態の特性をふまえつつ松本大学内の事務局力量を向上させるためのSD強化、作業や職場環境の改善、メンタルヘルスへの配慮など外部専門機関と連携をはかる事も重要になっている。

(1) 課題＜P＞

1) 外部資金の獲得に向けて

- ①私学事業団、文科省をはじめとして他省庁や財団の公募情報を Ridoc で系統的に案内を継続す

る。

②教員の研究成果についても、学会発表や受賞などを HP 等で発信し、更なる資金や委託業務の獲得につなげる。

③大学への間接経費の効果的な執行について事務局内でたたき台を検討する。

2) 産学連携、知的財産権の保護

①研究室の研究成果による特許や製品化にあたっての商標登録、ライセンス化について研究推進委員会の意思を反映させて、関係機関や企業との折衝をすすめる。

3) 教職協働につながる FD・SD の発展

①平成 25 年度に行われた「反転授業の先進地視察」のような教職協働の事例を学内で共有をはかる。

4) 働きやすい職場づくり

①有休消化の推進、労災や交通災害などの防止活動、メンタルヘルス向上につながる学内での連携など職場や現場に即したシフトや業務の把握に基づいた外注化の検討などを行う。

(2) 平成 26 年度の実践とまとめ<D・C>

1) 外部資金の獲得

①平成 26 年度より Ridoc 共有ファイルにて財団などからの公募情報を適宜掲載した。前年度までは分野を問わず一斉送信メールのかたちであったが、教員の専門乃至興味のある分野の情報を継続的にメンテナンスする方法に変更した。その結果新たに 2 つの財団（上廣倫理財団、飯島藤十郎記念食品科学振興財団）と基金（ゆめ基金）から研究資金の採択を受ける上での情報提供につながった。

②第 3 回目となる「教育研究発表会」は 3 月 10 日、11 日に実施され 19 本（前年 34）の研究発表が行われた。事務局では、抄録集の編集と発表時間管理などの運営を担当した。

③研究資金の採択にかかわる間接経費は、学術振興会の科研費への外付けのみが認められており、他の省庁、企業、財団の補助金には間接経費が認められていない。研究費の経費執行にともなう、領収書などの証憑や出張記録、アルバイト名簿などはコンプライアンスの視点で精度を上げる必要があり、今後も事務部門で的確かつ系統的な処理と管理が求められる。こうしたマンパワーを伴う業務遂行には間接経費が必要である旨を今後とも提起する必要がある。

④平成 27 年 1 月に行われた私学事業団経常費補助調査において、該当となる平成 25 年度特別補助の申請資料の不備事項への指導が行われた。補助申請にあたっては、本来その根拠となる規程、取組を決定や承認した議事録、取組の結果や参加者名簿備え付けが必須とされており、それらの一部が不十分なため補助金の返還を行った。指摘事項には平成 26 年度特別補助にも共通する項目があり、平成 26 年度補助額確定前に資料の精査及び追加による書き換えと要件を満たさない項目は取り下げの申請を行った。

2) 産学連携、知的財産権の保護

①松本広域ものづくりフェアを松本大学を会場に開催した（2010 年以来 5 回目）。

参加者は 12,804 名（前年 14,523）となり減少したものの、目玉となるものづくり体験教室が 46 コマ（前年 31 コマ）と充実して参加者の満足度は高い。参加者へのアンケート調査による

と松本大学での継続開催を99%が望んでいる。

- ②本学が地域連携や高大連携を通じて人材育成や地域資源を生かした産業創出につなげている実績に対して経済産業省、農林水産省からのヒアリングを受けた。経産省は商務情報政策局が「サービス産業人材育成事業」を推進する上で、マーケティング塾を核とした高大連携教育が地元産業や商店に活気をもたらしている実例として評価を受けた。

また農水省は食糧産業局新事業創出課が同省6階展示にてアルクマそばと本学の資料を紹介している。これは平成23年度来、松本大学と安曇野市商工会が共同で運営する中信地区6次産業協議会において大学と商店、メーカー、観光面などに成果が拡大している成果としていることを評価してのことである。

③知的財産権取得の取組

特許出願は平成26年度は2件（研究者個人名で出願中）、商標登録1件（焙煎そば粉EX：松本大学と安曇野市商工会の連名で申請中）である。

大学への委託業務として行われた研究者個人の研究成果にもとづく知的財産権をどこまで帰属させるかについては明確にされていない。特許出願にあたり、学内規程整備後は特許権の帰属を見直す旨を研究者本人の了解を得て申請を行った。

3) 事務局職員の能力開発を推進して、教職協働の実行、事務局内の連携を強化する

①FD・SD活動

専任職員については、FD・SD委員会、ハラスメント防止委員会主催の学内研修への参加を位置付けた結果、のべ53名の事務職員が下記の学内研修を受講した。数字は教職員、県内大学関係者含む全体参加者で()内が本学職員参加者数。講師の敬称は略している。

区分	テーマ	参加	日時	講師
FD・SD	教学IRの意義と役割	60 (18)	9月18日	山田 礼子 (同志社大学)
SD	多様化する職場におけるコミュニケーション向上	14 (13)	9月17日	鈴木 有香 (麗澤大)
人権委員会	ハラスメント相談員研修	20 (5)	9月17日	高野穂三穂 (弁護士)
人権委員会	そもそも人間って何	38 (4)	2月3日	天野 和彦 (福島大学)
SD	グローバルコミュニケーション能力育成研修	14 (13)	2月3日	マキナリー浩子

②資格取得など自己研鑽の取組

厚労省認定資格であるキャリアコンサルタント養成講座には4名が受講して平成26年度末時点で内2名が検定試験に合格した。4名中3名が大学への資格取得支援制度を申請し、1名は職務上の必要性に鑑みて自発的に取得した、また国家資格であるFPに1名が受験して合格した。キャリアコンサルタント有資格者による学生相談やキャリア形成支援の実績、FP有資格者が学生から経済面での相談に応じる体制の構築、外国語修得のための講座実施や事務職員の海外研修などは私学事業団特別補助項目となっており、業務遂行上もより支援を強める必要がある。

4) コンプライアンス重視の労務管理と職場環境改善

専任職員については時間外労働の削減、休日出勤に伴う振替日取得を年度初めに制度の説明を文書で行った。休日出勤の振替取得に関しては、年度をまたいでも管理記録による照合を行うことで3月末におけるキャンパス見学会時の振替をとりやすくする措置を講じている。ストレスや長時間のパソコン作業などから慢性疲労やストレス性の疾病を誘発するリスクがあるためその対策が求められる。労災や通勤途中の事故に関しては平成26年度の届出と発生はなかったものの通勤やアウトキャンパス時の接触事故は報告されており、事故防止の注意喚起が求められる。

5) その他の取組

①COC事業の具体化として「防災士養成研修講座」を危機管理委員会主幹で行った。第1回目の募集に105名（うち学生45名）が申し込みを行い、検定試験には104名が合格した。松本市（講師派遣）、松本商工会議所（後援）の協力が得られたとともに、60名の社会人が本学学生とグループワークやワークショップを行い、事務局はファシリテーションの補助を担った。

②古本募金

東日本大震災復興支援のための活動資金を目的にして平成25年度より開始した。

古本回収BOX設置場所は学内3か所（4号館1階事務局、図書館、考房ゆめ）でホームページから依頼書をダウンロードして直接古本を着払いで送本も可能である。

業務提携契約 株式会社バリューブックス

平成26年度実績	1,287冊	寄付金額	91,870円
----------	--------	------	---------

累計実績	2,940冊	寄付金額	172,945円
------	--------	------	----------

バリューブックス社の物流倉庫が上田市にあるため、古本の学内陳列販売が可能となり、ものづくりフェアにおいて1日古本市を開催した。

保護者や卒業生への浸透、後援会や同窓会との連携を今後はかっていく。

(3) 平成27年度への改善・改革に向けた方策<A>

1) 外部資金の獲得に向けた取組

①大学の組織あげての公的補助である文科省、私学事業団補助項目に関しては、実施主体となる部門との情報や記録の共有と結果のフィードバックを行う。

②科研費獲得に向けた分野を超えた学内における先進事例の共有や、財団、文科省以外の研究志向の補助金についても適宜情報提供を継続する。

2) 委託業務、産学連携のワンストップ化、知的財産権申請の支援

①委託業務の内容掌握については、(ア)その知見や業績を学内外で共有や情報発信するという大学の使命実現の側面と、(イ)出張や経費の切り分けや出退勤など事務管理の整合性をはかるという側面がある。後者に関しては、委託費のため、出張の事後報告や経費の個人判断に基づく執行などによる大学ルールからの逸脱が監査で指摘されており、十分な意思一致をはかる必要がある。

②産学連携のクライアント側のニーズは多岐にわたっており、松本大学における窓口となる地域健康支援ステーション、地域総合研究センター、地域づくり考房『ゆめ』の相互の役割と強みを発揮するための事務局同士の緊密な連携もはかる必要がある。

<執筆担当/管理課長 臼井 健司>

II. 学生センター

2011年度から、大学内の各部署で様々な業務を経験し、総合職（ゼネラルマネージャー）としての人材の育成を目的とした若手・中堅職員・課長の定期的、計画的な人事異動を行っている。2013年度は大きな人事異動はなく、業務を習熟する時期と捉えている。部署ごとの業務内容はそれぞれ特色があり、一年をひとつのサイクルとして業務内容が変化するため、移動のなかった嘱託職員のキャリアに頼るところも大きい。継続的に業務を遂行し、途切れないようにするため、中・長期的な人事計画が喫緊の課題となっている。

また、本学では、開学以来、教職協働による大学運営を重視している。教員とともに大学の発展に寄与する人材となるべく、大学職員としての専門性と幅広い教養を身に着けるため、FD・SD研修が定期的に行われている。

(1) 学生センター連絡会・相談員の役割の再点検<P・D>

①学生センター連絡会

2010年12月に立ち上げられた学生センター連絡会（学生課・教務課・キャリアセンター・国際交流センター・情報センター・健康安全センター・基礎教育センター・図書館の職員で構成）は、退学者の抑制、休学している学生の複学促進を当面の目的としている。学生の抱える様々な問題や悩みに対し、事前に問題を把握し、深刻な事態になる前に学内における学生情報を共有し、他部署およびゼミナール教員と連携しながら解決方法を見出すことで、一定の効果を上げてきている。また、休学が継続し退学へとつながるケースも多いことから、長期にわたる学生のケアに関わっていくか、特に下記の3点について注意深く対応をとっている。

- a) 授業の出席状況と欠席理由の把握
- b) 悩みを持つ学生の気軽な相談窓口の設置
- c) 生活習慣が過度に乱れている学生の把握と改善に向けたアドバイス

②学生相談員

2012年6月より、上記学生情報のa)、b)への対応策として学生がいつでも相談できる学生相談員の配置を行っている。専任のカウンセラーに相談するまでもないような悩みを、気軽に相談できるよう、カウンセラーの有資格者を中心にカウンター業務と並行して行っている。（SD研修の一環でカウンセリングの有資格者が増加している）。

<事務局学生相談員グループ>

学生課：松沢久由　教務課：山本由紀　キャリアセンター：白澤聖樹、片庭美咲

相談員のサポート役：丸山（正）学生課長、田中 中学生係長

③授業料免除制度

休学・退学する学生の中には、経済的な理由によるものが少なくない、学内の制度として2009年度より「経済状況悪化に伴う修学困難な学生への支援制度」を設け、家計を支えている方の失職、破産、事故、病気、もしくは死亡の等により、入学後、修学が困難となった学生に対し、授業料の半額を免除している。2013年度の申請者は、前期後期合せ7名である。

また、全学生の約40%にあたる学生が奨学金を受給し、学費や生活費に充てている。ここ数年この割合は横ばいで推移しているが、就職してからの返済について、学生支援機構の方針が強化されており、次の受給者のためにも在学中からの学生指導の徹底が必要となっている。

(2) 学生センター連絡会・相談員の役割の再点検<C・A>

①学生センター連絡会議

学生センター連絡会は、原則月に1度の開催で、毎回10名程度の職員が参加している。各部署から持ち寄られた学生の情報を共有しながら、休学者・退学者が少しでも減少するよう、対策について議論を重ねている。また、それぞれの部署を超えて若手・中堅職員が問題意識を持つことの習慣化にもつながっており、連絡会の意義(原点)を忘れずに今後も継続して行きたい。

また、昨年より手がけている、学生の情報を得る手段としての学務システム(メソフィア)などの改修計画について、予定より大幅に時間がかかっており、業務改善に支障をきたしているため、今後迅速なデータの集計や、統計をいかに効果的に取り出せるか再度検証し、システム改善を急ぎたい。

②学生相談員

学生相談員は、学生の日常的な悩みを幅広く受けつけることを目的として設置されたが、2013年度および2014年度、相談員を名目として窓口に来た学生は0人であった。学生の悩みは、日常会話の中に見え隠れしており、相談員は窓口での対応で、その会話の中に感じた悩みに対しアドバイスを行うケースがほとんどである。今後、FD研修の一環として取り組んでいるキャリアカウンセリング資格の取得や産業カウンセラーの資格取得の促進によって効果が上がることを期待している。また、本年度ファイナンシャル・プランナーの資格を取得した職員がおり、次年度より経済的な悩みを持つ学生の相談を受けられる部署の設置を予定している。

<執筆担当/学生センター長 松尾 淳彦>

1. 教務課

2014(平成26)年度の教務課は、「総合経営学部」「人間健康学部及び大学院」「松商短期大学部」「教職及び資格取得」の各部署ごとに担当を配置し、専任職員及び嘱託職員の計10名の体制で教学業務に従事した。

(1) 2014年度の基本計画<P>

2013年度の自己点検・評価を踏まえ、2014年度の取り組みを以下に掲げた。

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

教務委員会と連携し、他大学の事例等を情報収集し、認証評価を念頭に置き、諸規定・諸規則等を整備する。

2) シラバスの改良

科目選択の際の情報提供や講義内容が分かり易く、見易くなるようシラバスを改良する。また、認証評価への対応も踏まえ、他大学の例を参考に改良を図る。

3) 認証評価への対応

短大部は、2015年度に短期大学基準協会の第三者評価を受審することになっている。さらに学部も、当初より1年前倒しをして、2015年度に日本高等教育評価機構の第三者評価を受審することとなった。上述の諸規定・諸規則の整備やシラバスの改良とともに、未整備な事項について検討を行い整備していく。

4) 休退学の予防、留年者の対応

休学・退学および留年を予防、抑制するよう対応を検討する。

5) メソフィアポータルサイトへの GPA 推移の表示の検討

今まで議論されてきたが、導入には至らなかった。GPA 推移をグラフ化し表示することにより、経年変化がイメージし易くなるため、導入を検討する。

6) 外部テストの検討

外部テストについて、各委員会・部署などが実施しているテストを洗い出し、整理する。

7) 教員免許状更新講習の実施の検討

県内のほとんどの大学では教員免許状更新講習を開催しているため、本学でも平成 27 年度からの開催を目指し、教職センターと連携し検討を行う。

8) 正課外講座の充実

TOEIC 対策講座の導入や公務員試験対策講座の拡充を図る。

(2) 課題に対する取組<D>

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、2つの規程と3つの内規を新たに整備し、1つの内規を改訂した。

(新設)

- ・「松本大学総合経営学部進級に関する規程」
- ・「松本大学人間健康学部進級に関する規程」
- ・「松本大学オフィスアワーに関する内規」
- ・「松本大学授業のクラスサイズに関する内規」
- ・「松本大学スチューデント・アシスタント内規」

(改訂)

- ・「松本大学学生の転学部・転学科に関する内規」

2) シラバスの改良

全学教務委員会と連携し、現行シラバスの改良を図り、下記項目の新規追加や改善を行った。

(新規追加)

- ・ナンバリング／研究室／科目種別／オフィスアワー／履修条件／ディプロマポリシーとの関連性／カリキュラムポリシーとの関連性／履修対象入学年度／授業内容／事前事後学修

(改善部分)

- ・授業概要と学修到達目標の分離
- ・履修上の注意（学生へのメッセージ）

3) 認証評価への対応

①諸規程・諸規則の整備

- ・進級規程では、3年次への進級を可とする要件は、学年末において卒業要件に参入される修得総単位数が総合経営学部は 40 単位以上、人間健康学部は 45 単位以上とした。
- ・オフィスアワーは、原則として、週に 1 回以上、同じ曜日の同じ時間帯に 1 コマ (90 分) 以上の時間を確保するものとした。
- ・クラスサイズは、1 クラス当たりの受講者数の原則を定めた。

- ・スチューデント・アシスタントでは、学生が教育補助業務に従事することにより、学生相互の成長並びに大学教育の充実を図ることを目的に制度を整備した。

②シラバスの改良

- ・ナンバリングは、7桁の英数字で科目の配分規則を表示することとした。
- ・事前事後学修は、具体的に授業外学修の内容および時間数等の指示を記述することとした。

③その他

- ・3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）について、大学全体、各学部で作成されているものを整理した。（今まで作成されてはいたものの、どれが最新のものであるか共通認識が不足している点があった。）「シラバス入稿の手引き」、「学生便覧」、「出講の手引き」に3つのポリシーを記載した。
- ・成績評価基準における Q（履修放棄）、R（欠席超過）、J（受験せず）の扱いについて、D（不可）評価の理由として記述することとした。
- ・R（欠席超過）について、「3分の2以上の出席がない科目は単位認定しない」とする評価基準を統一ルールとした。

4) 休退学の予防、留年者の対応

修得単位数および GPA が一定以下の場合、二段階の基準を設け、クラス担当教員等による面談指導を実施するとともに、保護者へ連絡・面談を行うこととした。面談の際は、「学生指導実施記録」を記入することとした。

5) メソフィアポータルサイトへの GPA 推移の表示の検討

全科目、教養科目、専門科目の3分野において、学生ポータルサイトと教員ポータルサイトに、学年学科の平均値及び学生自身の GPA 経年変化（各期）を表示することとした。

6) 外部テストの検討

基礎教育センターで実施している一般教養テストについて、現状では十分に活用されているとは言いがたいため、教務委員会で各委員会・部署などが実施しているテストの洗い出しや整理を行い、検討することとなった。結果、2015年度は、新入生オリエンテーションにおいて、基礎学力の把握や英語のクラス分け等の観点から、従来の英語1科目実施から英語・数学・国語の3科目を実施することとした。試験問題は、学部においては、英語は TOEIC Bridge、数学と国語は(株)旺文社、短大部については、英語は TOEIC Bridge、数学は IRT、国語は基礎教育センター作成の問題で人文社会として実施することとした。

7) 教員免許状更新講習の実施の検討

教員免許状更新講習準備委員会が設置され検討が行われた。結果、文部科学省より必修講習 1 講座、選択講習 19 講座の認可を得て、平成 27 年度に開催することとなった。

8) 正課外講座の充実

①TOEIC 対策講座

一定レベルの語学力のある学生で、語学力向上を目指す学生を対象に、TOEIC 対策講座を開講することとなった。講座概要は下記の通り。

- ・受講対象者：大学・短大・大学院の全学年
- ・期間：2015年5月～2016年1月（全30回）

- ・募集定員：約 20 名
- ・講座レベル：目標スコア 500 点以上
- ・受講者のレベル：TOEIC400 点以上、TOEIC Bridge140 点以上、英検準 2 級
- ・受講料：10,000 円

②公務員試験対策総合講座

資格取得支援センターと連携し、全学年対象に、各学年に応じた公務員試験対策講座を総合講座として開講した。

- ・講座： 学部 4 年 実践演習講座（教養） 15 回
学部 3 年 基礎講座（教養） 60 回
学部 2 年 プレ基礎講座（教養） 30 回
学部 2 年 プレ基礎講座（専門） 30 回（*注 1）
学部 1 年 基礎力養成講座 30 回
短大 2 年 実践演習講座（教養） 15 回
短大 1 年 プレ基礎講座（教養） 50 回（*注 1）
(注 1：短大 1 年の講座うち 30 回は学部 2 年と同一開講)
- ・受講料：講座 1 回当たり 1,000 円

(3) 課題に対する点検<C>

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

大学設置基準、学校教育法施行規則および本学学則の規定する学務事項の内容に照らし、整合性を以って学内規程は制定されている。学生に対する所謂「教育的配慮」は時と場合によっては大切であるが、他の学生との公平性を欠くことは高等教育には相応しくない。規程は厳格に適用すること、関連規程に規定されていない事柄については、学生に不利益にならないことを配慮することを基本とし、教務課が一時的な感情に流されるような窓口対応を行ってはならない。その意味で、まず判断基準となる既存の規程の正確な理解が必要である。その上で、必要に応じて見直しを進めることが望ましい。

2) シラバスの改良

シラバス入稿にあたっては、「シラバス入稿の手引き」作成し、共通認識を持ったシラバスを作成頂けるように努めた。また、教務委員会と連携し、シラバス記述内容の第三者によるチェックを行い、組織としてシラバスのチェック体制を整えた。シラバス記述に当たっては、教員にかなりの負担をおかけしたが、講義の中身が明確になり、学生にとって分かり易いシラバスになったと考える。

3) 認証評価への対応

認証評価への対応として、未整備な部分を補っていったが、本来必要であるべきものは、認証評価の有無に関係なく整備されている必要がある。

4) 休退学の予防、留年者の対応

面談を実施することにより、学生の状況をより詳しく把握することが可能となり、今後の対応に結びつくものとなった。面談記録は、担当教員が記入し、教務課に提出するため、共通認識を

持ち対応できることとなった。

5) メソフィア学生ポータルサイトへの GPA 推移の表示の検討

今まで当年度と累計の GPA 値の表記のみであったが、分野ごと経年でグラフにて表示されることにより、成績の浮き沈みをより明確に実感できることとなった。

6) 外部テストの検討

英語は TOEIC の受験推進を目的に TOEIC Bridge を採用した。学部の国語・数学については、全国レベルの把握や分野別でのウィークポイントの把握が可能となった。短大の人文社会では、入学前教育で使用した問題集からも出題することにより、問題集へ取り組む際のモチベーションを高めることとなった。

7) 教員免許状更新講習の実施の検討

内容が教員免許状更新講習に相応しいものであるかどうかについて、講師の判断に任される部分が多いため、初年度を実施したうえで、より多くの教員に参加してもらえるように働きかける必要がある。

8) 正課外講座の充実

①TOEIC 対策講座

資格取得支援センターと連携し、奨励金が 600 点以上 20,000 円 (一人 1 回のみ) に変更された。TOEIC 賛助会員に入会したことにより、受験料の引きサービスを受けることができ、受験者全体への負担減と高得点者のモチベーションアップにつながった。

②公務員試験対策総合講座

受講者数が全講座で 111 名であり、当初の目標数には程遠い状況であった。開講時限を 5 時限に設定しているため、講座数が多くなると、どの曜日にどの講座を配置するか設定が難しくなっている。

(4) 課題に対する改善<A>

1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程・内規を整備した。実情を鑑み、不十分な点が生じた場合、各種規程や内規の整備を検討して行く。

2) シラバスの改良

今回大幅な改良が行われたため、学生の感想や教員の感想を聞き、次年度のシラバス作成に向けて反映して行く。

3) 認証評価への対応

7 年後の認証評価に備え、日頃より準備をしていくことが重要である。実情を踏まえながらも、他大学の事例も参考に対応していく。

4) 休退学の予防、留年者の対応

面談の確実な実施と、教職員連携しての対応を強化して行く。

5) メソフィア学生ポータルサイトへの GPA 推移の表示の検討

教員の学生への指導、学生の自身の傾向の把握に効果があるため活用して行く。

6) 外部テストの検討

2015年度の新入生オリエンテーションで初めて実施となるため、実施後どのように活かしていくか検討して行く。

7) 教員免許状更新講習の開催準備

2015年度の実施状況を見て、必修講習と選択講習の開講数、講習内容など検討して行く。

8) 正課外講座の充実

①TOEIC 対策講座

学生の語学レベルがどの程度向上したか、TOEIC 試験等から判断し、講座内容等の検討を行っていく。

②公務員試験対策総合講座

資格取得支援センターと連携し、受講者を増やすべく学生への告知を進めて行く。合格者を増やすこと、さらに上級職への合格者も増やすべく講座担当とも連携していく。

＜執筆担当／教務課長 丸山 勝弘＞

2. 学生課

＜現状＞

本学は「教育・研究を通じた地域社会への貢献を目標としている」ことを掲げ、社会で行われる実際の事業に学生を関わせることで、地域の人たちとの繋がりを持てるよう学生への支援を常に心がけている。また学部別の担当を配置しながら、奨学金事務、共通の企画、全学行事の事務を遂行した。

(1) 年間計画＜P＞

1) 学生の指導に関する事項

- ・学内での生活全般
- ・危機管理対応（事故・事件対応）
- ・病気、怪我、体調不良等の相談、対応（健康安全センターとの連絡）
- ・日常の生活マナー指導（喫煙、駐車違反、不正乗車、アルバイト情報の提供、掲示物等）
- ・松本警察署生活安全課及び交通課との連携
- ・留学生への生活全般助言・支援

2) 学生証、通学証明書、J R学割証の発行に関する事項

- ・上高地線通学定期不正使用禁止の徹底指導

3) 学生の課外活動に関する事項

- ・学友会、クラブ協議会、サークル連合への支援
- ・強化部、重点部、強化指定選手への大会手続及び支援
- ・寮生活の指導・健康状況、会計状況、生活状況相談
- ・松本子どもまつり、松本ぼんぼん参加申請、企画、引率等
- ・全国私立短期大学体育大会への参加申込、宿泊手配、引率
- ・長野県私立短期大学体育大会への参加申込、引率
- ・学部及び短期大学部の体育大会等への協力、支援
- ・各種リーダー研修会への助言、支援

- ・新村地区情報交換会（新村音楽祭・新村地区運動会への支援と学生派遣協力）
- ・松本大学地域懇話会（新村地区町会長・市議との会議）
- ・各種発刊物への企画アドバイス
- ・湘北短期大学との交流会（リーダー研修会・スポーツ交流等）

4) 学友会会則の見直し等

学友会活動を始めとした課外活動の広がりや成果を多くの学生の参加、利用できる仕組みづくりを行う。

5) 大学祭をよりアカデミックさを強調しながら成功させる

6) 修学支援に関する事項

- ①「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」
- ②「日本学生支援機構の奨学金」
- ③「松本大学同窓会奨学金」
- ④「地方公共団体・民間育英団体」
- ⑤ その他

7) 障がいをもつ学生への支援

(2) 活動内容<D・C>

1) 学生生活の広がりに対応した支援業務

①修学支援（奨学金、緊急支援制度他）

全学生の4割にあたる781名（院生含む）が日本学生支援機構奨学金の貸与を受けており、親元の経済事情を反映した相談が日常的に増加している。返還誓約書の早期提出など事務取扱いが煩雑となる一方で、奨学金の月額変更や緊急、応急貸与の個別相談にきめ細かく対応するべく課員の業務水準をあげるための研鑽につとめた。（下記別表参照）

	5/1 現在学生数			奨学金受給学生数・比率		
	2012年	2013年	2014年	2012年	2013年	2014年
総合経営	761人	718人	733人	284人 37.3%	283人 39.4%	278人 37.9%
人間健康	744人	758人	738人	340人 45.7%	348人 45.9%	351人 47.6%
大学院	10人	13人	12人	4人 40.0%	4人 30.8%	3人 25.0%
短期大学	409人	447人	438人	153人 37.4%	167人 37.3%	149人 34.0%
合計	1924人	1936人	1921人	781人 40.6%	802人 41.4%	781人 40.7%

また「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」として、学費半額免除の制度を継

続した（前期・後期）。親元の経済急変の背景となる事案が多様化しており、審査委員会として審査基準と手順を改善した。

学部のみになるが、スポーツ特待生制度の学力基準（GPA 目標値：2.0 GPA 基準値；1.0 以上）を設け、条件を明確にして継続している。

②生活支援（マナー、社会人基礎力）

全学学生委員、学生課、学友会役員、クラブ協議会及びサークル連合会により、たばこの吸い殻、ごみ拾い、体育館（第1・第2）及び部室棟周辺の清掃を実施した。

新入生には交通安全や防犯、IT犯罪対処の予防について松本警察署の協力で講話を実施し、一定の抑止効果を見せている。また薬物依存への警告を行うための同署生活安全課の支援を得た。

車通学の学生による違法駐車に対し近隣から苦情が寄せられ、警備員による大学周辺の巡回や悪質なケースへのタイヤロックなど強化に努め、その結果、効果が出たと思われる。一方で学生駐車場ゲートの不具合等にとりパーキングユニットの交換をしたが、パーキング機器の摩耗が激しいため、業者とのメンテナンス契約を締結した。（年3回）

また不正乗車禁止の呼びかけを行い、犯罪を防ぐために警察との連携を密にした。

③コミュニティ形成としての居場所づくり

学生たちが仲間づくりや共同行動を通じて成長をはかり、社会性を身に付ける重要性が大学教育で強調される以前から松本大学では学友会やサークルを通じた人づくりを重視している。

総合グラウンドは学校法人松商学園との共有グラウンドのため、高校と大学から運営委員を選出し、授業優先の原則のもと本学サークルと高校部活動のすみわけをはかった。7号館1階のコモンルームは多目的空間として勉学、語らい、発表、食事など平日はほぼ満席となりニーズの高さを示している。

④危機管理

学生たちが安心、安全に学生生活をおくるために事故防止や事故後の処置に対し健康安全センターとの連携で対応をはかった。

2) 学友会のサポート

体育祭、大学祭といった学友会主催のイベントで、担当する学生たちがいかに主体性をもって企画運営に携わることができるかを意識しながらアドバイスなどを行った。その結果、学生たちが達成感を味わい、自信を獲得することにつながった。

各学部の学友会間の連携を意識して、学友会会則の改訂を行い、基本的な総則や組織、役職の統一化をはかった。また、学部の学友会は役員改正の選挙を実施するなど、学友会活動の発展に努めた。

3) クラブ協議会、リーダーズキャンプ

総合経営学部・人間健康学部の学友会が協力して組織したクラブ協議会は代表の学生により、年間計画や予算作りの指針をクラブ代表にはかり、各クラブ内における活動レベルを引き上げた。

同時にリーダーズキャンプは短大方式を参考に、クラブ協議会リーダーズキャンプ（9月）3学部合同リーダーズキャンプ（2月）と行われ、相互交流と研鑽の機会となりつつある。学生課はこれらの円滑な運営のサポートを行った。

4) 大学祭の成功

梓乃森祭は年々規模の拡大と参加者の増加がみられる。今回のテーマは「あの一、隣あいてますか？」を設定した。また本学では独自に白馬村神城断層地震及び木曾御嶽山噴火災害へバザーでの収益金を寄付した。

全学学生委員会では、①松本大学の教育や研究実践のアピール、②学生の更なる参加と教職員との協力を意識した大学祭とするべく、4月より準備を行い、一日限りのレストランや、松本理容美容専門学校とのコラボレーションによる「松コレファッションショー」など、好評であった。今回で第5回目となる地域貢献大賞には最多となる3学部から7グループが参加し、日ごろの学習成果を発表した。審査員には、学外より新村公民館長、EPSON労働組合執行委員長、後援会役員に加わっていただき、「地域の問題に真摯に取り組む学生と大学の姿」へ賞賛が寄せられた。

7号館コモンルームには、サークルポスター展示、ゼミナールの実践発表と展示スペースを設けてアカデミックさと日頃の学生の活動をアピールした盛大な大学祭となり大いに成功を収めた。

5) 障がいをもつ学生への取組

本学には心身になんらかの障がいをもつ学生が在籍している。学生委員会は、健康安全センターと密に連携を取り、学生生活に支障の無いよう支援をしたい。

6) 留学生への対応

本学では、韓国東新大学より交換留学生として、男子1名・女子2名が1年間の予定で在籍している。国際交流センターは、留学生が、勉学及び生活に支障の無いよう、日本の風土に馴染めるように適切なアドバイスをしたい。

7) 松大ブログ、発行物

大学ホームページに主要サークルのブログコーナーを開設したが、全体的に使用頻度が低い。また、学友会報道局の「大学新聞」は年2回発行、表紙も斬新なアイディにより一新され、教職員からも好評を得た。昨年度より発行した総合経営学部の卒業文集も好評を得ている。

毎年全学生に配布する「CAMPUS GUIDE 2014」の内容を見直し、学友会・サークル紹介ページを別冊子(名称:Start)版で発行した。3学部の学生編集スタッフを中心となり、行事の紹介やサークルの魅力を伝えるために学生の生の声や写真を取り入れるなど読みやすくなっている。

こうした取組を行うために学生課では、学生たち自身のやる気やアイデアを引き出すため行事のふりかえりや編集スタッフ同士のチームワークを通じて達成感が得られるよう配慮を行った。

(3) 次年度への課題<A>

更なる現場事業の強化へ

- 1) 3学部の学友会活動のベクトルを合わせ、協力できるところは協力し、独自に行うところは別に行い、自治を確立するといったメリハリを考慮した活動を支援する。
- 2) 学部・クラブ協議会と短期大学部・サークル連合会の組織を融合し、スムーズな運営体制を確立する。またクラブ活動がより活発化するために支援する。
- 3) 大学祭・体育大会等のイベントが、より学生主体で行えるような仕組みを引き続き構築する。
- 4) 高等教育コンソーシアム信州学生支援部会の加盟大学とのネットワークを広げ、各大学祭の情報交換の場を設け、学生の交流ができるよう支援する。

5) 平成 26 年度、本学主管となる長野県私立短期大学体育大会を成功させる。

6) 学生生活の基盤を支える

- ① 学生のほぼ 4 割にあたる奨学金貸与学生へのスムーズな手続きとともに、親身になった相談活動を行う。また、日本学生支援機構以外の奨学金にも注目し、広く学生に紹介できるような情報収集に努める。
- ② 一人暮らし、悩みをもった学生、サークル・学友会のリーダーなど学生たちの抱える問題解決の支援を教員や健康安全センターなど部署同士の連携で行う。また障がいをもつ学生への有償サポートスタッフ制度の運用を通じて、バリアフリーの大学づくりを継続する。
- ③ 学生と教職員同士の信頼、学部を越えた学生同士の交流などの本学が持つ強みを最大限に発揮する課外活動の展開。
- ④ 強化部、重点部、個人強化選手の役割と結果を出すサポートを行う。
- ⑤ 健康的で快適なキャンパスライフを送るために、一人ひとりが高いモラルをもってマナー向上に取り組むために、ルールブックを作成する。また悪質なルール防止に向け、ペナルティを科すことを明記する。
- ⑥ 永年の夢であった女子ソフトボール部の寮が新築（借家）され、平成 27 年度 4 月より入寮が予定されている。
- ⑦ 留学生の良きパートナーとなり、慣れない異国での生活のアドバイス・支援を行う。

7) 学生課職員の標準化

どの学生に対しても公平なサービスを提供するために、打合せの頻度を多くするなど職員の情報共有に努める。今後、配置転換があっても、スムーズな運営ができるよう、マニュアルを作成し、円滑な事務を引き継げるようにする。

学生にとって最も身近な「社会人」として、ときには社会の厳しさを指導することも私たち職員の責務と考え、学生対応を行い、学生を育てるといった視点を所有する。

＜執筆担当／学生課長 丸山正樹＞

3. キャリアセンター

本年度のキャリアセンターは課長 1 名のほか専任職員 3 名、嘱託職員 4 名の計 8 名で運営した。課員全員で学生の窓口対応を行ったほか、専任職員は就職活動準備支援ガイダンスの運営や就職活動支援、就職委員会の運営等を担当した。また、嘱託職員は主に企業訪問、面接練習対応、会計処理、庶務等を担当した。学内合同企業説明会、夏季就職合宿、保護者就職説明会等の行事は課員全員が協力して開催した。また、入学予定者ならびに全学生を対象としたキャリア面談を実施した。

(1) 2014 (平成 26) 年度当初の計画<P>

1) 主に大学 2~3 年生、短大 1 年生の就職活動準備

① 就職活動準備を目的としたガイダンスの運営

【総合経営学部】

学生の就業意識の醸成と就職活動準備支援のため、3 年生通年に「キャリア形成Ⅱ」を実施している。今年度は、自己分析、志望動機作成など、キャリアセンター職員と就職委員が受け持ち、座学や演習を通して学生の就職意識向上に努める。特に就職活動の意義とその手法について根拠

を含めて解説することで、実践の際に明確な意識を持って取り組む力を養うことを目指す。また、2年生後期の「キャリア形成Ⅰ」では自己理解や社会に目を向けるための内容などガイダンスを7回行う。

【人間健康学部】

学生の就業意識の醸成と就職活動準備支援のため、3年生前期に「キャリアデザインⅡ」、後期に「就職支援ガイダンス」を実施している。今年度は自己分析、志望動機作成など、キャリアセンター職員や就職委員が受け持ち、座学や演習を通して学生の就職意識向上に努める。特に、就職活動の意義とその手法について根拠を含めて解説することで、実践の際に明確な意識を持って取り組む力を養うことを目指す。2年生後期の「キャリアデザインⅠ」では、社会で活躍されている社会人から話を聞く機会を増やし、学科での学びと社会とのつながりを学ぶ。また、基礎学力の維持と向上を目的に、毎回の講義で20分ほど基礎教育センターによる筆記試験対策を行う。

【松商短期大学部】

1年生後期の「キャリア・クリエイトⅡ」「キャリア・スタンダードⅡ」を学科別2クラスで実施する。「キャリア・スタンダードⅡ」では基礎教育センターと連携して「一般教養講座」を行い、基礎学力の向上を図る。2年生前期の「キャリア・クリエイトⅢ」は、前年度の2月から前倒しで5回実施する。2年生後期の「キャリア・クリエイトⅣ」は社会人として必要なマナーや心構えを学び、社会保険に対する知識の習得を目指す。

②各種講座の企画・運営

【夏季就職合宿】

大学3年生対象に、夏季休業期間中に1泊2日の合宿を2回計画する。次年度から就職・採用活動開始時期が変更されることに伴い、例年3回実施していた合宿を2回とし、減じた分を12/末及び2/末に1日コースとして就職対策講座を実施することとした。

【就職対策講座】

就職活動前の休業期間（12/末及び2/末）を利用して、大学3年生

対象に1日コースの就職対策講座を4回計画する。

また、面接試験の初期段階で行われる集団面接、グループディスカッション対策を計画する。

【インターンシップ】

大学はこれまでインターンシップを夏季休業期間中（3年生対象）と春季休業中（2年生対象）の、年2回実施してきた。ただ就職・採用活動開始時期の変更に伴い、春季休業期間中の3月は就職活動中の学生の支援に集中すべきとの考えから、春季休業期間中のインターンシップはとりやめることとした。短大はこれまで通り11月から実施する。

○大学（対象：3年生）…夏季休業期間以降（8月～2月）

○短大（対象：1年生）…後期以降（11月～3月）

【業界研究勉強会】

次年度から就職・採用活動開始時期が変更することに伴い、3月から各企業の説明会が本格的に開始されるが、学生が円滑に就職活動を開始できるよう前年同様に、12月から業界研究勉強会を開催することとした。

2) 大学4年生、短大2年生の就職活動支援

①求人情報の公開と説明会…大学宛の求人票とハローワークの新卒求人情報を掲載した「今週の求人情報」を毎週木曜日に発行する。また掲載された求人情報について、同日の昼休みを利用して（13時～13時30分）求人情報説明会を開催する。

②合同企業説明会への学生参加促進

【学内合同企業説明会】

これまで年間3回開催していたが、平成26年度は就職・採用活動開始時期が変更されることに伴い、開催数を年間2回とした。

○6月開催：対象…大学院2年生、大学4年生、短大2年生

○3月開催：対象…大学院1年生、大学3年生、短大1年生

【学外合同企業説明会】

学外の合同企業説明会参加支援の一環として、東京ビックサイト及び長野ビックハットへのバス運行を行うこととした。学外の合同企業説明会に参加し、他大学の学生の行動を目の当たりにすることによって、就職活動の刺激を受けることも併せて期待している。

③学内単独企業説明会

例年同様、学内の教室を会場とした単独企業説明会を開催する。これまで12月から開催していたが、就職・採用活動開始時期の変更に伴い、3月から開催することとした。

④就職活動支援・個別相談

キャリアセンターの支援を最も必要としているのは就職活動中の学生であるという原点に立ち返り、学生の個別相談・個別面談を最優先して業務を遂行する方針としたい。

3) 保護者説明会

保護者の就職に対する関心は年々高まっており、そうした期待に応えるための行事として、大学3年生ならびに短大1年生の保護者を対象とした就職説明会を開催する。

4) キャリア面談

全学生を対象に入学前における学習等についての目標設定から、卒業後の進路・就職決定までの一貫した学生生活支援・キャリア支援を目指して実施する。なお、テーマを学年毎に設定する。

これまで「キャリアカウンセリング」と称して学生個人の情報は守秘義務を原則としてきたが、平成26年度より「キャリア面談」と改称した。これにより面談の内容は進路相談の一環として取扱い、一定の情報をゼミ担当など大学関係者が共有し、学生支援を目的として実施する位置付けとした。

(2) 現状の説明<D>

1) 主に大学2～3年生、短大1年生の就職活動準備支援

①就職活動準備を目的としたガイダンスの運営

【総合経営学部】 【人間健康学部】

- ・ガイダンスの中で就職活動の基本的な流れや方法論を全国の採用状況に鑑み、一貫性を持って伝えると同時に、自ら主体的に「職」を獲得していく力を養う必要があることを訴えた。
- ・座学と演習のバランスを配慮した構成を維持しつつ、全ての学部学科に対して統一した説明、情報配布となるように徹底した。
- ・就職活動中の上級学年の状況を定期的に伝えることで、本学の動向、実績企業への興味を持たせる工夫を行った

- ・人間健康学部3年生前期の「キャリアデザインⅡ」を通して職業観や進路ならびに就職試験対策の大切さを意識付けることにより、後期の「就職支援ガイダンス」への全員の出席を促した。

【松商短期大学部】

1年生後期「キャリア・クリエイトⅡ」及び「キャリア・スタンダードⅡ」を学科別2クラスに分けて実施した。2年生後期「キャリア・クリエイトⅣ」では、社会人を目としたマナーや心構え、社会保険に対する知識の習得、求人情報の提供などを行った。また最終回では、この時点で進路未決定者学生に対する個別のヒアリングを行った。

②各種講座の企画・運営

【夏季就職合宿】

大学3年生対象とし、夏季休業期間中に1泊2日の合宿を計2回実施した。

コース・日程	総経	観光	栄養	スポーツ	計
9/4～9/5 長野市	15名	8名	21名	13名	57名
9/9～9/10 茅野市	17名	10名	19名	15名	61名

【就職対策講座】

〈12月就職対策集中セミナー〉 年末年始休業期間に入る前に、大学3年生を対象とした「1日コース」の集中セミナーを実施した。

日程	総経	観光	栄養	スポーツ	計
12/24 (水)	21名	7名	5名	13名	46名
12/25 (木)	17名	13名	7名	7名	44名

〈2月就職活動直前対策集中セミナー〉 就職活動開始直前に、大学3年生を対象とした「1日コース」の集中セミナーを実施した。

日程	総経	観光	栄養	スポーツ	計
2/26 (木)	1名	7名	6名	4名	18名
2/27 (金)	6名	8名	7名	2名	23名

【インターンシップ】

就業体験を通じて将来の仕事やキャリアについて考え、今後の学生生活における目的意識を明確にすることを目的に、大学では3年生対象に夏季、短大は1年生対象に秋季に実施した。

	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計
夏季 (大学部3年)	12名	9名	11名	9名			41名
秋季 (短大部1年)					6名	3名	9名

【業界研究勉強会】

昨年度は学内教職員が交替で講師を担当したが、今年度は下記の業種について企業の人事担当者を講師にお招きして開催した。

日程	企業名	参加人数
①12/4 職種研究会	(株)マイナビ	124名
②12/9 サービス業 (1回目)	(株)アドヴァンスト・インフォメーション・デザイン/三夢(株)	104名
③12/11 小売業 (1回目)	(株)ツルヤ/(株)和田正通信サービス	89名
④12/16 医療福祉業	医療法人研成会 諏訪湖畔病院 社会福祉法人 平成会	117名

⑤12/17 建設業	セキスイハイム信越(株) (株)土木管理総合試験所	82名
⑥12/18 製造業	(株)イースタン/ (株)デイリーはやしや	101名
⑦1/8 金融業	キャリアセンター 顧問 田中 紀夫	46名
⑧1/13 卸売業	昭和電機産業(株) / (株)マルニシ	57名
⑨1/14 サービス業(2回目)	(株)チンタイバンク/ 信州名鉄運輸(株)	64名
⑩1/15 小売業(2回目)	(株)モリキ/トヨタカローラ南信(株)	111名
⑪1/20 合同企業説明会案内	(株)マイナビ	41名
⑫1/21 合同企業説明会案内	キャリアセンター	69名
のべ計		1,005名

2) 大学4年生、短大2年生の就職活動支援

①求人情報の公開と説明会

大学・短大宛に届いた新着求人票とハローワークの新卒求人情報をまとめた一覧表「今週の求人情報」を、4/10～3/19にかけてのべ48回発行した。学生に配布したほか教員へメール配信し、求人情報の共有化を図った。

また「今週の求人情報」発行にあわせて毎週木曜日のお昼休みに、求人情報説明会を開催した。例年と同じく、出席者は少数で学生が固定化する傾向であった。また固定的に毎回出席していた学生の内定後は、ほとんど出席する学生はいなかった。

②合同企業説明会への学生参加促進

【学内合同企業説明会】

大学4年生及び短大2年生を対象とした説明会を6月に1回開催した。また、大学3年生および短大1年生を対象とした説明会を3月(進級直前月)に1回開催し、合計2回の開催となった。なお、平成26年度は、就職・採用活動開始時期の変更に伴い、2月以前に大学3年生および短大1年生対象の説明会は計画しないこととした。

日程	参加企業数	参加学生数
6/14(金)	企業44社、相談3	学生197名(総経42、人間19、短大136)
3/6(金)	企業75社	学生467名(総経149、人間145、短大173、不明1)

【学外合同企業説明会】

事前の計画に基き、次の通り大学からバスを運行した。

○3/8(日)：東京ビックサイト(マイナビ主催)68名参加

○3/27(金)：長野ビックハット(マイナビ主催)111名参加

③学内単独企業説明会

求人企業と学生をマッチングさせることを目的に、企業人事担当者に来学頂き、学内での単独企業説明会を開催した。今年度は計54回開催し、計552名が参加し56名が内定に至った。

④就職活動支援・個別相談

○面接練習：256名(総合経営：57名、人間健康：46名、短大部：153名)

○履歴書・エントリーシートの添削：84名

○窓口相談・個別相談：370名

○進路未決定者を対象に聞き取り調査(個別面談)：91名(10月～1月を中心に就職未内定の学生を対象に個別面談を行った)

3) 保護者説明会

次年度に就職活動を控えた学生の保護者向けに、次の通り就職説明会を開催した。

日 程	対象保護者	参加人数
5/31 (土) 13 時～	大学部 3 年生 (全体説明、個別面談)	113 名
11/29 (土) 13 時～	短大部 1 年生 (全体説明、個別面談)	90 名

4) キャリア面談

学年毎にテーマを設定し、全学生を対象に下記日程にて実施した。

実施日	対象	テーマ
H26/5/17, 5/18, 5/24, 6/1, 6/7, 6/8[6 日間]	総合経営学部 2 年生 人間健康学部 2 年生	大学生生活 1 年半の振り返りと将来の進路を意識し、学生生活を充実させるための意識づけ
H26/8/1～8/6 [6 日間]	短期大学部 2 年生、学部 4 年生の進路未決定者	進路未決定者について、個々の課題の明確化と解決策の検討、相談対応
H27/2/2～2/10 [9 日間]	総合経営学部 3 年生 人間健康学部 3 年生 短期大学部 1 年生	現実的な就職活動スタートに向けての意識づけと、疑問解消
H27/2/28, 3/1 3/7～3/12, 3/29, 3/30 [10 日間]	入学予定者 (第 1 クール) 入学予定者 (第 2 クール)	入学前の不安解消 大学生生活に向けての期待や前向きな目的意識の醸成ならびに入学者一人ひとりの状況把握

参加状況は下記の通りである。

【総合経営学部】

学年	対象者数	出席者数	参加率
2 年	180 名	179 名	99.4%
3 年 (留年予定 4 年生含む)	193 名	184 名	95.3%
4 年 (進路未決定者)	94 名	59 名	62.8%
入学予定者	183 名	181 名	98.9%

【人間健康学部】

学年	対象者数	出席者数	参加率
2 年	189 名	184 名	97.4%
3 年 (留年予定 4 年生含む)	185 名	182 名	98.4%
4 年 (進路未決定者)	102 名	85 名	83.3%
入学予定者	199 名	193 名	97.0%

【松商短期大学部】

学年	対象者数	出席者数	参加率
1 年	203 名	202 名	99.5%
2 年 (進路未決定者)	136 名	123 名	90.4%
入学予定者	180 名	179 名	99.4%

(3) 点検・評価の結果<C>

1) 大学2～3年生、短大1年生の就職活動準備支援

①就職活動準備を目的としたガイダンスの運営

【総合経営学部】 【人間健康学部】

これまで企業研究の浅さや企業を知る機会が少ないために、就職活動に主体的に臨むことができない層の学生がいることを考慮し、今年度初めてガイダンスの中に複数の企業様から企業概要、インターンシップ等の紹介を頂く「企業研究会」を実施し、放課後に希望制により開催した業界研究勉強会への参加誘導につなげた。次年度も実践的なプログラムとして取り入れたい。

【松商短期大学部】

短大入学後、半年あまりで始まる就職支援の中で、いかに早期から「働くこと」「職業観」への意識を高めかについて、その重要性を常に伝えた。また、自己分析講座等、ワーク型の講義を実施することで自分の適性を見極め、自分を知ることの重要性を説いた。

②各種講座の企画・運営

【夏季就職合宿】 【就職対策講座】

夏季就職合宿、就職対策講座を通して、学生の就職活動に対する意識を向上させることができた。特に夏季就職合宿においては企業の人事担当者による面接練習により、学生の就職活動に対する意識が向上しただけではなく、人事担当者に本学学生の前向きなイメージを持っていただくと共に、学生の傾向を認識する機会を提供する場にもなった。また、数多くの先輩学生からのアドバイスも有益な情報となった。

【インターンシップ】

インターンシップにおける就業体験の機会を提供することで、学生にとっては社会や仕事を知る良い機会となった。また、学校と企業との連携、企業が本学学生を知る機会にもなった。学生が様々な業種・職種での実施希望が増えているため、受入企業の開拓が急務となっており、今後の課題である。

【業界研究勉強会】

以前は金融業のみの勉強会だったが、昨年度は業種・業界の幅を広げ、教職員による6業界ならびに職種勉強会を計7回実施した。今年度はさらに内容を充実させ、7業界ならびに職種研究会、合同企業説明会参加方法を加え、計12回の開催とした。また、業界研究は1回につき2社の人事担当者から説明を頂くことで、幅広く深い内容を学生に提供することができた。また、企業の方と直接触れ合う機会を設けることで、職業観を養い企業への興味・関心を抱かせることにも繋げることができた。12月から1月にかけて、5時限目を利用して開催した。

2) 大学4年生、短大2年生の就職活動支援

①求人情報の公開と説明会

「求人情報説明会」を毎週木曜日に開催することによって、情報提供の習慣化を図った。また、求人を一覧に纏めゼミ担当教員にメール配信することで求人情報の共有化を図り、ゼミ担当教員と連携して学生支援を行うことができた。問題点として、説明会に参加する学生は少数かつ固定化する傾向であること、説明会のために職員1名がキャリアセンターを離れることから、昼休み中の窓口対応が手薄になる点などが挙げられる。

②合同企業説明会への学生参加促進

6月開催の学内合同企業説明会は例年より約1ヶ月前倒したことで、館内の空調環境を過ごしやすくすることができ、学生ならびに参加企業担当者も集中して説明会に臨むことができた。

また3月の開催は春季休業期間であったため参加人数が心配されたが、就職活動解禁後間もなくの開催ということもあり、多くの学生が参加した。出展企業数が過去最大となり、第1体育館と513教室の2会場で開催する初めての試みとなった。なお第1体育館を一般企業、513教室を市役所など公的機関の会場とした。

③学内単独企業説明会

平成26年度は計54回開催し、のべ552名が参加した結果56名が内定に至った。学内説明会は学生にとって比較的参加しやすいこともあり、内定者数の確保に繋げることができた。他の企業からも説明会開催の要望を受けているが、参加人数の確保が難しいことが予想される場合は予め辞退をお願いしている。

④就職活動支援・個別相談

【総合経営学部】

平成26年度の内定状況は、前半の内定数の伸び率が高く、複数内定を獲得する学生が続出するほど好調であったが、秋以降は伸び悩んだ。しかし卒業時期までには進路決定学生が積み重なり、内定率は例年並を維持することができた。月1回ゼミ担当教員から学生の活動状況について報告があり、キャリアセンター職員と共有することによって未活動者をはじめとする学生個々のサポートに繋がった。また、聞き取り調査として未活動者や未内定者に対して、就職委員およびキャリアセンタースタッフとの個別面談を実施することにより、具体的な就職活動に結びつけることができた。

【人間健康学部】

平成26年度の内定状況は前期から内定数が伸びた。特に健康栄養学科は前期に多くの内定を獲得し、後期は少数の就職活動支援に留まった。スポーツ健康学科においては教職志望者1名を除き、希望者全員が内定を獲得することに繋がられた。例年、秋口から就職活動を始める学生が多い傾向だったが、今年度は早い段階から動き出す学生が目立ったことが特徴的だった。

今年度から総合経営学部同様に、ゼミ担当教員からの活動状況についての情報提供が開始され、キャリアセンター職員との情報共有により未活動者をはじめとする学生個々のサポートに繋がった。また、10月以降にはゼミ毎に時間を設定し、キャリアセンタースタッフがゼミを訪問して進路未決定学生と直接個別面談を行い、求人情報の提供等具体的な活動の支援に結びつけることができた。

【松商短期大学部】

1年後期から2年前期・後期に至るまでキャリア・就職関連ガイダンスを実施しており、2年次においてはマナー、試験対策、求人情報など就職活動に直結した情報を提供していることがより多くの内定に繋がったと考えられ、結果的に高い内定率を達成することができた。

また、各週に実施される就職委員会を通して、学生の活動状況を把握できたことも学生個々の支援に繋がった。

3) 保護者説明会

大学においては後援会総会と同一日程で開催しており、保護者にとって比較的参加しやすい機会となっている。説明会のプログラムは全体会ならびに個別相談会のほか、個別相談会の待ち時間にマツナビ協力のもと施設見学を含めた。

短大部では昨年度から、現2年生の体験報告会をプログラムに含めている。普段では聞くことのできない子供の立場からの本音に触れることができ、保護者から「参考になった」「親子の話

し合いに活かしたい」などの感想が多く寄せられた。

4) キャリア面談

進路決定に結びつけることもキャリア面談の目的のひとつだが、毎年自己を振り返る機会とし、休退学を未然に防ぐためにも、面談の意図を理解して参加することを学生に伝えていきたい。

今年度は新たなキャリア面談員を迎えたことから、本学の教育理念や内容の理解を深めるため業務説明会を実施したほか、研修会を2回実施した。さらに2学年分を対象としたキャリア面談に関するアンケートを実施し、学生にとってのキャリア面談事業の必要性を再確認した。この他、キャリア面談による就職活動支援を促進するため、8月の進路未決定者対象のキャリア面談においては、面談員とキャリアセンタースタッフが連携を図った。具体的には面談後にキャリアセンタースタッフから求人情報等を提案することで就職活動に結び付ける工夫を行い、夏休み期間中の活動を活性化させる効果をあげることができた。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

1) 大学2～3年生、短大1年生の就職活動準備支援

①就職活動準備を目的としたガイダンスの運営

【総合経営学部】 【人間健康学部】

就職活動経験者である先輩学生の言葉や支援による影響が大きいことが各種就職活動準備支援に関わる企画を通じて読み取れたことから、次年度は通常のガイダンスにおける4年生の協力体制作りを強化したい。ただし、就職活動時期の変更によって内定時期が後ろ倒しとなった場合、内定した4年生の協力が難しくなることが懸念される。

【松商短期大学部】

どうしても「受身型」のガイダンスに偏ってしまいがちなので、自ら実践する「能動型」のガイダンスをもっと取り入れる工夫をしたい。集団面接講座においては、プレゼンテーションを経験できる貴重な機会となっているので、欠席者を抑制する工夫とこれに向けた準備の徹底を図っていきたい。

なかなか就職活動へと踏み切れない学生に対して、更なる個々への対応の強化を図りたい。

②各種講座の企画・運営

【夏季就職合宿】

夏季就職合宿への参加希望者は多いが、12月・2月の就職対策講座は参加希望者が少ないため、参加者を分散させる工夫が必要である。特に2月のプログラムに参加して欲しい学生層（支援が必要と思われる学生）を取り込みきれていないことから、ゼミ担当教員との連携によってより多くの学生の参加に繋げることが望まれる。

【就職対策講座】

集団面接については、同一志望業種の学生のみを対象として実施することを検討したい。また、採用試験の初期段階で実施する企業が多いことから、就職活動開始前の企画を検討したい。

一方で、就職活動期間中の対策講座として「リスタート講座」を企画したところ参加申込状況が振るわなかったため、見直しを検討したい。

【インターンシップ】

インターンシップは各大学が独自に企画する形式のほか、就職サイトを活用したオープン形式の企画や、各種公的機関が公募する形式など様々な方法や目的が混在している状況である。

今年度は上記のいずれの形式に対しても支援することとした。来年度に向けて、本学独自に企業開拓をした上での企業リストを拡充し、学生の選択肢を拡げていきたい。また、インターシップを通して本学と企業との関係構築を図りたい。

【業界研究勉強会】

今年度は企業の人事担当者に講師をご担当頂く計画が実現できたほか、実施回数を増やし内容の充実を図ったことから、参加学生数は昨年度と比較して倍となる 1005 名に至る結果となった。具体的には、フードサービスや情報サービスなど仕事の内容が外部からでは分かりにくい業種の理解に繋がったケースもあった。就職活動開始前から緊張感のある勉強会を提供でき、職業観や志望意欲の向上に繋げることが出来たと思われる。

2) 大学4年生、短大2年生の就職活動支援

①求人情報の公開と説明会

毎週発行している「今週の求人情報」は次年度も引き続き発行する。一方でその存在を知らない学生が毎年いることから、周知徹底を図りたい。求人情報説明会の参加人数が少ない点については、学生のニーズと合致していない点が大きな要因と考えられる。つまり4年生は授業が少なく登校日も一律でないにも関わらず、求人説明会として週1回に日時を定めている点に無理があると考えられるため、そのあり方を見直していきたい。

②合同企業説明会への学生参加促進

例年、大切なポイントとなる合同企業説明会の日程を把握していなかったことから、貴重な機会を逃す学生が少なくないため、学内外に関わらず合同企業説明会の周知徹底を図りたい。また、参加企業一覧を事前に検索しにくい場合があることから、キャリアセンター内に参加企業一覧を設置して、学生の参加促進を図りたい。

県外開催（主に首都圏）の合同企業説明会への参加支援は、都市部の学生の行動を目の当たりにすることで本学の学生が刺激を受けることを期待し、早めの活動を促すためにも次年度以降も計画したい。また、長野県内最大規模となる就職活動解禁直後の合同企業説明会へも、バス運行によって就職活動の活発化に繋がりたい。今年度は短大の学内行事と重複してしまったことから、より適切な日程調整を図りたい。

③学内単独企業説明会

説明会の回数は十分であるが、各回の参加者数がいまひとつ伸び悩んでいる。まずは各説明会について掲示やメール等を通じて周知徹底を図ると共に、学生が知らない企業に関心を持たせるための工夫や対策を検討していきたい。

④就職活動支援・個別相談

【総合経営学部】

4年生においては、就職ガイダンス等就職活動を支援するプログラムが少ないため、就職活動が停滞しないようゼミ担当教員との連携を密にし、定期的な状況の確認・支援を行っていくことが課題である。また、これまで後期に実施していた聞き取り調査（個別面談）を前期中に実施することにより、未活動者の早期支援を図りたい。

【人間健康学部】

平成27年度は6期生の就職活動年度となる。管理栄養士や健康運動指導士といった求人は非常に狭き門ではあるため、こだわりを持った就職活動をする学生への準備、支援の強化とゼミ担当との連携強化を行う。学科特性はあるものの、有資格者向けの求人に限らず、幅広い業界に目を向けた就職活動も考慮する必要性を発信していきたい。

また、総合経営学部同様、4年生においては、就職ガイダンス等就職活動を支援するプログラ

ムが極端に少ないため、就職活動が停滞しないようゼミ担当教員との連携を密にし、定期的な状況の確認・支援を行っていくことが課題である。

【松商短期大学部】

学生の将来や就職に対する意識、また希望就職先の多様化に伴い、様々なニーズを持つ学生がさらに増えている。それらの学生に対して、早期から「働く」ことへの意識を高め、「個」への対応の充実やゼミ担当教員との連携を通じて、学生の更なる意識改革と学生支援の充実を図っていききたい。

3) 保護者説明会

例年説明会後に回収しているアンケートをもとに、保護者にとってより理解しやすい説明内容となるよう工夫を重ねていきたい。特に就職活動スケジュールの変化に伴う全国的な状況や、本学の支援体制を理解頂くと共に、保護者の協力が重要である点についても触れていきたい。また、県外等遠方の保護者に対する適切な説明を行うためにも、県外学生の支援内容を改めて検討していきたい。

4) キャリア面談

各回のキャリア面談について、学生自身が面談の意義や目的をしっかりと理解できるよう、事前のガイダンスを徹底したい。また、学生の無断欠席を極力抑え、面談日程が無駄なく有効な機会となるよう努めたい。次年度に向けた課題として、キャリア面談で得た学生の情報や記録について、ゼミナール担当や各部署が有効活用できる情報源として円滑に提供できる環境を整え、連絡方法も併せて検討したい。

＜執筆担当／キャリアセンター 係長 中村 高士＞

4. 情報センター

(1) 年度当初の予定＜P＞

情報センターの主な業務は、下記のとおりとなっている。

1) 教育・研究の支援

パソコン教室の整備、コンピュータ関連科目の環境整備、学生向けオリエンテーションの実施、学生アシスタントの手配、資格取得支援管理

2) 情報機器の維持管理

ネットワークおよびサーバー類の維持管理、教職員パソコンの管理、貸し出しノートパソコンの管理、

3) その他

外部講習会の実施（シニア大学 PC 講座他）

○平成 26 年度当初に計画された情報センターの新規事業は下記のとおりである

1) 学術・研究の支援

- ① パソコン教室の整備（311、212PC 教室の機器の入替、ソフトのバージョンアップ、ネットワーク配線の全面入替
- ② 情報機器の拡充（貸し出しノートパソコンの新規購入、プロジェクター整備）
- ③ 短期大学部高大連携用ノート PC 設定（100 台）
- ④ Web メール環境の構築（学生）

2) 情報機器の維持管理

- ① サーバー機器のデータセンターへの移行
- ② Web メールの変更 (office365)
- ③ 学務システムソフトのカスタマイズ
- ④ 自動発券機ソフトのカスタマイズ
- ⑤ 資格取得支援 (公務員試験全学年実施計画)
- ⑥ I0 ゲート (ネットワークプリンターシステム) リプレース計画

(2) 計画の実施・現状説明<D>

通常事業および新規事業は、ほぼ計画のとおり実施された。当初の計画、予算執行において計画の変更のあったものについて以下に記述しておく。

- ① PC 教室の機材入替は、入札を実施した結果大幅に予算の削減ができた。
- ② I0 ゲート (ネットワークプリンターシステム) リプレースを予定していたが、システム開発に時間がかかり、次年度へ繰越とした。
- ③ Web メール環境構築により、学生すべてが office365 を利用できるようになった。
- ④ 短期大学の講義において使用するモバイル PC の普及が促進できなかった。

(3) 点検・評価の結果<C>

平成 26 年度、特に大きな事業として、サーバー機器等のデータセンターへの移行を行ってきた。現在、情報センター内にあるサーバーは、災害・セキュリティー等に対する脆弱性が指摘されており、危機管理の面からもデータセンターへ移設し、専門家の監視の元で効率よく運用できるよう計画を進めている。データセンター移行による経費については、毎月通信費として支払っている額、電気・空調にかかる経費、トラブル対応に費やす人件費等で賄える額となっており、軌道に乗れば安全面、経費面ともに安定した運用ができる計画で、平成 28 年度までの 3 年計画で完成を目指している。

また、学内で学生が使用するパソコンや貸し代用のノートパソコンについて、情報センターが今まで以上に積極的に関わり利便性をあげることにした点について、PC 教室の入替で搬出された PC を有効活用し 40 台程度の機器の入替を行った。

(4) 次年度への改善・改革に向けた方策<A>

平成 27 年度は、下記の新規事業を予定しており、予算申請を行っている。しかし、情報機器の発達と、学生や教員から求められるものの変化が早く、立場によって様々である。そのため、いずれの事業においても委員会でも再度検討し、必要性をきちんと議論したうえで実施することとする。

機器の管理・整備については、例えばサーバー機器など、不調をきたす前に入替を行うため、順次入れ替えた場合の予算計画を中・長期的に構築する。

1) 学術研究・教育の支援

- ① パソコン教室の整備 (311・312 パソコンリプレース、ソフトウェアのバージョンアップ)
- ② 教職員用パソコンの定期購入、研究室プリンタの入替

2) 情報機器の維持・管理

- ① サーバー機器等のデータセンターへの移行
- ② ネットワーク整備
- ③ 学生用ロケーションプリンターの入替
- ④ 学務システムのカスタマイズ

＜執筆担当／情報センター課長 松尾 淳彦＞

IV. 入試・広報室

入試広報室は入試委員会と広報委員会の事務部門を担当した。前者は学生募集に係る広報活動と入試業務、後者は大学広報業務を行っている。

人員構成は入試広報室長他、専任職員3名、派遣職員1名、嘱託職員1名、パート職員1名（期の途中から）の6名体制で活動した。

入試業務及び学生募集、募集広報において①専任職員は学生募集活動全般にわたり高校訪問、説明会及び相談会参加、オープンキャンパスの企画・運営及び授業公開、大学見学の受け入れについて主体となって活動した。また学生募集のための広告媒体計画、オープンキャンパススケジュール作成、入試計画及び業務全般に関わった。②派遣職員は主に学生募集用広告媒体デザイン及び各イベント等で使用するサインのデザイン及び制作、パンフレット（大学案内、短大ナビゲーション他）や大学広報誌「蒼穹」のディレクション及び編集を主に担当した。③嘱託職員は各種学生募集営業補助業務（オープンキャンパス、高校訪問等における各種ツール等の準備や来場者データ管理、アンケート集計管理）、高校生個人情報データの整理及び管理、各種メディアに掲載された記事の収集・整理・保管、出前授業等の報告書管理、入試事務処理等の学内業務を主として行った。

1. 学生募集活動

(1) 平成25年度学生募集活動を受けての計画<P>

長野県短期大学の4年制化、長野県内私立大学の公立化、大原学園松本校の平成27年4月開校、北陸新幹線金沢延伸等の影響で本学を取り巻く環境は年々厳しい状況になっているため、学部ごとの戦略を明確にして積極的な募集広報活動を行う。

①総合経営学部

各学科の特長を出した魅力ある施策を打ち出す。総合経営学科は信州大学の併願校と位置付けられるように質のアップをはかる。観光ホスピタリティ学科においては資格や検定など女子高校生が興味を持つ内容を訴求する。また、公務員試験対策講座の導入や、地元企業への就職内定率の高さなどを積極的にアピールする。

定員確保のためには、先ず推薦入試及びA0入試により予定人数を確保することが重要と考え、取り組む。

②人間健康学部

健康栄養学科は質の確保とともに、二年連続の定員割れを避けるために指定校推薦入試やA0入試で予定の学生を確保できるように志願者増をはかる。

スポーツ健康学科は年々志願者は増加傾向にあるもののレベルの差がある。これを解消するた

めにも、運動指導分野や公立学校の保健体育教諭として活躍している卒業生などを紹介し、質のアップをはかる。

③松商短期大学部

平成 27 年 4 月の大原学園松本駅前校開校に伴い、大きな影響が予想されるため志願者の早期囲い込みをはかる。特に入学者の多い中信エリア、南信エリアの高校には積極的な募集活動を展開する。多彩なフィールドと資格・検定の取得、就職率の高さのアピールや、資格取得だけでなく短大で身に付く社会性・人間力が重要なことを説明し、専門学校との差別化をはかる。

④学生募集活動全体

オープンキャンパスの日程や内容も高等学校のスケジュールに合わせて日程調整する。また、各学部学科においても高大連携や出前授業等、間接的な募集広報活動も積極的に受け付ける。

⑤編入学生増加対策

総合経営学部両学科について松商短期大学部からの編入学者増をはかる。人間健康学部両学科についても積極的な PR 活動が必要であり、具体的な募集活動計画やシステムを構築する。

(2) 主な活動とその結果<D>

年度当初に計画された年間スケジュールに基づき実施した。年度途中から方針を変更し、広報エリアを長野県内と、隣接県である新潟県、山梨県に絞った。

1) オープンキャンパスの企画・運営

オープンキャンパスは広報活動の中で、極めて重要で且つ有効なイベントと位置付けている。今年度は参加者増を図るために、基本的に高校の行事や授業などが多い土曜日から日曜日の開催へ変更して、計 7 回実施した。そのうち 4 月 13 日（日）は大原学園対策もあり「松商短大 17 フィールド体験ツアー」として短期大学のみで開催し、さらに 6 月、8 月においても短期大学部は「一日体験入学」として実施した。開催ごとに核となる講座等を企画し、参加を促進した。また、専門学校の早期からの囲い込みの対策として、春のオープンキャンパスも実施した。

参加高校生の累計は 1,625 名（授業公開含まず昨年度 1,805 名）、前年比約 10%減。総合経営学科の参加者累計は 211 名（前年 278 名）、3 年生素数は 111 名（前年 129 名）、観光ホスピタリティ学科 132 名（前年 164 名）、3 年生素数は 97 名（前年 90 名）、健康栄養学科の参加者累計は 299 名（前年 299 名）と同数、3 年生素数は 128 名（前年 107 名）、スポーツ健康学科累計は 291 名（前年 350 名）、3 年生素数は 156 名（前年 153 名）であった。松商短期大学部の参加者累計は 462 名（前年 509 名）、3 年生素数は 238 名（前年 253 名）であった。

結果として資料請求が増えているにもかかわらずオープンキャンパスへの参加が増えていないのが現状である。

2) 高校生のための公開授業

今年度から、前期・後期にある祝日の授業日（7 月 21 日、10 月 13 日）に、通常の授業を高校生に公開し、本学の学びの内容や授業の雰囲気などを理解してもらおう機会とした。これに併せて、ランチ無料体験、個別相談も受け付けた。

3) 入試相談会

入試相談会日を設定し、入試、学費、奨学金などについての質問を受け付けた。

第1回：10月18日（土）※梓乃森祭（大学祭）と同時開催（参加者：26名）

第2回：11月22日（土）（参加者：6名）

第3回：平成26年1月22日（木）・23日（金）（参加者2日間：5名）

4) 保護者相談会

高校生の保護者を対象とした進学相談会を開催した。

5月25日（土）松本会場 会場：本学／参加者：29名

5月26日（日）長野会場 会場：長野朝日放送本社会議室／参加者：3組

告知や時期の問題か、全体を通して参加者が伸びなかった。オープンキャンパスの回数を増やして保護者説明会の実施や相談を受け付けているので、今後の継続について検討する必要がある。

5) 高校教員対象の学生募集説明会

高等学校の教員を対象に学生募集説明会を実施し、本学の学びや昨年度入試の結果、今年度入試の説明等を行い、本学への理解を深めた。

6月5日（木）長野会場（会場：トイゴ／参加高校11校・参加教員11名）

6月6日（金）松本会場（会場：本学／参加校20校：参加教員23名）

6) 高校訪問

年間を通じておおよそ下記の目的で長野県内高校を中心に訪問した。

- ・4月、5月／卒業生の就職状況、在学生の状況報告、一般入試、センター利用入試等の入学試験の結果報告、今年度のオープンキャンパスのポスター・チラシの配布、他大学への進学状況などの確認等。
- ・6月中旬／指定校推薦の依頼、今年度の大学案内パンフレットを配布、夏休み前段階の進路希望調査の状況も把握
- ・9月後半から10月／指定校及び公募推薦での志願者数確認
- ・2月から3月上旬／「春のキャンパス見学会」案内（近隣地域の高校中心に訪問）

近年、高等学校での進路相談会、会場での相談会等の回数が増えたことや、様々な行事等が重なり定期的な訪問が難しくなっている。

7) 高校での説明会・相談会

進業者主催、高等学校主催での高等学校での説明会（系統別、個別相談、模擬面接、進路講演会等）には長野県下はもちろん、山梨県、新潟県、静岡県、石川県、富山県など隣接県へ167回と積極的に参加し、4,245名の高校生と面談した。

ただし、業者主催の模擬面接については本学の募集広報には結びつきにくいいため、本学募集対象となる重点高校への参加のみに留めた。

9) 進学説明会・ガイダンス・相談会

業者主催の一般会場での説明会は、長野県を中心に山梨県、新潟県、静岡県、石川県、富山県等全115回（昨年度とほぼ同）参加し、述べ729名（前年793名）の高校生と面談した。沖縄県での会場相談会にも積極的に参加をした。

11) 高校での出前授業、模擬講義（高等学校主催、業者主催）

高校での出前授業は年間58回、長野県を主体に一部山梨県、新潟県でも実施した。また、高大

連携による模擬講義は50回、オープンキャンパス（ミニ講義、体験講座含む）や大学見学における模擬講義は113回実施した。

これらの高等学校の出前講座、模擬講義は本学での学びを高校生に理解してもらう良い機会となるため、講座内容などの情報や申込み用紙をホームページに掲載し告知をはかった。

12) 高校生の大学見学（高校主催、業者主催）、一般の大学見学

高校生対象の大学見学は、年間32回（延べ1,405名の高校生と引率の教員受け入れ）で積極的に受け入れた。毎回、大学・短期大学の概要説明と進路講話、キャリア講話、学内施設見学（マツナビが案内）を実施した。

また一般の方や教員、PTA等からの見学も受け入れ、丁寧に対応した。

13) 進路講演会（進路講演・キャリア講演）

高等学校や中学校からの依頼による進路講演会も年間10回実施した。内容はキャリア教育、進学の意味や目的が中心であり、直接的な学生募集にはつながらないものの高校生や高校教員への影響は大きく、他大学ではできない広報活動の一つとして今後も積極的に行ってみたい。

8) 松商学園高校からの進学者増加策（「特別連携授業」の実施と入学金全学免除）

全学においてベースとなる学生確保のための策として、入試委員会及び松商学園総合企画部の承認を受け、早い段階で松商学園高等学校からの進学志望者へ学部ごとの特別連携授業（全22回）を行うことにより本学志願を決定づけ、松商学園高等学校からの進学者増をはかった。

また、同時に松商学園高等学校から本学入学者については入学金全学免除することを決め、これまで以上の入学者増を図った。

昨年度まで（過去3年の平均）の入学者数58名に対し、平成27年4月入学者数100名（総合経営学科20名、観光ホスピタリティ学科16名、健康栄養学科8名、スポーツ健康学科16名、松商短大40名）を目標として取り組んだ結果、入学者88名（総合経営学科24名、観光ホスピタリティ学科17名、健康栄養学科7名、スポーツ健康学科10名、松商短期大学30名）であり、目標は達成できなかったものの、一定の成果はあった。

14) マツナビの育成

学生募集に関わる広報活動（オープンキャンパス、高校生及び保護者の大学見学、高校教員の大学見学他）において入試広報室を支援する学生自治組織マツナビの力は大きく、さらに活躍してもらえるように育成を行った。

マツナビ学生の新入生の登録については、入試広報室職員とマツナビ役員とで面接し、志望理由を確認した上で登録した。登録の学生は学部・学科の知識や説明能力、マナー、コミュニケーションスキル等を身に付けるべく年間9回の研修・勉強会を実施した。12月、1月にはEQ研修と個々へのフィードバックを、2月にはディズニー研修を2年ぶりに実施し、ホスピタリティマインドや接遇スキル、コミュニケーションについて学んだ。こうした研修や活動の経験により、学生も大きな成長の場となっている。

また、マツナビでの活動を松本大学・松商短大志望理由の一つとした新入生もおり、学生募集にもつながっている。

15) 学生募集用ツールの制作

学生募集のためのさまざまなツールを制作した。

①2015年度版大学案内パンフレット

②2015年度版短大ナビゲーション

短大の内容を分かりやすく且つ詳細に示したパンフレット

③保護者・高校教員向けパンフレット

④大学・短期大学学費免除制度チラシ

⑤各種イベント案内広報物（オープンキャンパス案内チラシ及びポスター・オープンキャンパス電車中吊りポスター・オープンキャンパス駅貼りポスター・オープンキャンパス及び入試相談会告知DM（各回ハガキ）・公開クリニック 2014年版チラシ）

⑥募集要項（大学募集要項 2015版・松商短大募集要項 2015版・大学院募集要項 2015版・大学A0入試募集要項 2015版・松商短期大学募集要項 2015版・編入学募集要項 2015版・大学帰国生・留学生・社会人募集要項・短大帰国生・留学生募集要項）

16) 媒体等による募集広報活動

今年度途中から方針を変更し学生募集媒体の見直しを行い、大手学生募集媒体について全国や広範囲エリア対象の大手学生募集媒体は一部を残し契約を打ち切った。この予算は県内のテレビ媒体での展開に使用し、長野県内での広報に力を入れた。

①進学情報誌・他雑誌広告

25回掲載

②電波媒体（テレビCM）

・イメージCM/レギュラー：長野放送『めざましTV』（～9月）長野朝日放送にて『アメトーク』『グッド！モーニング』（9月～）

・キャンパス見学会告知スポーツCM/（6月～9月：長野放送・信越放送・テレビ信州・長野朝日放送・テレビ新潟・山梨放送にて随時放送）

・一般入試、センター入試志願者増を目的としたスポーツCM/約1ヵ月間、長野県、山梨県、新潟県で実施

③新聞・雑誌を利用した広報

地元新聞・雑誌を中心に長野県内、新潟県、山梨県、沖縄県で実施した。直接的なオープンキャンパス告知、学生募集案内だけでなく、協賛広告も実施し大学のイメージアップをはかった。（全34回）

特に、長野県立大学及び県内私立大学の公立化、北陸新幹線金沢延伸による北陸地域からの学生募集の激化に対応するため、長野県内における学生募集のための3回シリーズの信濃毎日新聞1ページ広告を計画し、11月、1月の2回掲載した（残り1回は平成27年度4月掲載）。県内進学の優位性、本学の長野県で活躍できる人材の育成を訴求する内容で、タイトルを「長野県を愛する理由」として実施した。

④Web媒体

昨年度立ち上げた、本学入試広報室独自の「LINE」（ライン）を活用し、イベントや入試情報発信した。登録者は高校生を中心に今年度3月末までで1600人を超え、昨年の2倍以上に拡大した。

その他、進学媒体による Web には 7 件掲載した。

17) 看板広告・交通広告

昨年度から継続し 6 カ所の看板広告を実施した。また、オープンキャンパス告知を目的に、JR、長野電鉄、松本電鉄での電車中吊り広告の実施、および JR の駅にポスターを掲示した。

18) イベントの実施

10 回目を迎え恒例となっている高校生を対象とした吹奏楽の『松本大学ミニコンサート&公開クリニック 2014』を今年度も開催し、長野県下の高等学校 9 校 126 名の高校生が参加した。

19) その他

地元プロスポーツチームである、松本山雅 FC、信濃グランセローズのスポンサーとして支援したほか、春の高校伊那駅伝を協賛した。

その他、高校生や地元住民を対象としたイベントへの協賛広告を掲載し、大学のイメージアップをはかった。(全 20 回)

(3) 評価検討<C>

オープンキャンパス参加者の本学志願率は高く、オープンキャンパス参加状況が本学の受験者、入学者数に大きく影響している。さらに、実際の授業を公開しオープンキャンパスとは違った生の大学を体験してもらう新たな企画として『高校生のための公開授業』を年 2 回実施し、オープンキャンパスと『高校生のための公開授業』を合わせての年間の来場数は 1,700 名という結果で、前年から 105 名の減少(対前年比 94%)となった。特に学科による差は無く全体的に減少(一昨年に比べると 260 人の減少)した。

この原因は様々考えられるが、一つは景気が回復しつつあり地元志向から県外志向が高まったこと、また高校卒の就職が好調であったこと、「長野大学の公立化検討」というニュースが報道されたこと、大原学園松本校開設などの影響が挙げられるものの、決定的な要因は見当たらない。

松商短期大学部減少の要因については、大原学園松本校開設と、長野県高校生の専門学校志向、さらに看護、保育、幼児教育系の人気も影響していると考えられる。一般的に言われている通り、資格志向が高く「資格さえ取れば就職できる」という安易な考え方が多く、短大で身に付けられる社会性や人間力などの重要性が高校生にはなかなか伝わらない。大学や短大での学びによりこれらの力を付け成長していくことの重要性を、ことあるごとに地道に訴求し続けることが重要である。

(4) 次年度に向けての課題<A>

少子化、新県立大学、長野大学の公立化、大原学園松本校開校、北陸新幹線金沢延伸、高い長野県高校生の県外流出率など、本学を取り巻く環境は年々厳しい状況になっている。

そのような中、学生募集活動は開設以来オープンキャンパスや進学情報誌、進学情報サイト、テレビ CM、進学業者による相談会や説明会への参加、高校訪問など積極的に実施してきた。しかし、オープンキャンパスへの参加数、志願者はここ数年減少していることから、新たに目玉となるものを創り出すことを考えると同時に、今までの学生募集活動や広告、PR 内容を見直す時期に来ていると考える。

今年度途中から方針転換して取り組んだ学生募集媒体や広報展開重点エリアの見直しは、本学

の在學生や志願者が長野県内出身者 85%ということもあり、効率的で効果的な手法であったと考えられるため、来年度も同様に展開する計画である。また、信濃毎日新聞に掲載したイメージ広告「私が長野県を愛する理由」シリーズは、インパクトもあり反響も大きかったため、来年度も継続したいと考えている。

広報コンセプトは本学の理念である「地域貢献と地域貢献できる人材育成」を中心に、更により具体的に打ち出し、長野県の地域や企業、県民に幅広い面で松本大学の存在意義を認知してもらうよう努力する必要がある。このためには、高校生はもちろん保護者、高校教員、行政、企業、一般社会へ継続的に訴求することが重要と考える。また、高大連携を通じた早期からの意識付けのためにも積極的に取り組み、特に松商学園高等学校との高大接続は更に発展させ、志願者の増加につなげたい。

いずれにしても地域から支持される、価値ある大学として存在感を示すため、広報戦略・戦術ともにターゲットを地域に絞って展開する計画である。

2. 平成 26 年度入学試験

(1) 実施計画と結果<P・D>

1) 入試区分と入試回数

入試区分・入試回数については昨年と同様に下記の通り実施した。

総合経営学部は指定校推薦、公募制推薦（前・後期）、自己推薦、A0 入試（Ⅰ・Ⅱ期）、一般（A・B・C 日程）、センター利用（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期）入試を実施した。また編・転入試験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期、留学生入試も実施した。

人間健康学部は指定校推薦、公募制推薦（前・後期）、A0（健康栄養学科 1 回、スポーツ健康学科Ⅰ期、Ⅱ期）、一般（A・B・C 日程）、センター利用（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期）入試を実施した。また、編・転入試験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期も行った。スポーツ健康学科の A0 入試は今年度から一次選考で模擬授業を実施した後確認テストを行う内容に変更した。そのためか A0 入試エントリー者が前年比 16 人減少した（昨年 43 人、今年度 25 人）。

松商短期大学部では特待生推薦（公募推薦）、指定校推薦（前・後期）、自己推薦、A0（Ⅰ・Ⅱ期）、一般（A・B・C 日程）、センター利用（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期）、留学生入試を行った。

松本大学大学院健康科学研究科においては一般・社会人共通で前期・後期の日程で入学試験を行った。

一般入試 A 日程は推薦入試や A0 入試合格者の、学力特待生資格試験も兼ねて実施し、A 日程の 1 日目は本学のほか地方会場（5 会場）も設けた。

また、編入学試験については各学科とも入学定員を満たしておらず今後の募集活動が課題である。

2) 入試制度等の改革

- ① 入試問題検討委員会を発足し、アドミッション・ポリシーを反映した入試問題作成や作成時のミス防止策などの強化を図った。
- ② 松商学園高等学校からの入学者の入学金を全額免除とした（前年度までは半額）
- ③ 松本大学総合経営学部及び人間健康学部において兄弟姉妹割引の導入を決めて実施した（前年度までは松商短期大学部のみで実施）。

- ④ 沖縄県出身の入学に対して特別奨学金制度として入学金の全額免除を実施した。また、入学生の中から成績優秀者（各学部2名まで）授業料全学免除もしくは半額免除を実施した。
- ⑤ 次年度のWeb出願に向けて準備を開始し、Web出願システムを選定した。

(2) 入学試験の結果と評価<C>

今期の入学試験における、志願者・入学者・充足率は下表の通りである。

■松本大学大学院

研究科	入学定員	志願者数	合格者数	競争率	入学者数	充足率
健康科学研究科	6	3	3	100.0%	3	50.0%

■松本大学

○1年次入学生

学部	学科	入学定員	志願者数	合格者数	競争率	入学者数	充足率
総合経営	総合経営	80	152	120	125.0%	87	108.8%
	観光ホスピタリティ	80	162	124	129.0%	99	123.8%
	小計	160	314	244	127.0%	186	116.3%
人間健康	健康栄養	80	212	162	129.0%	92	115.0%
	スポーツ健康	80	217	138	155.8%	105	131.3%
	小計	160	429	300	141.3%	197	123.1%
合計		320	743	544	134.9%	383	119.7%

○編・転入学生

学部	学科	入学定員	志願者数	合格者数	競争率	入学者数	充足率
総合経営	総合経営	10	3	3	100.0%	3	30.0%
	観光ホスピタリティ	10	1	1	100.0%	1	10.0%
	小計	20	4	4	100.0%	4	20.0%
人間健康	健康栄養	5	5	3	166.7%	3	60.0%
	スポーツ健康	10	1	1	100.0%	1	10.0%
	小計	15	6	4	150.0%	4	26.7%
合計		35	10	8	125.0%	8	22.9%

■松本大学松商短期大学部

学部	学科	入学定員	志願者数	合格者数	競争率	入学者数	充足率
短期大学部	商	100	91	83	109.6%	75	75.0%
	経営情報	100	111	108	102.8%	103	103.0%
合計		200	202	191	105.8%	178	89.0%

①総合経営学科

総合経営学科の入学者数は定員の1.09倍。志願者ベースで見ると昨年度から約50人志願者を減らし、具体的には指定校推薦、一般入試A日程、センター利用I期で昨年比半数以下だった。景気が多少上向きになり就職が増えたことや、有名私立大学への進学が伸びた影響などが考えられる。

やはり推薦入試で志願者数を確保することが重要である。

②観光ホスピタリティ学科

観光ホスピタリティ学科の充足率は1.24倍だった。指定校推薦と推薦前期で志願者が増えており、これは早く決めたいという気持ちの表れと考えられる。また一般入試A日程、B日程でも志

願者が増えたが、昨年比 10 人程度で、樂觀できるものではない。

③健康栄養学科

昨年定員割れした健康栄養学科の充足率は 1.15 倍で、志願者は昨年比約 50 人増であった。推薦入試での増加は若干であったが、一般入試、センター利用で大きく志願者が増えた。これは、昨年全国的にみられた栄養離れの反動ではないかと考えられる。このままの傾向が続いてくれるのを望むが、新県立大学の問題もあるので、今後は管理栄養士の合格率を上げ実績を積み上げることで県内外からの志願者を増やす必要がある。

④スポーツ健康学科

健康栄養学科の充足率は 1.31 倍であり、昨年の 1.30 倍とほぼ同様であった。入試区分では A0 入試で志願者を減らしたがその他は大きな変化は見られなかった。これは A0 入試で模擬授業及び確認テストを導入した事が要因と考えられる。志願者は比較的安定してきているが、今後はレベルをいかに上げるかが課題であり、その為にも教員採用実績や健康運動指導士の資格取得率を上げる等の必要がある。

⑤松商短期大学部

志願者は昨年比-40、一昨年比-65 と年々減少し、充足率は 0.89 倍であった。大原学園松本校の開校や、高卒の就職環境が好転したことが影響したものと思われる。対象とする女子高校生の多くに「手に職」「資格」が優先という考えが強く、職業に直結する専門学校に流れる傾向がある。併せて看護や幼教、保育分野への志向が強く、社会科学系、ビジネス系は敬遠されている。その様な状況ではあるが、本学の事務系への就職が好調なことなどを、本人だけでなく保護者、高校教員にもアピールすることが重要と考える。

(3) 次年度に向けての課題<A>

長野県内では初めての WEB 出願を取り入れるべく準備を始めた。これにより学内情報システムと連動させ効率化を図り、受験料の値下げ等も含め受験生への負担を軽減される。

編入学試験については各学部学科の募集定員を確保すべく、学内はもちろんのこと募集につながる広報活動に力を入れたい。大学院の募集に関しても同様、募集広報に力を入れる。

3. 大学広報

大学広報での主な業務は、学報『蒼穹』の編集及び発行、大学公式ホームページの運用管理、本学情報のプレスリリースを報道各社へ行った。また、報道記者との情報交換会も実施した。

(1) 広報の活動方針と実施について<P・D>

1) 大学広報誌「蒼穹」

今年度の「蒼穹」は計画通り年 4 回（6 月、9 月、12 月、3 月）で、各号 3,000 部～3,500 部を発行した。内容は昨年同様に、巻頭特集で特色ある取り組みを紹介した。レギュラーとしては COC 事業の紹介、アウトキャンパス・スタディ、地域づくり考房『ゆめ』の取り組み、地域健康支援ステーションの活動、News & Topics、リレーコラム、インフォメーションなどで構成し、その他にタイムリーな情報を掲載した。配布先は大学関係者はじめ学生の保護者、行政関係など本学を取り巻く幅広い層に配布した

2) 大学ホームページとその運用

昨年度構築した大学公式サイト（ホームページ）を更に使いやすく観やすくするために改善を加えた。ホームページの約 30 種のコンテンツと SNS について継続的な更新と維持にあたり、特に LINE については高校生に登録促進のカードを配布し本学のイベント情報がタイムリーに伝わるように努めた。

また、情報をデータベース化し、コンテンツ価値を高めた。WEB における情報発信やコミュニケーションの拠点としての役割を強化し、各部署や教員と連携し随時構築や改修を行った。「松本大学出版会サイト」「学校法人松商学園サイト」等の関連サイトの再構築、各部署独自運営のポータルサイトの調整や大学ホームページの周辺関連サイトも含め、統括的に管理し、広報の一貫性を保守することに努めた。

(2) 大学広報の評価検討<C>

1) 大学広報誌「蒼穹」

毎回の特集記事の選定に苦勞しているのが現状であり、広報委員からの情報提供、提案などを促進するなどの工夫が必要である。また、現在約 3,000 部を印刷し、学生の保護者に約 2,000 部、松本市を中心とした広域市町村、県議会議員、松本市会議員、県内高等学校の高等及び進路指導室、マスコミ等に約 300 部、その他関係者に 100 部、本学教職員に 200 部等の配布をしているが、読まれているかは検証できていない。

2) 大学ホームページと運用について

全体的な課題として、学報『蒼穹』と同様で情報に偏りがある。積極的に情報発信できるような環境づくりが必要である。ここでの情報発信が本学の PR につながり、ゆくゆくは本学の学生募集にもつながるという認識が薄いように思う。

(3) 大学広報次年度に向けての課題<A>

1) 学報『蒼穹』について、さらに多くの方に閲覧いただけるように、配布先や活用の仕方を検討する。具体的には、松本市及び広域の市町村役場に送るだけでなく、一般住民に見ていただくための工夫を考えたい。

制作・編集においては、記事収集の効率化を図りたい。特集記事の内容は Web 上での広報も必要であり、情報収集方法を検討する。

2) WEB 出願導入に伴う入試情報の整理を行う。具体的には入試情報サイト（総合情報）の再構築、学生募集要項の html 化となるポータルサイト新設。WEB 出願の導入に伴うシステム設計。ホームページ、WEB 出願システム、基幹システムの実運用の監視と整備。新たなターゲットを意識した WEB 広報戦略の計画・実施。

また、各部署による情報発信も現在、図書館、地域づくり考房「ゆめ」、地域健康支援ステーションのみに留まっており、広報室からの指示がなければ情報発信されていないのが現状である。現システムではどの部署においても情報発信が可能な環境であり、広報室に頼らないタイムリーな情報発信を促進し、WEB をうまく活用できるように啓蒙したい。

<執筆担当/入試広報室長 中村 文重>

Ⅱ. アンケート調査結果(平成26年度)

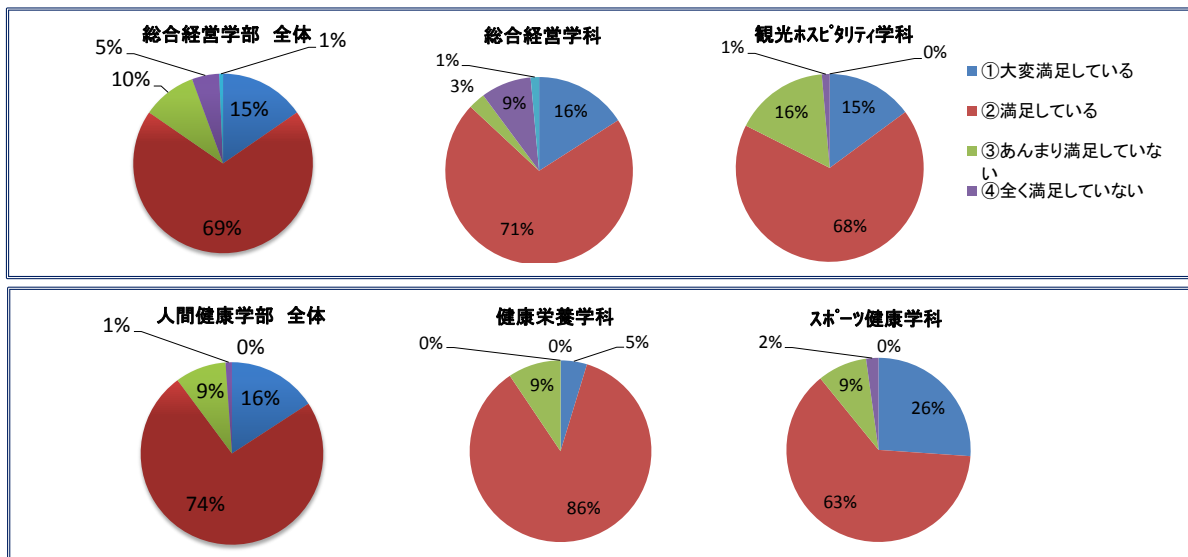
1. 松本大学卒業予定者アンケート

質問1. 所属について

	総合経営学部							人間健康学部							
	総合経営			観光ホスピタリティ				合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計		
回収数	58	11	69	31	43	74	143	13	72	85	56	36	92	177	

質問2. あなたは所属学部の教育に満足していますか。

	総合経営学部							人間健康学部							
	総合経営			観光ホスピタリティ				合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計		
①大変満足している	9	2	11	4	7	11	22	4	0	4	14	10	24	28	
②満足している	40	9	49	18	32	50	99	9	64	73	36	22	58	131	
③あんまり満足していない	2	0	2	8	4	12	14	0	8	8	5	3	8	16	
④全く満足していない	6	0	6	1	0	1	7	0	0	0	1	1	2	2	
⑤無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	



【理由等】

総合経営学科

名前の通り経営関係の講義がたくさん学べる。専門的な講義がたくさんあっていいです。

内容はよかったが、もう少し政治や社会学関係の学問も充実してほしい。

やりたいことをやれたから。

所属していたゼミが充実していた。

環境が良かった。

学校の支援のたりなさ、学生の意識の低さ。

ある程度の知識を得ることができたから。

会社に入社してからの知識を学べたので。

入学してから経営を学び能力を高めることができました。

それなりの知識が得られたから。

教員の生徒に対する教育態度が望ましくない。

将来に生きる事があまりない。

先生がしっかり教えてくれるから。

いい経験になりました。

とてもよい経験になったから。

色々学べた。

自分のことを評価してくれないから。

授業が良かったから。

おもしろくなかったから。

社会に出て必要な事を学んだので。

さまざまな種類の講義があり、知識がふえる。

ゼミが良かった。多くのことを学べた。

ゼミが充実していた。

経営について、様々な観点から学べた事に喜びを感じます。

様々な学問を学べるので。

地域と関わりながら学ぶ環境があるので良いと思う。

自分がニュース等を見ていてわからない事も授業で詳しくわかることができる。

ゼミに満足した。他の授業も面白かったが、先生の説明が分かりにくく面白くないものもあった。

観光ホスピタリティ学科

講義内容がよくまとまっている。
 満足している。マーケティングは学部必修でいいのでは？
 観光、福祉は経営なのか疑問。
 楽しかったです。
 資格の取得やゼミ活動での学習が自分の力になったと感じており満足した。
 経営について学べたから。
 地域と関わる機会が多かったの。
 楽しかったから。
 講義回数が全15回のところを、一部の教授は、13回分程度で終わってしまうため。
 これから役立ちそう。
 とても良い先生方に出会う事ができた。
 とても満足している。専門知識をいっぱい学ぶことができた。
 観光分野を学習することで成長できたため。
 興味のあることを勉強できたから。
 いろいろな分野を学べるので。
 観光の授業が少なく、福祉関係が多い理由がわからない。
 地域密着型の事業、活動が多かった。
 4年間充実していました。
 経営について学べる授業が選択できたから。
 両学部合同の講義で、総合経営学科の人とも交流ができた。
 様々な分野で学べた。
 教授によって方針にムラがあり、対応に困った。
 先生方の話がおもしろかった。
 先生との距離が近く、楽しい授業が多かった。
 社会人になるための教育として講義がなされていたと思うため。
 教員の授業で分かりやすく工夫されたものが多い。興味を持ちやすい授業が多かったと思う。
 自分の興味のある科目があるから。
 幅広く知識を得られたため。
 経営学等が学べた。社会に出る上で大事な事も学べた。
 とても充実した学生生活を送れた。
 アウトキャンパスが充実していた。
 広く学べた。
 人による。
 自分の学びたい分野を詳しく学ぶことが出来たから。
 授業やゼミナールがとても楽しかった。
 様々な分野、自分の興味のあることに関することが学べた。
 学びたいことが幅広く学べたから。
 学びたいことを専門的に深く学べたので満足です。
 広く学ぶことができたと感じるため。
 観光やホスピタリティについてとても多くのことを学びましたが、経営についてはあまりやらなかった気がする。
 外に出て地域の中で学ぶことによって自分自身に自信をもつことができるようになった。

健康栄養学科

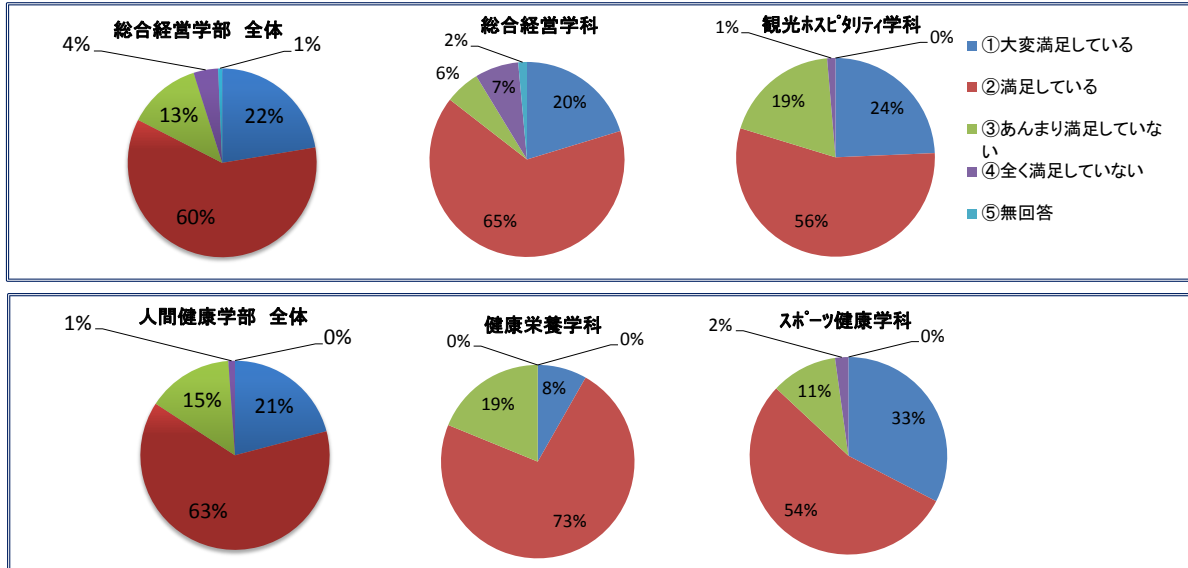
スポーツ学科との連携した授業があまりないような気がした。
 興味があったことを深く知れたから。
 健康的な考えになった。
 他学科に関わる授業も受けられたため。
 満足している。
 学びたいことを学べたから。学部内仲が良いから。
 専門科目だけでなく、教養科目も充実していて良かったと思います。
 人間健康学部は、他学部と比べ外での実習も多いため大変ではあるが、その分社会のことなども一緒に学べたと思う。
 地域に貢献できることを色々できていた。
 実習先が充実している。
 実習は多くて良いが、国試対策にもっと力を入れた方がよいと思う。
 連絡がしっかり伝わっていなかったり、統率がなっていないと感じた。
 設備だけはいいと思う。
 授業、ゼミ内容、楽しくもあり辛くもあったが、多くの支援をいただいた。
 難しい分野もわかりやすく工夫されている授業が多かったから。
 人数が少ない分、学科に所属している人とほとんど仲良くでき、団結して授業の課題をこなすことができた。
 国試に集中するために、他の大学は3年次から実習が始まり、4年次にはほとんど実習に行かないみたいで、その方がありがたいと感じた。
 専門的な事が幅広く学べるから。
 規模が大きすぎなくて良い。
 教授の講義は熱心に教えてくれ、質問にも詳しく答えてくれるから。
 就職についてもしっかりサポートしてくれるから。
 就活についてなどの講義はとても参考になった。
 もっと調理等、知識につながる技術面の授業が充実していると良かったと思う。
 もう少し学科同士で学びが深められる授業等があっても良かったのではと思います。
 とても忙しい授業の時間割だったが、きちんと受けることができた。実習や卒論をもっと早めに終わらせるようにしてほしい。

スポーツ健康学科

健康に対する知識が身についたため。
 栄養科と合同で何かをするということをしたかった。
 学びたいことが学べたから。
 幅広い知識を取得できるから。
 様々な事を学べたから。
 先生が優しい。
 専門知識もたくさん学べた。
 自分の学びたい勉強ができ、先生との距離も近く親しみやすく勉強に向かうことができた。
 とても自分自身成長できた。
 専門をしっかり勉強できる。
 校舎がきれい。
 トイレがきれい。
 設備の充実、教員の人が凄く良い。
 先生方がとても親切でした。
 良い環境が整っているし、幅広く進路が選べる。
 スポーツ健康について学べた。
 幅広い知識を身につけられた。
 教職課程においてご指導して下さいで大変自分自身成長できることができました。ありがとうございます。
 先生方が一生懸命指導してくださったと思います。
 教員、学生課、教務課などのサポートがよかった。
 現状が良い。
 楽しかった。
 スポーツをやっていたので興味をひく内容が多かった。
 教職科目を卒業単位に含んでほしい。
 専門的な知識が身に付いた。
 今までやったことないことを学べた。
 設備、環境が整っていた。
 栄養科とスポ科の対応が치가う。
 先生方が熱心なためやる気がでる。
 教員との距離が近い。

質問3. あなたは自分が所属した学科の教育に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	10	4	14	5	13	18	32	3	4	7	17	13	30	37
②満足している	39	6	45	16	25	41	86	8	54	62	30	20	50	112
③あんまり満足していない	3	1	4	10	4	14	18	2	14	16	8	2	10	26
④全く満足していない	5	0	5	0	1	1	6	0	0	0	1	1	2	2
⑤無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

総合経営学科

- 経営に関することや、法律も学べるので。
- 専門と教養分野においてバランスよく学ぶことができるので良いと思う。
- ゼミに満足した。他の授業も面白かったが、先生の説明が分かりにくく面白くないものもあった。
- 先生たちが一生懸命アウトキャンパス等に連れていってくれたりその中で学ぶことが非常に多い。
- 資格取得の講義がもうすこしあったらよかった。
- 経済についてたくさん学べたのでよかった。先生方も丁寧に教えてくださり、感謝しています。
- やりたいことをやれたから。
- 幅広い知識を学べた。一つに絞られていない為。
- 環境が良かった。
- 自分にマイナスになることはなかったから。
- 会社に入社してからの知識を学べたので。
- 自分が学びたいと思っていたことが学習できたので満足しています。
- 教員の生徒に対する教育態度が望ましくない。
- 先生たちから教えるという気が伝わってこない。
- 学びたかったことが学べた。
- とても経験になったから
- 色々学べた。
- 自分のことを評価してくれないから。
- 授業が良かったから。
- レベルが低い。
- 地域貢献のモットーにのっとって、授業が行われている。
- 特色を生かした学びができた。
- 経営のことが理解できる。
- 特に経営学では、マクロ・ミクロ両面から様々な事を学べ、良かったです。

観光ホスピタリティ学科

いい友達がたくさんできた。
 3,4年次に観光系の講義がすくない。
 観光の授業が少なく、福祉関係が多い理由がわからない。
 いろいろな分野を学べるので。
 興味のあることを勉強できたから。
 観光を主に学習し、ゼミ生との交流で人との関わりの大切さを学べたため。
 観光と地域をうまく両立しているからとてもいい。
 普通の学科では経験できない事をたくさん勉強できた。
 とてもいい経験をしたから。
 講義回数が全15回のところを、一部の教授は、13回分程度で終わってしまうため。
 自分のためになったから。
 専門科目が少なかった。
 他にあまり無い学科だから。
 世界の文化などわかった。
 資格の取得やゼミ活動での学習が自分の力になったと感じており、満足した。
 興味がある科目があった。
 観光をやるのか、福祉をやるのかははっきりしたほうがいいと思う。どちらかの勉強をしに来た人にとっては、片方の勉強は無駄、教職にとってはどちらもあまり参考にならない。
 満足している一方で、学科名にある「観光」「ホスピタリティ(サービス)」の講義が少ないのでは？
 外での学びをしっかりと深めることができたから。
 観光やホスピタリティについて多くのことを学ぶことができた。
 学びたいことを専門的に深く学べたので満足です。
 自分が学びたいことを学べ、社会人になってから役に立ちそうなことも身につけられたから。
 教室で学習するばかりでなく、アウトキャンパスなどが豊富で、体験型の講義が充実しておりよかった。
 授業やゼミナールがとても楽しかった。

観光について深く学べたので良かった。出来れば、私たちの学年も簿記があれば嬉しかった。
 専門科目が福祉系の授業しかなくて履きしゆうする気にならなかった。
 人による。
 先生によって教え方違いますが、どなたも良い先生でした。
 地域と、イベント企画を通して深く関わることができたから。
 充実していた気もするけど、もっと観光系の科目とかあってほしいと思う。4年生になった時、勉強したい科目が全くなかった。
 主にゼミ活動を中心にやっていたが、様々な観光の事例を知り学んだ事で、自分の視野が広がったと思っている。
 資格の受験資格の授業を受けられたことや、試験までの学校や先生方のサポートがとても親身であったため。
 専門分野についての知識を深めることができたから。
 語学の科目はおもしろかった。
 この学科に入学してから、資格の勉強にも力を入れることが出来たととても勉強になった。学ぶことがたくさんあってよかったからです。
 熱心な教員が多い。
 ゼミ活動でゼミ担当の先生との方針が全く合わなかった。
 福祉や観光など幅広く学べたと同時にもっと勉強したいと思う所を学ぶことができたため。
 マナーや観光についてなど、自分の学べたことが学べた。
 アウトキャンパスは、五感を使って学べ良いと思った。
 ためになることが沢山あった。
 教授によって方針にムラがあり、対応に困った。
 入学当時、勉強できるといわれていたブライダルの勉強が、出来なかったから。
 資格取得のためのカリキュラムがあったため。アウトキャンパスがあり、座学だけでは学べない実践が学べた。
 専門的なことが多く学べてよかった。
 自分の学びたい分野を実践的に、より深く学ぶことが出来、自身の成長につながったと思います。

健康栄養学科

理解しやすかったから。
 おいしいご飯を沢山食べることができ、栄養の知識も身についた。
 学ぶことが多くあったため。しかし、授業の組み方を考えてほしいということもあった。
 国家試験合格に対するサポートが不十分。県短の4年生化に伴いもっと力を入れて指導しなければ、学生も減り地域貢献どころではなくなる。
 国家試験合格率の高い女子栄養大学や愛知学院大学などを手本にした方がよい。
 満足している。
 拘束感が感じられた。
 学びたいことが学べたため。
 字はなればならない事がたくさんあるのは分かりますが、同じような教科がいくつもあるように感じた。食品それぞれの栄養素をもっと知りたかった。
 詰め込みすぎている印象はありますが、総合的に良かったのではないかと感じます。
 教師との距離が近い。
 専門的なことを身に付けられたから。
 管理栄養士合格を念頭において授業やテストをしてくれたから。
 実習が多くて良かった。
 管理と栄養士1年からわけてほしい。
 お金がかかっている割にという印象を受けた。
 国試対策が不十分(問題がワンパターン)
 管理栄養士の資格を取る為にサポートしてくれているから。
 カリキュラムの組み方をもう少し検討して欲しかった。
 もう少し効率の良い学びがあったような気がした。
 大学生生活勉強が大変だったが、ずっと遊んでばかりよりはよいと思ったため。
 熱心な指導の下で勉強ができました。
 実習が地元周辺でできたので。
 私たちが覚えやすいように例をあげたり、図や表で示したりと分かりやすく教えてくださいました。
 成績の公表の仕方をプライバシーを守るようにしてほしい(授業内のテスト結果等)
 栄養について深く学ぶことができたため。ゼミ活動、研究なども楽しかった。
 アウトキャンパス等、学外で学ばせていただく機会に多く恵まれていたと思います。
 教職員の方々と接しやす環境だった。
 様々な体験ができたと思う。
 忙しいながらも充実した4年間だった。
 授業がよかった。

スポーツ健康学科

必要で興味あるやつは楽しい。でも、教養はいらない。
 全体的につまらない。
 体育原理が理解できたため。
 実習に行けたりとても勉強になった。
 学びたいことが学べたから。
 目指している資格以外の勉強もできるから。
 実技の授業が多く、楽しかったから。
 専門分野に集中できた。
 先生たちが全員優しくかったです。ありがたいことです。
 専門的な勉強ができ、また実習もすることができて実際の現場で多くのことを学ぶことができた。また、卒業になってしまってもっと勉強して知識をつけたいと思えた。
 実践的なことができるから。
 スポ科でしか学べないことを学べた。
 スポによってさらに専門的なことが学べ、集中して資格の勉強もできる。
 ゼミの先生が良かった。
 設備の充実、教員の人柄が凄く良い。
 先生と生徒の距離が近くとても良かった。
 設備が整っており、実施的に行える。
 良い環境が整っているし、幅広く進路が選べる。
 わかりやすかった。
 いい授業が多かった。
 先生たちが熱く指導していただき、とても良かったです。
 ゼミの先生が長い時間をかけて卒論を見てくれました。
 教員によって教育が違う。生徒によって対応が違う。
 教職の資格取得のための学習がしっかりできた。
 スポーツ系の勉強ができた。
 実技をもっとやりたかった。
 教職科目を卒業単位に含んでほしいのと、再試験がないのはおかしい。
 充実していた。
 もうちょっと具体的に教えてほしい。
 授業の専門性が良いと思う。
 勉強して保健体育の教員資格をとれた。
 先生方が熱心なためやる気がでる。
 所属ゼミでやりたいことをやれた。

質問4. あなたが松本大学に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計	順位
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		
⑧自宅から通学したい	25	5	30	8	24	32	62	5	31	36	16	14	30	66	1
②『地域に貢献する人づくり』という教育目的に魅力を感じた	15	5	20	5	15	20	40	5	29	34	12	5	17	51	2
⑨親、先生などから勧められた	13	1	14	7	13	20	34	2	17	19	13	11	24	43	3
⑪その他	5	0	5	3	5	8	13	1	21	22	14	3	17	39	4
⑦学生と教職員の距離が近い	4	4	8	3	9	12	20	3	11	14	8	7	15	29	5
⑩まだ会社に出たくない	8	0	8	4	7	11	19	1	4	5	3	5	8	13	6
③アットキャンパスステイ・サポーターシステム等の新しい教育方法に惹かれた	0	1	1	4	9	13	14	3	11	14	2	0	2	16	7
⑤良い先生がいる	6	1	7	2	4	6	13	0	5	5	5	6	11	16	8
⑫無回答	4	1	5	5	3	8	13	1	1	2	3	3	6	8	9
①『オーダーメイド教育』という理念に共感した	3	2	5	1	5	6	11	1	3	4	2	0	2	6	10
④コンピュータなど施設・設備が充実している	3	1	4	0	0	0	4	3	7	10	1	1	2	12	11
⑥友達が入学する	1	0	1	2	1	3	4	0	2	2	2	0	2	4	12

【その他】

総合経営学科

オープンキャンパスがよかった。
 やりたい講義があった。
 間違えた。
 第一志望に落ちたため。
 近いから。
 祖父母の家から近い。
 専門力をのばしたかった。
 東京の大学へ出す程、家計的余裕がないと言われた為。

観光ホスピタリティ学科

野球。
 部活から入った。
 野球をやりたいから。
 志望した大学に落ちたから仕方なくきた。
 教職課程があったから。
 地元就職に強い。
 考房『ゆめ』など他大学にないものがあった。
 もう少し成長してから社会に出たかったから。
 忘れた。
 取得したい免許があったから。
 県内で近かったから。
 観光について学びたかった。
 第一印象が全てにおいて良かった。
 資格が取得できる。
 将来の目標を達成するため。
 学芸員資格を取得できる県内。

健康栄養学科

管理栄養士の資格を取る為の近場の大学だったため。
 イベントが多い。
 給食関係の仕事がしたかったから(当時)
 県内で管理栄養士の資格取得を目指した。
 管理栄養士の受験資格がほしいから。
 管理栄養士の養成課程があったから。
 オープンキャンパスの時の在学生の雰囲気。
 資格がとれる。
 施設が新しくきれいだった。
 学びたい分野の学部があった。
 行きたかった大学に落ちたから。

スポーツ健康学科

部活動のため。
 長野県内でなんとなく大学に行っておこうと思ったから。
 自分がやりたい分野だった。
 県外に出たくない。
 先輩に勧められた。
 入れる大学がなかったから。
 受かった大学がここしかなかった。
 競技。
 とりたいものがあったから。
 地元でスポーツ系の学部学科がなかったから。
 保健体育教員免許の取得。
 教員免許が取れる。
 部活動と勉強を両立できるところ。
 自由時間が多い。
 学びたいことがあると思ったから。

質問5. あなたが松本大学に入学した目的はなんですか。(いくつでも)

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計	順位
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		
④資格を取りたい	9	4	13	10	19	29	42	8	63	71	27	23	50	121	1
①専門的学識を身につけたい	12	6	18	10	16	26	44	6	56	62	27	18	45	107	2
⑪自分を見つけた(自分探し)	13	2	15	10	16	26	41	3	6	9	12	5	17	26	3
⑤良い就職がしたい	23	1	24	6	7	13	37	2	10	12	8	3	11	23	4
②教養を身につけたい	11	1	12	5	12	17	29	1	12	13	7	1	8	21	5
⑥友人をつくりたい	4	1	5	2	8	10	15	1	9	10	1	6	7	17	6
⑦部活動を行いたい	3	1	4	6	2	8	12	1	0	1	11	6	17	18	7
⑩自立できる社会人になりたい	7	2	9	4	5	9	18	4	7	11	7	1	1	12	7
⑧親元から離れて生活したい	3	1	4	2	1	3	7	2	2	4	2	4	6	10	8
⑫その他	3	0	3	1	2	3	6	0	3	3	4	1	5	8	9
⑨アルバイトをしてみたい	2	0	2	1	1	2	4	0	1	1	1	6	7	8	10
⑬無回答	2	0	2	2	1	3	5	0	0	0	1	1	2	2	12
③海外研修を経験したい	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13

【その他】

総合経営学科

朝寝れるから。
 地元の大学しか選択枝がなかった。

観光ホスピタリティ学科

なんとなく。
 野球。
 忘れた。

健康栄養学科

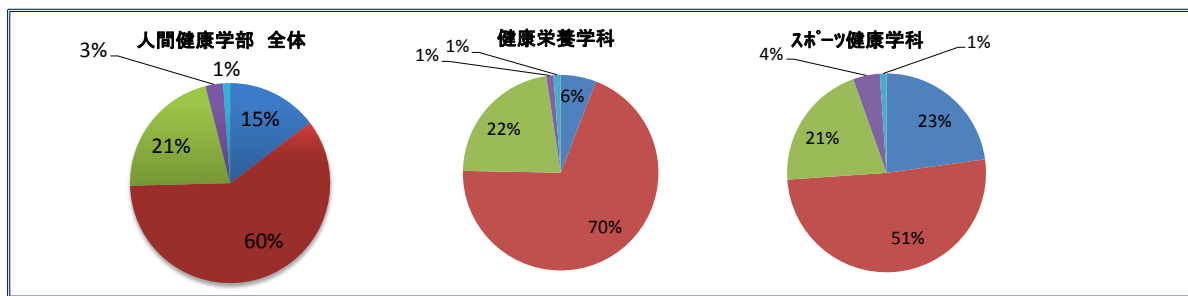
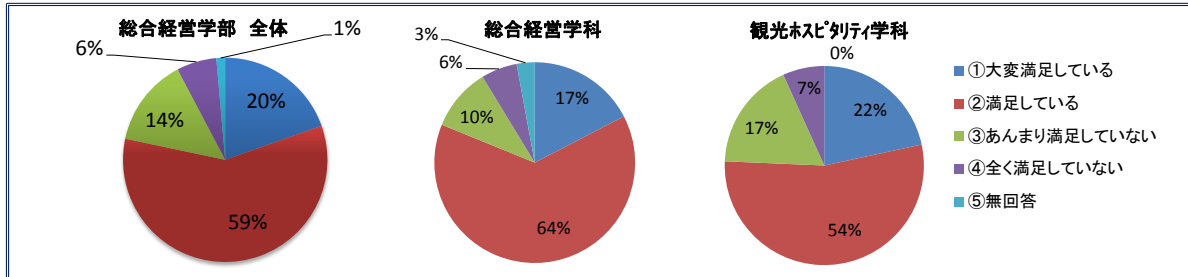
地元の大学だから。

スポーツ健康学科

競技。
 教員免許取得。
 部活動。

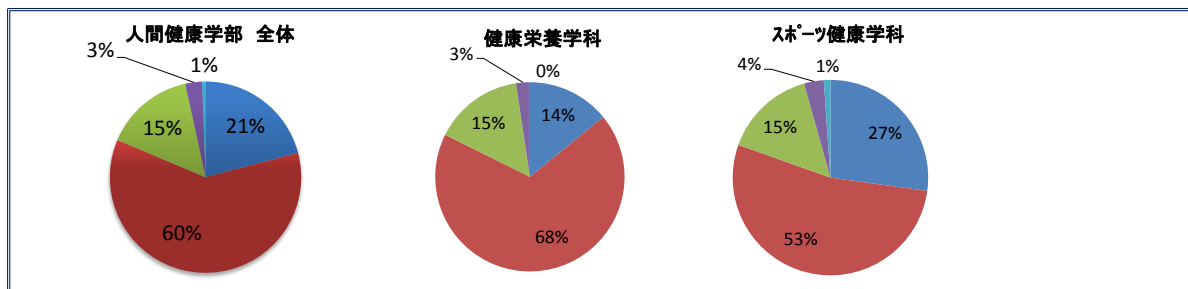
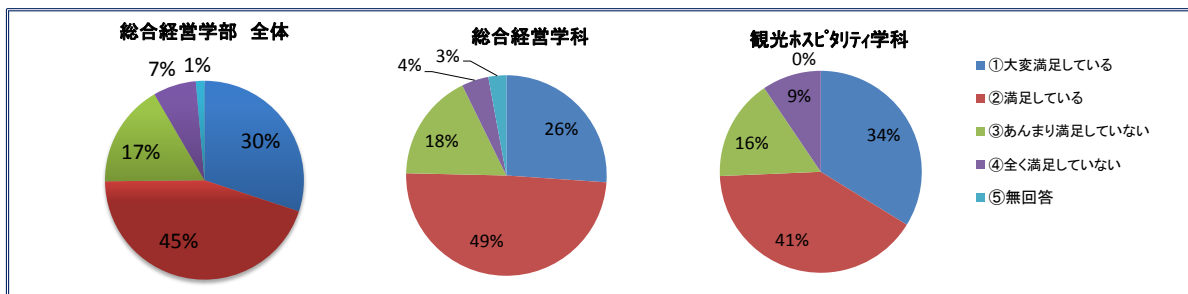
質問6. あなたは松本大学の4年間の勉学に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	10	2	12	5	11	16	28	1	4	5	10	11	21	26
②満足している	38	6	44	15	25	40	84	8	51	59	30	17	47	106
③あんまり満足していない	5	2	7	6	7	13	20	3	16	19	13	6	19	38
④全く満足していない	4	0	4	5	0	5	9	0	1	1	3	1	4	5
⑤無回答	1	1	2	0	0	0	2	1	0	1	0	1	1	2



質問7. この4年間のあなた自身の生活に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	16	2	18	7	18	25	43	6	6	12	10	15	25	37
②満足している	26	8	34	10	20	30	64	4	54	58	32	17	49	107
③あんまり満足していない	12	0	12	8	4	12	24	2	11	13	11	3	14	27
④全く満足していない	3	0	3	6	1	7	10	1	1	2	3	0	3	5
⑤無回答	1	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	1



質問8. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたことなど

総合経営学科

最初は会計の知識を深めていきたいと思っていたが、様々な授業を取り、自分に合ったものを見つけられた。
 総経にもおもしろい講義をつくってほしい。
 先生との距離が近く、授業が面白く感じるときがあった。専門科目授業は、先生が坦々と文を読んでいるという印象があり、時折、教科書を読んでいるだけで授業の必要性が分からないものがあった。
 アウトキャンパスなど学校内にとどまらずに、学べたこと。
 もっとルールをゆるくして、自由にさせよう。
 興味のある分野から、知らなかった分野まで幅広く学べ、良かったです。授業は、うるさい授業が多く残念でし
 もう少し全体的に大学内での授業があっても良かったと思います。アウトキャンパスなど。
 カウンセリングの講義がよかった。
 もう少し意欲的に取り組めばよかった。
 単位も順調にとれたし、出席率も高かった。GPAが低かった。
 わかりやすかった。
 授業環境がとても良かった。楽しみあり、笑顔ありの講義が多かったと思います。悪かったことはありません。
 色々学べた。
 最高！
 テストやレポートなど大変な事がたくさんありましたが、いい経験になりました。
 授業がつまらない。
 最後の学生生活だったので中高では学べなかったことを学べて本当によかった。
 資格を意識した勉強を心がければ良かったと思いました。
 もう少しまじめに取り組めばよかった。
 授業態度、課題提出などよく出来た。

観光ホスピタリティ学科

教員との距離の近さがよかった。
 堅苦しい講義はあまりなく、楽しく学べる機会に恵まれており幸せでした。
 講義はよかった。
 教員により様々な学習方法の提示があり、多角的に学習できた点が良かった。
 いろんな地域とかかわる活動に参加できるのが大都市の大学でできないと思います。とてもよかったです。
 大学に来てやる必要があるのか、わからない講義があった。
 アウトキャンパスが新鮮で良かった。
 授業全般とてもその学科にあった講義のテーマで幅広く知識がついて良かったと思います。
 教職を取ろうと思っていたので観光の勉強はどう関わっているか常に疑問に思っていた。福祉もあまり教育に関しては密接ではないと感じていたが、今の日本の現状を見ていくと参考になったと思う。
 経営などについて学べたのでよかった。
 出席をあまりしなかったことに後悔している。
 学生の授業態度が悪い。ボランティア等で地域に出るきっかけをつくってくれた。
 自分の興味のある授業が多かったです。
 勉強しなくても単位が取りやすいものもあった。有り難い部分もあったが、学びの場であるからやらざるを得ない状況を作ることも必要だと感じます。
 スライドのすすめ方が早いことがあった。見にくいこともあった。まわりがうるさくても全然注意しない先生がいた。
 教授によって授業、課題の対応の仕方にムラがあり、こっちの授業は〇〇はいいがこっちの授業での〇〇はダメ、ということがあり困惑した。
 文字が見にくいと伝えても改善してくれなかった。座学だけではなく、色々な工夫がありおもしろかった。
 良い環境で学ぶことが出来たと思います。
 取りたい講義があっても必修とかぶってしまい、講義を受けられなかった。聴講がしにくかった。
 アウトキャンパスが多くできた所はよかったけど、もっと現場に足を運んで深く知りたかった(旅行業界について)
 全体的にとっても良かった。
 教授によって講義の行い方は様々であったが、良いと思える講義、悪いと思える講義両方があった。良いと思えた講義は、学生の意見を尊重するものであり、悪い講義は、教授が学生のことを考えず自分の考えをおしつける内容のものであったなとふりかえると思った。
 楽しかった講義が多かった。
 先生も親切な方が多かった。
 気になったのは、私語が多かったり明らかにやる気のない生徒がいたこと(もっと厳しくしてほしい)
 マナーの悪い学生がおり、授業がうるさかったり施設の使い方がなっていないと残念だった。
 幅広く知識を得られたため、いままで興味がなかったことも話を聞き関心を持つことができました。
 あまり集中して取り組んでいなかった。社会人になる上で、人の話を聞ける人間にならなければと感じる。
 野球部うるさい。
 アンケートを取ってそこを改善してくれる先生とそうでない先生の差があったと思う。
 自分自身の考えをきちんと持てるようになった。とても成長できた4年間であったと思う。
 満足です。
 専門的に詳しく充実して学べたのでよかった。悪かったことは、講義によっては90分ではなく30分で終わることがあり、30分のために授業料を払っていたと思うと残念だった。
 内容はとても満足しているが、授業中時々うるさいことが気になる。
 私語が多く勝手な人が見られる。
 学生時代に地域での学びを失敗しながら深めることによって大きく成長することができた。
 可もなく不可もなく。
 思っていたよりアウトキャンパスが少なかった。

健康栄養学科

先生によって授業方式が違うため、楽しい授業とつまらない授業で別れた。
 学生一人一人を見てくれている気がした。授業時間内に終わらない授業が多い。
 マイクやプロジェクターの不調が気になった。
 最初の頃は勉強の時間が短かったこともあり、なかなか理解できなかった。
 熱心な授業内容で良かった。アウトキャンパスのそば打ちが楽しかった。
 授業の組み方でうまくいっていないところがあったと感じた。3年の臨床系の授業はまとめてくれたことは学びやすかった。
 国試対策の授業をもっと早くやるべき(2年から)
 調理実習などの実習があり楽しかった。
 電車通学ができるというしながら、5限まで授業を受けると6時20分松本大学発の新島々線に乗れないことが不満だった。6号館のパソコンの調子が悪いことが多い。
 先生どうしのつながりが薄いと感じた。
 国試対策を強制的にしても良いと思いました。
 授業はとてわかりやすかったです。強いて言えば、貸し出しパソコンも、おいてあるパソコンも卒論提出が栄養科より遅いスポ科がみんな使っていて卒論に取り組むのに時間がかかりました。
 1〜3年までは必須の授業も多くて大変でしたが、専門的な知識を身につけることができ、就職や資格取得に向けて良いものだったと感じます。
 教員によって授業の充実感に大きく差がみられました。高い学費を払っているのに、授業の準備すら毎度のようにできていない教員もいて学年一同不満でした。
 先輩も困っているようなので対策してほしいです。
 あまりせまい教室だと圧迫感があって少し息苦しかったです。人数をみて、余裕のある広さの教室だと良かったと思います。
 実践的な授業が多く、入学前より学力がついたと感じた。
 3年生になるといろいろと覚えること、グループで取り組むことが多く、本当に気分が落ち込みストレスで暴れたりしました。2年生の授業に3年生の講義を入れることで少しは落ち着くと思います。
 再試験料をもう少し安くして欲しかった。
 授業アンケート等で直してほしい所を記入しても、それが直ってなかったり、ときどきやる意味を感じない内容の授業があった。
 学生の数が少ないので先生と学生の距離が近いところは良かった。
 教職の授業と学科の授業をかぶせないでほしい。
 勉強が難しくついていくのがやっとなで、一番取得しようと思っていた資格を取得するまでではできなかったが、大学という学生生活をおくれている面でも勉強になった。
 先生方の思いつきでふりまわされることが多くありました。
 当たり前ですが、全体的に難しすぎました。
 配布されるプリントには書いてあるが、教科書には書かれていないなど小テストを直す時が大変だった。
 一つ一つの規模が大きすぎないため、先生や友人と意見を交わすことが多くて良かった。
 栄養科は必修や専門科目が多いので、教養科目の卒業単位を取るのが大変だった。
 授業は非常に熱心に教えていただきましたが、私のやる気が欲しかったです。
 外国語の授業を取りたかったが、人数が少なすぎて開講されなかった。仕方のないことかもしれないけれど、その授業がとりたかったなと思った。
 アウトキャンパススタディなど、課外で学ぶことができたのは良かった。
 テストで先輩の過去のテスト問題が(生徒の間で)出回っていて不平等だと感じた。全く同じテスト問題では改善が必要だと感じた。(4年時)
 授業人数が多く、集中できない時が多々あった。
 他学科の学生がうるさい。
 1年次に基礎教育として、高校でも学ぶ生化学、生物があつて復習になりとてもよかった。授業がとてわかりやすかった。特論は先生方によりやり方があつと思うが、少し効率悪く感じる場面がいくつもあつた。
 先生の話す声が聞き取りにくいことがあつた。
 教科書だけではなく、プリントなども使ってわかりやすく授業をしてくれた先生もいた。
 授業だけでなく実習も充実していい良かった。
 先生間での連絡が不十分だったり、考えが同じでなかったり授業を受けていて、何を教えられているのかわからなくなる時があつた。
 国試の形式で専門科目のテストを行ったり、実習に向けての指導学習があつたり、座学と実践どちらも丁寧に指導されていて良かった。
 パワーポイントがみやすかった。
 資格に関する教科が重なっていることが多く、とりにくかった。

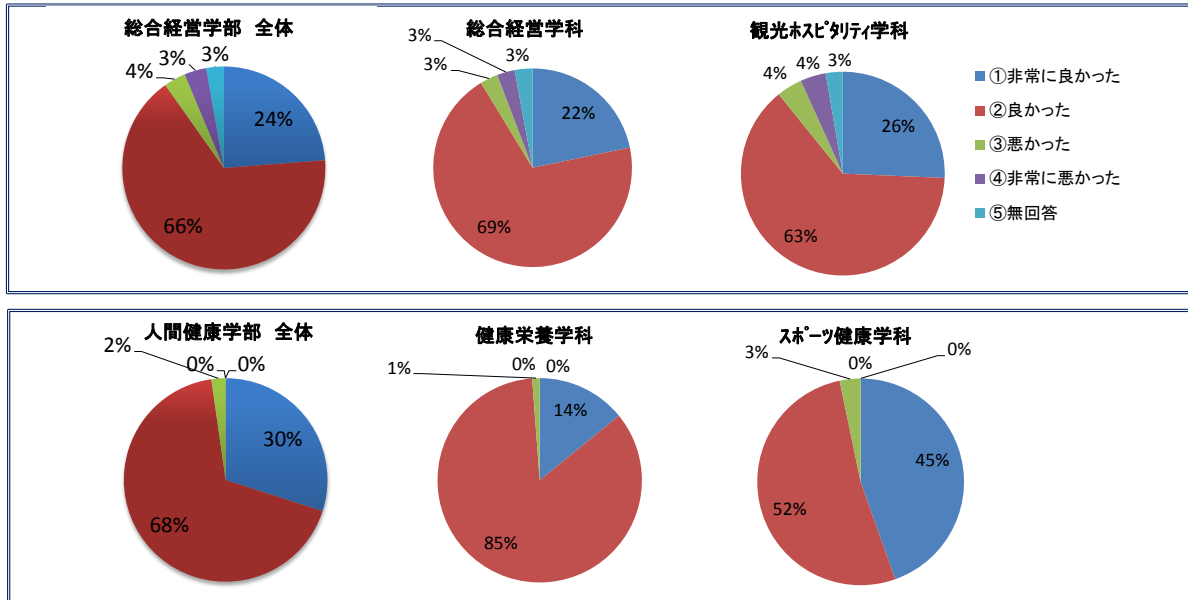
スポーツ健康学科

実技とか、実践的なものが楽しかったし、人前でしゃべることも身につけられたと思うのももっとやってほしい。
 良いことばかりしかありません。
 先生の教え方によって、興味がわくもの、わからないものがあった。
 良い先生方から様々な授業を通して知識を身に付けてさせていただきました。将来の財産としてこれから役立てていけるように更に知識を深めたいと思います。
 授業の受ける環境がよかった(差はあったけど)
 始めのうちは学校がめんどくさいと感じていたが、学年があがり学校にくるのが少なくなってきたり、授業がなくなるとときみしく感じるようになってきた。
 先生との距離が近い。
 スポ科は実技が多い事もあり、友達がたくさんできて良かった。
 先生によって差があつたが、充実した90分の授業が多かった。
 私語、授業環境が整っていない時があつた。
 人数が多い授業でわかりやすい先生もいたが、わかりにくい先生もいたので3つくらいに分けて授業をしてくれる方が良かった。
 学科差別を受けたこと(スポ科はうるさいなどの決めつけ)
 わかりやすい授業とわかりにくく授業の差が激しかった。
 ある意味やりたいことが見つかった良かった。
 授業環境が大変良かった。
 学習しやすい環境だったと思います。
 公欠がないのは痛い。
 教職の先生の対応は、相談に乗ってくれたりよかった。また、ゼミの先生にも大変お世話になった。
 スライドだけをただ先生が棒読みして全く頭に入ってこなかった授業があつた。
 熱意が伝わらないから。
 全体的にわかりやすい授業が多い。
 4年になって苦しい思いをしてしまった。
 テスト前など気軽に研究室に行けたこと。
 スライドを使うのは良いが、先生のペースで進む。スライドをただ読んでいる授業、理解ができない。
 大事なところがわかりづらい。
 教室が狭くてイスに座れず床で授業を行ったことがあるので配慮してほしいと思った。
 学生と先生の距離が近いので授業を楽しめた。
 スポーツ科の先生達の授業は比較的分かりやすかった。
 先生とたくさん会話できて良い。
 教室に人数が入りきらなかった時の対応が良くない。補講が多い。
 良かったところ・・・先生と学生の距離が近いので分からないところがあればすぐ聞ける。悪かったところ・・・スライドをただ進めるだけで、理解しにくい授業があつた。
 524の授業の時、後ろのコンセントの所で隠れてゲームをしている人たちをどうにかしてほしかった。
 集中してできる環境だった。
 スポ科の学生は元気だが、全体的にうるさい。特にうしろに座る人たち。
 もっとしっかり勉強するべきだった。
 専門分野が楽しかった。
 今までの授業で習ったことがこれからどう活かせるのか分からないので今はまだ何とも言えない。

質問9. 本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

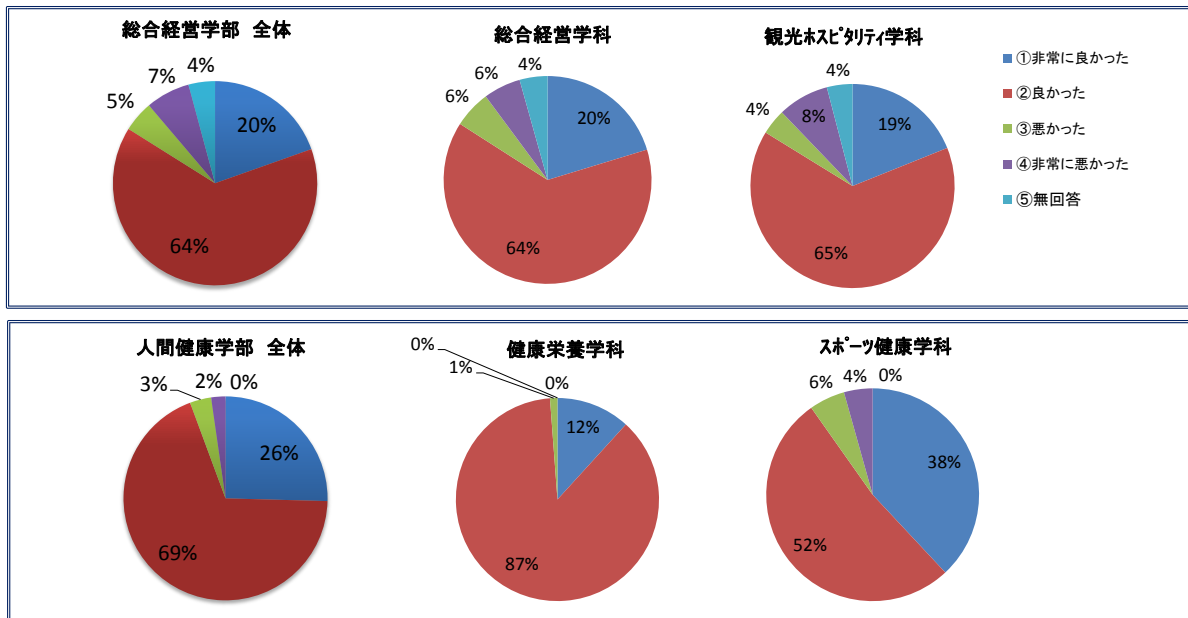
■教員

	総合経営学部							合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康					
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計		
①非常に良かった	13	2	15	11	8	19	34	1	11	12	27	14	41	53	
②良かった	39	9	48	16	31	47	95	12	60	72	26	22	48	120	
③悪かった	2	0	2	0	3	3	5	0	1	1	3	0	3	4	
④非常に悪かった	2	0	2	3	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	
⑤無回答	2	0	2	1	1	2	4	0	0	0	0	0	0	0	



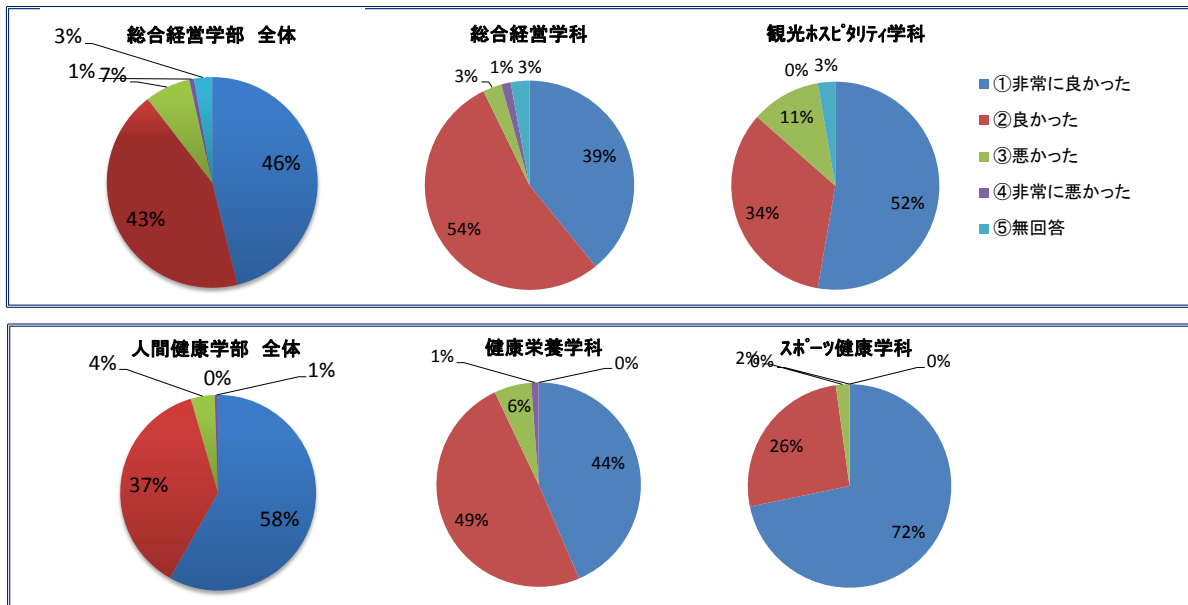
■職員

	総合経営学部							合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康					
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計		
①非常に良かった	11	3	14	9	5	14	28	2	8	10	22	13	35	45	
②良かった	36	8	44	16	32	48	92	11	63	74	28	20	48	122	
③悪かった	4	0	4	0	3	3	7	0	1	1	4	1	5	6	
④非常に悪かった	4	0	4	5	1	6	10	0	0	0	2	2	4	4	
⑤無回答	3	0	3	1	2	3	6	0	0	0	0	0	0	0	



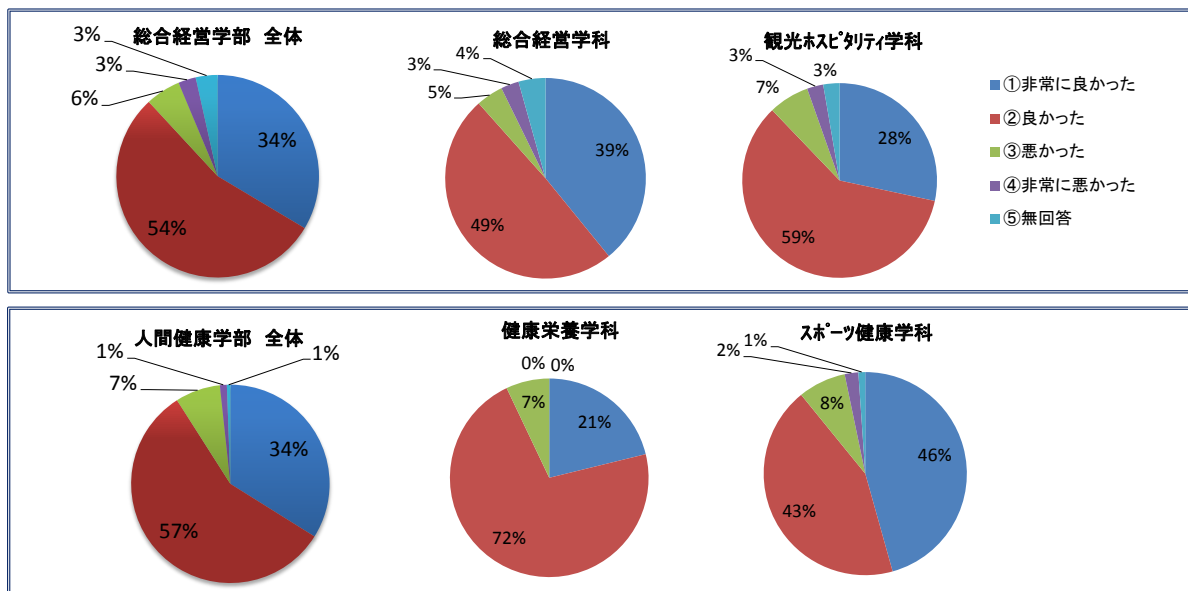
■ゼミ担当者

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	18	9	27	17	22	39	66	4	33	37	36	30	66	103
②良かった	35	2	37	13	12	25	62	9	33	42	18	6	24	66
③悪かった	2	0	2	0	8	8	10	0	5	5	2	0	2	7
④非常に悪かった	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
⑤無回答	2	0	2	1	1	2	4	0	0	0	0	0	0	0



■キャリア面談員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	20	7	27	11	10	21	48	2	16	18	30	12	42	60
②良かった	30	4	34	16	28	44	78	8	53	61	22	18	40	101
③悪かった	3	0	3	2	3	5	8	3	3	6	2	5	7	13
④非常に悪かった	2	0	2	1	1	2	4	0	0	0	1	1	2	2
⑤無回答	3	0	3	1	1	2	5	0	0	0	1	0	1	1



【理由等】

総合経営学科

ゼミやキャリアの先生方は就職時にともお世話になり、今の就職先につながるアドバイスをくれたから。
 いざという時に力になってくれた。
 学生課の対応が悪く不快に感じたことがある。(学生に対して接し方がことなりすぎ)キャリアセンターやゼミ担当にはとてもお世話になりました。
 ゼミの先生が熱心に指導して下さいました。
 単位くれない。
 どの方々も、親身になって接してくれた。
 ほとんどの職員の方が学生に対して優しくかったから。
 キャリア面談では、話しやすい雰囲気があり話していくうちに自分の気持ちが整理されとても良かった。
 就活の時にも助けてくれたから。
 就職についてたくさんのアドバイスをいただきました。
 全体的にグサイ。
 ゼミ担当の先生とキャリアの先生は、協力してくれた。
 就活の際にキャリア、ゼミの先生方には大変お世話になり、ありがたかった。
 分からないことを丁寧に教えてくださったり、たくさん迷惑もかけましたが、感謝しています。
 職員は、ルールや規律にしばられおり、新しいチャレンジを全くしない。
 講義の質問・学生生活の疑問・就職活動の不安をしっかりと聞いて下さり、感謝しています。
 みなさんとにかく真摯に向き合って下さり、大変心強かったです。最高の大学でした。
 時々態度の悪い人がいて不快だった。
 親身になって相談ののってくれた。
 就活の際は特にサポートしてもらったので、とてもありがたかった。
 一人一人をしっかりとみてくれて、個別に熱心に対応してくれた。
 相談などを聞いてくれたから。

観光ホスピタリティ学科

就職等の時にともお世話になった。
 疑問点や悩みがある場合、本気になって傾聴し受け答えして下さったから。
 先生には大変お世話になったから。
 キャリアの人達がしっかりとサポートしてくれた。
 皆様親身になって対応して下さった。
 適切なアドバイスを頂き成長できた点。
 先生はとても親切で一人一人の名前までおぼえてくれて、別の大学でないあたかさを感ずる。
 ゼミの先生には、大変お世話になった。
 親身に向きあっていただいた。
 キャリア面談員と面談するより、キャリアセンターの方と話す方が参考になった。
 しっかりと話しを聞いてくれた。
 ゼミ担当は相談しても、適切なアドバイスをしてもらえなかった。
 良い先生方が多かった。
 ゼミの先生は最高の先生でした。沢山話しを聞きました。色々刺激をうけました。卒論もありがとうございました。
 ゼミ担当者は、大学生活の中で大きな支えになりました。先生の活動に参加し人間関係や知識などが大きく広がったため。
 特にゼミの担当の先生には大変お世話になり、私の人生に大きな影響を与えてくれました。出会えて良かったです。
 ゼミの先生と、英語担当の先生方と話しが合った。
 全体的に良かった、悪かったの中間部分に当たると思うが、今思えばと良いアドバイザーだったと思う。
 学生課の対応があまりよくなかった。
 就活で親身になって相談ののってくれた(キャリアの方) ゼミ担当は、自分中心で相談しても的確なアドバイスが得られなかった。押し付けられている感じがした。
 丁寧に話しを聞いてくれたり、アドバイス等一緒に考えながら寄り添ってくれた。
 ゼミの研究室は大学生活での居所となり、人との関わりの拠点の一つになりました。ゼミ担当の先生から、東日本大震災のボランティアのお話をいただき関わる事ができたのは、大学生活の中で一番大切な経験で合ったと思います。
 教職員の方には恵まれていたと思います(私が)
 学生課の職員が生徒によって対応を変えているのが目についた。
 ゼミ担当者の感情の起伏が激しく、機嫌が悪い時にともお気を使った。
 キャリア面談の時間は(休日に行われる)私にとっては有意義な時ではなかった。具体的な目標が決まらなかったため、無駄な時間となった。
 キャリアセンターの職員からあまり専門的なことまで教えられなかったのが残念です。
 キャリア面談員の方には、親身になって面接の練習やアドバイスを頂きました。
 関わっていない。
 特に頼るようなこともなかった。職員のみなさんはもともと愛想よくしたほうが良いと思いますよ。生徒みんな言ってます。
 話を聞いてくれる先生と、聞いてくれない先生とバラつきがあった。
 困った時に何度も助けていただいたため。
 あまり関わっていない担当の人もいたが、接してくれる人は親密にしてくれた(主にゆめ)
 親密に相談できる相手がいなかった。

健康栄養学科

非の打ち所がない。
 キャリアの方は、とても熱心に就職のサポートをしてくれたから。
 困ったことも気軽に相談できたため。
 笑顔であいさつしてくれるから。
 困ったときは親切に丁寧に相談のしてくれるから。
 キャリア相談員は、人によって否定的なことを言われてしまったので少し嫌でした。
 学生一人一人と向き合ってくれました。
 熱心に指導していただいたため。
 授業での質問や就活など個別でも相談のしてもらった。
 ゼミの先生は悩み事を親身になって聞いてくれたり、勉強面でも何かと気にかけてくれていたので。
 教員との距離が近くて良かった。
 理解をしたうえでアドバイスをもらっていたので。
 ゼミの先生は、国試対策、就活などすぐ気にかけてくれてありがたかったです。
 就職活動で悩んでいるときも相談に乗ってくれる先生やキャリアセンターの先生がいて良かった。普段の学生生活でも声をかけてくれる事務の職員の方もいてうれしかった。
 キャリア面談で相手をしてくれる先生によって、良い場合もあれば悪い場合もあった。(悪い場合は特に悪かった)
 学生によって対応が違う人がいた。
 ゼミ担当の先生にはとてもお世話になり、相談しやすかったため。また、アドバイスも的確であったと思うため。
 特にゼミ担当の先生には多大なる迷惑をおかけしてしまいました。
 質問すれば納得するまで相談に乗ってくれた。
 キャリア面談は外部の人ということもあって、もう会うこともないと思いつても話しやすかったです。
 人間なので仕方ないかもしれませんが、ごくたまにうーん…と思う事はありました。
 就職のための支援がとても充実していてよかった。
 良かったというより普通でした。
 ゼミ担当の先生は良かった。
 ゼミ担当者は、主観を押しつけるばかりで、私の人間性なども否定されたこともあり悲しかったです。自身の研究を優先し学生を後回し。ということもしばしば。
 教員は、自分の考えを学生に押しつけたり、いかにも学生のためだという体で思いつきや意味のないことをやらせていたように感じた。
 親とは違う客観的な目線で就活等の相談のってくれた。
 キャリア面談では、学内の人には相談しにくいことや3~4年では就活の自己分析についてもお話を聞くことができ良かったと感じました。
 人間健康学部の先生以外の先生にほ、メンタル面でとてもお世話になった。
 4年や3年になって一気に先生方と親しくなれるようになった。
 自分のことを覚えていただき、うれしかった。
 臨地実習のサポートは心強かった。

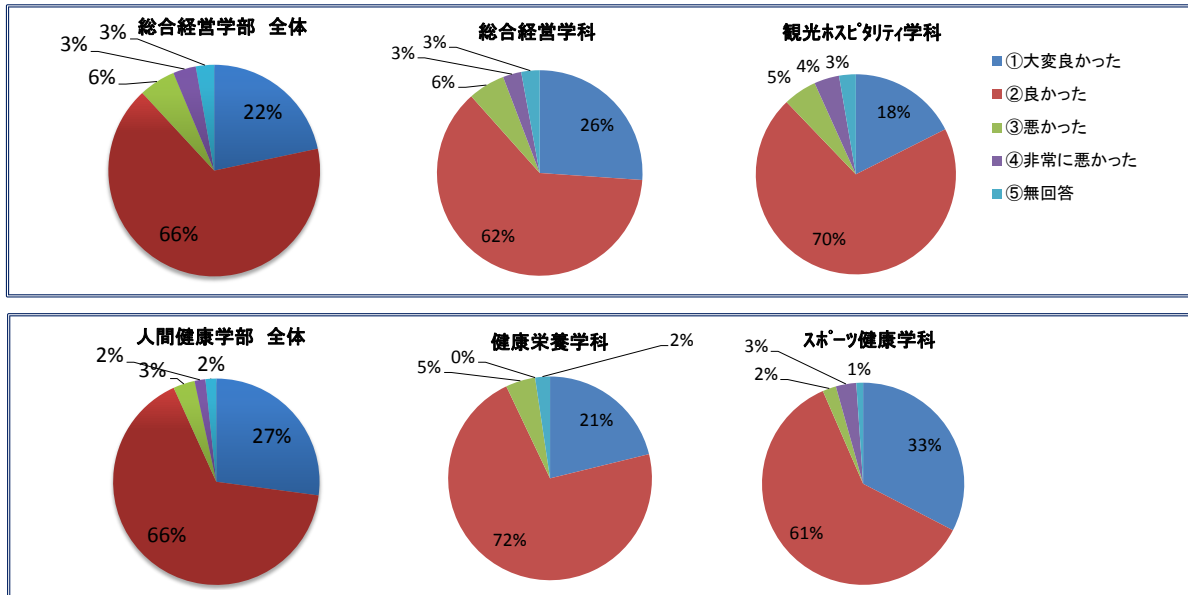
スポーツ健康学科

距離が近くとても話しやすかった。
 キャリア面談は何のためにもならなかった。
 ゼミの先生は本当によかった、ありがとうございました。
 親身になってくれた。
 自分から助けを求めればそれに答えてくれる方たちばかりだったから。
 先生方から声をかけていただいたり、相談ごとにも親身になって答えてくれた。
 親切に対応してくださった。
 様々な活動に参加させていただく中で、たくさんの方々に関わりお世話になりました。
 的確なアドバイスをくれたり、職員の方は話かけてくれたりしてうれしかった。
 ゼミの先生には大変お世話になりました。ゼミが本格的に決まった3,4年は本当に充実した大学生活になりました。尊敬できる先生の元で勉強させていただいたことを感謝しています。また、就職活動等でもキャリアの方々にお世話になりました。
 キャリアの面接練習は非常に良かった。自信のない私に自信をつけてくれるアドバイスをいただきました。しかし、キャリアの人の強制感はいやだった。
 ゼミの先生には熱心に相談のっていただいた。
 わからないことに対して対応してくれた。
 教職員との距離が近く、相談がしやすかったから。
 就職や実習など様々な面でサポートしてもらえたから。
 親身になって相談に乗ってくれらから。
 キャリアは個人差を感じられた。
 1人1人しっかりみてくれた。
 やはり人により自分をしっかり見てくれる人と見てくれない人もいる。一くりにしないでほしい。
 とてもはげまされたし、サポートしていただけだと思う。
 親身になってアドバイスをしてくれた。
 困ったときには助けていただいた。
 キャリアセンターはとても大事だと感じました。
 キャリアは特に親身になり就職活動を支援してくれた。
 いつでも気にかけてくれて相談しやすかった。
 学校全体に相談できる人が多くいた。
 教員、ゼミ担当者から特にアドバイスをもらわなかったから。職員、キャリア相談員はよくアドバイスをもらったから。
 優しく丁寧だった。
 就活の時に熱心に指導してもらった。
 ほとんどのの方が良いアドバイスをして頂いた。
 自分を心配してくれたり、助けてくれることが多かったので。
 相談のってくれた。
 ゼミでは分からないことを気軽に相談できた。
 教員、職員は良かった。キャリア面は、とても良いサポートをしていただきました。
 悩みの解決や、自分の方向性を示してくれたため。
 教員が学生に対してとる態度が違う。人間だから好き嫌いあるがもっと平等に接してもらいたい。キャリアの方々にはとてもお世話になりました。
 細かなことなどよくサポートして頂いたと思います。
 生徒のことを考えた指導を行ってくれた。
 全ての方々に大変よくしていただきました。

質問10. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていっています。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。

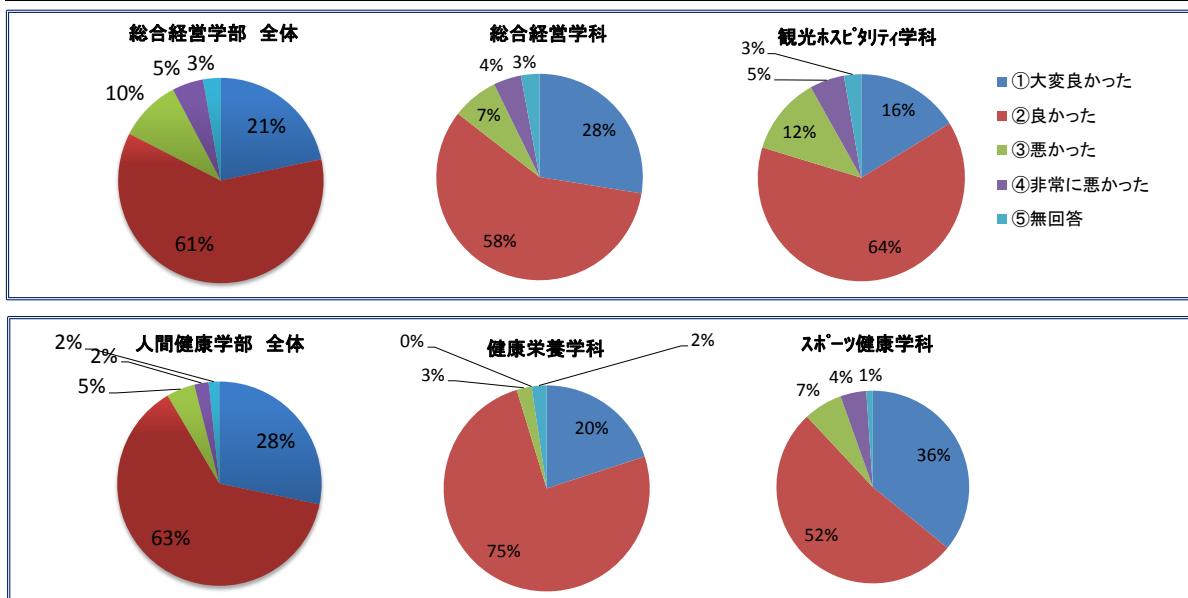
■サポートの程度

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	13	5	18	7	6	13	31	3	15	18	21	9	30	48
②良かった	37	6	43	20	32	52	95	9	52	61	31	25	56	117
③悪かった	4	0	4	0	4	4	8	1	3	4	1	1	2	6
④非常に悪かった	2	0	2	3	0	3	5	0	0	0	2	1	3	3
⑤無回答	2	0	2	1	1	2	4	0	2	2	1	0	1	3



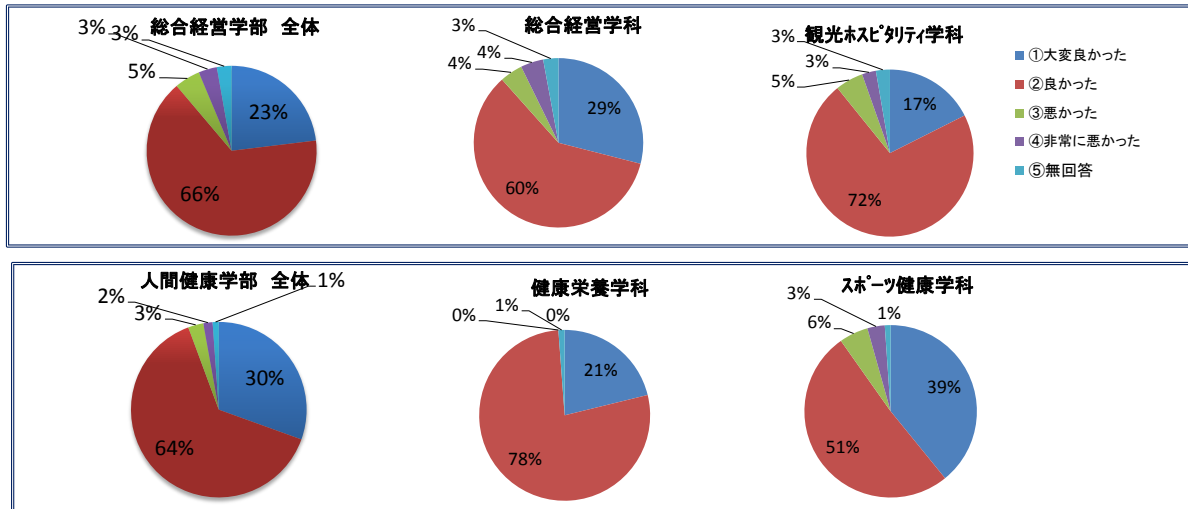
■対応の仕方

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	15	4	19	6	6	12	31	1	16	17	20	13	33	50
②良かった	35	5	40	17	30	47	87	11	53	64	29	19	48	112
③悪かった	3	2	5	3	6	9	14	1	1	2	4	2	6	8
④非常に悪かった	3	0	3	4	0	4	7	0	0	0	2	2	4	4
⑤無回答	2	0	2	1	1	2	4	0	2	2	1	0	1	3



言葉遣い

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	16	4	20	6	7	13	33	3	15	18	22	14	36	54
②良かった	34	7	41	20	33	53	94	10	56	66	27	20	47	113
③悪かった	3	0	3	2	2	4	7	0	0	0	4	1	5	5
④非常に悪かった	3	0	3	2	0	2	5	0	0	0	2	1	3	3
⑤無回答	2	0	2	1	1	2	4	0	1	1	1	0	1	2



【事務職員に改善してほしい点、要望】

総合経営学科

学生課にわからないことを聞きにいったときに雑な対応はやめてほしい。
1,2年の時学生課の態応がクソだったから変えるべき。
予定などがまだはっきりしていないことがあったので早めに知れたかった。
ABCすべておよび保守的などころ。
とてもすばしかったです。
もう少し対応を丁寧にしてもらいたい。

観光ホスピタリティ学科

ムダな所に金を使っている。
問題の解決のサポートを最後まで行ってほしかったことがありました。
マニュアル通りの対応。
教務課は苦手。
学生課とかある所、冷暖房やりすぎ、他の教室規制する前に学生課のとこどうにかして。
キャリアがあるのは素晴らしいと思う。
学生課の対応は、上から目線で言われたりするのが嫌でした。
基本的には良かったが、時々雰囲気冷たい方がいました。
事務職員の改善より、教授サポートの改善をした方が良くと思う。
少しつこい。
学内の行事などきちんと把握しておいて頂き、教室状況等に変更があれば早めに連絡をしていただきたいです。
同じ課でも人によっておっしゃることが異なるが多かったので改善してほしいです。
親切で有り難い。
もっと臨機応変に対応してほしいです。
関わっていない。
キャリアセンターや教務課の方には大変お世話になりましたが、みんな快く対応していただきました。
全体的に愛想が悪いため話す気になりません。学生をバカにしている感じがしました。正直悲しいです。
学生と同じ目線に立ったらいい。
キャリアセンターはもう行きたくないと思った。
事務員によって対応に差がある。言葉使いが不満に思う人もいた。

健康栄養学科

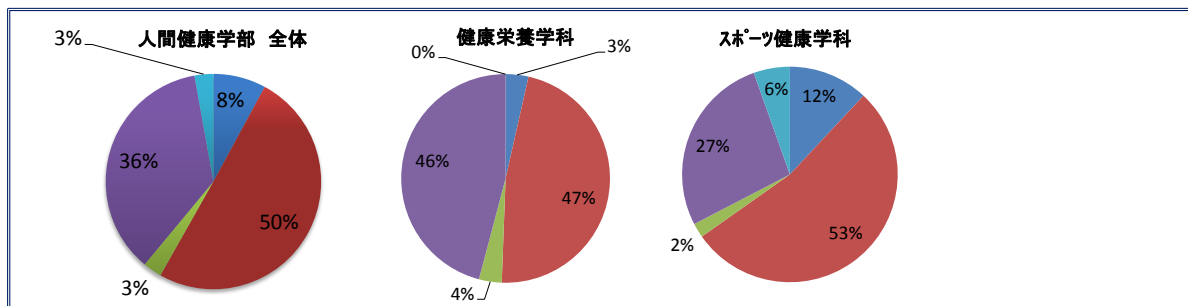
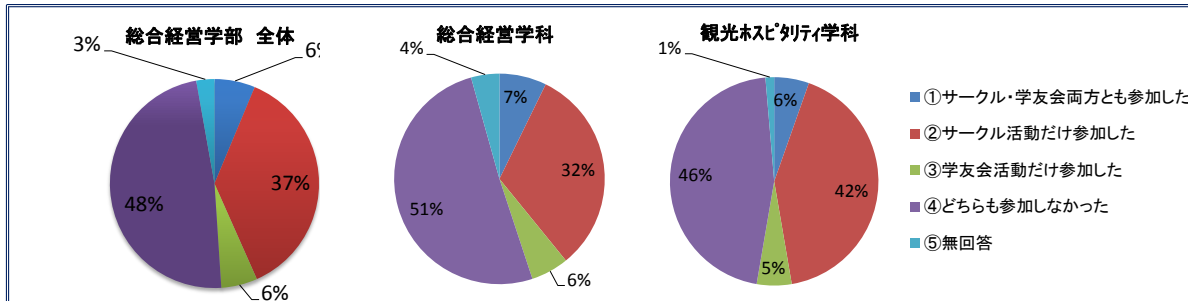
連絡がギリギリになることが多かったような気がします。
休学、休校の連絡を学校に着前にしていただけたらよかった。
こちらがあまり硬くならない程度の緊張感で接してくださるとてもよかったです。
もう少し笑顔でいていただきたい。
とても良い対応でサポートしていただきました。
学生課では、栄養科の教員暴走を止めてほしかった。
職員によって偉そうだったりあまりいい印象をもたない人もいた。学生課にはあまり良い印象はないが、教務課はいつも対応が丁寧で用があっても苦にならない。
言葉遣い、親身さがほしい。
もう少し明るく接した方が良く思う。
ほぼ利用していないので分かりませんが、威圧感をどうにかしてください。
いつも親切で丁寧に対応して頂けてよかったです。
キャリアセンターに利用しずらさを感じた。また、就職のサポート(授業含め)も職員と学生の間に理解の差があった。
雪かき。

スポーツ健康学科

不在のとき、教員のと一緒にのつけてほしい。
部活動によって差別や暴言を言われたので、そのようなことはやめてほしい。
連絡が基本的に遅い。計画立てにくかったから困ることが多かった。
いつも大変親身になって下さり、嬉しかったです。ありがとうございました。
もっと自分の仕事を理解すべき。
資格に関わる講義の説明のし忘れを無くしてほしい。
上から目線。
学生課の人の仕事に対する意識が低すぎてびっくりしました。
ありがとうございました。
人によって温度差あり。
たまに人がおらず対応してもらえない時があった。
親身になってくれた。
大事な連絡を早めにしてほしい。
遠出から朝早く来る人のことを考えて、緊急の連絡をもっと考えてほしい。
人を差別しないでほしい。対応が違いすぎる。
気分が悪くなる点があった。
事務職員からのメールが間違えて送られてきた時に言いに行ったらなにも謝罪の言葉がなかった。

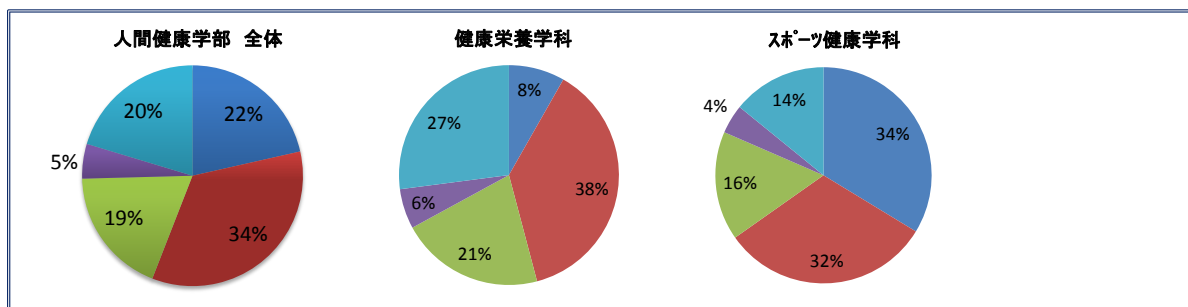
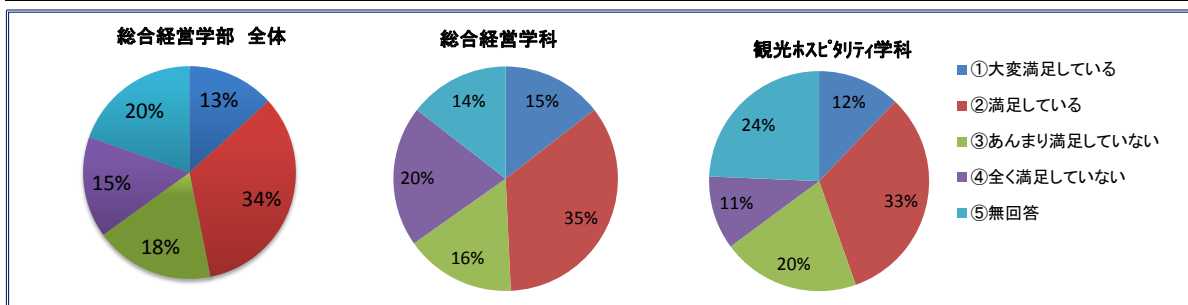
質問11. あなたにとってサークル活動や学生会活動はどうでしたか。

	総合経営学部							人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①サークル・学生会両方とも参加した	3	2	5	3	1	4	9	1	2	3	7	4	11	14
②サークル活動だけ参加した	17	5	22	14	17	31	53	4	36	40	27	22	49	89
③学生会活動だけ参加した	4	0	4	1	3	4	8	1	2	3	2	0	2	5
④どちらも参加しなかった	31	4	35	12	22	34	69	7	32	39	17	8	25	64
⑤無回答	3	0	3	1	0	1	4	0	0	0	3	2	5	5



質問12. あなたはサークル活動は学生会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	総合経営学部							人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	7	3	10	3	6	9	19	2	5	7	22	9	31	38
②満足している	19	5	24	11	13	24	48	3	29	32	14	15	29	61
③あんまり満足していない	10	1	11	7	8	15	26	3	15	18	8	7	15	33
④全く満足していない	13	1	14	4	4	8	22	3	2	5	4	0	4	9
⑤無回答	9	1	10	6	12	18	28	2	21	23	8	5	13	36



【理由等】

総合経営学科

多種多様なサークルがあり、地域の方とも貢献できた。
 団結力にかけていた。
 違う学部の人と仲良くなれた。
 楽しかったから。
 参加していないから。
 まったく参加しなかった。
 とくに活動に参加していなかった。
 様々な活動から交友関係も多様になっていき、自身の見識も広がったと思うので。
 サークルにも入っておけばよかったかなと後悔している。
 ゆるいサークルが少ない。
 どちらもやってませんでした。
 大学の強化部として学校側もしっかりバックアップしてくれた。
 周りが学部が違う人しか居なかった為。
 サポート不足。
 やりたいことできなかった。

観光ホスピタリティ学科

あまり納得のいく結果でなかったから。
 「同好会」が欲しいと思う時はありました。
 楽しく活動できた。
 参加していません。
 不活発であったため。
 体制が整っていなかった。
 活動を行うことにより、生活の幅が広がった。
 サークル活動をして交友関係が広がった。
 サークルのみ参加。自由に出来ることで新たな楽しみの発見ができた。
 ある程度楽しく出来たと思う。
 自分の能力を高められた。
 入学時はサークル活動等に参加していたが、辞めてしまいました。活動がグダグダしていました。
 この1年、活動者がほとんどいなくなってしまったのが残念。
 指導者がいたら大会上位を目指せた(いなかった)ただ、楽しくやりたい人にとってはいいサークルでした。
 サークル活動らしい活動をあまり行うことができなかった。
 自分の満足する活動が出来なかった。
 色々問題があったので。
 大学1年のときにゼミごとに選出されて学友会に参加しましたが、何もできなかった。
 学内のためにいろいろ考えてくれていたので。
 友人と集まれる場だったから。
 大学2年までサークル活動は行っていたが、学べることも多かったため満足はしている。
 部活の先生とメンバーが優しかった。
 先生、仲間に恵まれて充実した活動になった。
 学内の活動だけでなく、学外でも活動する機会を与えてもらったから。
 部活楽しかった。中学から剣道をやっていた。

健康栄養学科

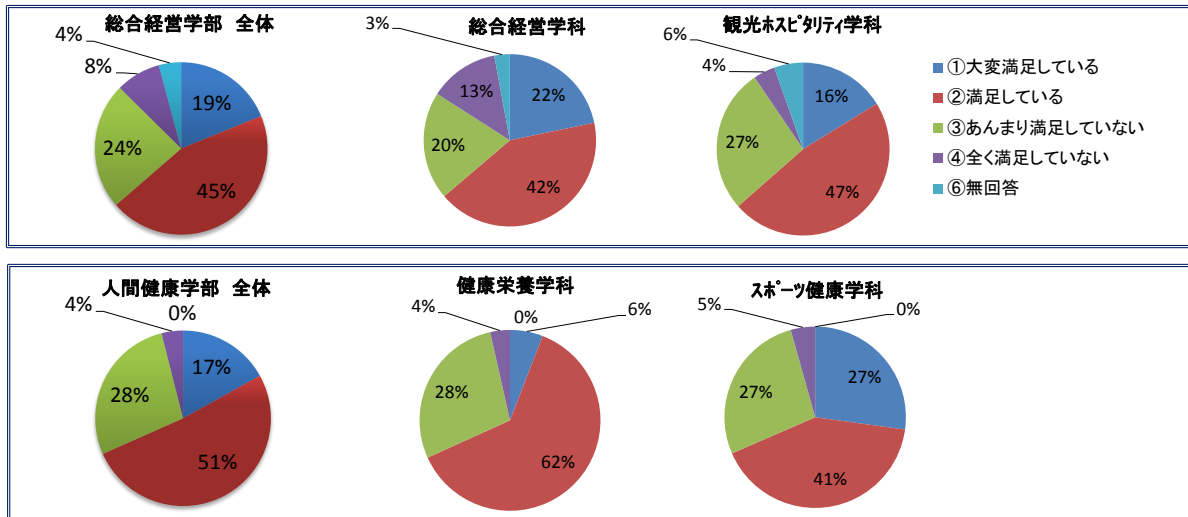
どちらも参加していない。
 お互いに刺激しあえる学友に出会えました。
 友達ができた。
 顧問は非常勤講師でも良くしてほしい。
 あまり周りになじめなかった。
 サークルに入っていないため分からない。
 あまり参加していない。
 男女、先輩後輩問わず仲良かった。
 活動を通して、交友関係が非常に広がりました。
 あまり入りたいサークル活動がなかったため。
 他の学部や学科の人と知り合い、交流ができた。
 自分がやりたい活動でも講義と重なってできない。
 絶対に大会に出場しろという決まりがなかったため、楽しく好きなきときに参加できて良かった。
 息抜きになり楽しかった。
 華道部や茶道部が短大主体であって、全く参加できなかった(必修とかぶっていた)学祭が楽しかった。
 長く付き合うことのできる友人ができ、自分の視野が広がりました。
 マツナビに参加できて成長した。
 顧問の先生、学生課の方々のサポートのおかげで有意義な部活動になった。
 部活動はいいリフレッシュになった。他の学部の友達も増えた。
 種類が少ないと思った。
 サークルに入ったが、途中から勉強等が理由で行かなくなってしまった。
 他学部の友人ができたのはよかったが、部の雰囲気が大嫌いだった。
 授業が忙しくてあまり参加できなかった。
 いろいろ大変だったから。
 機材が充実している。

スポーツ健康学科

自分なりの目指していた部活にはならなかったが、頑張ったと思う。
 部活も学友会も積極的に参加し、とても充実した。
 部活動を行うにあたっていい環境ではなかった。自分たちの都合で練習を十分に行えなかった。
 充実感がなかったから。
 サークルの指導のあり方に大変不満でした。
 参加していない。
 休日の体育館使用で、学生課とうまく調整があわないうことがあったので、改善した方がいいなと思いました。
 学友会イベントの呼びかけがイマイチのため、終わってから気づく。
 ずっと続けてきた競技を大学でやめずにすんだから。
 何にも参加していなかったから。
 4年間充実してたから。
 学校の体育館で満足な練習ができなかったが、いろんな部活にゆずってもらいながらできた。
 サークルをゼロから立ち上げて、とても良くサポートしてもらったから。
 体育館が小さい。
 楽しくできた。
 参加していないので何とも言えない。
 部活動に強化部などの差別があると思う。
 きちんとお金も出るので活動の幅が広がった。
 充実した生活が送れました。
 入っていない。
 よかった。
 部活動では日々勉強の毎日で充実したものだだった。
 4年間通して成長できたと思うから。
 部活動を通じて大切な仲間ができた。
 チームメイトと仲良くなれた。
 4年間きびしかったが楽しかった。続けてこれてよかった。
 サークルは学校生活の中で特に頑張ってきたから。
 楽しく活動できた。
 ほぼ毎日部活であまり自分の時間が持てなかった。
 良い仲間と出会えた。
 学生の飲食やタバコが多く、マジメに練習する人が多く、イヤになってやめてしまった。
 交友関係が広がった。
 様々なことがあったから今の自分がある。
 バドミントン部でしたが、同学年と仲が悪かった。部の方針で意見がわかれてしまったため。

質問13. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、トレーナー室、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①大変満足している	12	3	15	6	6	12	27	1	4	5	17	8	25	30
②満足している	24	5	29	11	24	35	64	4	49	53	20	18	38	91
③あんまり満足していない	11	3	14	8	12	20	34	6	18	24	16	9	25	49
④全く満足していない	9	0	9	3	0	3	12	2	1	3	3	1	4	7
⑥無回答	2	0	2	3	1	4	6	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

総合経営学科

いつでも自由に使用できる。
 駐車場は料金を払うのがいやだった・・・
 PCは非常によく利用して便利だった。
 駐車場がどう見ても空いているのに満車になって入れないときがありました。
 駐車場の料金が安い。
 駐車場無料にするべき。
 体育館とかもっとふやしてほしかった。全然使えなかった。
 駐車料金が発生しているから。
 駐車場が広い。
 グラウンドなど、使用がソフト部などに限られていたため。
 駐車場の料金が安い。料金が高すぎました。
 星新一の本がもっと欲しかった。
 高い。日曜日に使えない。
 利用しやすい環境だった。
 便利だったから。
 とくに非がなかったので満足している。
 物がきれい。
 駐車場は、無料開放するべき。
 全体的に充実していたと思います。
 コンピューター室はたくさん利用した。
 何ひとつ不自由なく生活できた。
 ケチだから。

観光ホスピタリティ学科

講義中にキーンという音がうるさかった。
 施設・設備が整っていたため。トイレのウォシュレットを多くしてほしかった
 各施設がせまい。
 すばらしいと思った。
 もっと新しいパソコンを入れてほしい。
 施設が多岐で使い勝手が良かったため。
 パソコンが古く、動きが遅いところがあった。
 トレーナー室は、制限ルールがあり使いづらかった。
 それぞれの施設の中がうるさい。トレ室に関しては中でボールけったり真面目にやっている人のじゃまが多い
 駐車場の高い。
 あまり使うことがなかったのによく分からないが、パソコン室は使いやすかった。
 駐車場代金が正直めんどろだった。
 駐車場のマナーが悪すぎる。スペース以外にとめている。
 パソコン室や常時空いている部屋があったのでたくさん活用させていただきました。
 体育館等使用していいものか分からず使いませんでした。残念。
 駐車場の料金が安く、朝に混み合うことが多かったため。トイレのジェットタオルがずっと使用不可であったため設置した意味がない。
 パソコン使えるのは便利。
 冷暖房の機能が悪い。
 自転車置き場の放置自転車、バイクが多い。
 スライドの不具合で授業に差支えが出たことが多い。
 値段が高い。一部の生徒しか使えない使いにくい施設。
 トレーニングルームを利用しました。
 キレイでとても使いやすかったです。
 Wi-Fiを使える場を増やしてほしい。
 ライトアップなどの無駄なことはやめてその分学費をへらしてほしいと思った。
 コンピューター室のパソコンは年々新しいものになっていますが、7号館やゆめのパソコンは古いままでした。
 施設がきれい。
 気軽に使え、設備も充実していたのでよかったです。
 コンピューター教室は、予定では使用していないはずの教室で授業をしていたりすることがあったが、ドアをあけるまで中が見えないので「授業使用中」などの札をかけてくれたほうがよかったです。
 清潔できれいだったので。

健康栄養学科

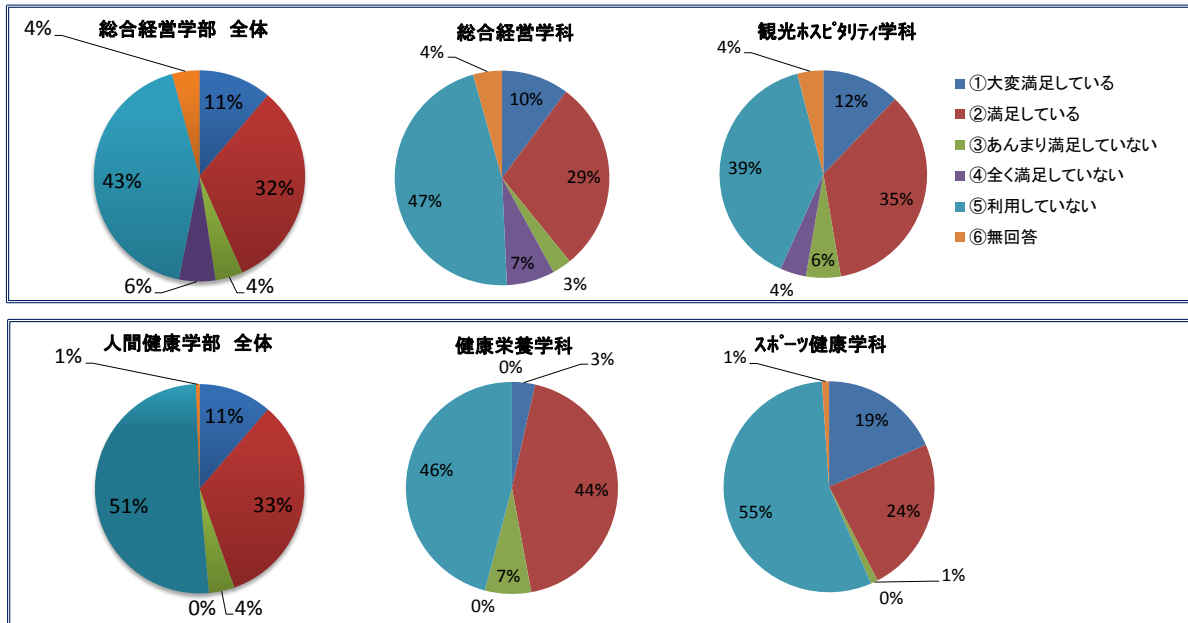
ごみが気になる。
 使用する際に困ったことがなかったから。
 体育館にあるボールも使用できると利用しやすいと感じた。
 駐車場が有料である理由がわからない。有料のため近場の住民に迷惑な駐車がおきる。学生証を用いたIC読み込みになれば問題ないと思われる。あと、電鉄の料金が安い。大学側からもっと要請するべきであると思う。料金が安いからキセル乗車もおこるのではないのでしょうか。グラウンドなどのごく一部の人が使う所でなく、6号館の設備など多くの人が利用する所にお金をかけるべき。
 PCの入れ替えを行うのは良いが、他の無駄な資金をPCなどの備品に使った方がいい。
 グラウンドは部活動をしていない人は使ってはいけないような雰囲気があった。
 6号館のPCがイマイチでした。
 駐車料金が高すぎる。他校では料金が発生しないところがあるため。
 駐車スペース以外にとめている車が多くてじゃま。
 コンピューターの調子が悪かったり起動が遅くて困るときがある。
 トレーナー室は栄養科だと使いづらい。
 トレーナー室？の講習会を受けないと利用できないので、いつ講習会を開いていたのか知りたかった。
 駐車場がまだ何台か止められるのに、満車になっているときが何度もあった。
 大きくて良いとは思いますが、ムダに広すぎるとおもうこともありました。
 パソコンやプリンターがつながりにくかったり、壊れていた。自動ドアはうれしかった。
 コンピューター室が夜中も開いていたらありがたかったです。
 きれいで使いやすかった。
 トイレの温風機能を使えるようにしてほしい。
 最新の設備を利用することが出来て大変よかった。ソーラーパネルの導入は生徒の意見も訊くべきだった。
 一定の人しか利用できないような空気。
 勉強できるところが少ない。
 駅までの道に街灯がほしい。暗くて怖い。
 貸し出し用のノートパソコンをインターネットにつなげられるようにしてほしい。
 駐車場の整備をもっとしっかりやってほしい。コンクリートがはがれていたりして危険なところが長期間補修されないときがあった。

スポーツ健康学科

6号館にパソコンを増やしてほしい。2Fのパソコン寒い。
 トレ室の道具を増やしてほしい。
 駐車所の不備が多かった。年間のお金を払っているのだからちゃんとしてほしい。
 駐車場代をとらないでほしい。
 駐車場の料金につきましては、もう少し安くしていただくか無料でもいいのではないのかなと思いました。ご検討お願いします。
 もっと自習ができるようなスペースがほしかった。
 駐車場の料金が安い。
 駐車場は満車じゃないのに満車が点滅するのを改善してほしい。
 施設がきれいでもきれいなのはすごく良いが、駐車場が無料でないのが不便。他の大学(県内)はお金をとらないのに。
 施設、設備は整っていて良かったですが、駐車場の料金は高すぎるし、印刷機がこわれやすかった。
 コピー機の故障が多いのが気になった(6号館)
 どの場所もきれいで活動しやすかった。
 使いたいときに自由に使えたから。
 トレ室のマシンを増やしてほしい。
 2010年とおそらく同じ施設費を払っているのに、ジェットタオル、スポーツ健康のエレベーター使用禁止、システム上の不具合で使用できないコピー機の対応など不満があるため。
 グラウンドの割りあてをしっかりとしてほしい。
 印刷機が使えなくなるときが多かった。
 駐車場料金。
 なぜ学生から駐車場料金をとるのか分からない。
 体育館が小さい。
 駐車場はしっかり雪をかいてほしい。
 とても良いと思う。
 積雪時の駐車場の対応に満足していない。駐車料金を取っているならそれなりの対応をしてほしい。
 よくPC室を利用しました。特に問題もなかったので満足しています。
 充実していた。
 施設が広く充実している。
 毎日いきたくなくらい設備がよかった。
 駐車場、トレーニングルームが狭い。
 トレーナー室は小さいし、学食や生協の小ささは改善した方がよい。
 パソコンが多くて良い。
 コンピューターの起動が遅い。
 昼間のトレーニングルームをもっと使いやすくしてほしい。
 駐車場に関して、料金が高すぎる割にシステムが低レベル。
 施設、設備は良いとして、駐車場料金は不親切、法外と感じた。
 雪かきをしてほしい。駐車場にしっかりとお金を出しているにもかかわらず、地面に穴があいていたり、雪かきをしてなかったりしっかりとしてほしい。
 火曜日、バドミントンと軽音が一緒だったのだが、普通に考えて大音量の中ではできない。分けてほしい。

質問14. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房等)に満足しましたか、満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	総合経営学部						人間健康学部							
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	4	3	7	2	7	9	16	0	3	3	13	4	17	20
②満足している	17	3	20	8	18	26	46	2	35	37	14	8	22	59
③あんまり満足していない	2	0	2	1	3	4	6	1	5	6	1	0	1	7
④全く満足していない	4	1	5	3	0	3	8	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	28	4	32	16	13	29	61	10	29	39	27	24	51	90
⑥無回答	3	0	3	1	2	3	6	0	0	0	1	0	1	1



【理由等】

総合経営学科

社会活動をとても幅広くやっている。
 ゆめの活動に参加し、大学でしかできない体験ができた。
 行くと親身に受け答えしてくださった。
 やる気あるのか？
 職員が丁寧に対応してくださった。
 行く期会が無かった。
 しっかりとサポートしてくれたから。
 サポートセンターを利用して自分自身成長できたと思う。
 なんちゃらこうぼう夢って何？？
 興味なかった。
 期会がなかった。
 良いサポート体制です。
 地域づくり考房の必要性を感じませんでした。

観光ホスピタリティ学科

ゆめにはとてもお世話になったから。
 国際交流ができた。
 あまり行ったことがない。
 気軽に入りやすかった。
 地域づくり考房「ゆめ」では、沢山の経験ができ、色々な出会いを体験できた。が、大学が「地域貢献」に力を入れている割に設備がずさんで使い古したものばかりであった。
 考房ゆめに4年間所属し、活動に参加しました。地域と関わるきっかけになり勉強になりました。
 他では経験できないことをたくさん行うことができたので。
 職員の方々や周りのメンバーが親切でした。
 先生方がこやかだった。
 使用していない。
 わからない所はわかるまで教えてくれたり工夫された教え方をしてくれたので。

健康栄養学科

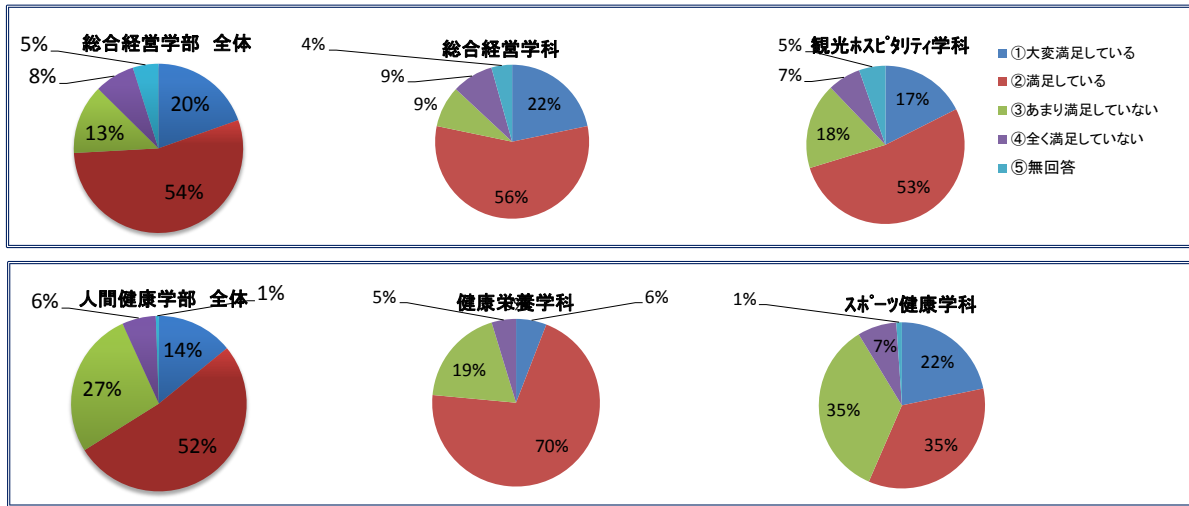
見えない壁を感じてしまいます。
 利用しようと思わなかったから。
 基礎教育センター等、熱心に教われたため。
 教養を学べてよかった。
 就活等で助かった。
 地域貢献活動に参加することで社会人になるための力がつきました。
 自分がやりたい活動というより、先生に言われてやっている感じがしてきてしまったため。
 地域づくり考房のプロジェクトで有意義な活動ができたため。
 機会、時間がなかった。
 基礎教育センターが利用しにくい。
 1~2年の時、考房ゆめで行った活動がその後の就職活動や生活に活かすことができたため。
 忙しかったが、たくさんの経験ができたのでよかった。
 スキルがあがった。
 地域の方たちとコミュニケーションをとることができたので良かった。
 教育センターの人は本当に一生懸命教えようという気持ちが伝わってくる。
 SPIの対策ができてよかった。
 基礎教育センターの10分間テストは、就活の際にとっても役立った。

スポーツ健康学科

きっかけがなかった。
 教育センターに行った時、丁寧に教えてもらったから。
 行く目的がない。
 資料が豊富。
 自分でがんばってみたいかった。自分で外で行動してみたかった。
 勉強を丁寧に教えてくれた。
 キャリアセンターではよく相談にのってもらいよかった。
 自分の要望に応じてくれているから。
 利用していないから分からない。
 基礎教育センターのみ利用したが、分かりやすい指導で理解が容易と感じた。

質問15. あなたは食堂(フォレストホール、カフェテリア)、購買部に満足しましたか、満足しませんでしたか。その理由や要望など

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	12	3	15	6	7	13	1	4	5	14	6	20	25
②満足している	32	7	39	7	32	39	8	52	60	14	18	32	92
③あまり満足していない	5	1	6	11	2	13	19	2	16	20	12	32	48
④全く満足していない	6	0	6	5	0	5	2	2	4	7	0	7	11
⑤無回答	3	0	3	2	2	4	0	0	0	1	0	1	1



【理由等】

総合経営学科

どのメニューもおおいしく安く良い。
 フォレストホールの席が少なすぎて、学食を食べられないときがあった。
 学食メニューが多くて良いと思う。席数がもっと多い方がいいと思う。
 もう少しメニューを増やして!!! 席を広くしてほしい。(増やしてほしい) 安かった。
 フォレストのおばちゃんの接客が悪い。
 食堂がせますぎ。
 みんなとあそべたから。
 色々売ってる。
 席が少ない。
 お昼毎回利用してました。おいしいご飯ありがとう。
 安いし、おいしかったです!
 商品にはらつきがある気がする。
 ごはんがおいしいです。
 学食は安くおいしいメニューが多く、従業員も感じがよい。購買部はもっと品ぞろえが充実していればよかった。
 食堂のメシはまずかった。ラーメンに固いものが入ってて歯が折れたところがある。
 値段もリーズナブルで味もいい。
 高い。
 良かったと思う。
 メニューも多く美味しかった。
 体にいいような物をたくさん作っている。

観光ホスピタリティ学科

安かった。
 場所により、少々、息苦しい所があったため。
 使用していません。
 せまい。
 食堂が少し値段が高い。
 食堂の座席数の少なさが気になった。
 明るい対応をされていたため。
 値段が高い。
 生協は健康に気を使ったお弁当を売ってほしかった。
 食堂のご飯おいしくない。
 時々利用すると楽しい。
 あまり使用していない。
 混んでいる時は大変ですけど、比較的会計はスムーズでした。商品は お弁当とかすぐなくなっちゃうのが残念。
 7号館の購買が閉まるの早くて不便だった。
 食堂の料理をおいしくて欲しい(あたりはずれが激しいので)
 生協はもうちょっと安く良いと思います。
 台拭きの貸し出しがあるとうれしい。机が汚れている時があります。
 お弁当が入る時間が遅い。はし、ビニール袋などを置く場所をレジの横 にしてほしかった。(はしの取り忘れなどあるから)
 教科書を買う時の置き方、入荷情報がわかりにくい。
 カフェテリアの座席がもう少しあればいいと感じた。
 毎週メニューが変わるので楽しみでもありおいしかった。
 考房ゆめの活動で、生協、学食の職員のみなさんにはお手伝いいただき ました。柔軟な対応をしていただき感謝しております。
 購買部の方の対応が悪かった時があったのでそれがちよっと気になりました。
 働いている人がフレンドリーでよかった。
 色々な企画を行ってくれたり、販売してくれる方も丁寧で良かったです。
 フォレストの座席が少ないのを改善してほしい。
 席があいてなかったりすることも多かった。
 食堂がきれい。だた、もう少しヘルシーメニューもあると女性には嬉しいです。

健康栄養学科

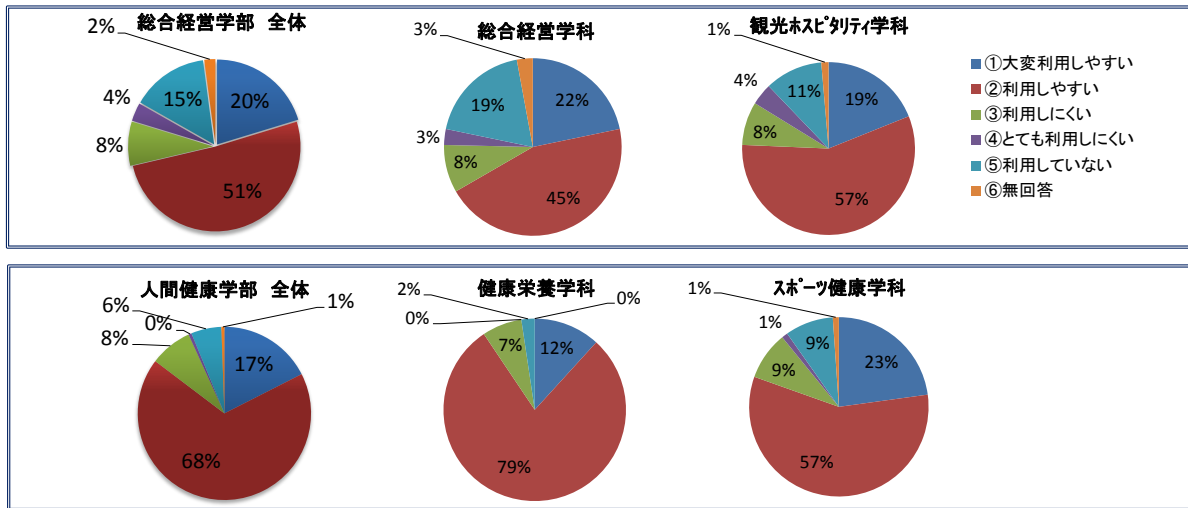
フォレストホールよりカフェテリアの方が良いメニューがそろっている。
 品揃えが良かったから。
 イスの数が少なく、あまり利用することができなかった。しかし、料理はおいしく、 購買部は5限が終了するまで営業してほしい。
 フォレストホールの席数がわるい。経営学部もフォレストに来るため、使用できな いことが多かった。
 満足している。お昼時は席が空いていなくて食べられなかったことがあった。
 様々な物が購入でき、便利であったため。
 おいしいご飯でした。
 食堂は朝もやって欲しかった。
 全体的に活気が足りないと思います。行きたい!とあまり思えませんでした。
 価格も安く良かったです。
 食堂の営業時間をもう少し長くしてほしい。
 購買部に売られているお弁当の種類をもう少し増やしてほしい。
 カフェテリアの雰囲気が非常によかったです。サラダバー楽しかったです。
 ごはんを食べるところが少ない、せまい。購買は小説もあって良かった。
 席がもっとあればいいと思う。
 お弁当に野菜がほしいです。
 もう少し長い時間できると良いと思った。
 カレーおいしかった。
 ほとんど利用したことがありません。
 種類が少ない。揚げ物ばかり。
 マスクをしてほしい。
 メニューが常に同じ。2年目以降あきる。
 食堂での昼食を楽しみに学校に行くことがあった。

スポーツ健康学科

高いし、種類が少ない。
 小さい。
 ちょっと席が少ない。
 人が混み合うのであまり行けなかったですが、よかったです。
 営業時間を延長してほしい。
 お弁当のバランスを考えてほしい。栄養料があるのにもったいない。
 学食の品切れが多かったので利用しなくなった。
 フォレストが人数の割りにせまく感じていたから。購買も同じものばかりであきて しまう。
 おいしかった。
 店員さんが明るく元気で良かった。
 種類がいっぱいあり、値段も安かった。
 フォレストホールにもドリンクバーを設置してほしい。
 値段をもう少し安くしてほしい。
 本屋と生協をわけてほしい。せまい。
 せまい。
 食堂の料金が学生には高い。
 生協の利用時間が拡大すると嬉しい。
 商品を多くしてほしい。食堂の時間が短い。
 食堂を大きくしてもらいたい。
 もう少しスペースが欲しい。
 弁当の数が少なくてカップラーメンが多かった。体に悪い・・・
 席数が少ないため座れない。ご飯の種類が少ない。
 全体的に小さすぎる。
 メニューがもっと多いと良いと思った。
 せまくて座れない。
 おばちゃん達が良く面倒を見てくれた。
 ミニの方の営業時間拡大。
 フォレストホールは1年生の時良かった。人が変わって良くなった。
 学部の方は食堂の対応が悪い。美味しくない。
 せますぎる(特にフォレストホール)
 値段が高く、質が低い。
 よく利用させていただきました。

質問16. あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変利用しやすい	12	3	15	5	9	14	29	3	7	10	14	7	21	31
②利用しやすい	26	5	31	15	27	42	73	7	60	67	31	22	53	120
③利用しにくい	5	1	6	3	3	6	12	1	5	6	5	3	8	14
④とても利用しにくい	2	0	2	3	0	3	5	0	0	0	0	1	1	1
⑤利用していない	11	2	13	4	4	8	21	2	0	2	5	3	8	10
⑥無回答	2	0	2	1	0	1	3	0	0	0	1	0	1	1



【理由等】

総合経営学科

いろいろなものがある。
 一人静かに勉強や読書ができ、DVDも見れるから。
 飲食スペースが欲しかったです。
 席が多い。
 静かだったから。
 便利。
 日曜日に使えない。
 職員の対応がGOOD。
 本の数の充実さ、DVDなどもあること、また静かなのもいい。
 よく行くがあまり本を借りないのでなんとも言えない。
 図書館は、イイ。
 様々なほんがあり、良かったです。
 使いやすかった。
 どこになにがあるかわからない。
 本読まないから。
 よく利用しており静かでした。
 本の種類が多くて良かった。
 静かで、学ぶのにできてきていると思う。

観光ホスピタリティ学科

環境が整っている。
 落ち着いて活動できたため。しかし、冷暖房が強いかもです。
 機会がなかった。
 昼食時に飲食できるエリアを増やしてほしい。
 図書館での飲食が許可される時間が非常にうるさい。
 探している書籍を最後までさがしてくれたため。
 うるさい。
 職員の方が親切。リクエスト本の仕組みは嬉しい。
 本やDVDの種類多くあり良かった。
 DVDが沢山あって、時間が空いたとき使えてよかった。
 静かが良い。
 遅くまでやっていて、テスト期間中勉強しやすかった。
 一人で勉強できるスペースやたくさん本があるので調べやすく集中しやすい。
 スタンプラリーの企画が楽しかった。スタンプラリーの対象の本を増やした方がよいと思います。
 ほぼ毎日利用しました。
 本がどこにあるのかわかりにくい。
 人の話し声が響いて気になることがあった。3Fのパーテーション付き机が並んでいる所に暖房が届いておらず寒かった。
 うるさい人がいたらすぐ注意してほしい。
 最近は本の保管場所が分かりやすいと尚良い。探したが実がない(研究室にあった)ということもあり大変でした。
 夕方になると暖房が付いていなくて寒いことが多いので何とかしてほしいです。
 静かすぎなくてよい。
 勉学に利用しやすかった。
 本のリクエストやプリンターをよく利用した。要望にしっかり応えてくれたし、対応もきちんとしていた。

健康栄養学科

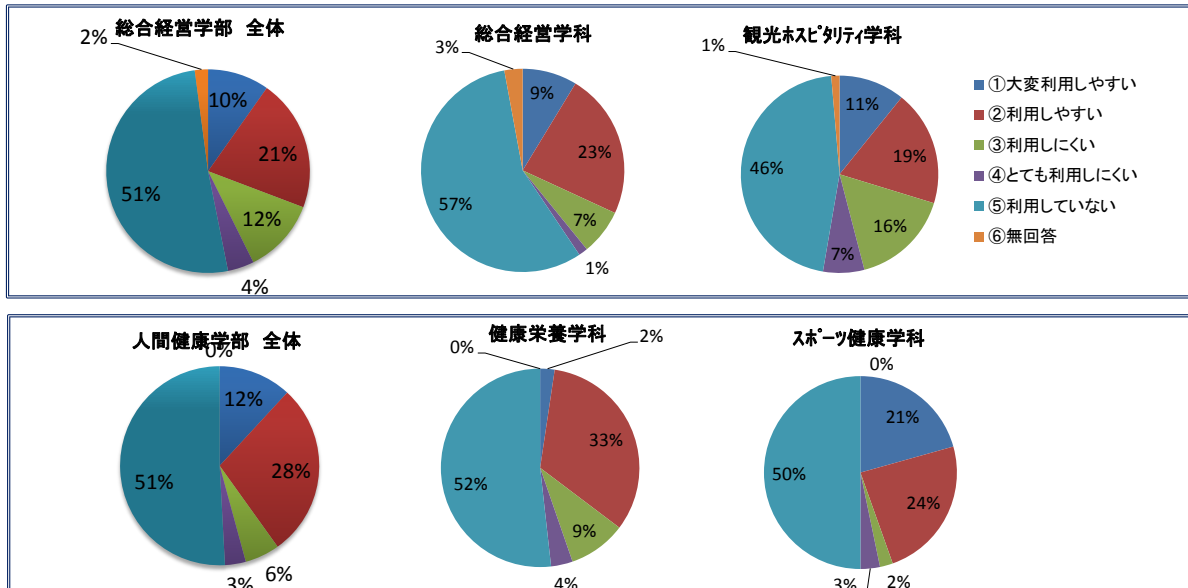
静かな空間だったため、勉強がはかどった。
 勉強も集中してできた。無料で映画がみれて良かった。
 個人スペースがあって勉強をやりやすかった。
 1階が地下下ということもあり、おしゃべりする人がよくいる。
 勉強スペースがもっとほしいです。
 距離が遠い。図書館でもうるさくする人がいるため。
 専門書が多く、レポート作成等に役立った。小説系がもっとあったらよかったと思う
 もう少し専門書を増やしてほしい。
 利用しやすかったが、座席が足りない気もしました。
 もう少し机が欲しい。
 一人用の机はとも勉強しやすかった。うるさいときはもっと注意してほしい。
 個人の机がとてよかった。
 蔵書が少ない。喋っている人が多い。学習スペースが狭い(少ない)
 あまり人がいないから。
 私語などルールを守らない人を注意してほしい。
 たまにうるさい時がある。でも、遅くまで開館しているので試験前は有り難いです。
 レポート作成でよく利用しました。
 暖房が行き届いておらず、寒い場所(2階の奥の等方)があります。
 マナーが悪い人が多い。
 利用はしたいが、少々遠いと感じた。
 1Fは冬とても寒く使いつらい。
 もう少し遅くまでやってほしいです。
 個々で区切られている机でやりやすかった。地下も良い。
 6号館から遠い。
 落ち着いた環境で勉強にも集中しやすい。
 蔵書の量がよく、探し物はずぐ見つかり満足しています。
 土曜日あいているのがありがたい。

スポーツ健康学科

新しい本を早く入れてくれる。
 個人のスペースで区切られている所があるから。
 静かで、本を読んだり勉強する時快適だった。
 うるさい人がいる時にもっと注意してほしいと思う。
 DVD等もみれるため。
 本やDVDの種類がたくさんあった。
 うるさい人が多いのもっと注意してほしい。
 せまい。
 職員への対応が不愉快。
 テスト期間利用しにくい。机をふやしてほしい。
 行くまでが遠い。
 品揃えが良い。
 静かが良い。
 もう少し席が欲しい。
 よくわからないけど利用しやすくない。
 どこにどの本があるのかわかりやすく。
 立地が利用しにくい場所にある。
 パソコン以外で本が見つけれられるようにしたい。
 卒論のときに役立った。
 DVDを観れるのがいい。
 静かでパソコンも完備してあるから。
 話をする人が多く、うるさい時があった。
 パソコンをもう少し増やしてほしい。
 資料などテスト勉強のときも集中でき落ち着く場所でした。
 資料が豊富。
 いつでも入りやすくまたパソコンもあったのでよかった。
 4年次は特に利用させてもらいました。

質問17. あなたは健康安全センターについてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①大変利用しやすい	6	0	6	6	2	8	14	1	1	2	13	6	19	21
②利用しやすい	12	4	16	5	9	14	30	3	25	28	11	11	22	50
③利用しにくい	3	2	5	3	9	12	17	0	8	8	2	0	2	10
④とても利用しにくい	1	0	1	2	3	5	6	0	3	3	3	0	3	6
⑤利用していない	34	5	39	14	20	34	73	9	35	44	27	19	46	90
⑥無回答	2	0	2	1	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

総合経営学科

- 入りにくかった。
- 場所が少しわかりにくいけれど、たまに利用した。
- すごく良くしてもらった。
- 先生が怖い、パンソウコウください。
- 気軽に相談しにくい事がなく、利用しにくいというよりは利用する機会がありませんでした。
- 先生がやさしくて気軽に利用できた。
- そんなんあったの？
- ケガ、病気等なかったので利用しなかった。

観光ホスピタリティ学科

- 知らなかった。
- わっきーとてもいい人！
- 先生の知識がすばらしい。
- あまり使わない場所だったので入りにくかったです。
- 閉鎖的であると感じる。
- 野球部のたまり場になっているため。
- ケンタにひっかかれた際に行った時、責められるようなことを言われ、それ以来行ってない。
- ケガをしても治療してもらえず、ばんそうこうをもらうだけであったため。
- あまり行ったことはないが、ドアが常にあいていて入りやすい。
- あまり行く機会が無かったのでよく分からない。

健康栄養学科

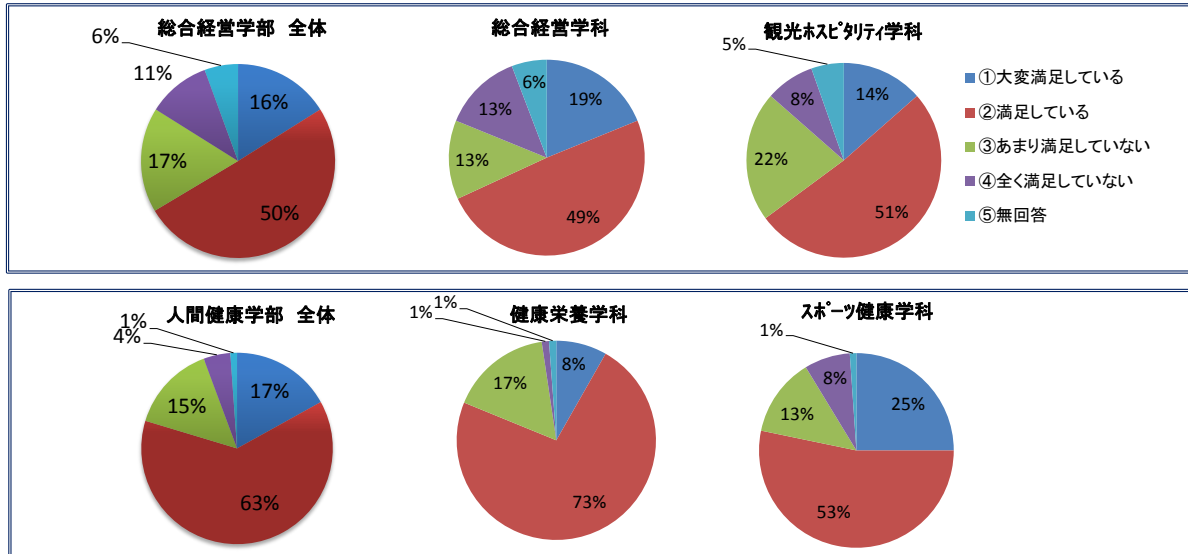
- ケガをしなかった。
- 野球部が常にいるイメージで入りづらいです。
- プライバシーを守ってくれる。
- 少し場所がわかりにくい気がします。
- 処置をあまりしてくれない。
- 野球部がたまっていることが多くて、利用しにくい。
- 入りにくい。
- 自転車で乗っていてけがをした時に親切に対応していただいた。
- 先生が怖い。ちょっとしたことでは行けない。
- 体調不良の際、あまり休ませてもらえなかった。
- ほとんど利用しませんでした。
- 何でも相談にのってくれるため。
- 先生が優しく良い人でした。
- 精神的な面でも親身に相談に乗ってくださり大変感謝しています。学生ひとりひとりに気を配っていて、素晴らしいと思いました。

スポーツ健康学科

- 先生が話しやすい。
- ケガをした時助けてもらった。対応が親切だった。
- いろんな話できた。
- 親身になって話を聞いてくれた。
- 人によって対応が違う。
- 入りにくい雰囲気。
- 対応が素晴らしかった。
- 野球部は入りやすかった。すぐに対応してくれた。
- 感染症にすぐ対応してくれた。
- 利用しなかったから分からない。
- 機会がなかったから。
- 丁寧に対応してくれた。
- ケガしなかった。
- マスクもらえない。
- 場所が分かりにくい。
- 気軽に行ける。

質問18. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会)についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	9	4	13	5	5	10	23	0	7	7	19	4	23	30
②満足している	28	6	34	12	26	38	72	9	53	62	24	25	49	111
③あまり満足していない	8	1	9	6	10	16	25	3	11	14	8	4	12	26
④全く満足していない	9	0	9	5	1	6	15	1	0	1	4	3	7	8
⑤無回答	4	0	4	3	1	4	8	0	1	1	1	0	1	2



【理由等】

総合経営学部

最後の一年間はいろいろ参加できてたのしかった。もっといろいろあってもよかった。
 楽しい行事がたくさんありよかった。
 楽しかった。
 学生としての体験ができ、思い出となった。
 とくに参加しなかった。
 新歓しかでたことがないけど楽しかった。
 全体的に楽しかったです。
 やりたい事をやるだけの、企画側の決定のみだけの企画が多かった。参加者の交流などを企画にもりこむべき。やきいもくぼるだけ。とかあほ？
 参加していない。
 人気アーティストが来るから。
 つまんなかった。
 学内の様々な人々と交流できる貴重な機会なのでよかった。もう少しあってもよい。
 楽しさ、笑いがたくさんあった。
 大学祭のゲストが豪華。
 もう少し有名人が来て欲しかった。
 土日以外でも開催して欲しかった。
 ミュージシャンがクソ。

観光ホスピタリティ学科

企画がおもしろい。
 企画している人が楽しいだけ。
 参加しませんでした。
 楽しかった。
 出ていないからよくわからない。
 大学祭は充実しており良かったです。しかし、その他のイベントで少々物足りなく感じたため。
 あまりおもしろくない。
 学部の異なる方同士が仲良くなるきっかけになるから。
 時に楽しめるイベントがなかった。
 つまらない。
 ゼミや活動仲間と一緒に行事に向かって準備をし、当日楽しんだからです。
 大学祭は楽しかった。
 文化祭がとても楽しかった。
 友人と楽しめたのでよかった。
 実行委員の対応。
 あまり参加しませんでした。交流の幅も広がると思うので。
 連絡が遅く、参加しにくかった。
 時間の都合が合わず参加していないものが殆ど。
 予定を知らせるのが遅すぎる。
 満足というか参加しようと思ったことがない。
 体育大会や花火大会は参加していないので分からないけれど、学校でこういう催しがあるのは良い。

健康栄養学部

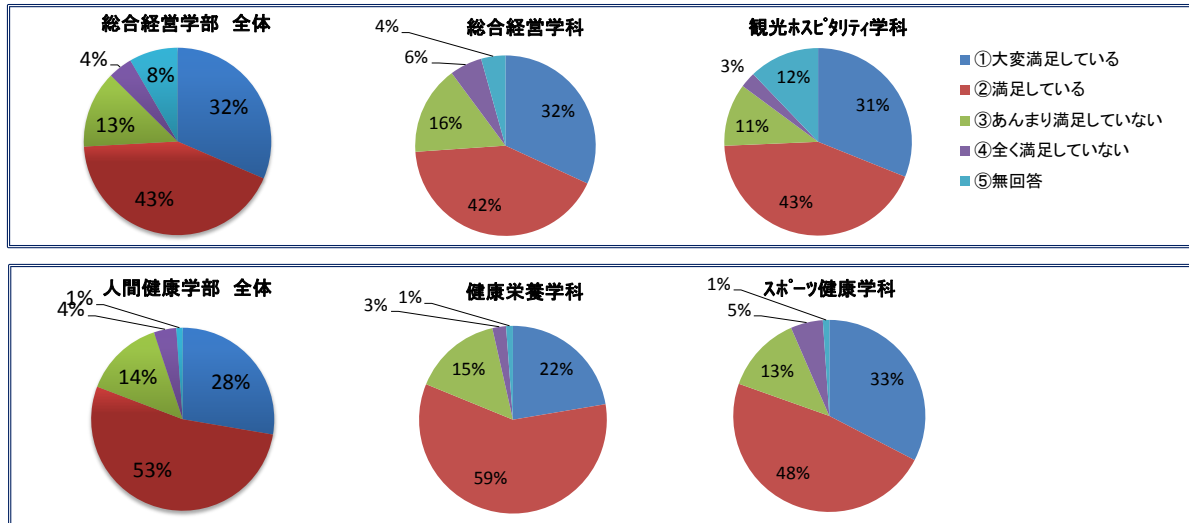
全力を出せた。
 楽しかった。
 卒業後に国家試験があるため、卒業パーティーが楽しめない。そこをもっと配慮してほしい。そのほかは満足しています。
 楽しんでいる友達がいって良かった。
 そこまで参加したいと思わなかったため。
 ゼミの活動での思い出になった。
 運営側では連絡不足が多かった。
 多くの行事を企画されていてとても良いと思います。
 栄養科の日程とあわなかったためあまり参加できなかった。
 花火大会はテスト前でいつも参加できなかった。日程を調整してほしい。
 定期的にイベントを企画されており良いと思う。
 他学部、学科の人とも仲良くなることができとても良かったと思う。
 1.3年の時のみ参加していたが、楽しかった。
 全員参加じゃないから参加しづらい。盛り上がるに力を入れる。
 大学祭は自分たちで作っているという感じがして楽しかった。
 いろんなことをやっていて楽しかった。
 参加してこなかったから分からない。
 大学祭の多くのイベントがとても充実していた。毎年呼ばれる芸能人もとても良い都合が合わなかったりあまり参加できなかった。
 参加しにくい感じはありました。
 その行事も一緒に参加することができ大変楽しかったです。計画ありがとうございました。
 多くの行事があり、参加しやすい。
 楽しかったです。景品も豪華でした。参加率を上げる工夫がもっとよくなると嬉しいです。

スポーツ健康学部

自由参加ではなく行事として全員参加の方が楽しめるものもあると思う。
 大学祭は様々なイベントがあって楽しい。
 あまり参加することができなかった。
 楽しかった。
 楽しい学祭だった。
 学友会の人たちに感謝しているから。
 ほとんど参加していない。
 盛り上がる。
 いろいろときっかけとなったので関係性がうすい大学ではいい行事だと思う。
 学生主体であったから。
 学生運営であそこまで出来れば文句ありません。
 あまり参加していないのでわかりません。
 友達が増えた。
 4年間の思い出。
 充実していたから。
 交流の場ができていい。
 参加していない。
 雨の中がよかった。
 交流中心は良い。
 あまりバツとしない。
 特に印象がない。

質問19. あなたは卒業後の進路に満足していますか。満足していませんか。

	総合経営学部							人間健康学部						
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	19	3	22	10	13	23	45	3	16	19	20	10	30	49
②満足している	21	8	29	15	17	32	61	7	43	50	27	17	44	94
③あんまり満足していない	11	0	11	1	7	8	19	1	12	13	6	6	12	25
④全く満足していない	4	0	4	1	1	2	6	1	1	2	2	3	5	7
⑤無回答	3	0	3	4	5	9	12	1	0	1	1	0	1	2



【理由等】

総合経営学科

地元で就職できてよかった。
 希望する就職先にきまった。
 進みたい道にいけたので。
 まだ内定をもらっていないから。
 希望通りの職につけた。
 良い進路を選択できました。
 やりたい仕事を見つけた。それはだいがくの自分探しができるため。
 安定している企業に就職できた。
 行きたいと思える所にいけたので良かったと思う。
 大企業に就職出来た。
 望んだ企業に入れたので。
 まだ決まっていない。
 行きたい会社に行けたので。
 就職できた。

観光ホスピタリティ学科

就職できた。
 進路が未定なため。
 第一志望に入れた。
 内定の有無に関わらず、本気で働きたいと思える法人・企業が見つかったため。
 きまっています！！
 大学に入らなければ、内定先に出会うことは出来なかった。
 野球が続けられる。
 ずっとやりたかった接客の仕事に就けたので。
 まだわからない。働いてみてこれから先決める事がまだ沢山ある。
 まだ活動中です。
 地元で就職できてよかった。
 自分で決めたことなので。
 安定した所へ就職でき満足しています。ただ、希望職種ではないため。
 とてもよいところに入らせてもらった。
 自分自身にあった道を切り開いてもらった。本当に有り難い。
 がんばりたいと思う。
 実際に働かないと分からないことであるが、地元という点では満足。

健康栄養学科

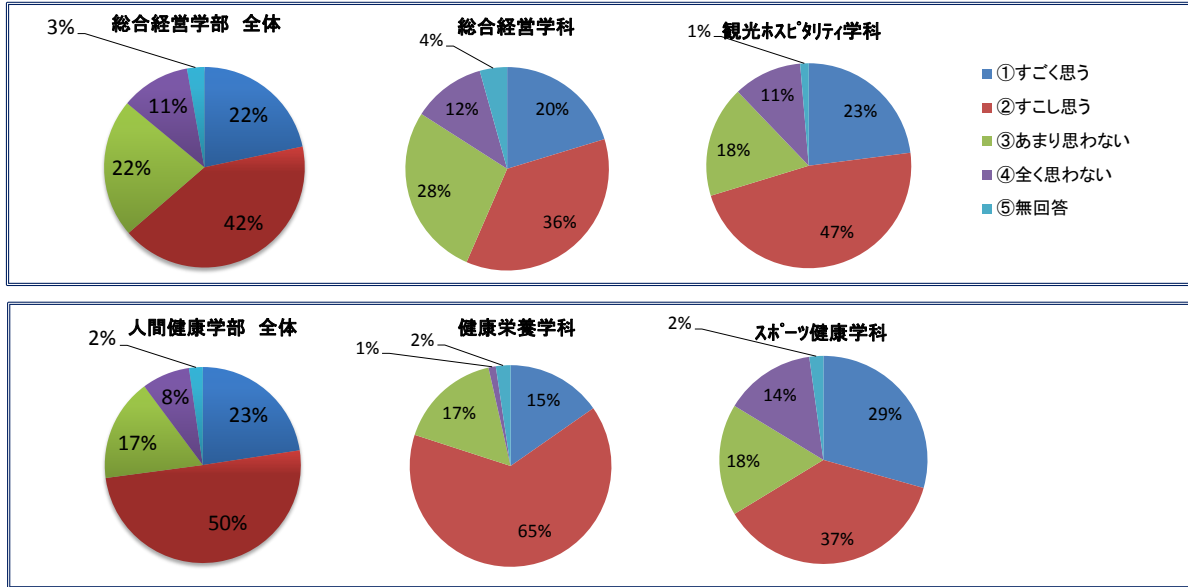
まだ働いていないのでわからない。
 決まっていないので。
 専門知識を活かせる場所のため。
 自分で決めたことなので良いとは思っているが、自分が取る資格とあまり関係ないので少し良かったかなとも思う。
 志望した進路に進めたから。
 資格を生かして働くことができるから。
 なんとなく選んでしまった感があるため。
 最後までサポートしてくれる。
 思った通りではなかった。しかし、決まって安心している。
 まだ自分が何をやりたいのか明確ではないので、自分を探していきたいと思いました。
 不安。
 自分で決めた進路のため。
 キャリアの先生方がとても親切で良き理解者であったため、とても感謝している。
 地元だし、望んだところに入れた。
 勉強していたことは違いますが、自分がしたいと思った仕事が出来ると思うと楽しみです。
 就職できたことに満足しています。
 沢山サポートしていただいた。
 キャリアとのつながりがあったのか、無理矢理すすめられた感がありました。進路のブレだと思って信用していましたが、少し不安です。

スポーツ健康学科

理想の進路。
 まだ決まっていない。
 履歴書や面接などサポートしてもらい、一回の試験で決めることができた。
 資格を十分に生かせる職業につけたわけじゃないから。
 自分で選んで決めたから。
 これから頑張ろうと思う。
 決まったことにほっとしている。
 先のことが決まってよかった。
 就職できて良かった。
 これから楽しみ。
 しっかり自分のことを考えて決める事ができた。
 がんばろうと思う。
 自分の目指していた進路とは違うから。
 自分の興味のある事ができない。
 無事内定できたから。
 満足した所に就けたと思う。
 実感がわかないから。
 希望する企業に入れた。
 行きたい道へ行けたので。
 自分の入りたい会社に内定をいただいた。
 やりがいを求めるため。
 夢に向かって働いているため。
 もっとやりたいことがあったはず。

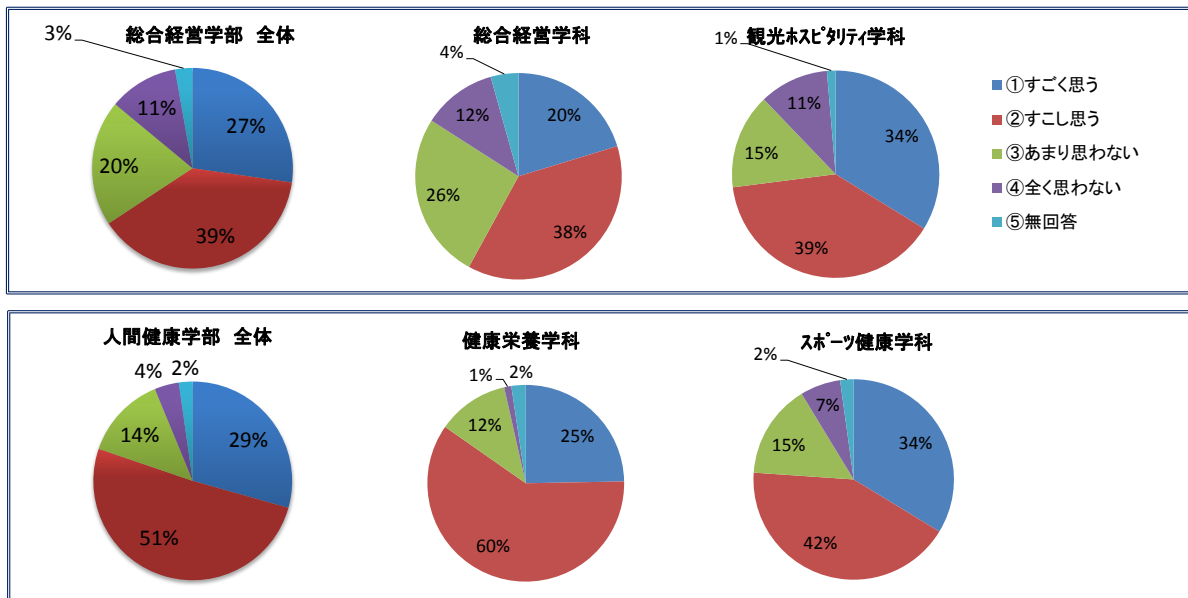
質問20. あなたは「松本大学」を誇りに思えますか。

	総合経営学部							合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康					
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計		
①すごく思う	11	3	14	5	12	17	31	4	9	13	16	11	27	40	
②すこし思う	19	6	25	11	24	35	60	7	48	55	16	18	34	89	
③あまり思わない	17	2	19	9	4	13	32	1	13	14	14	2	16	30	
④全く思わない	8	0	8	6	2	8	16	1	0	1	8	5	13	14	
⑤無回答	3	0	3	0	1	1	4	0	2	2	2	0	2	4	



質問21. あなたは「所属学部・学科」を誇りに思えますか。

	総合経営学部							合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康					
	男	女	計	男	女	計	男		女	計	男	女	計		
①すごく思う	10	4	14	7	18	25	39	5	16	21	16	15	31	52	
②すこし思う	21	5	26	11	18	29	55	5	46	51	23	16	39	90	
③あまり思わない	16	2	18	7	4	11	29	2	8	10	11	3	14	24	
④全く思わない	8	0	8	6	2	8	16	1	0	1	4	2	6	7	
⑤無回答	3	0	3	0	1	1	4	0	2	2	2	0	2	4	



質問22. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

総合経営学科

他学科の講義をもっと受けやすくしてほしい。
 通路に(外の)壁をつけてほしい！！いつも風がふいていて寒いです・・・
 駐車場が高いので、安くしてほしい。
 遊ぶ場所を近くにできるようにしてほしい。先輩とか後輩と交友がとれるように。
 ドアを自動にしたり、色々無駄なことをしていると思った。それなら学費を下げてほしい。
 牛フンの臭いがきついで改善を。
 再試がないので作ってほしい。
 野球部の年工が喧嘩を売ってきて、かなりめんどくさかったです。その人は、女の友達を盗撮していたり、子供みたいで人間のクズだと思えました。
 その進路に向けた講義をやって欲しい。例 公務員に特化した講義。
 もっと単位取り易くしてあげて。
 夏場の2階授業は、暑いのでもう少しすずしくしてほしい。
 学部・学科をふやし大学の規模を大きくした方がいい。
 現状維持が一番だと思います。
 れんあい学。一年生から適性検査の勉強。〇〇課の満足度アンケート年2回。
 喫煙の時間を定めないほうが良い。
 全員参加の行事があっても良いと思う。
 スポーツ大会を全員参加にする。
 今のままでも充分いいと思います。

観光ホスピタリティ学科

5号館と6号館を2階だけではなく3階と4階4号館とも3階もつないでほしい。
 観光と福祉はわけた方がいい。
 マナーの悪い学生がいる。
 他学部の講義も卒業単元にカウントされればもっと自由度が出ると思う。
 全体的に冷暖房が強い感じがします。異常気象やエコが叫ばれる中、省エネを徹底してはどうでしょう？
 楽しい授業にした方がいい。お金を使うところを考えた方がいい。フォレストが狭すぎ。
 卒業単位を増やしたらどうか。
 学部を増やす。
 キャリアセンターの対応があまり好印象ではなかった。特定の使途には非常に親身になって相談を受けているようだったが、初めてキャリアセンターに来た生徒やキャリアセンターの職員の方の意見を素直に受け止めない生徒は適当に扱われているように感じてしまった。
 図書館をもっと大きく、広くなれば良いのにと思った事があります。
 お金の使い方での不満の声があがったりするので、見直してもらえればと思います。
 もっと外に出て活動できる授業が増えたらよいと思う。
 アウトキャンパスを増やして欲しい。
 地域での学びをもっと発信していかれたらいい。
 経営の講義がもう少し欲しい。
 90分講義は長すぎるので集中がずつと続かない。なので、講義の真ん中あたりの時間に休憩を挟むか、もっと講義自体を短くして欲しいなと思った。
 もうちょっと学費を安くして欲しい。(松本の学費は他の大学よりも割高と聞いたので)卒業アルバムをもっと安くしてほしい。
 授業を真面目に聞かない学生が簡単に単位をとれるような科目は無くしてほしい。
 成績上位だとちょっといいことと学びを頑張る糧になる。
 就活で講義を休んでも基本配慮されないってのは変だと思えます。配慮してほしいです。
 「節約」といっている割に、イルミネーションなどムダな所にお金をかけすぎだと思ふ。そこにお金を書けるなら駐車場料金等をなくしてほしい。
 卒業アルバムの作成についてですが、取り組み始める時期が遅いと思うので、もう少し早い時期から始めた方がいいと思います。
 もっと旅行、観光についてのアウトキャンパスがあってもいい。
 Wi-Fiを使える場所を増やす。
 短大と大学で差があるのは残念だと思った(タブレット支給など)
 松本大学はアットホームなところが魅力だと思ふ。
 学生のマナー向上
 喫煙所の場所を変えて欲しい(学内の真ん中はよくない)
 自然体験とかの講義をもっと受けたかった。
 駐車場のアルバイトカード(回数券)にももう少し種類を増やしてほしい。20回分、10回分など。4年生になると授業が少なくなるので選べると嬉しい。

健康栄養学科

卒業予定者としてメンフィアで今現在の自分の取得単位で卒業できるのがどうか確認できるようにしてほしい(一目で)
 駐車場の無料化
 食堂の席の量を増やす。
 国家試験合格者を意地でも100%を目指すべき。学生(高校生)は、資格の合格率を見て進路を決めることもある。県短の4年生化を反対するくらいなら、
 国家試験の合格者を100%にできるように、教員に対する指導を行い、指導方針を見直すべき。
 再試の無料化。
 女性用のトイレに盲導をつけてほしい。節水にもなる。マツナヒが今のよう状態で続いていくなら組織を解体したほうがいいと思う。真面目に活動している人が
 かわいそうだし、一般の学生のほうがよっぽど意識が高い人が多いと思う。オープンキャンパスに来てくださる高校生にも失礼だと思う。
 国試勉強するために日曜も図書館などを開放してほしい。
 もう少し駐車場の管理をしっかりやってほしい。
 「3がく」の松本市なのに、なぜ音楽の授業がないのでしょうか。あると良いなと思います
 パソコン等の環境(6号館とかの)をもっと良く、スムーズにしてほしい。
 ネットや映像での授業(体調不良などによる時のために)あったら良いなと考えたことがあります。電車の料金が高かったです。
 外国語の授業をもう一度やってほしい。
 授業内で社会に貢献できる活動があったらいい。
 卒論は国試後がいいです。
 購買部の営業時間はせめて5限の終わりまでやってほしい。何か学校に来なければいけない連絡(学校行事?)は1ヶ月以上前にほしい。
 施設の利用時間の延長。
 駐車場がもう少し安いと嬉しい。
 生協の営業時間延長。学習スペースの確保。
 もう少し学食を広くしてほしい。
 もう少し教養科目をとりやすくしてほしい。必修とかかぶってとりたくてもとれない科目があった。
 渡り廊下に屋根があると良いです。
 信州大学との交流を深める。
 何でもお金をとろうとする所を少し変えてほしい(駐車場、ロッカーなど)
 私たちが払っている学費なので、新たに施設や設備を設置する際には、アンケートや希望調査をして、より良くしてほしいと思った。個人的には期間限定のイルミネーションはいらなと思った。
 空き時間いられる場所が欲しい。
 勉強する部屋をもっと増やしてほしいです。

スポーツ健康学科

新しいものを増やすとかではなくて、6号館のコピー機の故障だとか不備を直して(不備があつたらすぐに治してほしい、もっと違うところにお金をかけてほしい。
 早めに資格対策がしたかった。
 高地線と授業の折合。
 生協は授業が始まる前からせめて5限が終わった後までやってほしい。
 単位の制限をかけないでほしい。もっとふやすべき。試験と就活がかさなつたときに追試験をうけられないこと。受けられるようにすべき。
 授業内容の改善。教科書のお金など、授業料に含めてほしい。
 日本各地から学生を募集したらいいと思う。
 ワークルビ、強化部以外は県内だとバスが出ないところ。野球部は強化部だと言うのに平気で教室にゴミを捨てたりしていき姿を学生生活で何回か見かけたので
 強化部にふさわしい行動をとってほしい。応援したくないから見直した方がいい。
 食堂を広くしてほしい。こういったアンケートを在学中に実施してほしい。
 今のままで良いと思います。
 いろいろシステムが変わるので決定してほしい。
 体育館競技の部活を充実させて欲しい。「強化部を！！そのためには第二体育館を改装してほしい！ウエイトレーニング+体育館=素晴らしいチーム作り！」
 駐車場の料金を安くしてほしい。
 なぜ他大学は駐車場が無料なのに松大はお金を取るのですか？！駐車スペースがまだ余っているのに満車で入れないってどういうことですか？！
 テストの時、追試がなかったのが少し大変だった。
 実習系の授業がもっとほしい。
 駐車場の料金が高い。すぐに満車になる(第1)
 全体的に広くあつてほしい。
 教職課程の見直し、規模の拡大、再試験の有無。
 単位の上限がなければいい。
 通学用バス、返却が遅くなつた時の延滞金をとらない方がいい。
 パソコン等もう少し設備を整えてほしい。
 パソコンを借りた時、1日過ぎるごとに500円は高い！1週ごとに500円などもう少し変えた方がいい。
 Wi-Fiが場所によって強さが違う、入れない場所が多い。
 無駄なことに金をかけすぎ。
 意識改革の授業セミナーがあつたらよかった。なかなか自分で意識を高められる学生はいない。
 駐車場無料・コピー用紙無料・昼食を食べる場所の増設。
 卒業アルバムが高い。
 もっと学生が使用できるものを増やして欲しい。
 通学しやすい環境にする。

質問23. 所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

総合経営学科

総合経営学科にもアウトキャンパスの授業がもっとあったら嬉しかった。

総経だけのレクレーションをもっと増やしてほしい！！

地域との関わりができる講義を増やしてほしい。

学外での講義をふやしてもいいと思う。

今後の事を考えて、英語の授業をふやしてもらえるといいと思います。

今のままで充分いいと思います。

満足していた為特にありません。

授業を楽しくするために、課外授業がもう少しあっても良いと思う。

経営学のゼミをもっと増やしてほしい。他ゼミとの交流を増やしてほしい。

現状維持が一番だと思います。

今のままでいいと思います。

総合経営学科ももう少し地域に貢献できるような授業があればいいなと思う。

簿記のレベルを上げるべきだと思う。

観光ホスピタリティ学科

受講票をしっかりとった方がいい(一人ずつ渡すとか)。

学芸員要請講座がせっかくあるのですから、美術製作の授業も、やってははどうでしょう？

専門科目を増やしてほしい。

教職課程の充実。

所属学部や学科共にもう少し専門分野があったほうがいいと思います。例えば情報コミュニケーション学科等。

アウトキャンパスが楽しかったので続けて欲しい。

もっと外に出て活動できる授業が増えたらよいと思う。

卒業後もどんなことをしているのかサポート。卒業した後の学生との色々な活動。

観光についてももう少し勉強したい。

あまり学部、学科に関係があるかはあれですが、教職の単位も卒業単位に加えられるようにしてほしい。卒業単位+教職の単位をとるのはきつかった。

学祭やイベント事で総合経営学部の参加が少なく参加しづらいなと思います。もっとパワーを！！

総合経営学部は全体的にゆるいと言われているので、せめて人間健康と同程度のレベルで諸々を厳しくして良いかと思います。

プライダルの授業をちゃんとやってほしい。ゼミはある方がいいと思う。

教職の単位が卒業単位にならないのは納得しているが、GPAに反映されないことが残念だった。

不真面目な生徒に対して厳しくしてほしい。

野球部を熱くせれば良い。

ホテルや結婚式場の仕事が見学できるアウトキャンパスを含んだ授業があったらいいなと思います。

健康栄養学科

実習やゼミ活動において、もっと地域の方々との交流を深めるべきだと考えます。

アウトキャンパスを増やす。

調理実習を増やす。

国家試験合格に対する教員の指導が甘い。だから、合格率が低いことが露呈されていくのだと思う。

体育の授業がもう少し多てもいいと思った。

ひょっとしたら今の1年生では行われているかもしれないのですが、私達が1年生の時には献立の基礎知識について1つの講義でまとめて学ぶ機会がなかったように思うので献立の基礎の講義があればいいなと思いました。(他大学でそのような講義があると聞いたので)油はどの種類を使うのか、小鉢は1つ何gくらいか、主菜何gかなど3年生の臨床の実習で上記のようなことを学ぶことが多かったので、1年生の時点で少しずつ学べれば上の学年になった際より献立が立てやすいのではないかと思います。

このままでいい学部、学科だと思う。

先生方の思いつきで大変な目に合ったことが何回かあります。もう少し、計画を立てて実施していただきたいです。

もっと食品の栄養素を知りたい。

テスト日程をもう少し早めに発表してほしい。

栄養科の特論の授業をもう少し工夫してほしい。臨床の授業のテストの採点の仕方をもっと工夫してほしい。

卒論を無くし、国試を取る事を目的として、4年間授業に取り組むべきだと思う。両立はむずかしい(ゼミによって)

学費を多く支払って上での追加の支払いが多すぎて一人暮らしには困ってしまったので、最初にくら全部でかかるのか伝えておいてほしい。

国試に向けての勉強方法についてです。私はなかなか自分では勉強しません。先生たちは私たちの自主性を大切にしたいという方針で勉強を強制的にやらせないという方針でした。でも、私のような人のためにもなにか方法を考えてほしいです。強制でもなんでも受かりたいです。卒論ももう少し早い時期に行えばいいと思います。

学年を越えた活動があると学びが深まるだけでなく、将来社会に出た時に役立つと思う。

先生の自己満なのでは？と思う授業が多々あったので、改善した方がいい。

毎年このようなアンケートをしているのなら、同じような意見が過去にも多く出ていると思います。聞くだけでなく「改善」をお願いします。

もう少し勉強などができる教室を増やしてほしい(6号館)6号館にもう少しコンピューターがほしい。

6号館に自動販売機を設置してほしい。できれば6号館にもコンピューター室が欲しい(2,3号館まで遠い)調理着や実験用の白衣はともかく臨床の白衣はいらなかった!

松本大学ならではの講義がとても良かった。

国試の勉強部屋を常時あってほしい。

国試対策をもっと授業の中に組み込んだものがあると良いと思います。

スポーツ健康学科

大学に入学する目的は人それぞれだと思います。4年間自分の目標が曲がることなく進む人もいれば、はじめはこの教職をとりたいた指導士の資格が取りたいと思っても大学に通う中で考え方や気持ちが変わる人もいるかと思っています。そのような学生、迷っていてなかなか前に進めておらず、月日だけがたつことのないように大学に入学したことが無駄にならないようにしっかりとサポートをしてあげてほしいと思います。

もっと専門的な分野を学びたい。

日本各地から学生を募集したらいいと思う。

教養の必要な単位を減らしてほしい。

駐車場を「ただ」にしたら良いと思う。

設備の点検をしっかりとった方がいいと思う。

再試がほしい。

スポ科だけ再試がないのは不公平だと感じた。

座学に実習にとても満足しています。

教職の授業を卒業単位にふくむ。

実技を増やしてほしい。

現状で良い。

ゼミの人数を均等にする。ゼミごとに人数にバラつきがあると先生の負担も全然違う。学力の順位で分けるべき。

学部内の交流があっても良いんじゃないか？

実習を増やし、現場で使えるスキルを高めたかった。そんなテクニックをみがく授業があってもよかった。

再試制度。

2.松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート

質問1. 所属について

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
回収数	13	98	111	12	83	95	206

質問2. あなたが松本大学松商短期大学部に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	商学科			経営情報学科			合計	順位
	男	女	計	男	女	計		
④フィールド・ユナイト制度に魅力を感じた	5	58	63	6	48	54	117	1
③就職が良い	7	50	57	6	48	54	111	2
⑩自宅から通学できる	3	49	52	4	35	39	91	3
①親、先生などから勧められた	2	22	24	4	15	19	43	4
⑫まだ会社に出たくない	2	16	18	2	14	16	34	5
②コンピュータなど施設・設備が充実している	0	13	13	2	14	16	29	6
⑨学生と教職員の距離が近い	0	4	4	1	8	9	13	7
⑦友達が入学する	1	3	4	3	5	8	12	8
⑬その他	0	5	5	0	6	6	11	8
①伝統ある学校で校風が良かった	3	2	5	0	5	5	10	9
⑥良い先生がいる	2	3	5	0	1	1	6	10
⑤編入学ができる	3	0	3	1	0	1	4	11
⑧先輩・知人がある	0	1	1	1	2	3	4	12

【その他】

商学科

司書資格を取るため。
資格取得。

経営情報学科

高校の時より勉強したかったから。
気になる授業がいっぱいあった。
資格がたくさんとれる。
指定校推薦があった。
司書資格を取得したかったから。

質問3. あなたが松本大学松商短期大学に入学した目的は何ですか。(いくつでも)

	商学科			経営情報学科			合計	順位
	男	女	計	男	女	計		
④資格を取りたい	10	91	101	6	73	79	180	1
⑤良い就職がしたい	8	50	58	5	33	38	96	2
①専門的学識を身につけたい	4	33	37	7	33	40	77	3
⑦自分をみつけたい	0	12	12	2	14	16	28	4
②教養を身につけたい	1	13	14	1	9	10	24	5
⑥友人をつくりたい	1	9	10	1	13	14	24	6
⑪自立できる社会人になりたい	1	7	8	2	7	9	17	7
⑧部活動を行いたい	2	1	3	1	2	3	6	8
⑨親元から離れて生活したい	0	3	3	0	2	2	5	9
⑩アルバイトをしてみたい	1	0	1	0	2	2	3	10
③海外研修を経験したい	0	1	1	0	1	1	2	11
無回答	0	1	1	1	0	1	2	11
⑫その他	0	0	0	0	1	1	1	12

【その他】

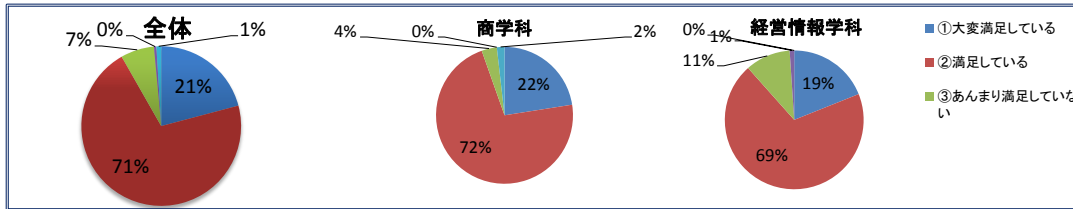
商学科

経営情報学科

仮面浪人

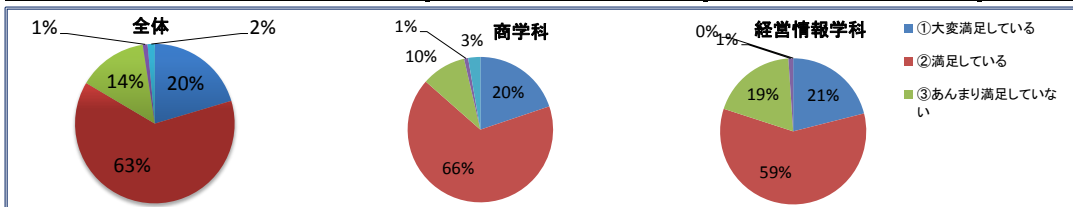
質問4. あなたは松本大学松商短期大学部の2年間の勉学に満足していますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	3	22	25	1	17	18	43
②満足している	9	71	80	9	57	66	146
③あまり満足していない	1	3	4	2	8	10	14
④全く満足していない	0	0	0	0	1	1	1
⑤無回答	0	2	2	0	0	0	2



質問5. この2年間のあなた自身の生活に満足していますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	4	18	22	1	19	20	42
②満足している	7	67	74	6	50	56	130
③あまり満足していない	2	9	11	5	13	18	29
④全く満足していない	0	1	1	0	1	1	2
⑤無回答	0	3	3	0	0	0	3



質問6. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと

商学科

大学だから仕方ないと思うが、人によってやり方が全く違うので慣れるまでは大変だった。

遠い所から登校するのに時間がかかるので、行事の時間を考えてほしい。

1年次のときは毎日授業はありましたが、そんなようなかんじでよかったんですが、2年次は授業があまりなかったので、生活のみだれがなっているなら習慣をしっかりとしていきたいです。

いろいろ学べいい経験になった。

自分の取りたい授業がとれるのがよかった。

1年生のレポートの量が多すぎて大変だったが、自由に授業を選べるのは良い。取得したい授業が同じ時間にかぶっていてくやしかった。

パソコンが充実してた。

資格がぜんぜん取れなかった。いろいろ友ができてよかった。

先生フレンドリー。

医療事務の資格や色々な知識が身につけて多種に関わることができてよかった。

先生がみんな優しい！楽しかったです。

いろいろな講義が受けてよかったです。

多くの資格がとれてよかった。簿記の復習ができる科目がほしかった(事務で就職する人のために実用的な簿記)

知識が増えた。

地域社会活動の意味わからなささは半ばじゃなかった。

資格をとることができたので良かった。

どの授業も分かりやすくて楽しかった。

メモ力がついたと思います。

資格取得につながる学習が授業内にできて良かったです。もっとまじめに授業に参加すればよかった。

分かりやすい授業を受けられてよかったです。難しい授業もたくさんあって単位がとれるか心配でした。

短大に入って初めてレポートを書き、むずかしかったけど勉強になりました。

資格がたくさん取れて良かった。

勉強になりました。

資格をとって山とれたことが良かった。

しかたのないことだと思いますが、学習をする気のある人となない人の差がありすぎる。大学の授業の静かさはなぜ短大にはないのでしょうか

授業中私語が多いときがあった。

専門的なことを学べて、しらなかったことをたくさん勉強できたのでよかったです。

パソコンの授業では一人一人のパソコンのとなり先生がやっている所が見える画面があってよかった。空調がついているところもよかった、でも寒すぎたり暖かすぎたりすることがあったのが良くなかった。しょうがないとおもいますが。

90分間は最初は長いと感じたが、2年間授業をうけたら長いと感じなくなった。

どの授業も分かりやすく工夫されていて良かったです。

先生が優しい！新しめやすい！たのしかったです！

いろいろな資格がとれてよかった。

とても分かりやすかった。

色々な分野の事を学べた。

図書館の席とパソコンが少ないと思います。

学生がゼミごとに分かれて、ゼミ担当の先生が入学から卒業、就職までサポートして下さる所がとても良かったです。

資格のための授業的な感じだったので、大変勉強になりました。

先生が優しくした。近かった。授業内容が楽しかった。

高校までの授業より自分のやりたい授業を選んで受けられるのがとてもよかった。

たくさんの授業を受けて、とても勉強になりました。はんぶく練習(計算問題)は問題の数字を変えて出題してほしかったです。

高校では習うことのできない詳しいパソコンの使い方など学ぶことができた

とても楽しい授業ばかりでした。自分の知識を増やせてとても満足しています。

司書科目が限でつらかったです。もっと早い時間なら履修する人もふ増えそうですが、社会人の履修生もいるので厳しいですね。

高校まで全く学んだことがない勉強ができて楽しかったです。簿記やパソコンは+αとして学べてよかったです。

どの講義も分かりやすく良い講義だった。

先生方が私たち学生に対してとても熱心に授業をしてくださり、丁寧に教えてもらったのでとても楽しく授業ができました！！

専門ゼミの活動がためになった。

短大の教室がさむかった。(特に前の方)

自分のやりたい勉強ができて良かったです。

金融関係など専門的な資格を取れた。

1年の頃はレポートがあって大変だったけどメモ力やまとめる力がついたと思う。

経営情報学科

資格取得に励むことができた。

自分の興味のある講義を受けることができたので良かったです。

先生の熱意を感じた。

先生がとても優しくした。

パソコンが授業で教えるのが下手な人がいます。

面白い講義が多かったが、中には同じ内容をやり続けている講義があったので、そういったものは改善して欲しいと思った。

モバイルPCを使う講義がほとんどなかったので少しずつ増やして欲しい。

取りたい講義が2年後期にしか入ってなくて、もっと1年前期から取れるようにしてほしい。

授業のほとんどがスライド形式で授業を受けていて楽しかったし、自分のノートをまとめる力がついたと思います。

資格が取れて良かった。

授業を自分で選択できるスタイルが良かった。

全体的には良かった。うるさい人への注意がほしかった。

取りたい授業がかぶってしまったら、ゼミの決め方がイヤだった。ほかは満足。

”要約力”育成に力を入れていた授業だったため、文章をまとめるのが苦手だった私にとって要約力がとても身についた。

今後、是非活かしていきたい。

2年生になると取りたい授業が少なくて残念でした。ワードやエクセルなど。

専門的な知識を身につけることができ有意義な2年間だった。

メモ力がつく講義が多く、集中して講義をうけることができました。

いろいろな資格が取得できたのでよかったです。

資格取得に向けた検定対策が授業でできたのはよかったです。

休みが長すぎてひまでした。

どの授業も、先生と学生の距離が近かったので学びやすかったです。

授業でノートを取ったりレポートの課題に取り組むことでメモ力が身に付いたと思う。

福祉からマーケティング、心理学、歯科事務など幅広く、自分の興味のあるものを選んで学べたのでよかった。体育系をもう少し2年生も選択し
ようになるといいなと思った。1号館が寒かったり暑かった。

1年生の時のレポートは力になりました。

中間アンケートを実施して改善して講義を行っていた！どの講義の先生も親しみやすく何でも相談したりききやすかった。

部屋の中で温度差があった。

良かった全般。

商業系高校出身者は1年前期の授業のレベルがもう少し高くてもよいと思います。

どの先生も熱心におしえてくださってすごく良かった。

楽しく学べた。あまりわかりやすいとは言えない人先生もいたけど、いい先生が多い！

人数が少ない授業だと先生とお話ししながら授業受けて楽しい！キャリア・クリエイトとか4限だと遅いと思うので2,3限のが良いと思う。

楽しいことばかりだった。カードリーダー(?)で出欠をとる授業で、最後に来ておいてカードだけやって出席にしている人がいて、最初から出ている人が
バカみたいだとおもったし、ずるい。

2年後期のキャリアの授業で旅行プランを提案する授業をやってほしいです。松大に観光科があるのでその学生に紹介してほしいです。

最後の学生生活になると思うのでたくさんかけて思い出作ってほしいです。

人気のある授業が同じ時間にかぶることが多かった。

楽しく授業に取り組みました。

資格がとれたのでよかった。

周りが授業中にうるさいことが多かった。

色々なフィールドで勉強できたことが一番良かったです。

先生とのキョリが近くて、何でも相談にのってくれたのでよかった。

資格授業が多くてよかったです。

先生がアンケートを良く取ってくれて改善をたくさんしてくれたのがよかったです。

私語をしている人がいるのに、注意をしない先生がいてちゃんと注意してほしいなと思いました。

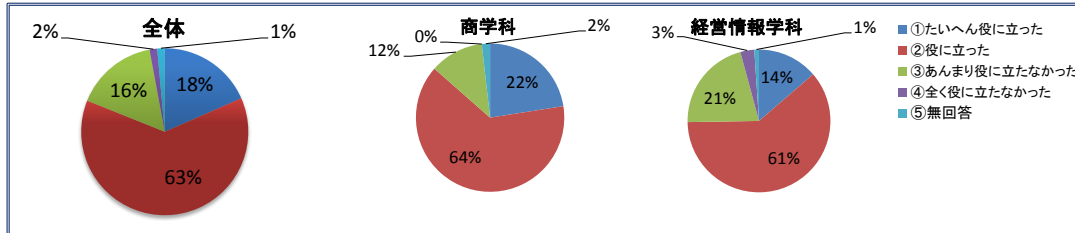
様々なことが学べて知識を身につけることができ良かった。授業だ被ったりして取れない授業も勉強したかったです。

せっかくiPadやモバイルPCがあるのでもっと活用したらいいんじゃないのかなと思いました。

ポーっとしていることが多かった(笑)資格をとるために勉強できて良かった。

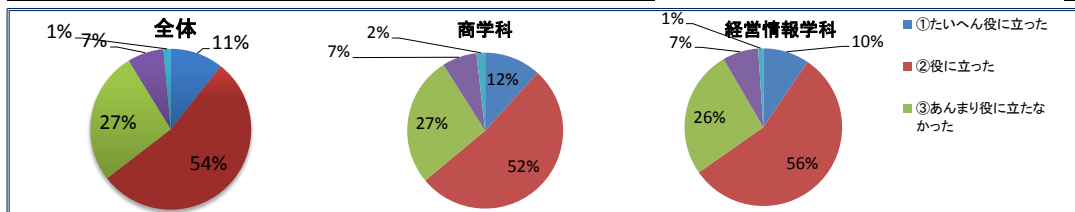
質問7. 選択必修科目での出席レポートは、学生としてのあなたの能力を伸ばす役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	2	23	25	1	12	13	38
②役に立った	9	62	71	7	51	58	129
③あんまり役に立たなかった	2	11	13	3	17	20	33
④全く役に立たなかった	0	0	0	1	2	3	3
⑤無回答	0	2	2	0	1	1	3



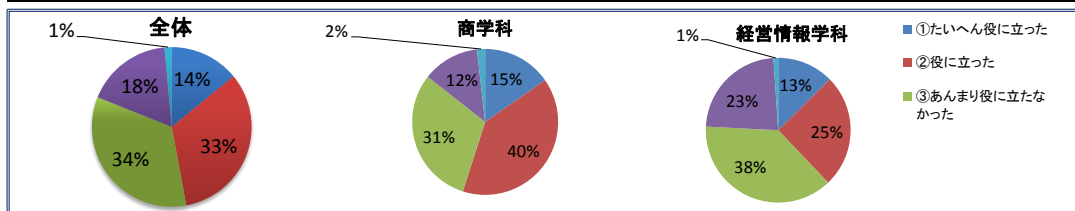
質問8. 1年次前期の「基礎ゼミナール」で学んだ、ノートのとり方、レポートの書き方等の初年次教育は、短大のその他の授業を学ぶときに役立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	2	11	13	2	7	9	22
②役に立った	6	52	58	7	46	53	111
③あんまり役に立たなかった	4	26	30	2	23	25	55
④全く役に立たなかった	1	7	8	1	6	7	15
⑤無回答	0	2	2	0	1	1	3



質問9. 携帯メモ手帳「EYE」は学生生活の中で役に立ちましたか。

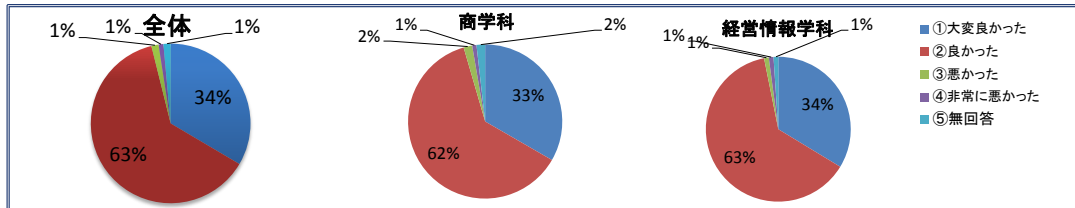
	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	1	16	17	2	10	12	29
②役に立った	5	39	44	1	23	24	68
③あんまり役に立たなかった	5	29	34	3	33	36	70
④全く役に立たなかった	2	12	14	6	16	22	36
⑤無回答	0	2	2	0	1	1	3



質問10. 本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

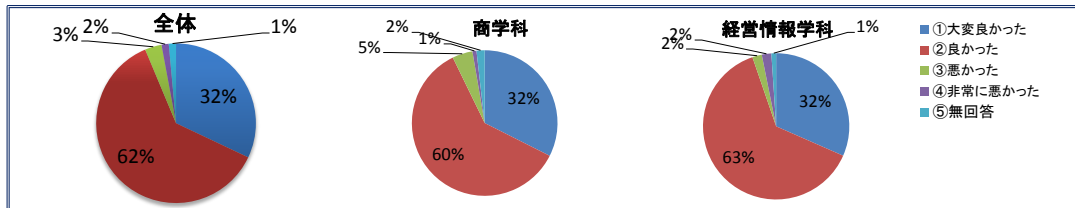
■教員

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	6	31	37	5	27	32	69
②良かった	7	62	69	6	54	60	129
③悪かった	0	2	2	0	1	1	3
④非常に悪かった	0	1	1	0	1	1	2
⑤無回答	0	2	2	1	0	1	3



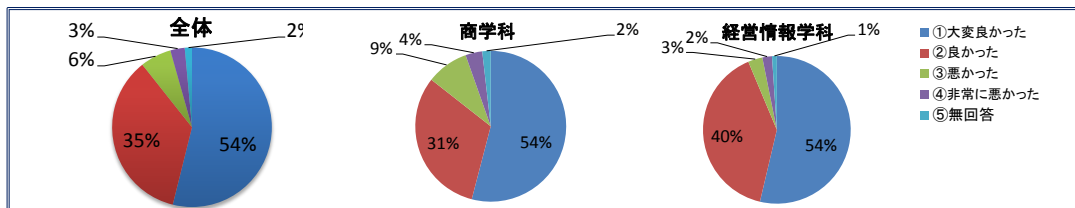
■職員

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	7	29	36	4	26	30	66
②良かった	4	63	67	7	53	60	127
③悪かった	2	3	5	0	2	2	7
④非常に悪かった	0	1	1	0	2	2	3
⑤無回答	0	2	2	1	0	1	3



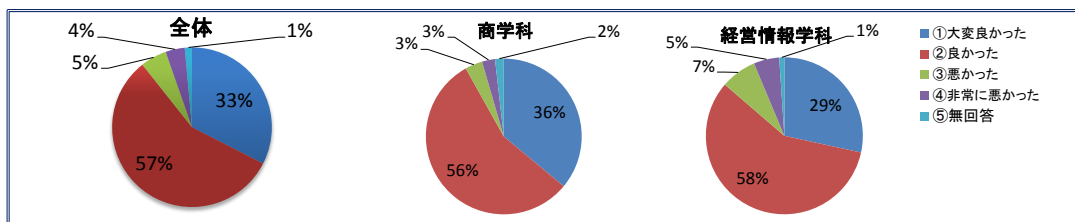
■ゼミ担当者

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	10	50	60	9	42	51	111
②良かった	2	33	35	2	36	38	73
③悪かった	1	9	10	0	3	3	13
④非常に悪かった	0	4	4	0	2	2	6
⑤無回答	0	2	2	1	0	1	3



■キャリア面談員

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	9	31	40	3	24	27	67
②良かった	3	59	62	6	49	55	117
③悪かった	1	3	4	0	7	7	11
④非常に悪かった	0	3	3	2	3	5	8
⑤無回答	0	2	2	1	0	1	3



【理由等】

商学科

正直言って、相談なんてあんまりした覚えがないのでコメント困る。
 生徒の身になってくれる人が少ない。
 授当全般はよかったです。わかりやすかったのてよいです。キャリア面談は相談にのってもらってよかったです。
 いい学校生活を送らせていただきました。
 みんな当たり障りのない感じだった。
 色々あるけど総合的に。
 とてもいい人だったから。
 皆様とてもやさしくすばらしい人だった。
 すばらしい。MCの技術がすごい。
 ゼミだけでなく様々な方に声をかけてもらうことが多くあった。ゼミ担には、学校生活だけでなく私生活についての相談ものってもらった。
 先生全般によかったです。キャリア面談の先生も話に対してアドバイスももらえて助かりました。
 とても親切にしてくれたので。
 ゼミは本当に楽しかった。ゼミ担が良かったです。
 ゼミの先生がたくさんアドバイスなどをしてくれて良かったです。
 就活中にたくさんアドバイスをいただきました。
 わからないことがあるとき、優しく教えていただきとても助かりました。話かけやすかったです。
 フレンドリーで相談しやすい方ばかりだったので大変良かったです。
 レポートの書き方や就活における悩みなど色々な相談にのっていただきました。
 楽しかったです。ゼミ生じゃないのに受け入れてくれる先生がいて嬉しかったです。職員の方々の優しさに救われました。
 ゼミの担当の先生には就職活動のことや生活面でほんとうにお世話になったから。
 就活中は大変お世話になりました。相談にも乗ってくださってありがとうございました。キャリアセンターにはよくお世話になりました。
 先生方や職員の方々、忙しい時間を割いていつも真剣に話を聞いて下さって感謝で一杯です。丁寧で親切な対応に感激しました。
 就職活動のとき、ゼミ担、キャリアの先生方に支えていただきました。
 ゼミの先生がとてもしんみり良かった。
 しっかり考えてくれてアドバイスなどをたくさんしてくれました。
 ゼミの先生は頼りなくて相談も出来なかった。
 キャリアカウンセリングで距離的にあまり就職を望んでいない地域があることを、それは甘えだ、気力の問題だ。と言われて、私のことを何も知らないくせに
 カウンセラーの意見を押しつけられてすごく嫌な思いをした。何の役に立たなかった。
 学友会の仕事でとてもお世話になったので良かった。(特に学生課の方々)キャリア面談員の人の親をバカにされたことがあったので悪かった。
 電車が遅れた時の対応をもうちょっとよくしてほしい。
 職員の方はとても接しやすかったです。キャリア面談の人はいいでした。
 どの職員の方も、相談にのってくれたから。ゼミの先生には、とてもお世話になりました。キャリア面談員の方にはアドバイスをしてもらった。分かりやすく
 授業を教える先生が多かった。
 就職のこととか相談にのってくれてよかったです
 キャリアセンターの対応は良かったが、キャリアカウンセリングの面談員の人の対応は良くなかった。
 キャリア面談は自分のやりたことを言ったら「それよりも・・・こっちのが」と言われてとてもいやだった。

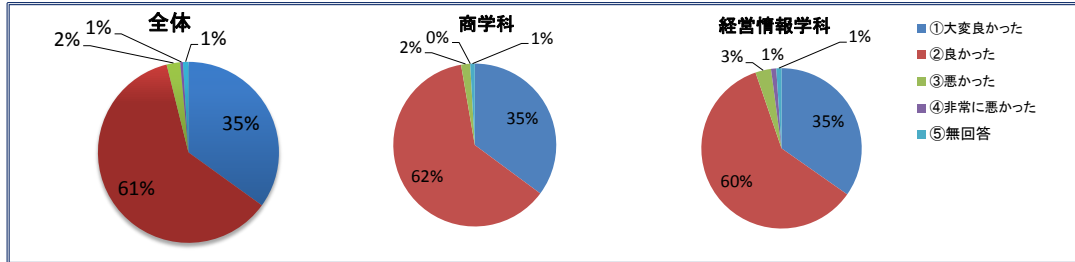
経営情報学科

関わる人があまりなかったのて何とも言えない。
 キャリア面談の人はちゃんとカウンセラーでないのか自分の意見を否定して、こうしなさいと言われたから。カウンセラーとして認められないわあ。
 熱意を感じた。
 とても楽しかった。
 先生たちがすごい面白かった。
 分からないことなど親密に聞いてくれたりした。また、その解決方法とか。
 親身になってくれる。
 決断をせかされて落ち着かなかった。
 就職の相談にのってくれた。
 先生たちが親身に話しかけてくれた。
 先生たちと個人的に話すときも楽しすぎるし、研究室大好き！キャリア面談の人があたる人によってはやる意味ない。
 人によって差があるが、対応が良くない。
 卒業写真の変更メールなどこなくて本当に困りました。しっかり連絡してほしい。
 困っている時、悩んでいる時、親身になって喜んでくれた。
 学祭スタッフのとき、多くの教職員の方に助けていただきました。
 理由で良かった、悪かったというより、相談するのがキャリアセンターの人が主だったため。
 教員の方も職員の方も身近で自分のことも覚えてくれてよかった。
 親身になって相談にのって下さったので。
 人によるが、多くの人は親切でした。
 短大の学びを通じて興味や特技と呼べるものが増えた。先生方の教え方がとても親切だったため、このような財産を手にしたこととても感謝しているから。
 キャリアセンターの方にはお世話になりました。
 就職関係で相談に乗ってもらい助かった。
 検定前に先生が空き時間に教えてくださったおかげで合格することができました。
 キャリア面談は正直当たりハズレがある・・・価値感おしつけられたり、けっこう傷つくこと言われたりした。
 キャリア面談は当たり外れがひどい。
 キャリア面談はあまり就活には役立たなかった。面談をやることはいいと思います。
 学生課の対応が応用がきかない事務的な事が多かった。
 授業はもちろん、進路についての相談も親身になってきていただけたので嬉しかったです。
 私は1人暮らしをしていたので、特にゼミ担当の先生には様々な面でサポートしていただきました。
 親身になって話をきいてくださって嬉しかったです。あと、気にかけてくださる方が多くて優しさを感じました！！ありがとうございます！！
 相談しやすい先生方で悩むことなく学生生活をおくれた。
 親身に話をきいてくれる人ばかりだった。
 ゼミの先生は、相談にのってくれたし、本当に生徒のことをよく思ってくれた。学生課の先生達とフットサルが出来て楽しかったです。
 就活の時に様々なアドバイスをくれた。
 その時と場合に応じて良い対応してくれたからです。
 就活中はもちろん、普段でも色々な相談にのってもらってお世話になったから。
 物事を丁寧に教えてくれたので助かりました。
 話しやすかった。
 授業の分からない所とか、日程について教えてくれたし詳しく言ってくれたので。
 キャリセンの先生方には大変お世話になりました。
 ゼミの先生にはとてもお世話になりました。この先生で良かったと思っています。
 親身になってくれました。
 面白い人がたくさんいた。

質問11. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうか。

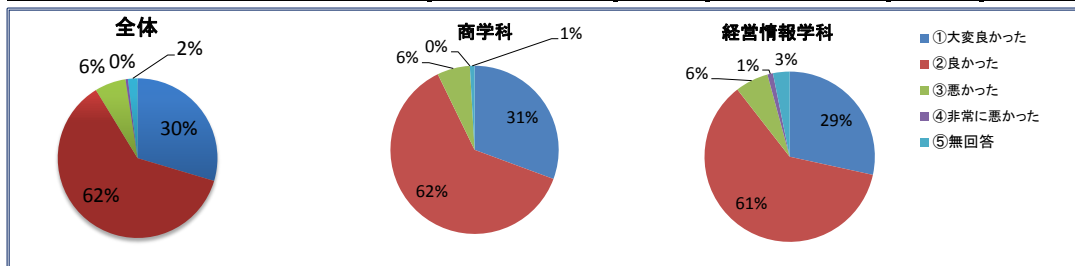
■サポートの程度

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	7	32	39	4	29	33	72
②良かった	5	64	69	6	51	57	126
③悪かった	1	1	2	1	2	3	5
④非常に悪かった	0	0	0	1	0	1	1
⑤無回答	0	1	1	0	1	1	2



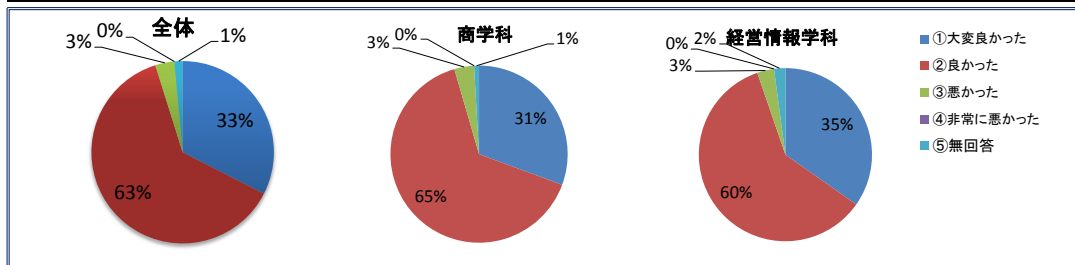
■対応の仕方

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	4	30	34	4	23	27	61
②良かった	7	62	69	6	52	58	127
③悪かった	2	5	7	2	4	6	13
④非常に悪かった	0	0	0	0	1	1	1
⑤無回答	0	1	1	0	3	3	4



■言葉遣い

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変良かった	5	29	34	5	28	33	67
②良かった	5	67	72	6	51	57	129
③悪かった	3	1	4	1	2	3	7
④非常に悪かった	0	0	0	0	0	0	0
⑤無回答	0	1	1	0	2	2	3



【事務職員に改善してほしい点、要望】

商学科

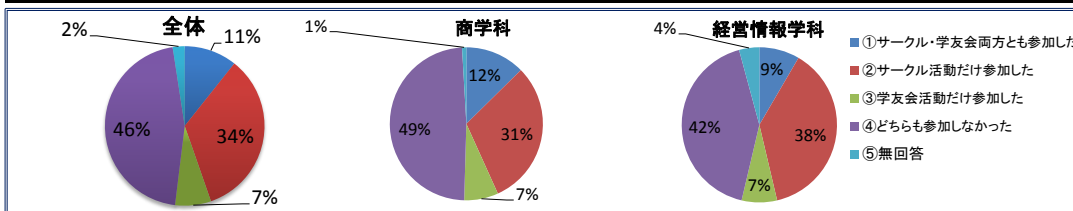
本当にありません。
 いい人だった。
 対応する時の言葉遣い。
 これからも学生をサポートしてください。
 おせわになりました！
 ていねいに対応してくれました。
 キャリアセンターはもう少し入りやすいようにしてほしいです。
 少し怖い職員さんがいたので、笑顔があれば嬉しいです。
 私は就活をしていたため、キャリアセンターにお世話になりました。就活情報や履歴書の書き方などを教わったりしました。ただ、キャリアセンターの方にもっと学生の立場に立って就活のことを考えて欲しいです。一般的な回答ではなくその人の人柄が引き立つようなアドバイスをしてあげてください。
 要望等言ってもまらめこまれてしま言えなくなってしまった。
 着物の企画でしっかり引き継ぎがされていなくて、相手方に迷惑がかかってしまったので、連絡などをしっかりとしてほしいです。あと、その企画の打ち合わせの時にどの職員の方かはわからないのですが、おどろくほど態度がわるかったので少しはさしかかったです。
 冷たい。
 怖い人がいた。
 接し方がちがいがすぎる。行くたびに。

経営情報学科

キャリア・クリエイティブの出席状況をしっかりメソフィアに反映させてほしい。
 おざなりな時もある。慣れとか忙しいのもわかるけど、もう少しちゃんに対応してほしい。
 サービス業を意識してほしい。
 待っている人がいても仲の良い学生と話していて対応に応じていなかった。(学生課)
 職員の方の中でも、情報共有をもう少ししてもらえたら良いなと思いました。
 少し声がかげづらい。
 ちょっと行きづらいです。
 もっと気楽に行ける場所であってほしい。
 キャリアセンターがとっても入りにくいです。
 態度が悪いので行きたくなくなった。
 もう少し親しみやすいと嬉しいです。
 私は短大2年間で基礎教育センターの先生方に大変お世話になりました。基礎学力向上にとでも役立ったので、もう少し色々な人に利用してもらえるように呼び掛けを強化してほしいです。
 就活中にキャリアセンターから電話をもらったことがあります。そのとき電車に乗っていたのですが、そのことを伝えても話を続けられたことがありました。電車の中での電話は聞き取りづらいし他のお客さんにも迷惑になりますので気をつけてほしい。
 気軽に話せたりできて良かった。

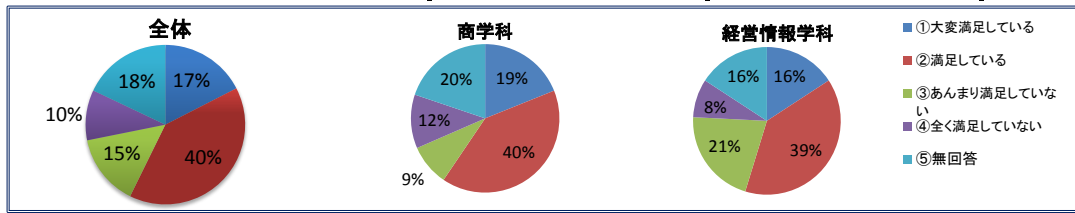
質問12. あなたにとってサークル活動や学生会活動はどうでしたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①サークル・学生会両方とも参加した	5	9	14	2	6	8	22
②サークル活動だけ参加した	3	31	34	5	31	36	70
③学生会活動だけ参加した	2	6	8	0	7	7	15
④どちらも参加しなかった	3	51	54	5	35	40	94
⑤無回答	0	1	1	0	4	4	5



質問13. あなたはサークル活動や学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	5	16	21	2	13	15	36
②満足している	5	40	45	1	36	37	82
③あまり満足していない	2	8	10	5	15	20	30
④全く満足していない	1	12	13	1	7	8	21
⑤無回答	0	22	22	3	12	15	37



【理由等】

商学科

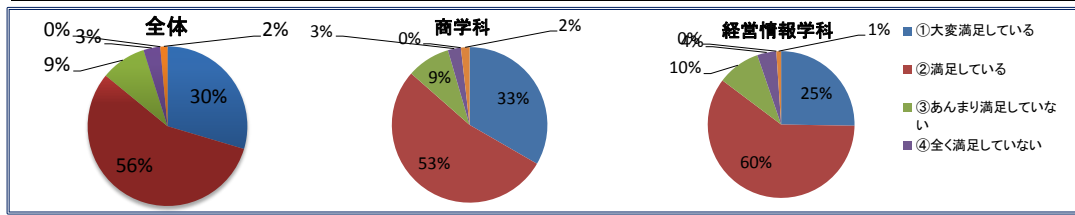
新しい人間関係がくれた。
 自分が関わっていないモノに文句をつけるのはバカバカしいと思うので。
 はじめの頃は野球部に入っていたので、朝練が大変だったのでバスケサークルをやってきて、とても楽しかったのでよかったです。もっと大会に参加したかった。得たものもあると思う。なにより楽しかった。
 色んな出会いがあった。
 やりがいがすごかったから。
 楽しくできたから。
 まず参加していない。
 全力でやったから。
 サークルどうしの交流をふやしたい。
 学友会活動には満足したいと思います。部活動の体勢があまり良くなく、楽しめる活動とはいえなかったから。新しい体勢を作れず、OGの意見が多すぎてメンバーの不満が増えたから。
 体を動かすことができ良かったし、サークル活動を通して新しい仲間を作ることができた。
 所属していなかった。
 参加してないから。
 自ら学際作りに関わることができたから。
 体育館がとれない。
 強制がされていた。
 一部の人のためのものになってしまっている。学友会は、学生の皆が楽しむために働く組織であって学友会に入っている人だけが楽しいイベントは意味がない。
 大変だったけれど、良い物を作れたから。
 大学だけの連絡等があり、短大にもいることを知ってほしい。
 道具等を借って頂けて、とても助かりました。金銭的な面でも助けられましたし、メンバーも良かったので満足です。
 サークルに入ってから学部の人と交流できてとてもいい活動ができた。
 たくさんの友人もでき、のびのびと活動できた。
 二年からサークルに入りましたが自分の好きなように自由に楽しく活動ができました！
 自分の参加して、とても良い経験になった。
 サークルが楽しかった。
 サークルに入っていたが、あまり参加しなかったが楽しかった。

経営情報学科

入っていない。
 金。
 しめ切りに追われて絵描くのは楽しかった。
 特にこれといって活動していなかった。
 楽しかった。
 あまり活動的ではなかった。
 学友会は、内輪だけって感じ。休んでしまつたらもう入れない雰囲気がある。
 学友会は、学友会の役員だけで楽しんでいる感じがよく感じる時があったし、学生全体が楽しめるというより一部の人が楽しいという感じがした。
 参加してないため無回答。
 行事がたのしかったです。
 大学の方の人とも友達になれたし、学年が違う人とも仲良くなった。
 大学祭楽しかった！
 様々な人達と交流できたので良かった。
 文化祭までの準備はもちろん、普段の活動も充実していた。
 週に1回だけだったけど、本当に楽しくできた。
 特にかかわりがなかったから。
 マイちゃんカップに出場できて、1年と仲良くなった。
 どちらも参加していないため。
 今までやったことの内容の部活に所属して勉強にもなったし、仲間にもめぐまれていたから。
 この2年間の自分の一番のやりがいでした。
 好きなことができたのでよかったです。発表の場もあってよかったです。
 自分の好きなことを存分にできて、また、とてもいい環境でとてもいい仲間と本当に楽しめた。
 気軽に入れるサークルがなかった。
 就職等で話題ができた。新しいことを学んで楽しかった。
 やりたいのなかった。
 サークル少なすぎる。
 あまり行ってない。

質問14. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	6	31	37	3	21	24	61
②満足している	5	54	59	5	52	57	116
③あんまり満足していない	1	9	10	3	6	9	19
④全く満足していない	1	2	3	1	3	4	7
⑤利用していない	0	0	0	0	0	0	0
⑥無回答	0	2	2	0	1	1	3



【理由等】

商学科

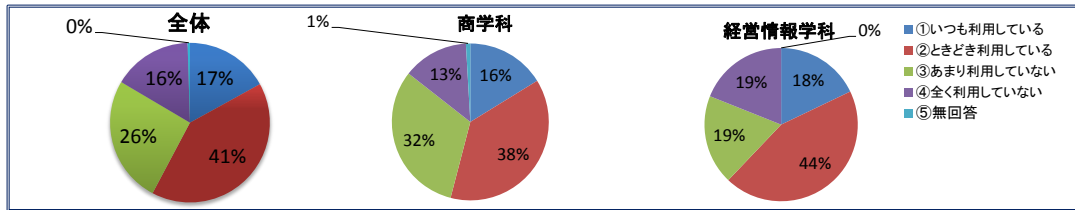
最高
パソコンがすばらしい。
すばらしかった。
快適に過ごせたから。
パソコン室が多いから。
体育館好き。
駐車場に15000円は高い。
短大側にトレーニングルーム室を作っていただきたかったです。
使っていて不便は感じなかったの。
パソコンのスペックを同じにしてほしい。
コンピューター教室によって使えるソフトがあるのが不便だった。
駐車場の数が少ないと感じた。
コンピューター教室でいつもパソコンをつかうことができた。
空き時間などパソコン室を利用していたから。
講義中、マイクの調子が悪い教室が多々ありました。
コンピューター教室は温度調節もよく、きれいでとても利用しやすかった。
221とても良かった。すごく活用。居心地よかった。
駐車場で車ぶつけられた。ぶつかりそうになった。へんなところにとめてある車じゃま。
コンピューターがたくさんあって良かった。
コンピューター教室がいつでも使えて良かった。
使いやすく良い施設、設備だった。要望としては、もう少し駐車場の雪かきをしてほしい。
基本的にはどこも綺麗で使いやすかったです。PC室はレポート課題を複製、印刷する際にとて役に立ちました！！
コンピューター教室を特に使わせて頂きましたが、環境がとても良かったです。印刷機の所に操作方法の張り紙が欲しいです。詰まったりした時に混乱してしまって困りました。
PC室がたくさんあったので、PCに困らなかつた。
パソコンが部屋によって重かつたりした。
土曜日にコンピューター教室等使えるのがいいと思った。
コンピューター教室が自由に使うことができてよかった。
コンピューターの不具合があったので②です。
フロントガラスが割られました。駐車ルール悪いです。空いているのに「満車」の表示が多い。
使いやすかった。
体育館や教室、冬寒い。
パソコン室は、いつでも使える所がよかった。駐車場もいいですが、短大から少し遠いのが大変でした。
パソコン室が遅くまで使えたので助かった。
駐車スペースではない所に停めている車がじゃまでした。
動きの遅いパソコンがあったので新しくしてほしいと思いました。

経営情報学科

短大の方だけ遠いのでそっちにもほしかった。
駐車場が広かった。いいと思う。
駐車場・・・止めていけないところに止めてられて出づらかった。
お金の使い所がおかしい。エレベーターの位置。学食が少ない。
定期的にPCを買い換えたりして使いやすかった。
PCをすべて統一してほしい。
CG作ってたらよく落ちた。
駐車場は遠い。駐車場のマナーが悪い。通路にとめてある車は本当に迷惑でした。
PC室がたくさんあって便利だった。
駐車場が満車じゃないのに、満車でなつて入れないのが直してほしい。あと200円で1回だけ入れるシステムにしてほしい。
プリンタの説明を設置してほしい。使い方が分からない人のミスで、手持ちの用紙に知らないデータが印刷されて用紙が足りなくなったことが幾度もあった。
プロジェクターも外部の先生が困っていることが多いので、分かりやすい説明を設置してほしいです。
よくコンピューター教室を利用しました。空き教室がわかりやすくてよかったです。
駐車場の駐車スペース外(通路)にとめる人が本当に迷惑でした。
駐車場をもっと広くしてほしい。雪かきとかちゃんとしてほしい。
広い部屋は上の方と下の方で温度差があつて下の方に座っていたので寒かった。
コンピューター室等をいつも使っていて満足して使っていました。
教室がずっと寒かつたり、熱かつたりで温度調整が大変だった。
空き時間にコンピューター教室を使うのはありがたかつた。
たまに印刷できるはずのパソコンがうまく起動しなかつたりと困つた。
駐車場は全然車がとまっていなくても満車になるので不便だった。
332のキーボードがとても使いやすかつたです。印刷が無料なのは助かりました。情報センターの対応とても良かったです。
短大から駐車場の距離があつた。
2年間で200枚無料で印刷できるのはありがたかつたです。
駐車場は広くて駐車しやすい。
体育館にエアコンが何か付けてほしい。短大だと駐車場が遠くて大変でした。
221のPC最新に！
体育館をもう一つほしい。サークルの練習量の少なさがいやでした。そうすればもっとのびます！！！！
パソコン内にステキなフロントが入っていたり、キレイにカラーコピーができたりいろいろできることが多かつたから。
教室の机とイスの間が狭いところがあつて座り心地悪いと思います。
駐車場は雪がつもると線が見えなくて危ないかもしれない。
駐車場を商短の方にも作つたらいいと思う。
大学側はろうかも暖かいが、短大側は寒くて残念でした。コンピューターは沢山あつてよかった。
駐車場に入るとき混む。
きれいになって良かった。

質問15. あなたは7号館1階の学生コモンルームを利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①いつも利用している	1	17	18	1	16	17	35
②ときどき利用している	2	40	42	2	40	42	84
③あまり利用していない	8	27	35	1	17	18	53
④全く利用していない	2	13	15	8	10	18	33
⑤無回答	0	1	1	0	0	0	1



【理由等】

商学科

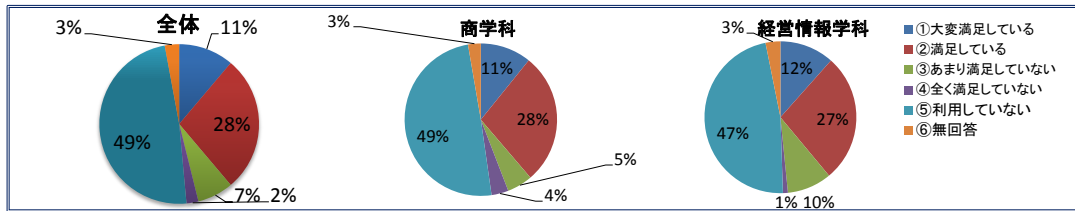
女子が多くてこわい。
 用事がない。
 基本的に学部の人独占していたのであまり割って入る気にならなかったから。
 特に利用がない。
 そもそもどこを指しているのかわからない。
 お昼はパーティーピーポー
 どれだかわからない・・・
 にぎやか。
 友人と会う時に利用しました。
 朝に学校に来た時に授業の時間になるまで座っているのにちょうどいいから。お昼ごはんを食べる場所にも混んでいなければちょうどいい。
 人が多い。
 何となく。
 机が汚い時がある。ふきんを用意してほしい。
 人が沢山いるところは苦手なため。
 机がいつも綺麗で大きめの幅なので何か書いたりする時に便利でした。
 いつも利用させてもらいました。とても便利です。
 いつも人がいっぱいだから。
 コモンルームは大学の人も交流できるのでいいと思う。
 集まりやすい。席がたくさんある。しかし、座ってしまうと通路が狭く通れないことがあった。
 お昼や同好会など友人たちで集まるのに利用しました！
 もう少し席があると助かります。
 お昼の時間は人が多くてあまり利用できませんでした。
 混んでいた。
 ザワザワしていることが落ち着かなかったのであまり利用してない。

経営情報学科

忙しい。
 電車待ち。
 1,2,3号館から遠いため。
 暇な時に利用した。
 遠い。
 楽しいな感じがいい。めっちゃ態度でつかい人もいるけど。
 お昼食べたり、友だちと話したり。大学と短大の間にあるので学部のちがう人も会えるのでたくさん利用した。
 夏は涼しく冬はあたたかいので毎日利用していました。友達とおしゃべりしたり、勉強をしました。
 空き時間に友達と。
 必要ないから。
 あたたかい。
 昼食や空き時間に利用した。
 人が多く、利用しなかった。「コモンルーム」の知名度が低いです。
 講義のない時によく使いました。
 人が多い。
 1年のときはお昼に使っていたが、今は教室で足りているので使わなくなった。
 人をまつとき、食事をするとき利用。
 機会がなかったから。
 さわがしいから。
 ごはんを食べるときなど。

質問16. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	2	10	12	1	10	11	23
②満足している	2	29	31	1	25	26	57
③あまり満足していない	1	5	6	2	7	9	15
④全く満足していない	0	4	4	0	1	1	5
⑤利用していない	8	47	55	8	37	45	100
⑥無回答	0	3	3	0	3	3	6



【理由等】

商学科

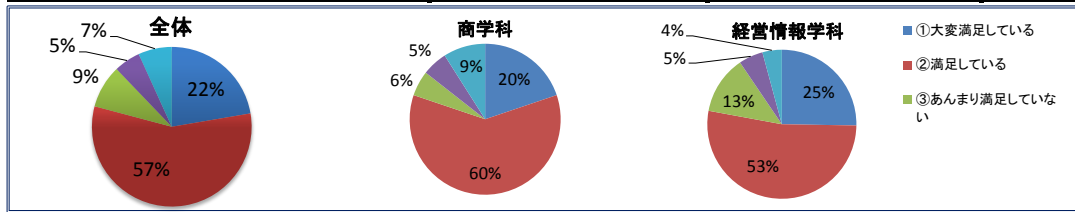
就職お世話になった。
 やることがない。
 利用すればよかった。
 そんなに通わなかったから。
 理由と言われても、自分でも分からないのでなんと。
 あまりやりたいことなくて。
 ひつようない。
 基礎教養がそれなりにあったから。
 行くタイミングがなかった。
 積極的に利用しようとは思わなかった。
 特に興味がなかったです。
 基礎教育センターはすごくお世話になり、大変助かりました。「ゆめ」はなくなってもいいと思いました。
 基礎教育センター、入りやすくてよかったです。
 基礎教育センターに大変お世話になりました。小、中の勉強ができていなかった私には嬉しかったです。もっとアピールして下さい。
 基礎教育センターの先生は分かりやすくてとてもよかった。
 キャリアセンターが本当によかった。声をかけてもらえるのがよかった。
 同好会のこと、パソコンのことで分からないことを聞いたときいねいに説明、対応していただきました。
 サポートセンターのことをよく知らない。
 もう少し利用すればよかったです。

経営情報学科

忙しい。
 ためにはなった。
 知らん。
 就活対策でお世話になった。
 教育センターでは、分からないところ教えてもらったりすごく役立つサポートセンターだと思う。
 基礎教育センターの先生方にとってもお世話になりました。ありがとうございました。
 あまり利用しませんでした。漢字検定のとき基礎教育センターを利用しました。おかげで合格できました。
 基礎教育センターでは大変お世話になりました。学習以外のところでもサポートしていただき何かあれば話を聞いていただきました。
 就活中、基礎教育センターにはお世話になりました！！少し、入りにくい所もあります。
 必要ないから。
 利用することがあまりなかった。
 漢字検定の講座を作ってもらえて、勉強しやすかったです。
 高校の時、ななあにってしまった勉強やSPI等、また、漢検取得まで基礎教育センターの先生方にサポートしていただき確かな学力が身についたから。
 また、ゆめの教員の方にも非常にお世話になりました。
 分からない所をいねいに教えて下さった。(教育センター)
 どういう所がよく分からなく興味がわかなかった。
 漢検をうけると、基礎教育センターの先生に大変お世話になりました。
 よく分からない。

質問17. あなたはフォレストホール・ラウンジに満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	3	19	22	1	23	24	46
②満足している	3	64	67	4	46	50	117
③あんまり満足していない	1	5	6	3	9	12	18
④全く満足していない	5	1	6	3	2	5	11
⑤無回答	1	9	10	1	3	4	14



【理由等】

商学科

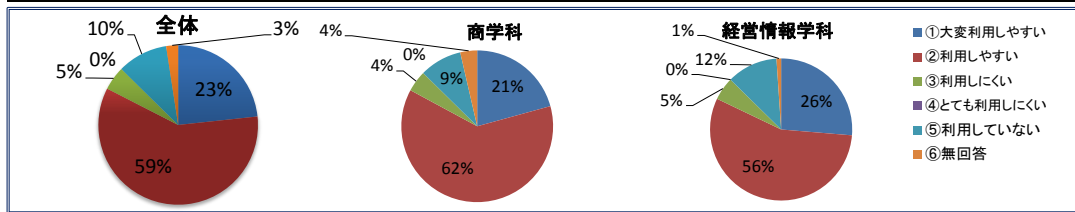
- おいしい。
- つかってない。
- メニューがいい。
- 立地が遠い。いちいちあそこまで行くくらいなら近場の空き教室でも使って食べる。
- パソコンもあるし、コピー機もあるので、つかえるからよかったです。
- 肉うまし。
- 利用していない。
- 行っていないがいい施設です。
- 色々なメニューがあって良かった。
- 毎日おいしい学食を低価格で食べれてとても満足している。
- 人が多い。けど、対応は早かったと思います。
- どれも美味しかった。
- 席を増やした方がよい(ラウンジ)
- 学食がとてもおいしく、値段もお手ごろだったのでいつも利用していました。
- 遠かった為、あまり利用できなかった。
- 季節のメニューや生活応援メニューがよかった。
- おいしかった。座る場所がなくなってしまうので困ったが、仕方ないと思う。
- あまり行っていないので、なんとも言えません・・・
- ご飯がおいしかった。景色がみれる所があってよかった。

経営情報学科

- 忙しい。
- 席がない。人ゴミ苦手。
- 遠い。
- 利用していない。
- もっとオススメメニューがあればよかった。
- おいしい。
- 生活応援メニューが美味しいので、数量限定にしないでほしいです。
- 使ったことがない。
- 安くておいしいごはんでした。いつも楽しみでした。ほかの大学に通っている友達に自慢してました。
- 席が少ない。もう少し長くやってほしい(営業時間を延長してほしい)
- 改善点は特にないと思います。いつもおいしい昼食を食べていました。
- イスとイスの間かくがせまいので座ったり立ったりする時に不便だと感じた。
- ご飯おいしかったです。かま玉うどんがおすすめです。
- 時間が長いので利用しやすかった。
- 美味しかったけど混んでいて大変。
- 空調できてよかったです。
- 量もあっておいしかった。
- 栄養満点の食事を低価格(生活応援メニュー)で提供されていたり、ケーキなど季節ごとに学生の喜ぶものを提供していただいたから。
- キレイにされているし、暇なときなどおしゃべり等に使える。
- 食堂のことは、ごはんがおいしくなかった。おいしいお米をつかってほしい。もっと安くしてほしい。
- キレイ。

質問18. あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変利用しやすい	3	20	23	5	20	25	48
②利用しやすい	5	64	69	4	49	53	122
③利用しにくい	1	4	5	2	3	5	10
④とても利用しにくい	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	3	7	10	1	10	11	21
⑥無回答	1	3	4	0	1	1	5



【理由等】

商学科

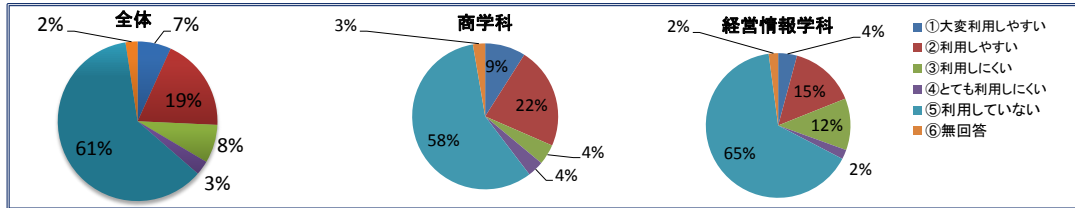
利用しやすいふんいきだった。
 コピー用紙をたっぷりしていたので、けっこう利用できてよかったです。
 慣れる前は大変だったが、今となってはとても使いやすくなった。
 マンガを読むぐらい。
 ラノベ少ない。マガジンはスバラシイ。
 本がきれい。
 本よまん。
 時間つぶしになる。
 慣れていないせいだと思うけど、目当ての本を探すのが難しかった。
 静かだから。
 (自習スペース)勉強する机に人がいないのに荷物を置いて場所取りしている人がほとんどで、あまり利用できなくて残念だった。
 静かでとても良かった。
 DVDのシリーズを置くなりしっかりそろえて置いてほしい。
 あまりいい本がない・・・。
 どこにどんな本があるのか分かりにくい。
 少し話し声がある。
 資料や学習スペース等が充実しておりとても利用しやすかった。
 テスト期間中に人が多くて座れないことが多かったので、勉強する場所をもうけてほしいと思った。お昼の席も増やしてほしい。
 人気の本がすぐに借りられるのでありがたかったです。
 文献の多く、DVDを見たりして利用していました。
 普段は静かでもいいんだけど、テスト期間になると席が少なくなる。
 席が完備してあってよかった。1人用がうれしかった。
 テスト期間中、席がなくなるのが辛いです。
 テスト期間の使用ルール悪すぎです。授業に行くのに荷物置けばなしでなくなっちゃう人どうにかしてほしいです。
 図書館にもカラーの印刷機がほしかったです。
 ヒマつぶしにもなってよかった。映画みれるし、雑誌もみれてよかった。

経営情報学科

本の種類がすくない(新書)(種類)(量)
 落ちついて学習できる。
 けど、マンガ読んでる大学生うるさい。
 DVD良い。
 静かすぎる。
 ととききうるさい人がいるけど、ちゃんと注意してくれるので助かった。
 個別の机があるのいいと思います。
 個人の勉強机がありがたかったです。
 静かで席もたくさんあってよかったです。もう少し文庫本入れてほしいです。
 利用しやすくて良かったです。
 必要ないから。
 多く席があって座って本を読める。DVDなどもほうふ。
 職員の方の対応が少し冷たいと感じた。場所取りがいやでした。
 空き時間や勉強するのに重宝しました。狭いスペースで落ち着ける。
 たまに2階で飲食している大学生がいてとても嫌だった。
 机のところにしきりがあって良かった。
 静かで集中しやすく本もたくさんありたのしかったです。
 個室っぽくできる「1人机」で勉強すると集中できるし、観たいDVDがそろっていて1人の時間を楽しく過ごせる場所だったから。
 本がさがしづらい。
 居心地が良い！
 クリスマスの時期に、本をプレゼントのようにして中身がなにかわからない状態にしてか出す企画が面白かった。
 テスト前など机の場所取りが多くて使えなかった。場所取りは禁止した方がいいと思う。
 リクエストした本いれてもらってうれしい。図書館にいかなくても本返せるからありがたかった。
 広い。

質問19. あなたは健康安全センターについてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変利用しやすい	3	7	10	1	3	4	14
②利用しやすい	0	25	25	1	13	14	39
③利用しにくい	0	5	5	1	10	11	16
④とても利用しにくい	1	3	4	0	2	2	6
⑤利用していない	8	56	64	9	53	62	126
⑥無回答	1	2	3	0	2	2	5



【理由等】

商学科

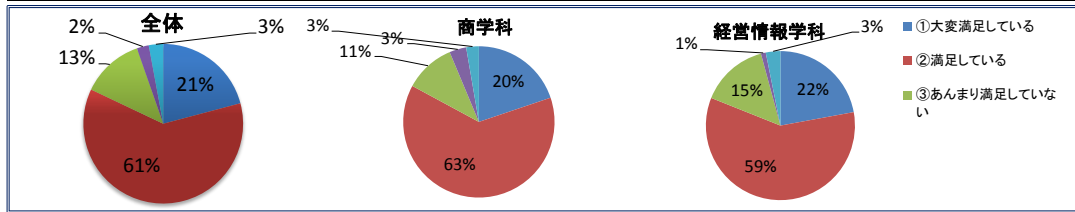
日々健康。
 ガマ腫おせわになった。
 ケガしてないから。
 特に大病になったりもしなかったの。
 利用したことがないです。
 学校で体調が悪くなるようなことはなかった。
 優しかった。
 女性の職員さんの口調が少しきつめに感じるので行きづらいです。
 分かりやすく教えてもらい安心できました。
 「センター」という名前が堅苦しく感じてしまいました。

経営情報学科

健康だったから。
 知らん。
 特に利用する機会がなかったの。
 少し入りづらかった。
 鼻血が出てもなーんもしてくれなかった。ある意味がない。
 あるの知らなかった。
 すごく優しい方で安心できた。
 部活動の時間にもいてほしかった。
 先生がいるかいないか分からないから。先生は親身になって話を聞いてくれるがそこまでたどりつくまでがなぜか入りづらい。
 入りづらい。
 どこにあるか分からない。

質問20. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、焼イモ会、クリスマス会等)についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	5	17	22	2	19	21	43
②満足している	7	63	70	5	51	56	126
③あんまり満足していない	0	12	12	4	10	14	26
④全く満足していない	0	4	4	1	0	1	5
⑤無回答	1	2	3	0	3	3	6



【理由等】

商学科

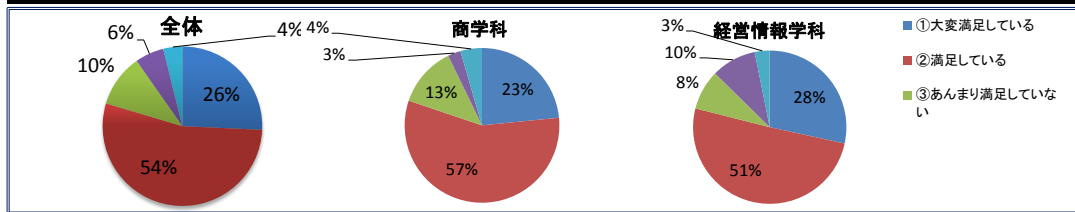
大学祭は楽しかった。高校時代はボッチだったので尚更。
 大学祭の実行委員でやりがいがあったからです。
 もっともりがあがる！まだまだいける。
 よかった。
 盛り上がったね！
 いろいろな経験をさせてもらいとても大切になりました。
 とてもおもしろかった。
 行事が多くて楽しかった。
 楽しいイベントがたくさんあってよかった。特に大学祭のコンサートがとても楽しかった。
 楽しかった。
 時間がおそいので参加できない。
 体育大会はぐだぐだとなってしまっていたのが少しいやでした。
 体育大会がくそ。学生会の仲良しごっこがうざい。
 大変はこともあったけれど、とても楽しかった。
 どの行事もとても楽しく参加することができた。が、今年度の部活の予算が少なくてどの部活も購入できるものが制限されていたのに、クリスマスイルミのために回すお金が学校側にあったようなので、来年度は部活動で使える予算を少しでも多くしてほしいと思います。
 大学祭のゼミの出し物が楽しかったです。
 身内だけで盛り上がると周りが冷めてしまうので、もっと全員が楽しめるようにしてほしい。
 6限があると途中で帰らなければいけないイベントがあった。
 大学祭、体育大会は楽しかった。

経営情報学科

焼イモ会の煙と臭がちよっときついです。
 たのしい。
 時間。
 焼きイモは講ギと被っていて食べられませんでした。イモが小さかったらしいです。
 素晴らしい
 体育大会などがとても楽しかった。
 体育大会で初戦で負けると後がヒマ。
 楽しかったけど、やっぱり学生会役員が楽しいって感じがします。
 たのしい。
 短大体育大会は年に1度でも良いのではと思います。
 焼イモとかクリスマスとかに使うお金を駐車場の整備とか大学祭の経費にあててほしい。
 様々な人達と交流できるのでいいじゃないかと思えます。
 焼イモおいしかった。大学祭は参加しない人も多い。花火はいらなと思った。臨時の駐車場をもっと分かりやすくして欲しかった。
 あまり積極的に参加しなかった。
 みんなでワイワイできて楽しかった。
 もっと多くの人に参加してもらえるような工夫があったらいいと思いました。
 ゼミでの活動は楽しかった。
 思い出になりました。
 焼イモ大会とかは別にやらなくて良いと思います。保育園みたい・・・
 短大と大学の交流もしてみたかった。学校行事たのしかったです。
 面白いと思えます。
 学祭はたのしくてよかった。
 新入生歓迎会がすごく楽しかった。
 とにかく楽しかった。
 参加者がもっとふえるといい。
 ライトアップ？はいらないのではないかと思います・・・
 行きたい人だけいけばよいので良い。

質問21. あなたは卒業後の進路に満足していますか。満足していませんか。

	商学科			計	経営情報学科			計	合計
	男	女			男	女			
①大変満足している	7	19		26	1	26		27	53
②満足している	3	60		63	6	42		48	111
③あまり満足していない	2	12		14	2	6		8	22
④全く満足していない	1	2		3	3	6		9	12
⑤無回答	0	5		5	0	3		3	8



【理由等】

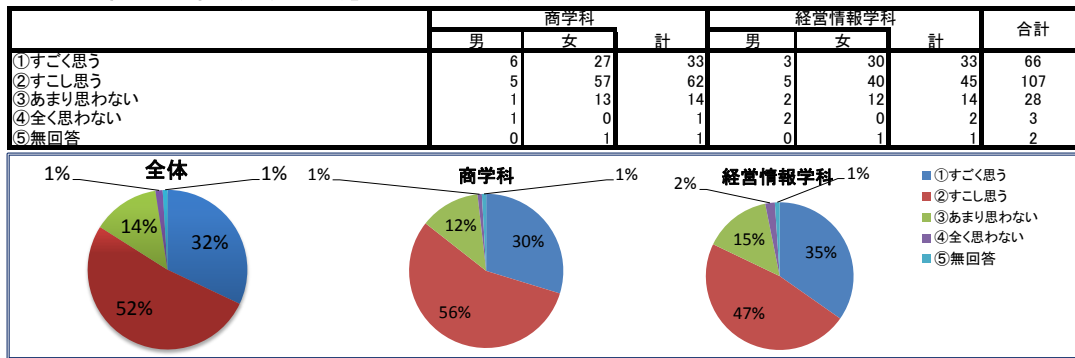
商学科

結果、自分で勝ち取ったが先生に面倒をみてもらえて良かったです。
 がんばろうと思っている。
 キャリアセンターの人にすすめられていい就職先が見つかってよかったです。
 自分の希望する就職先があったから。
 素晴らしい社会です。
 就きたいとこ就いた。
 決まってないから。
 まあまあ不安。
 就職が決まってないから。
 なんかも想像してないところになってたが、決まった以上未内定者もいるのに不満は持ちやいけないと思ったから。
 志望していた企業から内定をもらった。
 自分が希望していた職種での就職が決まったのでよかったです。
 社会人ががんばります。
 就きたい職種につけなかった。休日が非常に少ないため。
 進路が不安。
 先生方のサポートのおかげです！ありがとうございます！
 進路がまだ決まっていなかったため、どちらとも言えません。
 今までありがとうございました。キャリアセンターの職員やゼミ担当の先生のアドバイスで進路が決まりました。社会人になってもがんばってみたいです。
 資格がなければ、内定できなかったと思うから。
 今まで勉強してきたことが生かせそうだから。
 高校時代に行きたかった会社だったから。
 自分のやりたいことだったので、がんばって、次に向けて4月からがんばりたいです。
 まだ内定をもらってないから。

経営情報学科

とりあえず決まったからよかった。
 安定。
 内定をもらっていない。
 欲しかった条件と一致していたから。
 第一志望でないから。
 無事就職できたから。
 自分でちゃんと就職活動をして就職先を見つけたので。
 まだ未定。
 内定をいただいて今はほっとしていますが、これからどうなるのかわからないので。
 進路は満足しています。職種も目指していたものなので良かったと思います。
 地元の企業だし、先輩もいる所なので頑張ろうと思う。
 行きたい企業に行けたから。
 自分が行きたいともっていたところに行けた。
 やれるだけのことをやった上での結果だから。サポートしていただけてありがたかったです。
 決まっていな。
 先生方が面接の練習などたくさんしてくれたおかげで行きたい会社に内定を頂くことができました。ありがとうございました。
 好きなことを仕事にできたから。
 もう少しがんばれば良かった。
 自分で決めることもできサポートもしてもらえたので。
 無事内定をもらうことができたのでよかった。
 就職できるのは嬉しいが、まだ学生でいたい気持ちもある。
 ちがうところに就職したかった。
 正直入社しないかわかりません。

質問22. あなたは「松本大学松商短期大学部」を誇りに思えますか。



質問23. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

ロッカーの数をもっと増やせたりしませんか？ 男が少ないから、多く！
 女子は制服がいい。 男ふやす、商短みんなで旅行がしたい。
 ゼミ内のレクの時間をとってほしい。やる時はやる遊ぶときは遊ぶのけじめをつけられるように。
 もっと学生が楽しめるような授業にしてほしい。
 もっと想像させるような講義をしてほしい。資料をしっかりとくりぼってほしい。友達に受講票を出させないで下さい(先生の所から盗んでいる人がいました)
 たばこをすう所をなくした方がいい。
 卒業パーティーに参加しない人にパーティー代を返してほしいです。
 電車に間に合わなくて時間をたいむダにしてしまったので、5分だけでも早く講義を終わらせてほしかったです。
 1年の前期でとらなかった授業があった時などであればよかったと後悔したくないので2年の前期などでももう一度やってほしい。iPadやケータイでも自分の出席などをみれるようにしてほしい。 駐車場の混雑をなくしてほしいです。
 机がななめになっていて物が落ちてきます。 2年後期の授業に花道などをもってきてほしい。
 雪かきをした方がいいと思います。凍っていてすべりやすいです。
 美術・イラスト関係の授業。
 これから外国語がもっと世の中で多く使われると思うので、いままへにも多くの国の言葉を勉強できたらいいと思う。
 2年後期のキャリア・クリエイトの授業で周りがうるさくて仕方ありませんでした。やる気のない人は参加しないか、うるさい人に注意をして頂きたいです。
 駐車場を駅側にもっとほしいと思います。
 2年の後期のキャリア・クリエイトでやっていたことを、総合経営学部の先生にぜひやっていただきたいです。3号館2階のロッカーは夏場だとロッカーを開けたらとても暖かくなっていてお弁当や飲み物を置いて置けません。なので夏場だけでもロッカーが暖かくなならないように窓に日避などを設置してほしいです。
 さらに幅広い分野のことを学べるようになったらさらに良くなると思う。
 学校で企業の方と会うことがあるので、全身鏡がほしい。もっと幅広い資格の情報がほしい。例題や過去問が自由に解けると助かる。
 絵本の世界のような授業がもっとあるといいと思う。
 教室以外がさむい。
 22後期のユニットいらない。イタリア語とかフランス語の授業があればよかた。124教室に時計がほしい。
 就活の際に役立つメイクの授業！講座ではなく授業としてやったらおもしろいと思う
 このままで大丈夫だと思います。
 講義によって受講票を配るタイミングが異なっていたため、(最後に配る先生も遅刻をしても遅刻にならなかったりしていた人も多くいるので)その辺は徹底してほしいです。
 就職する職種別の授業があったらよかた(事務の営業)
 やりたい授業が同じ時間にあったりすることがあったので変えたいと思います。たとえば、前期にあった、医療事務Ⅲと検定簿記が同じ時間であったとき、すこし迷いました。
 受講票を配るタイミングを合わせてほしい。カウンセリングをやってよかたとは思えなかつたです。
 もっとパソコンの授業を増やした方がいいと思う。
 イスが汚い。
 受講票のくぼる時間を統一した方がいいと思います。
 パソコンの基本的な操作や機能についてももう少し詳しく習えればよいなと思いました。
 就職のためのキャリアカウンセリングは希望者だけにしたい方がよいと思いました。嫌だったという話をよくききました。
 冷暖房をしっかりしてほしい。

経営情報学科

フィールドユニット制があるため、取りたい科目が取れないということがあるため改善してほしい。
 授業をする人の授業をした方がいいと思った。喫煙所を無くすなら、そこに園児やお年寄りのための何かを作ればよかった。ていうか、喫煙所を無くすのは臭いものにはフタ的な考えで何も解決にならないよね。隔離する感じで作ればよいのに。
 先生のごちや悪くちの時間を無くしてほしい。
 このままでいい！！
 パソコン(iPad)は、はっきり言って邪魔になるのでどうせだったら資料閲覧以外で活用してほしい。
 動画編集の授業とかほしい。
 7号館と2.3号館をつなぐ渡り廊下が寒い。先生がどこにいるのかわからないから分かるようにしてほしい。
 ユニット制が2年後期になってくると取りたい授業があまり無く大変だった。1年生の授業にとりたい授業が沢山ありがぶつていてとれない事が残念だった。
 前にも書きましたが、駐車場の通路にとめる人をどうにかしてほしいと思っています。
 キャリアクリエイトのやり方を考えてほしい。特に2年の後期は講演会が多い話の内容がかぶるのでまたかと思ってしまふ。授業がやりたいものがよくかぶる。テスト返してほしいなと思う。
 無遅刻、無欠席だった人に何かごほうびをあげる制度があったらいいなあ・・・(笑)
 もうちょっとパソコンを活用できないかと思いました。せつかく1人1人にパソコンを配布しているのにパソコンを使う講義は限られてくるのももったいないなと思いました。
 支給されたタブレットPCやiPadはあまり使う機会がなかったので、もっと有効活用できるようにしてほしいと感じた。できればもう少しロッカーを増やしてほしい。2号館までいかないロッカーがないのは少し不便だと感じた。
 授業割りによって(時間帯など)どうも思えない授業があった。土曜日授業等作ってもらえれば行きやすいのかなと思った。大学の方との交流がなかったのもっとかかわりがあれば楽しいと思う。サークル、部活動対抗の集まりがあればなおおもしろいと思った。
 メソフィアなどすぐ見れるようにしてほしい。(ケータイetc・・・)
 アロマテラピーの授業がほきとかぶって悲しい(2年前期?)
 必修の授業は午前中にやってほしいです。
 とった授業が進路にどのように役立つのか、表などで最初わかりやすく説明されるとイメージしやすくなると思いました。
 駐車場の短大の方にもあればいいと思いました。
 図書館司書の授業は夜遅くて大変でした。できれば早めてもらった方が受講者が増えるのではないかと思います。
 大学の5号館の方の部屋の机がななめでプリントとかふでばこがずるずる落ちてきて使いづらかつた。
 喫煙所なくしてほしいです。
 2年次もパソコンの授業いっぱいあればいいと思いました。
 そのままでいいと思う。
 もっと英会話の講義があればなと思いました。就職後に使える英会話とか、接客系とか・・・
 介護の学びがもう少し早い時間に行ってほしい・・・
 ユニット制がめんどうだった。
 2年の方が1年よりえらべる講義に自由がなかつた気がする。もう少し情報系を2年に増やしてほしい。
 先生を増やす。
 商業高校出身者は、1年前期の授業レベルを上げる(Excelとかパソコン系とほき)2年後期のキャリアクリエイトを選択制にする。又はゼミの日と一緒にする。
 それまでのカリキュリと内容がとてまかぶっている。その時間に就活・入社に向けての勉強がしたい。人生最後の自由な期間だからもっとろうかとかあつたかくなればよいな。
 自分の取りたかつた授業が色んなとかぶつて取れないことが残念だった。
 ユニットで単位を取得するのは分りにくいしめんどくさい。
 キャリアセンターは職員がみんな入口のほうをむいているので入りにくい。

質問24. 所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

入口が2つある意味がわかりませんでした。

喫煙所に屋根がほしい。

キャリア面談はいらない。心理学は自己分析になるので就活に役立つので必修にすべき。

このままで良い。

コンピューター室を間違えてあけてしまうことがあったので使用中と分かりやすくしてほしい。

最後のキャリア・クリエイティブ教室を分けた方がいいです。

学科の違いをつくってみると良いかもしれません。

満足しています。

商業に関する課外活動があったらいいと思う。

資格に強い授業がもっとほしい。

さらに沢山のことを学べるようになると良いと思う。

ユニットのことを考えすぎてほかの授業がとれないです。

卒業パーティーに出席しない人は、お金を返してほしいです。

商学科と経情の違いがわからない。受ける時間が違うだけで取る授業は一緒だったので違いが分からず、面接で商学科を選んだ理由を話すのが難しかったです。

ユニットをとるために他の授業がうけれないことがあると思います。

経営情報学科

学科を別ける必要がないと思った。

人に聞いてちゃ何も始まらないよ。

このままで充分いいと思う。

3Dプリンターを使える授業があったらいいなと思います。

経情と商学科の違いがあればいいと思います。

入学する前とか就活中によく思ったのですが、商科と経情の違いが全くないというのは説明するのに大変です。1科目くらい学科の必修があるといいなと思います。

学科の方は今のままで良いと思います。

商学科と経営情報学科の違いが分かりません。そこを変えてほしいです。

キャリアの講義は、講演より授業のほうがいい。人の経験談のみで決めつけられるような話はひびかなかった。

商・経営情報学科で学ぶことを少し区別した方がいいと思う。あまり違いがなかったと思う。

楽しい授業。

3. 松本大学松商短期大学部在学学生アンケート

質問1. 所属について

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
回収数	12	86	98	9	88	97	195

質問2. あなたが松本大学松商短期大学部に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	商学科			経営情報学科			合計	順位
	男	女	計	男	女	計		
②資格をたくさん取得することができる	9	77	86	4	75	79	165	1
③フィールド・ユニット制度に魅力を感じた	7	44	51	3	57	60	111	2
④自宅から通学できる	4	39	43	5	38	43	86	3
④将来の目標を見つけたと思った	8	33	41	5	34	39	80	4
⑦就職が良い	5	36	41	3	34	37	78	5
⑦キャンパス見学会に来て楽しそうだった	1	17	18	2	24	26	44	6
⑬親・先生などから勧められた	4	16	20	2	21	23	43	7
①専門的学識を身につけたい	2	16	18	0	18	18	36	8
⑧まだ社会に出たくない	4	15	19	6	6	12	31	9
⑩パンフレット・大学案内・ホームページを見て魅力を感じた	2	10	12	0	14	14	26	10
⑨学生と教職員の距離が近い	1	5	6	1	8	9	15	11
⑮コンピュータなど施設・設備が充実している	1	4	5	0	6	6	11	12
⑥編入学ができる	1	1	2	1	2	3	5	13
⑩良い先生がいる	1	2	3	0	2	2	5	13
⑪先輩・知人がいる	0	1	1	0	4	4	5	13
⑤伝統ある学校で校風が良かった	1	1	2	0	0	0	2	14
⑫友達が入学する	0	2	2	0	0	0	2	14
⑩その他	0	0	0	1	1	2	2	14

【その他】

商学科

経営情報学科

入れるから。

質問3. あなたが受講した授業の中で良かったこと、悪かったこと、感じたこと

商学科

講義の内容にそれぞれ工夫があって聞いていておもしろかった。
 前期の方で、難しい科目を選んでしまったことです。
 商業簿記が難しかった。
 どれもとても良かった。
 それぞれの授業が工夫されていてとてもわかりやすかつたし楽しかった。
 温度。
 スライドが早いと感じた講義があった。どの講義も先生が分かりやすく教えてくれた。
 自分で講義を選択しての授業となるので、それぞれのやる気に応じて勉強できるいいシステムだと思った。
 国際交流の授業が大変だったが、同時に楽しくもあった。
 広い教室(232.121)での授業のとき、前の方が寒い。
 パソコンが授業などでサーバー？に人数が集中すると重くなる。
 マーケティングの科目は、とても楽しく出来ました。先生も楽しい方で、授業の内容も楽しいものでした。悪かったって事ではないのですが、法学の授業のスライドの早さが少し気になってしまいました。
 検定にむかって勉強ができて力がつく。
 検定いっぱいとれて良かった。
 ホワイトボードの教室だとたまにホワイトボードに書かれた文字が光の加減で見えない時がありました。他はすごく良いものばかりです。
 マーケティングの授業、すごくおもしろかったです。
 授業の内容が深い。
 どの先生も工夫して授業をしてくれるので聞いていて面白いです。熱心に教えてくれるので真剣に取り組めます。
 ハングルがとてもたのしかったです。
 選択した授業が少人数だと先生にすぐ聞くことができる。
 私語がおおい。
 アイパッドの活用の効率が悪い。教科書がないと聞いたのにたくさんあって、お金をとるところがちよっと説明と違ったと思った。
 自分の知らない世界が知識がふえていったのでよかったです。
 冬は暖ほぅがきいていて良かった。
 スマホを触っている人が多い授業が時々ある。授業の雰囲気が悪くなるからもっと注意したほうがいいと思う。
 空調設備がしっかりしている。
 良い環境だと思います。
 分からないことでも先生に訊けば丁寧に教えてもらえる。
 マーケティングなど、ただ板書するだけでなくいろんな画像もはさまれたり飽きずに受けられた。少人数の授業は授業の雰囲気も良く先生ともたくさん話せたので良かった。
 簿記の授業を取って、知識が身についたよかったです。
 さわがしい授業がいくつかあった。
 自分の学びたいことを学べるというところ。
 先生によって学生側の要望(寒い、暑い)を全然聞いてくれなかった。寒くて授業に集中できないことがあった。
 検定前に対策の授業があったのがよかったです。(簿記、Excel)
 パソコンを使った講義の時、パソコンの起動が良くない時が多々あった。
 電車の時間を気遣ってくれる先生が多くてよかった。
 マーケティングの授業は、スライドがみやすくわかりやすかったです。
 他の学校じゃ学べないことを学べた。
 映像を使う講義が多くてよかった。簿記が難しく感じた。
 アロマも色彩もたのしかったし、役に立つと思った。簿記も難しかったけど、分かりやすく説明してくれたので検定にも合格できた。
 ExcelやWordなどのパソコン系の講義では、各パソコンの横にモニターがあるのでとても分かりやすかつた。
 自分のためになることを学習することができた(アロマ、カラー、ファッション、マーケティング)
 3限の電車の時間(3限が終わるのが15:00だが、電車は15:2でありまにあわない！)
 パソコンの授業がよかった！！今まで全くできなかったのに、少しずつできるようになった。
 簿記がためになった。
 先生がいつも部屋の温度を気にしてくれていたのはありがたかつたです。
 興味のある授業をうけて難しかった所もありましたが授業もうけて学んだことがたくさんありました。

経営情報学科

わかりやすい講義が多かった。

ExcelとかMacで先生がみんなが分からないところを何回もやってくれて助かった。

面白い内容の授業が多く講義が楽しい。

後期に入って若干落ち着いてはいるが、それでも受講中の私語が酷く耳障りなのが授業の悪い所。
ふつつ。

資格系の講義で分かりやすく教えてもらえた。

ほぼ全ての講義でアンケートが反映されていたことが良かった。

経済の授業が充実しています。書道とゲームプログラミングが楽しかったです。

高校まで習ってきたことを大学で継続して行ったら、わからなかった部分も理解でき資格取得ができたこと。
楽しい。

高校の授業とは全く違った感じだったけれど、だんだん慣れていきました。

どの授業の先生も熱心に教えてくれたので良かった。

基本的にどの先生も優しく教えてくれるので、わからないところがあっても聞きやすかった。

FPの授業はためになるのでgood!

パソコン系の資格を取りたかったので、その点に関してはとても良かったです。

伝えようとしてしゃべってください。伝わらない時あります。

ExcelやWordの授業で先生に分かりやすくおしえてもらったので、ほとんど分からないということがなく、とても楽しかった。

楽しい授業がたくさんあってよかった。

暖房が入ってなかったり、冷房がさむすぎたりしているときはちゃんと先生が調節してほしい。

先生達の説明が丁寧でとてもいいと思いました。

基本どの授業もスライドが見やすくて良かったです。中間アンケートで出た意見をしっかり反映してくださっていて良いと思いました。

具体例を説明しながら授業をして下さる先生が多かったので分かりやすかったです。

どの先生もわかりやすく教えてくれるから検定に向けてがんばれた。

色々なことをまた1から身に付けることができてよかった。

高校で商業系の科目を学んできたので、その知識を更に伸ばすことができた。

医療事務の授業をうけて最初はむずかしすぎて大変だったけど、検定をうけてうかった時はうれしかったです。

授業によって教室が暑かったり寒かったりした。

説明が早くついていけない授業がある。

いろんな種類のことを勉強できてよかった。

マーケティングの授業が楽しかった。

パソコンを使った授業(Excelとか)の、説明がわかりやすくて良かった。

とても丁寧な教え方で分かりやすいし、面白い授業で楽しいです。

学生と先生の距離が近いので、講義でわからないことを質問しに行きやすかった。

スクリーンでの授業が多くてわかりやすかったです。

必修の科目は最初は難しく感じたけれど、先生方の丁寧な教え方のおかげでしっかりと理解することができた。
良かったと思います。

授業内容がしっかりまとめられていてわかりやすかった。全ての授業において。

集中が切れてしまうと上の空になってしまうから気をつけたい。

将来に生かせる授業をたくさん学べました。スライドなどを使って分かりやすく授業をしてくれる先生がいて、とてもおぼえやすかったです。
いい環境がある。

みんなわかりやすかったのしかった。

先生が優しく丁寧。授業外でもきいたら勉強おしえてくれる。

マーケの授業が普段の日常生活の中でも考えられることとかだったりしたので身近に感じれたし、先生方の話方もかみ含めて親近感がわいた。

マーケティングは内容的にも今後役立ちそうだし、メモ力がとても上がる所も良いと思いました。あと、インタラクティブイングリッシュは先生がとても明るく楽しい雰囲気です。土曜にも学校に行くのが全然嫌じゃありませんでした。

医療事務の資格は難しいしお金も高いのに奨励金がでないのが不満です。

少人数の講義では、距離が近く感じられて仲良くなれたのでよかった。

全部の授業をとって丁寧で教えてもらえるのですごく理解しやすかったです。

たくさんの資格を取得することができてよかった。食品の授業が主ですが、しゃべっている人がいたり寝ている人の寝息がうるさいときがあった。

講義中に喋っている学生がいる科目があり、集中できないので喋らないで欲しいなと感じました。レポート作成は自分の勉強になってとても良かったです。

パソコンの先生方の教え方が上手だと思います。

パソコンをあつかう授業で、先生の操作を見ながらできてよかった。

どの講義も分かりやすくて良かった。

マーケティングの授業でメモ力がついた。

講義の環境が前期よりも後期の方がよかったです。

2号館でたまに金属音になってそれがうるさくて勉強に集中できません。

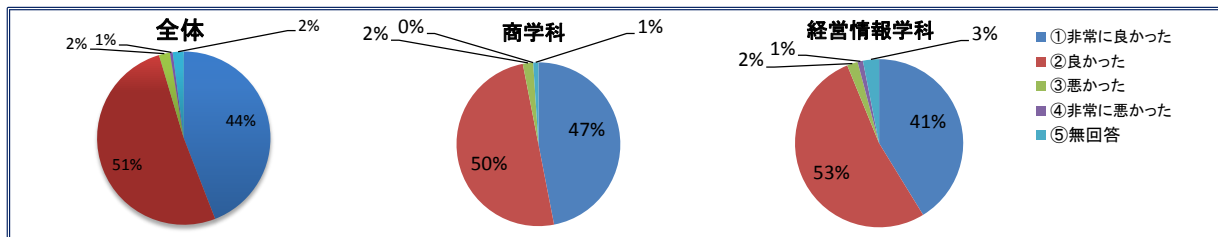
DVDを見ながらの授業が楽しかったです。

映像などを使ってくれるところがあったので、とてもわかりやすくて良かった。

マーケティング→勉強になるだけでなく内容がおもしろかった。簿記→難しかったけど資格もとれてよかった。パソコンの授業→どれも資格に結びついたのでよかった。

質問4. ゼミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	4	42	46	2	38	40	86
②良かった	7	42	49	7	44	51	100
③悪かった	1	1	2	0	2	2	4
④非常に悪かった	0	0	0	0	1	1	1
⑤無回答	0	1	1	0	3	3	4



【理由等】

商学科

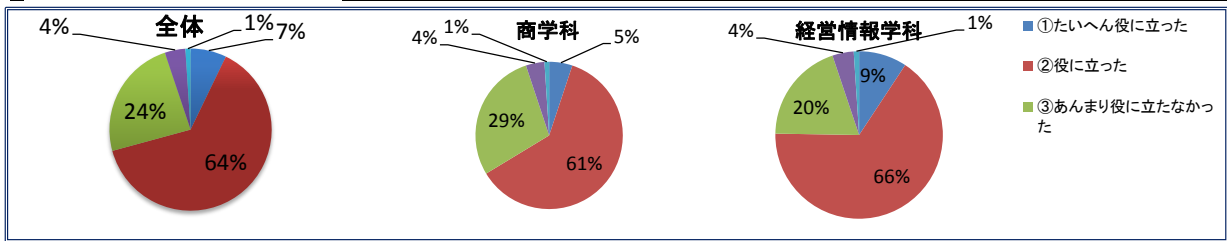
今後の就職活動について、色々教えてくれた。
 いろいろなアドバイスももらったから。
 とても楽しいし、ちゃんと話を聞いてくれる。
 やさしいいろいろ知っていたので参考になった。
 わからない勉強を教えてくれた。
 とても適格なアドバイスで良かった。
 相談などにも真剣に考えて取り組んでくれたから。
 私の話を聞くだけでなく、提案して下さることも多かった。
 最初はどうかと思いましたが、先生の大切な所はしっかりやってそれ以外は浅くやるスタイルが好きです。
 ちゃんと聞いてくれる。
 求職カードとかアドバイスしてくれた。
 先生が生徒のことをよく思っていてなんでも話してくれる。
 自分たちが理解しやすいように細かく説明してくれたから。
 就活についても色々教えてくれたため。
 悩んでいて、相談すると助けてくれた。
 優しく、話やすく相談しやすい。
 優しい大切な話でもくだらない話でも相手してもらえてうれしかった。「先生これやりたいんだけど・・・」「OK」というのが多くて実行計画ができてよかった。
 フレンドリーで楽しい人です。私の話をすごく良く聞いてくれます。このゼミに入れてよかったです。
 相談に乗ってくれる。
 相談をしにいったら、ちゃんと話をきいてくれてアドバイスもくれた。
 まだ色々相談しきれていないことがあるから、これからもっと相談しに行きたい。
 色々な所でアドバイスをもらったので助かりました。
 色々指導してくれた。
 高校とはちがってゼミだったので不安だけれど相談に応じてくれてうれしいです。
 不安だけれど(一緒にゼミになった人と仲よくなれるかな的な)先生のテンションもあってか1つにまとまった気がした。
 困っているとき、助言をしてくれて助かった。みんなのやる気を出させてくれた。
 分からないことや不安なことを訊くと経験したことも交えてアドバイスをしてくださった。
 なんでも親身になって教えてくれたから。
 質問をしにいった時に、解決するまでしっかり話しあってくれた。就職活動において必要なことを指導してくれる。
 話してみたらいい人だった。
 とても接しやすく聞きやすかった方だったのでよかったです。
 あまり言っていることに信ぴょう性がない。すべてにおいて適当でわたしたち学生のことを一番に考えていない。
 親身に教えてくれた。
 就職についてまだ何も決められないでいる私にアドバイスをたくさんくれた。
 先生の考え、就職へのアドバイスをたくさん話してくれるから。
 親身になって考えてくれるし、とても親切。優しい。
 就活についてのビデオをみせてもらったためになった。
 細かいことを気にしない感じで良かった。
 就職についてやるのがとてもやはくてよかった。
 ゼミの先生のできかくなアドバイスはとても良かったと思います。
 求職カードをかいた時、親身になって相談をきいてくれた。
 分かるまで何度も教えてもらった。
 とても親身に話を聞いてくれたし、生徒一人一人のことをよく見てくれていた。
 自分の志望業界に詳しい。
 就活の話や面接練習などを早いうちからしてくれた。
 性格を理解してアドバイスをくれるから。
 先生と学生の距離が近くてよかった。
 とても話しやすい。自分の性格など分かってくれている。アドバイスもくれる先生で良かった。
 質問や相談にはきちんと答えてくれる。
 いつもすごく優しいので、分からないことも気軽に聞けるし、先生のおかげでゼミ内も仲がいいから。
 就活について現実の状況を細かく教えてくれる。
 気軽に話せた。
 困ったときなど相談したら、いいアドバイスなどをくれたから。
 楽しくておもしろい先生だったからです。
 気軽にゼミ室に行けて、話せたり、何か相談すると必ず相談にのってくれるから。
 楽しく、フレンドリーでわかりやすい授業をしてくれて、なにこともポジティブだったから。
 適切な指示をくれる。
 ゼミの中で必要なことややるべき事、やった方がいいことなど教えてもらった。
 親身になって教えてくださりよかったです。
 先生はいつも元気でおもしろくて、でも相談にはまじめにのってくれるので、とても頼りがいがあります。

経営情報学科

今後の進路についての話などをくわしくしてくれたから。
 良かった。
 何でも気軽に相談できる。
 しっかりと所々ミスしたポイントを分かり易く指摘してくれる。
 ふつう。
 求職カードを書く時に親身になってくれたし10分間テストも毎回やってくれたので身についた。
 提出物の期限を早めに設定してくれていたため、提出期限に遅れることがなかったため。
 お話をたくさんさせていただいたので。
 文章の書き方など教えてくれたのでとても助かった。
 何でも話せるから。
 相談ができるし、いろいろな情報をくれるからです。
 早め早めに活動をしてくださったので、気持ち的にも良かったです。
 ゼミ活動や文化祭など学年関係なく楽しめるような雰囲気を作ってくれたから。
 ゼミの専門的なことだけでなく、就職のこと社長のことについて教えてもらい良かったです。
 自分の考えは理解して頂けて、親身になって話を聞いて頂けていると感じたからです。
 困っていることなど何でもお伝えでき、配慮してくれたのでよかったです。
 悩みなどを持ちかけたときに普段とは違った真剣な感じで聞いてもらえたのが良かったです。
 ちゃんと個人を見てくれていて心地良かったです。
 先生は、おもしろくてかわいいので大好きです。
 いろいろと聞いてくれたり、ここはこうした方がいいと明確なアドバイスをしてくれました。
 まだあまり就活も始まっていないから、なんとも言えないけど、求職カードもしっかり見てくれたと思うしこれから就活も始まるけどアドバイスもしてくれると思う。
 色々な体験ができ、ゼミの間は常に充実していた。
 おもしろい。でも、まじめだったからよかったです！
 いつもお世話になっており、何があっても先生が全力を投入して伝ってくれる。
 アドバイスで背中を押された！
 優しくて親身になってくれる！！
 良いアドバイザーでした！色々相談なども乗ってくれるし！
 聞きたいことがあるときは助かりました。
 勉強などはもちろん、相談であったり雑談などでもしっかりきいてくれるから。
 求職カードを書く時に、親身になって相談にのってくれた。
 1人1人しっかり見てくれたからです。また、求職カードを書いているときのアドバイスがすごく良かったです。
 悩み相談を引き受けてもらえて、安心した。
 あまり相談に行けなかったけど、何かきいたときはちゃんと答えてくれた。
 相談したことを親身になって聞いてくれてとても嬉しいです。
 分からないことは1人1人に聞いてくれたし、まとまって何かする時は遠くからみてくれていて助けてくれる時は助けてくれてすごく良かった。
 就活等のアドバイスをしてくれて参考になりました。
 就職についての話をいろいろしてくれたから。
 就活のことについて相談にのってもらえたから。
 求職カードを丁寧に添削してくれたから。楽しく過ごすことが出来たから。
 就職について、きちんと対応してくれると思えるしいい先生だと思うから。
 ゼミ生のためにすごく尽くしてくれたから。
 自分の気になっている企業の試験がどのような感じかおしえてもらった。
 たのしかったし身のためになった。
 普通だったと思います。ゼミの時以外全く会わないのでそこまで話しをしたりはしていませんでした。
 いい感じでした。Good!
 特に相談等はしなかったけど、相談すれば答えてくれる先生だと思った。
 希望していたゼミではなかったが、担当の先生はとても良い人で良かった。
 まだ少ししか関わってないけど、教えてほしい所を教えてください、いいゼミ担です。
 分からない所や困ったことを聞くと分かりやすく教えてくれる。
 おもしろけど、真面目に考えることは考えてくれる先生。
 私の苦手意識や私が抱えていることを含めてうけ入れてくれた。そして、私が困っているときにいつでも相談してくれた。
 程よく適当で良かった。
 先生ときっちり学ぶことができた。
 はなしやすかったし、相談に行くときよくのってくれたから。あと、とても優しい。
 あまり密に接していなかったから分からない。
 聞いたらちゃんと調べて教えてくれるので助かってます。
 第一希望ではなかったけど、良い先生で良かったです。
 ゼミがとても楽しかった。先生と話せる時間って大切だと思う。
 先生と生徒の距離が近い。
 たのしくて役に立ちました。
 自分に合っている先生だった。
 よくわからない。
 自分が入りたかったゼミじゃなくてすごい良かったけど、はなすきかがあるとなまにアドバイスをくれたりした。
 プライベートの話などもアドバイスくれたし、勉強面でもいろいろ話ってくれたから。
 就職に役立つようなイベントを企画してくれた。

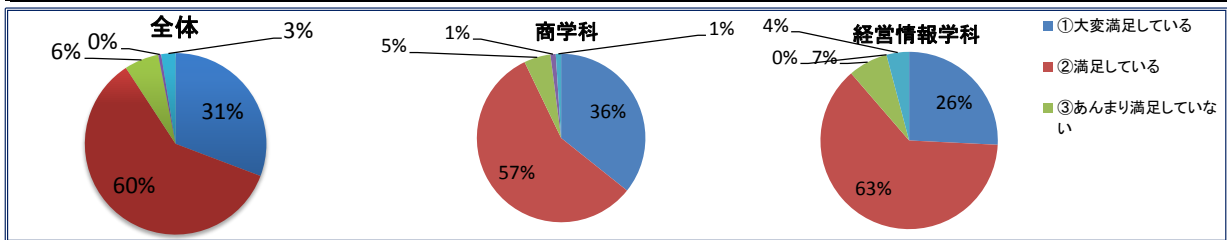
質問5. 今年度の「基礎ゼミナール」(4月～7月)の中で行われた初年時教育(ノートの取り方、テキストの読み方、要約の仕方、図書館の利用、レポートの作成など)の内容は、その後の授業で役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	1	4	5	0	9	9	14
②役に立った	10	50	60	4	60	64	124
③あんまり役に立たなかった	1	27	28	5	14	19	47
④全く役に立たなかった	0	4	4	0	4	4	8
⑤無回答	0	1	1	0	1	1	2



質問6. 大学のさまざまな部署において、事務職員は皆さんのサポートをさせていただきますが、皆さんにとって事務職員の対応はどうだったでしょうか

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	4	31	35	3	22	25	60
②満足している	7	49	56	5	56	61	117
③あんまり満足していない	0	5	5	1	6	7	12
④全く満足していない	1	0	1	0	0	0	1
⑤無回答	0	1	1	0	4	4	5



【理由等】

商学科

- 落し物をしてしまった時に丁寧にに対応してくれた。
- サポートしてくれるのは本当にありがたい事です。
- 関わりやすいから。
- 分からないことがあればちゃんと教えてくれる。
- 普段あまり関わらないが、良い対応をしていると思う。
- しんせつ。
- 悪い所がない。
- ていねいに説明してくれたので良かった。
- 学生のことをあまり考えていない。
- 聞きづらい所もあったけれど、ほとんどの所は声をかけてくれて聞きやすかったです。
- いい対応してくれたと思います。
- 明るく接してくれる。顔を覚えてくれた。
- どんだけパニックになっていても、冷静に対応してくれてよかった。冷たく言われる事のないフレンドリーな対応で安心。
- 優しく教えてくれる。フレンドリー。
- よく落し物をしてしまうけど、対応がすごくよかった。
- 皆さんやさしく対応してくれて良かったです。
- 良い人はすごく良かった。中には嫌な顔する人もいて、そういう人には聞きにくい言いたくない。
- どんなこともやさしく応じてくれた。
- 就活用の授業を多く行ってくれたから。
- 特に不満が残る対応はされていないから。
- 困ったときに助けてくれる。
- 分からないことはすぐに聞けてよかったです。
- 学生課の先生の対応はいつも丁寧に親身になって対応してくれる(教務課の先生も)
- 受験票を取りに行けば「頑張って」と声をかけてくださり、どの職員さんも親切。
- 丁寧にに対応してくれるから。やさしい。
- 親身になって聞いてくれるし、なんでも臨機応変に対応してくれる。
- いろいろお世話になった。
- わかんなこと、こまったときにすぐたよれて優しい。
- 分かりやすく、優しくサポートして頂きとてもうれしかったです。
- とても優しく対応してくれ、廊下ですれ違った時はあいさつを返してくれた。
- 困ったことはきちんと教えてくれた。優しい話し方の人が多くて安心した。
- 大切なことを教わった。これからは頼りたい。
- 素早く対応してくれるので良かったです。
- 親切に対応してくれる姿が素敵だと思いました。
- てきとうな時がある。
- 相談したことかちゃんと形にして答えてくれる。
- どの職員さんも親切にして下さいます。
- あいさつしてくれます。

経営情報学科

みんな優しい。

不便を感じた事はないから。

あまりまだ関わった事がないので何とも言えないが。

ふつつ。

やさしく分かりやすく説明してくれた。雑談もたまにしてくれて楽しかった。

聞いたことと関係ない答えが返ってきたことがあるため。

お世話になりました。

丁寧に対応してくれたから。

親近感があまりない。

企業、業界研究会のときに、個人的な質問をしたら短大と大学で差別をされたような言い方をされた。

親切でわかりやすいから。

とても親切で困った時はいつでも気軽にうかがうことができます。

気さくな事務員の方や優し事務員の方がいて、困った時に助けて頂いて本当にありがたいからです。

何でも聞きに行くと、とてもよい対応をしてくれた。資格を取得した後、必要な資料を取りにいくと、取りに来たということを知って、何も言わなくても対応してくれた。

奨学金のこと、落し物をした時など何のことででも優しく相談にのってくれました。

情報センターの職員が基本的に態度が冷たく、不快に思ったが学生課の職員たちはあたりが良かった。

丁寧に教えて下さるので満足です。

きちんと内容に応じてくれるからです。

親身になってこたえてくれた。わからないことがあって行っても何かしらこたえてくれたので、?のままおわることもなかった。

みんな優しいし、笑顔なので接していて気持ちが良かった。

つめたい人がいる。こわい。

いつも優しく、距離が近くを感じる。

あいさつすると返してくれる。

時々態度のよくない時がある。

話しやすい。

やさしくて、明るい事務職員が多かった。

いつも優しく笑顔で接してくれるので、わからないこととか聞きやすかった。

分かんないこととか教えてくれるから。

もう少し笑顔で対応してほしい。

親切に対応して下さって、良かったです。

まあ良かったと思う。

分からないことがあればすぐにおしえてくれたので良かったです。

学生課の先生がやさしくない。

相談することも多く、その度優しく対応してくれて良かった。

対応の仕方や無愛想な人もいて嫌なときがあった。

不安、不便なことがあまりないから。

居るのになかなか来てくれないことがあった。

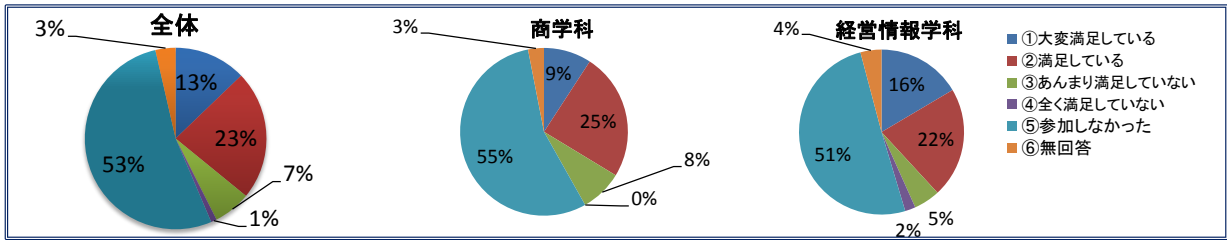
私が困っているときに、瞬時に解決してくれた。

知らない。

学生課の先生はとても丁寧に教えてくれたので大変満足しています。図書館の先生は態度がとても悪いと思いました(舌打ちなど・・・)

質問7. あなたにとってサークル活動はどうでしたか。その理由や要望など

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	3	6	9	2	14	16	25
②満足している	4	20	24	2	19	21	45
③あんまり満足していない	1	7	8	0	5	5	13
④全く満足していない	0	0	0	0	2	2	2
⑤参加しなかった	4	50	54	5	44	49	103
⑥無回答	0	3	3	0	4	4	7



【理由等】

商学科

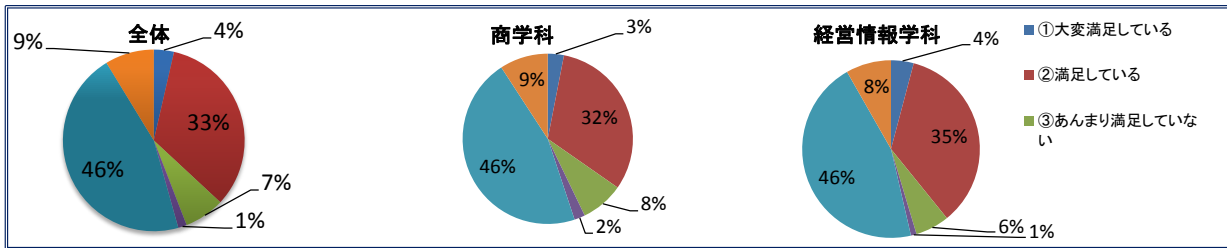
先輩達と楽しく活動していて楽しいです。
 楽しかったから。
 多くの友人ができた。
 興味のある物が無かった。
 後期は忙しく参加できなかった。
 やりづらい。
 入りたいサークルが一つもなかったからです。
 楽しくやれてる。
 もっと前から準備しておけばよかったと感じた。
 あまり面白くなかった。
 入ったけどやめました。
 皆それぞれ都合があるので練習にあまり人が集まらない日もあったけど基本的に楽しいから。
 自分の空いた時間に活動が出来ると思って入ったが、強制的に役員等を任せられてしまって自由が効かなくなったから。
 行ける時だけ参加できる点が良い。
 体育館もつかえるし、楽しい！もう少し練習試合などがあつたら良いと思った。
 仲間との交流が楽しく、共に分かり合うのが魅力的。
 家が遠くてサークルには参加していません。
 自分に合っていなかった。
 サークルが少ない。
 参加してよかったと思います。
 先輩たちもフレンドリーで楽しいサークル活動だから。
 大学と同じ部活に所属できることでいろいろな知識や友達の和が広がる。
 先輩が気さく。楽しい。
 最初は毎週のように活動していたんですけど、最近はぜんぜんいけなかったのでスポーツをもっと楽しみたいです。

経営情報学科

楽しい。
 以前から興味があった活動なので楽しい。
 興味がそそられるサークルが無い。
 ふつう。
 先輩たちがすごく盛り上げてくれて雰囲気がとても良かった。
 やりたいのがないので・・・
 いろんなところで講義では習わない学びがあるから。
 大学生活が充実した。良い仲間に出会えた。
 入ったが活動がほとんどなかったから。
 自分の好きな事ができ、同じ趣味の友達ができサークル内では充実した生活を送ることができましたし、先輩からも親しく接して頂けて活動が楽しかったからです。サークルが一番充実していました。
 華道部に入っていますが、毎回いいい楽しく生けることができました。花を持ち帰るのも楽しみでした。
 今までやり方とは全然違かったのだが、新しいやり方でも違った考え方ができるようになったのでよかった。
 6月くらいまでしか活動してないの・・・
 イベントサークルに入って、最初は怖そうだったけど、そんな事はなくみんな一人ひとりがきちんとした意見を持って、それを話し合う活動がほとんどで、ある意味一番良いサークルだと思いました！！
 時間がないから。
 皆は活動は楽しんでいる。
 週1のサークルだからその満足感があって良いです！
 忙しいから。
 とても楽しく、交流の輪が広がった。
 仲間ができた。
 土日の活動が多かったのですが、家庭的な事情でなかなか活動することが困難だったため、あまり満足していません。
 先輩たちが良い人ばかりで楽しかった。
 好きなきに行けるから。
 所属していません。
 アルバイトをしていたから。
 活動もあまりしてないし、もっとしたい。計費が少ないし、文化祭で活動するかしないかまでの話しになった。活動しなくなったらサークルやる意味ない。
 初めて大きな大会に出て、貴重な体験をした。
 やりがいがある、成長を感じられる。
 週1だから負担がなくてよかった。
 集団活動が苦手。
 じゅうじつしている。
 勉強に力を入れたかったので参加しませんでした。

質問8. あなたにとって学友会活動はどうでしたか。その理由や要望など。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	0	3	3	1	3	4	7
②満足している	5	26	31	3	31	34	65
③あんまり満足していない	1	7	8	0	6	6	14
④全く満足していない	0	2	2	0	1	1	3
⑤参加しなかった	4	41	45	4	40	44	89
⑥無回答	2	7	9	1	7	8	17



【理由等】

商学科

楽しめている。
 これからの期待をこめて。
 入ったけれど、何一つ活動しませんでした。
 交流が足りない。
 文化祭など、楽しく盛り上げていたから。
 サークルの先輩や大学側の先輩方と交流できた。
 先輩達がやってきた学友会は素晴らしいと思った。
 まだあまり活動していない。
 これから頑張る！もっと学生が参加できるようにしていけたらいいと思う。
 まだあまり参加できてないけど、これからがんばろうと思う。
 委員には属していたが、仕事がなかった。
 学祭に向けて協力して準備が行えた。
 思い出づくりになったとおもいます。

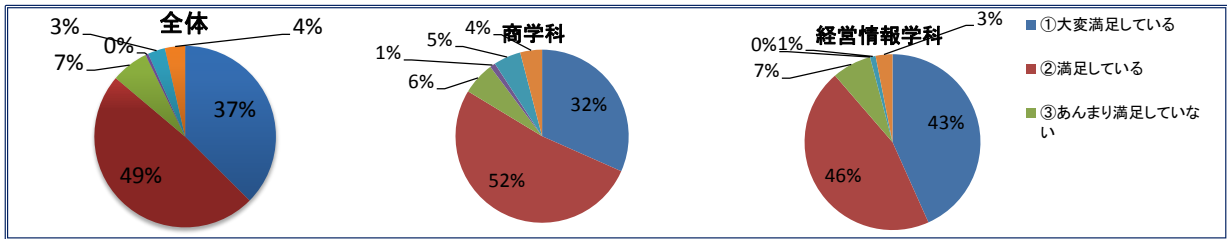
経営情報学科

楽しく活動できた。
 各イベントを楽しんで参加できた。
 ふつう。
 まだ活動すら始まってない。
 有意義な活動、気の合う人がいないのが大変。
 あまり興味がなかったの。
 強制参加ではなかったから。
 来年がんばる。
 サークル連合は学友会に必要なと思う。
 あまり記憶にない。
 学友会スタッフとして色々参加できて良かった。
 学友会を決める時にはフェアに。
 もっと連絡とってほしい。
 楽しいイベントを企画してくれてとても良いと思いました。
 文化祭の時手伝いをして自分もやってみたくと思ったから。
 活動していません。
 体育祭が楽しかったから。
 少しずつやる事を理解して自分のためにも人のためにも動けたと思います。
 毎回参加や準備などしっかりできたと思います。しかし、仕事を分担する量が違い差がでたり、手伝いを頼まれたりと、結果大変だったので工夫してほしいなと思いました。あと、出ない人の対応をきちんとしてほしいなと思いました。
 色々考えられていると思う。
 したいと思わなかった。
 暇がなかった。
 学友会自体には参加しなかったけど、学祭や体育大会などはすごく楽しめた。
 学祭の運営など、学生のために精一杯動いている様子が見てとれたから。
 夏休み中に作業をするというから、免許の合宿の申し込みなかったのに作業すらなくてイライラしました。
 渉外局でしたが、イベント、行事に参加するはずが、必ずではなかったので参加できなかった。
 学園祭や体育祭を楽しく過ごすことができたから。
 学生に興味をもてそうな活動をしてほしいです。

質問9. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、7号館コモンルーム、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由もご記入ください

■コンピュータ教室

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	5	26	31	1	41	42	73
②満足している	2	49	51	6	38	44	95
③あんまり満足していない	2	4	6	1	6	7	13
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
⑤利用していない	2	3	5	0	1	1	6
⑥無回答	1	3	4	1	2	3	7



【理由等】

商学科

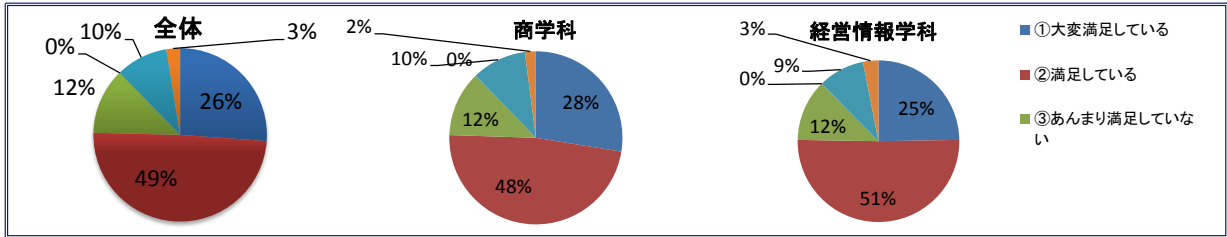
- レポートの作成等がすぐにできた。
- とても良いと思う。
- キーボードの反応が悪いのがあった。
- 自由に使える。
- 不具合はなかった。
- 印刷くらいさせてほしい。
- たまに印刷機の調子が悪い。
- いつもどこか空いていて使える。
- 保存に時間がかかる。
- プリンターの使い方が分からない。なぜかコピーができない。
- プリンターをよく利用した。
- きれいだけど反応がおそい。
- 使いやすいです。
- 起動が遅い。
- いすの高さ調整がないものがある。
- CP使いやすい。
- 使いやすい。
- いつでも使える！
- 古いパソコンはとまったりする。
- たくさんあってつかいやすい。
- よく使った。
- 多いから。
- レポートの時に便利。
- 動きが遅い時が多かった。
- きれいになったPCはつかいやすい。
- 不便なく使えたから。
- それぞれの教室で良し悪しが分かれる。
- 空き教室がわかりにくい。

経営情報学科

- キーボードの汚れが気になる。
- カラープリンターがあり、助かった。
- ふつつ。
- 飲食の形跡が見当たる。
- 使いやすい。
- 打ちにくい。
- 不自由なかつた。
- たまにこわれる。
- 温かい。
- 空調最高でした。
- たくさん教室があつていい。
- 良い環境だと思います。
- 課題、調べ物に使えた。
- いつでも利用できたから。
- 使えないコピー機がある。
- キレイでPC画面がでかくて分かりやすい。
- 設備が整っている。
- サーバーが混むと困る。
- 台数が多く使いたい時に使えるから。
- コピーできないときあった。
- 多い(数が)
- 課題をやりたい時にできた。
- 少し動作が遅い時がある。
- おちつく。
- とても整備がよい。
- 開室時間が遅い。
- 紙を買うのがめんどろ。
- 大きいPCでよかった。
- プリンターの不具合が多かった。
- USBがよみこまれないときがあった。

■7号館コモンルーム

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	5	22	27	3	21	24	51
②満足している	4	43	47	4	45	49	96
③あんまり満足していない	1	11	12	1	11	12	24
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	2	8	10	0	9	9	19
⑥無回答	0	2	2	1	2	3	5



【理由等】

商学科

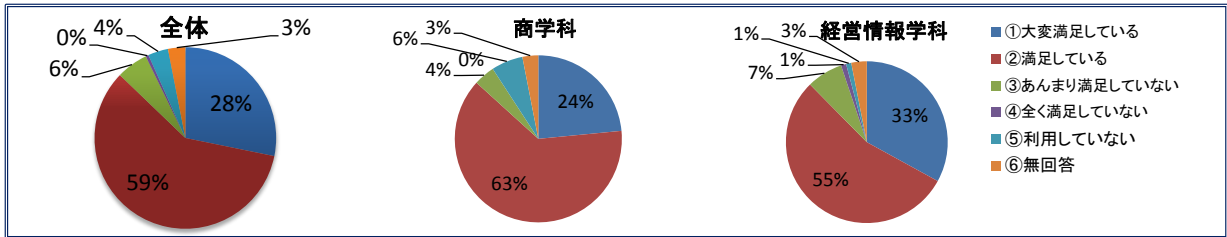
- 空き時間にくつろいだり勉強しやすかった。
- 良いと思う。
- キレイで良かった。
- 自由に使える。
- 広い。勉強できるスペースがある。
- 万能だった。
- いやすい。
- 暖かくていい。
- 人数に対して席がたりない。
- 暇な時によかった。
- こんでときにイスに荷物おいてる人がいてすわれない。
- 人と人の輪が広がる。
- もう少しイスを増やしてほしいです。
- 居心地がいい。
- 座る所が少ない。すぐに人でいっぱいになる。
- キレイで使いやすい。
- クーラーが調度いい。
- すぐに満席になる(笑)
- レンジとかあって便利。
- 広くて居心地が良かった。
- 少し席が少ない。
- あたたかくて勉強しやすい。
- よく使った。
- とてもいい。
- あまり使ってない。
- 冬は寒くて席数も少ない。
- 机が汚いことが少ない。
- 人が多い。
- 人多すぎだからいきたくない。
- 気軽につかえました。

経営情報学科

- 暇つぶしに利用できる。
- きれいな環境だった。
- ふつう。
- 騒々しいので勉強には不向き。
- 利用しやすくて良い。
- イスがきたない。
- 不自由なかった。
- 座るところが少ない。
- もうちょっと席を多くしてほしい。
- 生協もあって便利。
- 学生がおおすぎて。
- 空き時間に利用できる。
- 人が多くて行っても席がない。
- 混雑して座れないと困る。
- 席を増やしてほしい。
- 大人数で話せるから。
- 温度がちょうどいい。
- 利用したくないから。
- たくさん利用させてもらった。
- 広々している。
- あまり行かない。人が多すぎる。
- 席と席の間隔が狭い。
- 座る場所があり便利。
- あまり利用しなかったけど、良かった。
- よく利用している。
- お昼時に混雑していて座れないため。
- せまい。
- うるさい人が多いから。
- テスト前は空いていてよい。

■教室

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	3	20	23	1	31	32	55
②満足している	8	54	62	6	47	53	115
③あんまり満足していない	0	4	4	1	6	7	11
④全く満足していない	0	0	0	0	1	1	1
⑤利用していない	1	5	6	0	1	1	7
⑥無回答	0	3	3	1	2	3	6



【理由等】

商学科

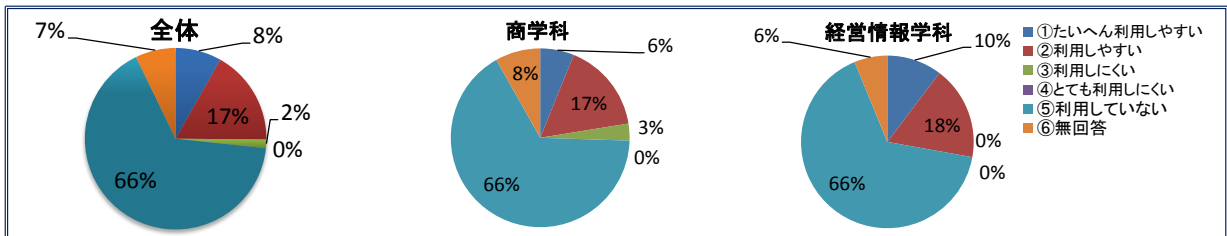
- 広い。
- 良いと思う。
- 勉強しやすい。
- 自由に使える。
- 冬は寒い。
- 空調がしっかり働いていた。
- いつもキレイ。
- 使いやすい。
- 夏は涼しくてよかった。
- エアコンがついているから。
- マイクとスピーカーの調子が悪い時があります。
- 232が寒い。
- いつも前が寒い。
- 少し寒いこともある。
- あたたかい。
- 広し、きれい。
- 使いやすく、居心地が良かった。
- 時々冷暖房がよくない時がある。
- 机が斜めだと少し不便。

経営情報学科

- 全体で集まった時せまい。
- ふつう。
- エアコンがくさいときある。
- 不自由なかった。
- さむかったりあったかかったり。
- 寒い。
- 温かい。
- キレイ。
- たまにさむい。
- 自分のスペースが狭くて荷物の置き場に困る時がある。
- 常にキレイで満足だった。
- 広くてキレイ。
- イスをもう少しキレイにしてほしい。
- 寒暖の差があって集中しづらい。
- 居心地がよい。
- 使いやすいところが多い。
- 前の席は寒いです。
- たくさんあるので使いやすい。
- 空き時間に利用して良かった。
- 温度が丁度よかった。

■グラウンド

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん利用しやすい	1	5	6	1	9	10	16
②利用しやすい	3	13	16	4	13	17	33
③利用しにくい	1	2	3	0	0	0	3
④とても利用しにくい	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	6	59	65	3	61	64	129
⑥無回答	1	7	8	1	5	6	14



【理由等】

商学科

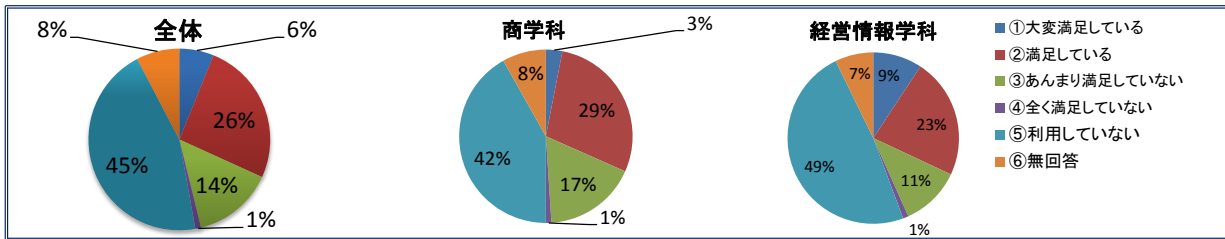
- 使ってない。
- 芝は良い。
- 広い。
- あまり使ってない。

経営情報学科

- 機会がない。
- ふつう。
- 興味無。
- 不自由なかった。
- 利用していない。
- 目的がないから。

■ 駐車場

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	0	3	3	1	8	9	12
②満足している	1	27	28	2	20	22	50
③あんまり満足していない	4	13	17	0	11	11	28
④全く満足していない	1	0	1	0	1	1	2
⑤利用していない	4	37	41	4	43	47	88
⑥無回答	2	6	8	2	5	7	15



【理由等】

商学科

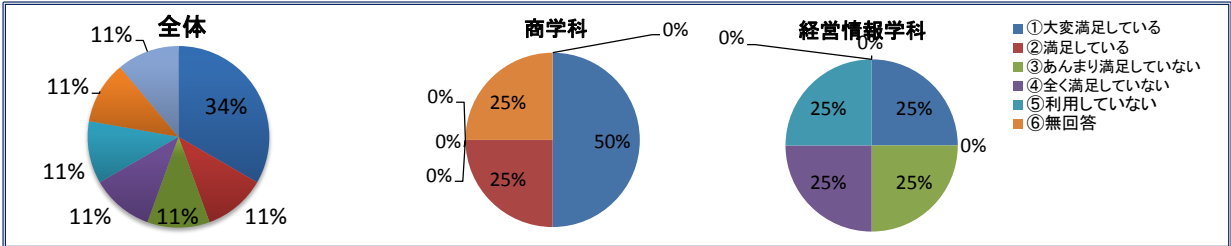
- 短大生は遠い。
- 狭い。
- 金を払うから。
- 駐車代金が高すぎる。
- 雪かき早やめにしてほしい。スリップしちゃって抜け出せなかった。
- 雪が降ると大変。
- 駐車料金。
- 使っていない。
- 広い。
- 遠い。高い。
- 満車じゃないのに満車だったり。
- 冬の間の雪かきを早めにしてほしい。
- 料金が安い。
- たくさんとめれる。
- 迷惑駐車がが多い。
- 駐車しやすい。
- 雪がかかれてない場所が多い。
- お金とるのはどうかと・・・

経営情報学科

- 機会がない。
- ふつう。
- チャリ通。
- 不自由なかった。
- 利用していない。
- 雪かきしてほしい。教室までがとおい。入り口を2つつくってほしい。
- 雪がつもりすぎてて車をとめられない。
- 高い。
- 雪降ったとき、線がみえないし駐車するのも大変だから。
- 空いているのに満車で入れないことがあった。
- 冬は雪があつて怖いです。
- 雪のとき雪かきしないと車をとめきれなくなるのではと不安になる。
- 校舎から遠い！
- 駐車場ではないところにとめられると非常にじゃま。
- 第一の止めるところが少ない。
- とめてはいけない場所にとめてあり、危ない。
- 有料なのが不服。せめてもう少し安くしてほしいです。

■その他[施設名]

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
学食 たいへん満足している	0	2	2	0	1	1	3
生協 あまり満足していない	0	1	1	0	0	0	1
弓道場 あまり満足していない	0	0	0	1	0	1	1
売店 あまり満足していない	0	0	0	0	1	1	1
廊下 利用していない	0	0	0	0	1	1	1
図書館 利用していない	0	1	1	0	0	0	1
						0	1



【理由等】

商学科

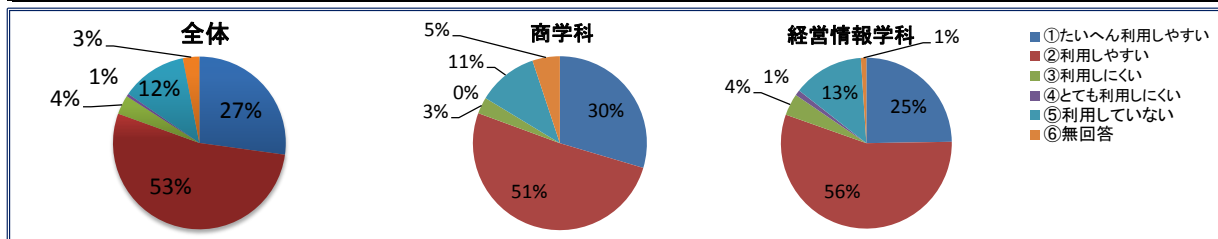
学食 おいしい！
 学食 とてもありがたかった。
 生協 コモンルームにある方の開いている時間が短い。
 図書館 館内が清潔だし、唯一静かで落ちつける。

経営情報学科

弓道場 西日がきつい。
 学食 美味しい。
 売店 レジの人の態度が悪い。

質問10. あなたは図書館についてどのように感じましたか。その理由や要望、お気づきの点など

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん利用しやすい	4	25	29	1	23	24	53
②利用しやすい	5	45	50	7	47	54	104
③利用しにくい	0	3	3	0	4	4	7
④とても利用しにくい	0	0	0	0	1	1	1
⑤利用していない	2	9	11	0	13	13	24
⑥無回答	1	4	5	1	0	1	6



【理由等】

商学科

静かで勉強等がしやすく資料が沢山あった。
 パソコンなどもあって利用しやすかった。
 DVDがあって楽しい。
 静かで居心地がとても良かった。
 静かでリラックスできる。
 机なども多く勉強の時に役立つ。
 ただ場所によってはWi-Fiが来ておらず、iPadで課題ができなかった。
 本を数回借りる程度だったが、利用しやすかった。少し職員さんの対応が冷たいと思う。(前本の場所を聞いたら「自分で調べて」とあしらわれてしまった)
 DVDがたくさんおいてある。
 たくさん本が置いてあってたまに何がどこにあるのかわからないときがある。
 テスト前によく利用しましたが、静かなので集中できました。
 お金が節約できてたくさん本があるから嬉しい！静かだから勉強に集中できていい！！
 もっと自習スペースをふやしてほしい。
 DVDもたくさんあって、長い時間ヒマな時によく利用します。勉強したい時も静かなので集中できるし、読みたい本がたくさんあるのでよくか貸っています。
 図書館にいる方もとても気さくなので、声をかけやすいです。
 種類が豊富。
 DVDも本もたくさんあって充実した空間がと思う。
 1人席があるから。
 個人スペースが使いやすい。
 勉強したりするときに、集中できる環境だから。
 リラックスできる。
 勉強しやすい。
 DVDはとても嬉しい！静かがいいと思う。
 司書の方がときどきこわい。
 友達を待つ時や静かに勉強したい時に利用しやすい。
 ブラウジングコーナーがあると便利。
 1人で集中して学習したい時は、図書館の個人学習スペースが重宝した。
 広くて静かがいい。
 図書館にいと落ちついた。
 なれないと迷子になってしまう。
 DVDとかもあって暇さえあれば生きたくなるから。
 試験期間中は席がいっぱいで座れない時が多いが、カウンターの先生はいい人で利用しやすい。
 パソコンも使えるし、いついっても静か。
 勉強する際すこししやすい。
 どの時間でも食べ物食べたい。
 新しい本など毎回行くとあって楽しみだから。
 個別に机があるので勉強する時や1人でくつろぎたいときに利用しやすい。専門書から小説、マンガ、DVDまで色々そろっているので様々な目的で利用できる。
 環境が整っていて、勉強しやすい。たまに、うるさい人がいて集中できない。
 静かで落ちついた雰囲気なので過ごしやすい。

経営情報学科

PCの数も増えたので利用しやすい。

ふつう。

ブラウジングルームのエリア拡大所望。指定時間外でも所々飲食目立つ。

利用しやすい。しかし、1階の書架は使いにくい所もある。

テスト勉強でお世話になりました。

もうすこしパソコンをすやしてほしい。

DVDみれるから。

DVDが見れてうれしい。

授業の空き時間とかによく利用しています。静かで居心地がいいです。

本のスタンブラリーを続けられた。本が毎週のように読める。

個別に分かれている机があって勉強したいときに集中できたし、DVDも思っていた以上に種類が多くて良かった。

テスト前だけ混むのはやめてほしい。うるさくなるので・・・

隣と区切られているので勉強しやすい。

相席しづらい。もう少し生活音がほしい。

いろいろな本が読めました。

たまにさわがしい時があるけど、勉強しやすい、

それなりに席もあって使いやすいが、本の配置がいまいちわかりにくいモノがある。雑誌コーナーやごはんを食べられる工夫はいいと思う。

静かでよい。

静かで利用しやすい。テスト期間になると図書館がいっぱいで使えない時があるので机など増やしてほしい。

居心地がよい。

広い勉強できる所が多く、暇な時に行きたくなるから。

設備ととのってます。

個室の勉強部屋がほしい。

利用しやすいが、テスト期間になるとなかなか席が空いていなくて困る。

よく図書館を利用しますが、どこにどの本があるのか分からないので、地図みたいなのを見えるところに貼ってほしいです。

本の場所がわかりにくいものがある。空間としては入りやすいし、居心地がいいと思う。

静かでレポートなどやりやすい環境だった。

あまり利用しないけど、専門書やDVDもあり良いと思う。

お昼を食べる時間が決められていてたまに利用していた。たくさん気になる本があって良かった。

ただ行くだけでも使えるから。

もっと静かにしてほしい。

パソコンをもう少しふやせませんか。

机が意外と少ない。というか利用する人が多い。テスト中は特に。

司書さんが丁寧に教えて下さるので利用しやすいです。

オリエンテーションでも説明してもらえたから。

レポートなど作成するときに使用していてとても良いです。

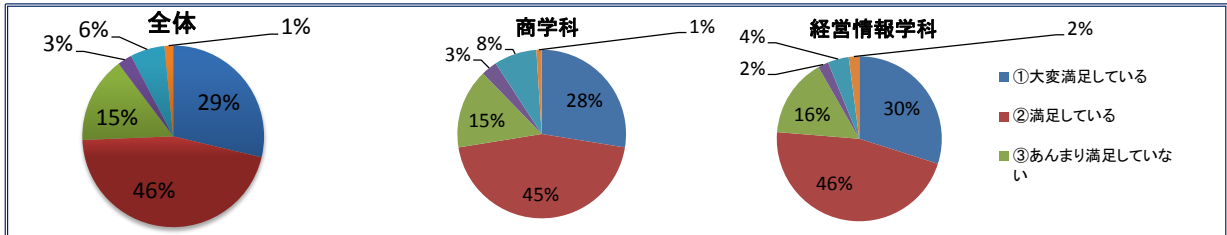
DVDを借りる時にカウンターに誰もいなかったり、作業をしている時があって、借りにくいと思った時があったから。

DVDを借りる時、仕事中の先生に声をかけると毎回とても態度が悪かったです。

質問11. あなたは本学の行事(体育大会、大学祭、焼イモ会)についてどのように感じましたか。その理由や要望など。

■体育大会

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	5	22	27	2	27	29	56
②満足している	6	38	44	6	39	45	89
③あんまり満足していない	1	14	15	1	14	15	30
④全く満足していない	0	3	3	0	2	2	5
⑤参加しなかった	0	8	8	0	4	4	12
⑥無回答	0	1	1	0	2	2	3



【理由等】

商学科

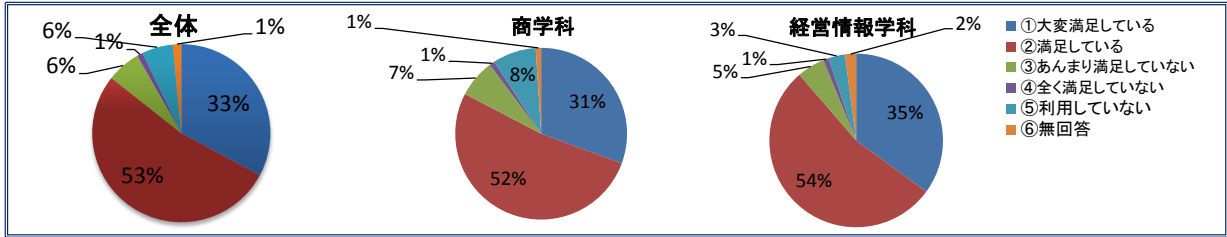
- 春、秋どちらの楽しかった。
- 楽しかったから。
- まあまあ楽しかった。
- 体を動かすことは楽しい。
- みんなで楽しめていいとおもいました。
- それなりに楽しかったと思う。
- 春があまり楽しくない。
- なくてもいいと思うから。
- 秋季はいらない。
- 希望制にしてほしい。
- あまり楽しくなかった。
- いろんな競技ができたから。
- 競技内容がおもしろかった。
- 1人1人の参加回数がとても少ない。
- 待っている時間が長かった。
- 一致団結できたから。
- もっと良くする！
- たのしくできたのでよかった。
- 苦手なので。
- ゼミで団結できてたのしかった。
- 盛り上がっていて楽しかった。
- もう少し計画的に時間通りにやってほしい。
- スポーツは好きじゃない。
- 楽しかったが、男女の差を感じた。
- 時間が長かった。
- 元々運動は好きだから楽しい。
- 毎回楽しかったです。人によって競技数が少なかつたりして残念。
- 秋のほうがグダグダに感じた。
- 男女の差が激しい。
- 運動が大嫌いな自分からすれば苦痛でしかないし、参加してもぐだぐだな司会進行なので必要ないと思います。
- まず運動が苦手だから。
- 運動が苦手な人でも楽しめるものがあつた。
- 後期のスポーツ大会楽しかった。

経営情報学科

- たのしくできた。
- 普通すぎ。
- 疲れたが高校よりマシ。
- ふつう。
- ゼミの人と仲よくなるキッカケだった。
- 先輩と後輩と一緒に参加でき楽しかった。でも、自分がやりたい種目ができなかった。
- つまらない。
- 久しぶりに運動して楽しかったです。
- ゼミで一致団結できて楽しかった。
- まあまあ。
- はりきってできた、楽しかった！
- ゼミの仲が深まった。
- 体育館が遠い。
- 良い思い出ができた。
- いろいろ大変でした。
- ゼミ単位で行うのがよかった。
- 盛り上がらない。
- ちょっとものたりない。
- あまりいもしろくない。
- 体育が苦手なので。
- 初戦敗退は時間が空いて暇。
- 2回は多い。
- あまりのりきじやなかった。
- 夏季体育大会も球技の方が盛り上がると思う。
- 秋の競技の方が楽しかった。
- 集団は苦手。
- 場所の移動が面倒。
- ゼミ対抗はやめてほしい。

■大学祭

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	7	23	30	3	31	34	64
②満足している	4	47	51	4	48	52	103
③あんまり満足していない	1	6	7	2	3	5	12
④全く満足していない	0	1	1	0	1	1	2
⑤参加しなかった	0	8	8	0	3	3	11
⑥無回答	0	1	1	0	2	2	3



【理由等】

商学科

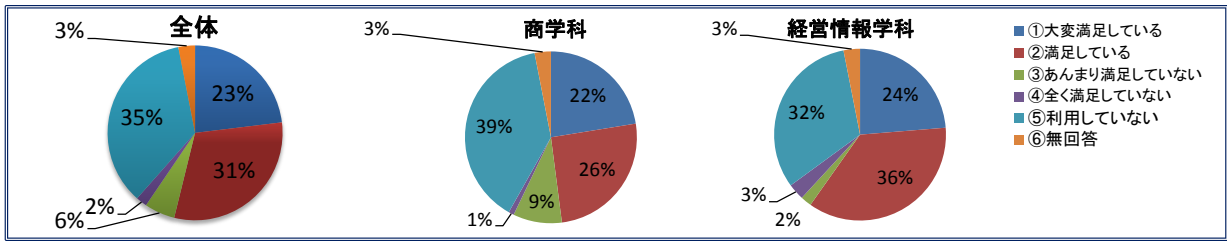
いろいろな人と仲良くなれた。
 楽しかったから。
 後夜祭が楽しかった。
 学生ほさが感じれる。
 大学祭をたのしめました。
 ほとんどまわれなかった。
 遠くからきている人にはつらい。
 セミの人たちと協力しあってできたから。
 参加していない。
 楽しく参加できた。
 もっとイベントを増やしてほしい。
 ライブが楽しかった。
 よかった。
 もりあがれた。
 模擬店を出して、勉強にもなった。
 学校全体で、学年関係なく楽しめたのが良かった。
 お店を工夫したらいいと思った。
 店番以外は自由時間で割りとヒマがあった。
 自由に参加できる。
 セミで協力しあって楽しめた。
 すごい楽しかった。
 盛り上がりをあまり感じない
 出店がおもしろかった。
 屋台たくさん楽しかった。
 たくさんの屋台や企画があったこと。
 皆で協力してできた。
 そこまで楽しくはないです。

経営情報学科

楽しくできた。
 芸能人くるだけで高校とあんまり変わらなかった。
 時折押し売りに近いものがあった。
 ふつう。
 コンサートが楽しかった。
 微妙。
 初めてだったけれど良かった。
 模擬店ばかりで、ろくにまわれなかったけれど思い出になった。
 先輩と協力できた。
 つまらない。
 ゼミごとに出店して最高でした！
 2日間ともすごく楽しかった。
 高校のときとはまたちがう楽しさがいっぱいだった。
 盛り上がった。
 FLOWが来て楽しかった。
 ゼミ内で大変な時もあったけど、楽しくできて良かった。
 良い経験ができた。
 ゼミ単位で行うのがよかった。楽しかった。
 充実していた。
 お昼ごはんも良かった。
 少し物足りない。
 後夜祭が楽しかった。
 仮装がおもしろいと思った。
 ゲストも豪華で楽しかった。
 家の都合で行けなかった。
 売るのが楽しかった。

■焼イモ大会

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①大変満足している	3	19	22	1	22	23	45
②満足している	4	21	25	3	32	35	60
③あんまり満足していない	2	7	9	0	2	2	11
④全く満足していない	0	1	1	0	3	3	4
⑤参加しなかった	3	35	38	4	27	31	69
⑥無回答	0	3	3	1	2	3	6



【理由等】

商学科

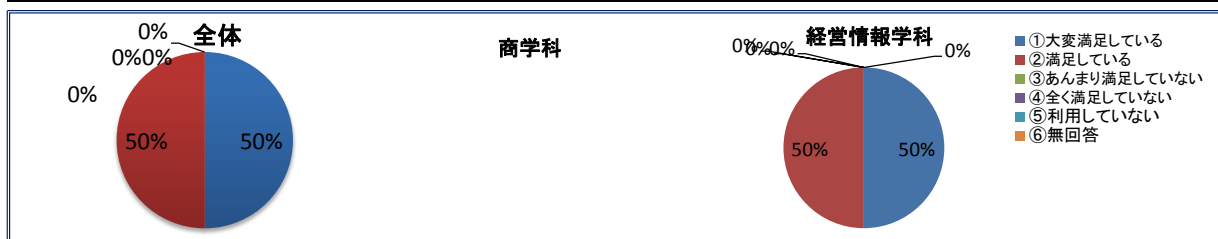
良かったから。
 早く多く焼いてほしかった。
 ウマかった。
 すごくおいしかった。
 焼きたてのイモがもらえる！
 おいしかった！！
 いもがやけてなかった。
 参加していない。
 甘くておいしかった。
 色々な楽しいイベントが多く、個人的には楽しい感じが好き。
 盛り上がりあまり感じない
 もっと時間を多くしてほしかった。
 ほかほかしてたんですけど生のイモもあり。

経営情報学科

うまかった。
 楽しかったため。
 興味無。
 ふつう。
 おいしかった。
 保育園以来だったし、美味しかったから。
 みんな参加できるところが良い。
 もっと盛大にやるかと思った。
 交流ができて良い。
 参加しなかった。
 列がどこまでなのか分からなかった。
 役員として準備から当日までやり局長の方とも仲良くやって楽しかった。
 なかなかこういう場がないからよかった。
 食べたくなかったから。
 あまり目立たないから。
 焼きムラなどがあったので、しっかり焼いてもらいたい。
 自分たちが焼く訳じゃなくてラクだった。
 時間がかかりすぎて食べられなかった。
 自由参加だったので。
 授業があり参加できなかった。

■その他の意見として【行事名：】

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
花火大会 あまり満足していない	0	0	0	0	1	1	1
クリスマスパーティー 満足している	0	0	0	0	1	1	1
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

商学科

行事が多すぎる。

経営情報学科

花火 あまりおもしろくない。

クリスマスパーティー ケーキが食べられて良かった。

質問12. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

【意見・提案】

商学科

学食をもう少し安くしてほしい。駐車スペースがほしい。
 もう少し駐車代金を安くしてもいいのかなと思います。
 iPadやイルミネーションなどにお金をかけないで学費を安くしてほしい。
 授業を電車の時間に合わせてほしい。
 コモンルームの生協が閉まるのが早い。
 駐車場の雪をもう少し除雪してほしいです。よろしくお願いします。
 授業を選択する際に同じ曜日にとりたい授業がかぶっていたことがあった。かぶっていても履修できるような制度をつくったほうが良いと思う。
 短大の学食にもカツカレーがあったらうれしいです。
 普段の講義にも忌引の制度がほしい。
 大学祭の規模店について、もっと全員が参加できるかたちにしたいと思っています。
 「この授業は絶対参加しろ」みたいな言葉とか「参加しないと単位にひびく」みたいなおどし文句のようなものは言ってほしくない。実際そうだとしても言い方ひとつで参加する気もやる気もなくなるから変えてほしい・・・。
 メイク、美容関係を増やしてほしい。指定席制度の授業が多い。
 現状維持でいいと思います。
 次期生徒会長の髪色、授業態度がふさわしくない。
 短大側の生協の営業時間をもっと延ばしてほしい。17時ぐらいまで。
 もう少し印刷のときに紙入れなくてもいい所を増やしてほしい。

経営情報学科

学食が高い。同じ値段でもっと量あるならいいけど。
 将棋の授業。
 喫煙所邪魔。臭いので撤去所望。
 ふつう。
 7号館に設置されたテレビ？みたいなのは見れないのですか？
 MOSができるパソコンを貸し出してほしい。
 階段教室で暖房が効くと、後方の座席が暑くなるのでもう少しバランスよく暖まればいいなと思った。
 お昼の時、人がいっぱいだとコモンルームに座れない時がありいつも忙しくなってしまう。
 パソコン室の印刷機の調子がたまに悪い。
 もっと国際化してほしい(英語圏の留学生を迎えるなど)
 入学金は大学と一緒に施設の差が大きすぎます。平等にしてください。
 駐車場の雪をどうにかして下さい。お願いします。白い線もわからなくて車の止め方がガタガタになるし、駐車も出るのもでこぼこしていて大変です。
 切実をお願いします。
 イルミネーションとかやらなくていいから、学費を安くしてほしい。
 雑学とか役立つ有益な話とか。
 ミニショップをもっと遅くまでやってほしい。
 メソフィアがiPadから見れたらいいのになと思った。
 もう少し廊下を温かくしてほしいです。
 1年前期の医療事務の授業とカラーやアロマの授業が重なってしまい、どちらも受講しなかった。カラーやアロマの授業は、前期に受講しないと後期も受講できないので、なんとか受講できるように変えてほしいと思った。
 教室をあたたかくしてほしいです。
 232教室は、前の方の席は冬寒いのもう少しあたたかくできれば良いと思います。
 温度調節。声の大きい先生はマイクを使わないでください。
 今の商短にとっても満足しています。
 ネイル2年もやりたい。検定とかもついつやるとか把握できるようにしてほしい。掲示板みにくい。写メとると反射してみえない。シラバス携帯からみれるようにしてほしい。
 体育祭でオリジナルのスポーツをしたい。古いポスターは紛らわしいので、その広告している日付をすぎたら取ってほしい。学校でどんな活動、サークルなどが今何をしているかまとめたようなサイトかブログみたいなもの。
 コモンルームのような場所がもう1ヶ所あるといい。
 1限目の授業に丁度いい電車なくて困る。前期のキャラクエの定期試験でスクリーンに書いてあった試験時間がまぎらわしくて回答時間が少なくなった。
 暖房をしっかりとつけてほしい。施設費を払っているのだからちゃんと付けるようにしてほしいです。
 冬、もっといろんなところの雪をかいてほしい。生協を1限はじまる前からあけてほしい。説明会とかはもっと早い時間にしてほしい。